

リッポサ

総大会の説教

新しい七十人、
管理ビショップリック、
中央扶助協会会長会が
召される



© ELSEPTH YOUNG. 聖母マリアの肖像

「明け方に」 エルस्पス・ヤング画

「さて、安息日おわが終わったので、[上の絵に描かれている] マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメとが、
行ってイエスに塗るために、香料を買い求めた。

そして週の初めの日に、早朝、日の出のころ墓に行った。」(マルコ 16:1-2)

2 第182回年次総大会の概要

土曜午前の部会

4 再び集うとき

トーマス・S・モンソン大管長

6 小さいわらべに導かれ

ボイド・K・バックナー会長

10 子供が理解するように教える

チェリル・A・エズプリン

13 教会を通じて福音に改宗する

ドナルド・L・ホールストロム長老

16 主はわたしたちを心から愛しておられる

ポール・E・コーリカー長老

19 犠牲

ダリン・H・オークス長老

23 登るべき山

ヘンリー・B・アイリング管長

土曜午後の部会

27 教会役員の支持

データー・F・ワークトドルフ管長

29 2011年度教会監査部報告

ロバート・W・キヤントウェル

30 2011年度統計報告

ブルック・P・ヘイルズ

31 ぶどう園の労働者たち

ジェフリー・R・ホランド長老

34 本心に立ち返る——せいさん聖餐, 神殿, 奉仕による犠牲

ロバート・D・ヘイルズ長老

37 信仰, 不屈の精神, 充実感——ひとり親の皆さんへ

デビッド・S・バクスター長老

39 主の領域にとどまっていなさい

ユリシス・ソアレス長老

41 信仰の調べに波長を合わせる

クエンティン・L・クック長老

45 個人の生活で啓示と靈感を受ける方法

リチャード・G・スコット長老

神権部会

48 天の力

デビッド・A・ベドナー長老

52 まことの成長のための救助の業

リチャード・C・エッジリービショップ

55 アロン神権——

立って神の力を使いなさい

エドリアン・オチョア

58 神権の奉仕をする理由

データー・F・ワークトドルフ管長

62 聖約の下にある家族

ヘンリー・B・アイリング管長

66 奉仕する意志とふさわしさ

トーマス・S・モンソン大管長

日曜午前の部会

70 あわ憐れみ深い人たちは憐れみを受ける

データー・F・ワークトドルフ管長

77 神に感謝しましょう

ラッセル・M・ネルソン長老

80 特別な教え

ロナルド・A・ラズバンド長老

83 扶助協会に関する

預言者のビジョン——

信仰, 家族, 扶助

ジュリー・B・ベック

86 キリストの教義

D・トッド・クリストファーソン長老

90 人生というレース

トーマス・S・モンソン大管長

日曜午後の部会

94 解放する力

L・トム・ベリー長老

97 道に迷った者が見つかるように

M・ラッセル・バラード長老

101 実行するために必要な

理解の目を持つ

O・ビンセント・ハレック長老

103 義の原則に従ってしか

ラリー・Y・ウィルソン長老

106 その価値があったでしょうか

デビッド・F・エバンズ長老

109 神聖に保つ

ポール・B・パイパー長老

111 キリストはわたしを

どう思われるか

ニール・L・アンダーセン

長老

115 今大会を閉じるに

当たり

トーマス・S・モンソン

大管長

中央若い女性集会

117 立って光を放ちなさい

アン・M・ディブ

120 学問を求める——

皆さんには、なすべき業があります

メアリー・N・クック

123 今こそ立って光を放つ時です

イレイン・S・ダルトン

126 信じ、従い、堪え忍ぶ

トーマス・S・モンソン大管長

72 末日聖徒イエス・キリスト教会

中央幹部

130 指導者の言葉

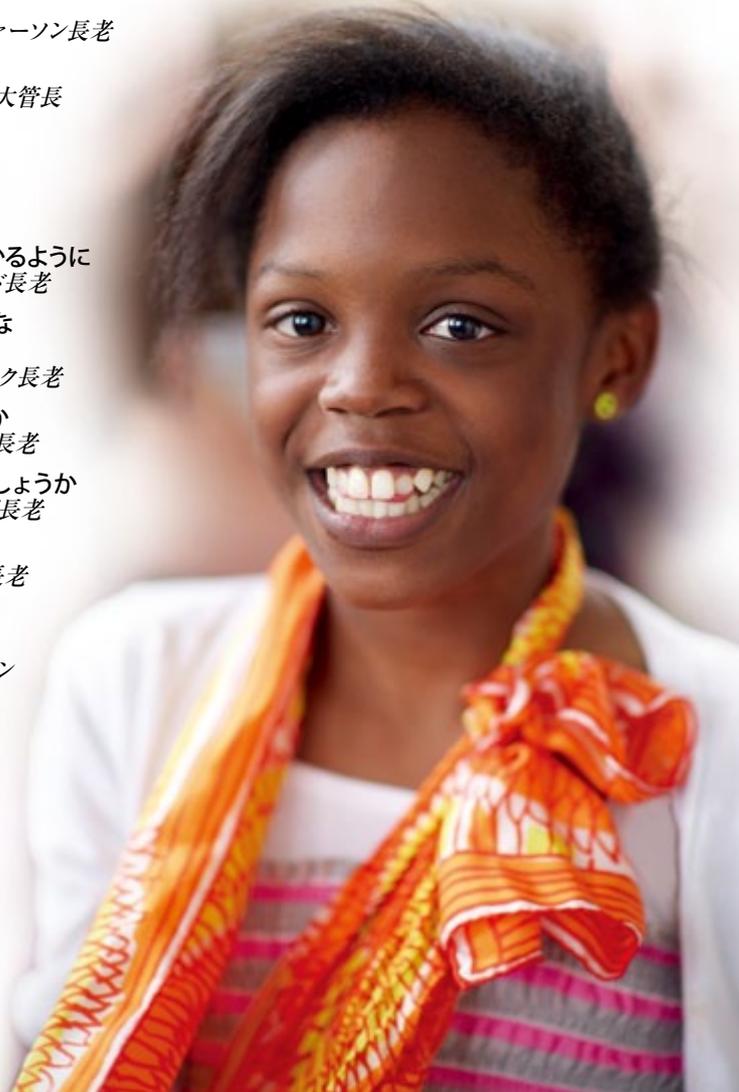
——大会を生活に取り入れる

132 大会で話された実話や物語の索引

133 わたしたちの時代のための教え

133 中央補助組織の会長会

134 教会のニュース



第182回 年次総大会の概要

2012年3月31日土曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会の祈り——ジョン・B・ディクソン長老。閉会の祈り——ウィルフォード・W・アンダーセン長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガニスト——アンドリュー・アンズワース、クレア・クリスチャンセン。「山の上に」『賛美歌』2番；「たたえよ神を」『賛美歌』38番；「心の中に光を持ってば」『賛美歌』141番、ウィルバーク編曲、未刊；「主のみ言葉は」『賛美歌』46番；「愛の言葉」『子供の歌集』102-103、カードン編曲、未刊；「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番、ウィルバーク編曲、ヒンショー刊

2012年3月31日土曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——ウィリアム・R・ワーカー長老。閉会の祈り——ブルース・A・カールソン長老。音楽——ユタ州プロボ宣教師訓練センターの宣教師合同聖歌隊；指揮——ダグラス・ブレンチリー、ライアン・エゲット；オルガニスト——ボニー・グッドリフ。「神に栄え」『賛美歌』33番、マノーキン編曲、ジャックマン刊；「取り巻く闇の中を」『賛美歌』52番、ウィルバーク編曲、ジャックマン刊；「われらは天の王に」『賛美歌』157番；「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番、ウィルバーク編曲、ジャックマン刊

2012年3月31日土曜夜、神権部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——チェルシー崔崙煥長老。閉会の祈り——ラリー・R・ローレンス長老。音楽——ソルトレーク大学インスティテュート神権者聖歌隊；指揮——ハル・W・ロムレル、クレグ・アレン、デニス・ノードフェルト；オルガニスト——リチャード・エリオット。「主よ、荒海を導きたまえ」『賛美歌』61番、ロングハースト編曲、ジャックマン刊；「山のごとく強く」『賛美歌』167番、ダーハム編曲、ジャックマン刊；「イスラエルの長老たちよ」『賛美歌』196番；「羊を守る羊飼いの愛」『賛美歌』136番、ビービ編曲、ラリス刊

2012年4月1日日曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会

——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——ブレント・H・ニールソン長老。閉会の祈り——ペア・G・マーム長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク；オルガニスト——クレア・クリスチャンセン、リチャード・エリオット。「来たれ、主の子ら」『賛美歌』31番；「造り主の主を」『賛美歌』37番、ウィルバーク編曲、オックスフォード刊；「光の中進もう」『賛美歌』194番、ウィルバーク編曲、未刊；「喜べ、主を」『賛美歌』32番、「親しく語り合はん」『賛美歌』140番、ウィルバーク編曲、未刊；“Come, Thou Fount of Every Blessing,” *Hymns* (1948年), 70番、ウィルバーク編曲、オックスフォード刊

2012年4月1日日曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会の祈り——W・クレグ・ズウィック長老。閉会の祈り——ジャイロ・マサガルディ長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガニスト——リンダ・マーゲツ、ボニー・グッドリフ。“On This Day of Joy and Gladness,” *Hymns*, 64番、マーフィー編曲、未刊；「主に来たれ」『賛美歌』67番、マーフィー編曲、未刊；「シオンのつわもの」『賛美歌』159番；「絶えず頼り主求む」『賛美歌』53番、ウィルバーク編曲、未刊

2012年3月24日土曜夜、中央若い女性集会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——イレイン・S・ダルトン。開会の祈り——アビゲール・ピネガー。閉会の祈り——ケーティ・エリザベス・ガルフ。音楽——ユタ州アメリカン・フォーク地域各ステークの若い女性から成る聖歌隊；指揮——メリリー・ウェップ；オルガニスト——ボニー・グッドリフ。「来たれ、主の子ら」『賛美歌』31番、ウィルバーク編曲、ジャックマン刊；「シオンの若者として」『リアホナ』2000年4月号, 24 (*Hymns*, 256番), ケーセン編曲、ジャックマン刊；「救い主の愛」『子供の歌集』, 42-43；「うるわしき救い主」『聖徒の道』1998年10月号「こどものページ」4-5 (*Children's Songbook*, 62-63) ウェップ編曲、未刊 (チェロ演奏——ダフニー・オルリアン)；「山の上に」『賛美歌』2番

総大会の説教の入手

総大会の説教を様々な言語で聞くことができます。インターネットで conference.lds.org を開いて言語を選択してください。大会説教のCDは通常、大会後2か月以内に配送センターから入手できるようになります。

ホームティーチングおよび家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとして、訪問する会員の必要に最も適した総大会説教の一つを選んでください。

表紙

表紙——写真/アレク・イスラエルセン。裏表紙/コーディ・ベル

大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。ソルトレーク・シティー——クレグ・ダイヤモンド、ウェルデン・C・アンダーセン、ジョン・ルーク、マシュー・ライアー、クリスティーナ・スミス、コーディ・ベル、レス・ニールソン、ウエストン・コルトン、サラ・ジェンセン、デレク・イスラエルセン、スコット・デービス、クリスティー・ジョーダン、ランディー・コーリアー。アルバニア——リベカ・アトキン。アルゼンチン——マリアノ・ガブリエル・カステイヨ。ブラジル——ラウレニ・フォチェット、サンドラ・ロザドス。イングランド——ジョン・クレプス。フランス——セバスチャン・モンガス。グアム——スーザン・アンダーソン。グアテマラ——ジョーダン・フランシス。アメリカ合衆国アイダホ州——ルーク・フィリップス。インド——マーガレット・エリオット。アメリカ合衆国ミネソタ州——ロンダ・ハリス。ロシア——アンドレー・セメノフ



リアホナ 2012年5月号

第14巻5号(10485300)

末日聖徒イエス・キリスト教会国際機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウーグトルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: ボール・B・バイパー

顧問: キース・R・エドワーズ, クリストフェル・ゴールデン・ジュニア, ペア・G・マーム

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター: ピンセント・A・ボーン

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーグ

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド, アダム・C・オルソン

共同編集者: スーザン・バレット, ライアン・カー

編集スタッフ: プリタニー・ピーティエ, デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリットン, ラリー・ポーター, ガント, キャリー・カステン, ジェニファー・マディー, リア・マクラナハン, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカーク, ジョシュア・J・パーキー, チャド・E・ファレス, ジャン・ピンボロー, ボール・バンデンバーク, マリッサ・A・ウィティソン, メリッサ・ゼンデノ

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: スコット・バン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

主任デザイナー: C・キンボール・ポット, コリー・ピンクレー, エリック・P・ジョンソン, スコット・M・ムーイ

制作スタッフ: コレット・ネベカー・オース, コニー・ボウソープ・ブリッジ, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーデット, レジナルド・J・クリステンセン, プライアン・W・ギューギ, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, ギニー・J・ニルソン

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター: エバン・ラーセン

日本語版翻訳課長: デレック・リン・ウェスマン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6 / 末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 830円(送料共)
普通号/大会号 120円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、英語版ホームページ liahona.lds.org からお送りください。また、下記の連絡先でも受け付けています。

Rm. 2420, 50 E. North Temple St.,
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。
アルバニア語, アルメニア語, ビスマラ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, 中国語(簡体字), クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, キリジャ語, ハンガリー語, アイランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, スペイン語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)

©2012 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用される場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール — cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:

May 2012 Vol. 36 No. 5. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



話者リスト (50音順)

アンダーセン, ニール・L … 111
バラード, M・ラッセル … 97
バクスター, デビッド・S … 37
ベック, ジュリー・B … 83
ベドナー, デビッド・A … 48
クリストファーソン, D・トッド … 86
クック, メアリー・N … 120
クック, クエンティン・L … 41
ダルトン, イレイン・S … 123
ディブ, アン・M … 117
エッジリー, リチャード・C 52
エスプリン, チェリル・A … 10
エバンズ, デビッド・F … 106
アイリング, ヘンリー・B 23, 62
ハレック, O・ビンセント … 101
ヘイルズ, ロバート・D … 34
ホールストロム, ドナルド・L 13
ホランド, ジェフリー・R … 31
コーリカー, ボール・E … 16
モンソン, トーマス・S … 4, 66, 90, 115, 126
ネルソン, ラッセル・M … 77
オークス, ダリン・H … 19
オチョア, エードリアン … 55
バックナー, ボイド・K … 6
ベリー, L・トム … 94
バイパー, ボール・B … 109
ラズバンド, ロナルド・A … 80
スコット, リチャード・G … 45
ソアレス, ユリシス … 39
ウーグトルフ, ディーター・F … 58, 70
ウィルソン, ラリー・Y … 103

テーマ別索引

あ愛 …… 16, 106
アロン神権 …… 55
憐れみ …… 70
イエス・キリスト 19, 23, 31, …… 39, 77, 86, 90, 111
教え …… 10
親の務め …… 6, 37, 103
か改宗・改心 …… 13
解放 …… 94
家族 …… 6, 16, 37, 41, 62, 70, 83, 97, 115
活発化 …… 52, 55, 106
感謝 …… 4, 77
義 …… 48
犠牲 …… 19
義務 …… 66
逆境 …… 4, 23, 80, 94, 115
教育 …… 120
教会組織 …… 13
教会の成長 …… 4
悔い改め …… 70
啓示 …… 45
結婚 …… 6, 97
権能 …… 48, 86
子供 …… 6, 10
さ死 …… 90
従順 …… 39, 126
障がい …… 80
贖罪 …… 19, 31
自立 …… 34
神権 …… 48, 52, 55, 58, 62, 66, 103
信仰 …… 23, 37, 41, 83, 111, 126

神聖さ …… 109
神殿活動 …… 19, 34, 62
救いの計画 13, 77, 80, 90
聖餐 …… 34
聖文 …… 41
聖約 …… 39, 62
聖霊 …… 10, 45, 58, 101, 109, 115
選択の自由 …… 39, 103
総大会 …… 4
た知識 …… 120
弟子の務め …… 101, 111
伝道活動 16, 19, 101, 106
徳 …… 123
貪欲 …… 31, 77
な忍耐 …… 126
は母親の務め …… 37, 120
ひとり親 …… 37
標準 …… 117, 123
福音 …… 13
ふさわしさ …… 55
扶助協会 …… 83
復活 …… 90
奉仕 …… 19, 34, 37, 58, 66, 83
まものの見方 …… 90
模範 …… 16, 39, 55, 117, 123
モルモン書 …… 41, 94
や勇気 …… 117
優先順位 …… 97
救し …… 31, 70
預言者 …… 83, 86
ら理解の目 …… 101
靈感 …… 45, 109



トーマス・S・モンソン大管長

再び集うとき

天の御父は、わたしたち個人とわたしたちの必要としている事柄に心を留めておられます。この大会に出席している間、御父の御霊を豊かに受けられますように。

愛する兄弟姉妹の皆さん、教会の総大会に再び集っている皆さんを歓迎するとともに、わたしの愛をお伝えます。わたしたちは互いに強め合い、励まし、慰めを与え、信仰を築くため、6か月ごとに集まります。ここに来ているのは学ぶためです。生活の中で直面する疑問や問題の答えを求めている人がいるかもしれません。落胆し、何かを失って苦しんでいる人がいるかもしれません。主の御霊を感じる時、耳を傾ける一人一人が啓発され、高められ、慰めを得ることができます。

皆さんの生活の中で変える必要のあることがあれば、ここで語られる靈感された言葉に耳を傾ける間に、変わろうとするきっかけとその勇気を見いだすことでしょう。天の御父のふさわしい息子娘となるように生活する決意を一人一人が新たにできますように。蔓延する邪悪な力に対抗し続けられますように。

このような時代、すなわち長い世の歴史の中でも驚嘆すべき時代に、地上に来たわたしたちは何と祝福されていることでしょうか。全員が一つ屋根の下に集まる

ことはできませんが、テレビ、ラジオ、ケーブル放送、衛星放送、インターネット、さらには携帯機器という驚くべき手段によって大会の様様を視聴できます。わたしたちは様々な言語を話し、様々な地に住んでいます、全員が一つの信仰、一つの教義、一つの目的の下で一致しています。

182年前に小さな集まりとして出発した教会は、今や全世界に進出しています。わたしたちが携わっているこの大なる大義は進み行き、人々の生活を変え、祝福をもたらし続けることでしょう。世界中のいかなる理念や力も神の業を止めることはできません。何が来ようと、この大義は前進するのです。預言者ジョセフ・スミスの言葉を思い出します。「いかなる汚れた者の手も、この業の発展を止めることはできません。迫害は威を振るい、暴徒は連合し、軍隊は集合し、中傷の風が吹き荒れるかもしれません。しかし神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出で立ち、あらゆる大陸を進み行き、あらゆる地方に至り、あらゆる国に広まり、あらゆる者の耳に達し、神の目的は成し遂げられるでしょう。こうして、大なるエホバは、御業は



成ったと告げられることでしょう。』¹

兄弟姉妹、現在の世の中は厄介なことや困難なことであふれていますが、善いこと、励みになることも数多くあります。わたしたちは信仰箇条第13条でこう宣言しています。「どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである。」これからもずっとこの信条を実行していくよう願っています。



福音に対する皆さんの信仰と献身に感謝しています。互いに示し合っている愛と関心に感謝しています。ワードや支部、ステークや地方部での働きに感謝しています。主はこのような奉仕によって地上における御自身の多くの目的を成し遂げられるのです。

どこを訪れてもわたしに示してくださる思いやりに感謝します。わたしのために祈ってくださることを感謝しています。わたしはそれらの祈りを感じ、心から感謝し

ています。

さて兄弟姉妹、わたしたちは教えを受け、靈感を受けるために集まっています。これからの2日間、多くのメッセージを聞くことになります。お話をする人たちはメッセージを準備するに当たって天からの助けと導きを求めてきました。彼らの話す内容は靈感に基づいています。

天の御父は、わたしたち個人とわたしたちの必要としている事柄に心を留めておられます。この大会に出席している間、御

父の御霊を豊かに受けられますように。このことを主なる救い主イエス・キリストの聖なる御名により、心からお祈りします。アーメン。■

注

1. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』、444



十二使徒定員会会長
ボイド・K・パッカー会長

小さいわらべに導かれ

夫と妻は、自分たちの第一の召しは、お互いに対するもの、それから子供に対するものであって、この召しから解任されることは決してないことを理解するべきです。

遠い昔、ある寒い夜に日本の駅で、寝台車の窓をこつこつとたたく音が聞こえました。見ると、ぼろぼろのシャツを着て、腫れあがったあごに汚いぼろきれを巻いた少年が凍えながら立っています。頭はかさぶただけでした。さびたブリキの缶とスプーンを持っています。物乞いする孤児のしるしです。お金を上げるために必死でドアを開けようとしているうちに、列車は出発しました。

寒空の下、駅に一人残されてブリキ缶を持ったまま立つ、飢えた幼い少年のことをわたしは決して忘れません。そして、プラットフォームに立ち尽くす少年を後に、列車がゆっくりと走り始めたときに感じたやるせない気持ちも、忘れることができないでしょう。

それから数年後、ペルーのアンデス高地の都市クスコでA・セオドア・タトル長老とわたしは通りに面した細長い部屋で聖餐会を開きました。夜のことでした。タトル長老が話していると、6歳くらいと思われる男の子が戸口に現れました。ひざまで届くぼろぼろのシャツ以外は何も着ていません。

わたしたちの左手には小さなテーブルがあり、聖餐で使うパンが皿の上に乗っていました。飢えて路上をさまようこの孤児

は、パンを見ると壁伝いにゆっくりと近づいて来ました。テーブルまであと少しという所で、通路にいた女性がこの子に気づき、険しい顔で首を振って、闇の中に追い出したのです。わたしは心が痛みました。

後でその小さな子供は戻って来ました。壁に沿って足を滑らせ、パンからわたしの方へちらっと目を移しました。先ほどの女性にまた見つかろうな場所に近づいています。わたしが両手を広げると走って来たので、ひざの上に抱き上げました。

そして、何かを象徴するように、わたしはこの子をタトル長老のいすに座らせたのです。閉会の祈りが終わると、この空腹の幼い男の子は、夜の闇の中に一目散に走って行ってしまいました。

わたしは本国に帰ると、スペンサー・W・キンボール大管長にこの経験について話しました。大管長は深く心を動かされて、「あなたは一つの民をひざの上に置いたのです」とわたしに言いました。そして、「その経験には、あなたにはまだ分からない大きな意味があります」と何度となく言ったのです。

わたしはラテンアメリカの諸国を100回近く訪問していますが、その度にあの幼い少年を人々の中に探しました。今では、キンボール大管長の言葉の意味が確かに分かります。

また、ソルトレーク・シティーでも路上で震える少年に出会いました。これも寒い冬の夜が更けたころのことです。クリスマスディナーが終わってホテルを出ると、通りの方から少年が6人か8人、どやどやとやって来ました。皆寒い外に出ないで家にいればいいのにとわたしは思いました。

一人の少年はコートを着ておらず、寒さを払いのけるために小刻みに跳びはねていました。その少年はわき道を走って見えなくなりました。きっと、狭く粗末なアパートに帰って、体を温めてくれる寝具も十分でないベッドに入ったのでしょう。

夜布団に入るとき、暖かいベッドのない人たちのためにわたしは祈りをささげます。

第二次世界大戦が終わったとき、わたしは大阪に駐屯していました。町はがれ





きの山で、道にはブロックや建物の残骸が散らかり、爆撃で地面のあちこちに穴が開いていました。木はほとんどなぎ倒されていましたが、中には枝や幹を吹き飛ばされながらもまだ立っていて、けなげに小枝を伸ばし、葉を付けている木も何本かありました。

ぼろぼろになった色鮮やかな着物を着た小さな女の子が、黄色いカエデの葉をせっせと集めていました。周囲の荒廃に気づいていないかのように、がれきの中を歩き回って葉っぱを見つけては束に加えていました。自分の世界に一つ残された美しいものを見つけていたのです。恐らく、この^{おきなご}幼子こそ世界に残された美しいものだと思うべきでしょう。この幼子のことを思うと、なぜかわたしの信仰は増します。子供とは希望そのものなのです。

「幼い子供たちは、……キリストによって生きている」¹ ので悔い改める必要がないとモルモンは言っています。

20世紀に入ったところのことです。二人

の宣教師が合衆国南部の山岳地帯で働いていました。ある日、ずっと下の方の空き地に人が集まっているのが丘の頂上から見えました。この宣教師たちは大勢の人の中で福音を伝える機会があまりなかったため、その空き地に下りて行きました。

小さな少年がおぼれて亡くなり、葬儀が行われようとしていました。両親は息子の葬式で話してもらうため、牧師を呼んでいました。悲しむ父と母を前にしてこの巡回牧師が説教を始めると、宣教師たちは驚いて後ずさりました。両親はこの聖職者に慰めを期待していたとしたら、がっかりしたことでしょう。

幼い男の子にバプテスマを受けさせなかったことで、牧師は両親を厳しくしかったのです。あれこれ理由をつけてバプテスマを先延ばしにしていたから、今となってはもう手遅れだということです。幼い男の子は地獄に行ったと牧師はにべもなく両親に言いました。親のせいでその子は果てしなく苦しむことになるということです。

説教が終わって墓に土がかけられると、長老たちは嘆き悲しむ両親のもとに行き、「わたしたちは主の^{しもべ}僕です。お伝えたいことがあります」と母親に言いました。泣きながら耳を傾ける両親に、二人の長老は啓示の中から言葉を読み、死者と生者の^{あがな}両方を^{かき}贖う^{あかし}鍵が回復されたことを証しました。

わたしはこの牧師にも幾らか同情を感じます。彼は自分が持っている限りの光と知識で最善のことはしていたのです。しかし、この牧師が伝えられたはずの知識がすべてではありません。完全な福音があるので。

この長老たちは慰める者として、教師として、主の僕として、また、イエス・キリストの福音の権威ある教導者としてやって来たのです。

わたしが話した子供たちは、天の御父のすべての子供たちを代表しています。「子供たちは神から賜った^{しきょう}嗣業であり、……矢の満ちた矢筒を持つ人はさいわい

である。』²

命を生み出すことは夫婦の大きな責任です。信頼できるふさわしい親となることは、この世の人生で最も大きな課題の一つです。男性も女性も、一人で子供をもうけることはできません。子供には両親がいることになっているのです。つまり、父親と母親です。これに代わり得る形態やプロセスはありません。

ずっと前のことですが、ある女性が、大学生のころボーイフレンドと重大な過ちを犯したと泣きながらわたしに言いました。ボーイフレンドが手続きをして墮胎したのです。やがて二人は卒業して結婚し、何人か子供が生まれました。彼女は今どれほどつらい思いをしているか話しました。自分の家族、自分のかわいい子供たちを見ていると、子供がもう一人いるはずの場所にぽっかりと穴が開いているように感じるそうです。

この夫婦が贖いを理解してその恵みにあずかるならば、そのような経験とそれに伴う苦悩はぬぐい去られるということを知りましょう。永遠に続く苦しみなどありません。簡単なことではありませんが、そもそも人生とは簡単なものでも公平なものでもないのです。悔い改めれば赦され、その赦しによって永遠に続く望みが得られるのですから、努力する価値があります。

別の夫婦ですが、自分たちの子供を持つことはできないだろうと医者から言われて帰って来たところだと涙ながらに語った若い夫婦がいました。彼らは嘆き悲しんでいました。実はあなたがたは非常に幸運なのですよと言うと、彼らは驚きました。なぜわたしがそんなことを言うのか分からなかったのです。わたしが彼らに言ったのは、親になる能力がありながらも親になることを拒否し、自分たちのことだけを考えてその責任を避ける夫婦よりも、彼らの状況の方がはるかに良いということでした。

わたしは言いました。「お二人が子供



を望むなら、その望みによって、この世でも次の世でも祝福をもたらすでしょう。それによって霊的にも情緒的にも強められるからです。最終的には、子供を望んでも得られなかったお二人は、得ることができるのに得ようとしなかった人々よりもはるかに祝福されることでしょう。」

さらには、結婚しないでいるために子供のない人々もいます。中には、自分ではどうすることもできない状況のために独身で子供を育てている母親や父親たちもいます。必ずしも現世ではなくとも、永遠の計画の中で、義になかった強い望みはかなえられるのです。

「もしわたしたちが、この世の生活でキリストにあって単なる望みをいただいているだけだとしたら、わたしたちは、すべての人の中で最もあわれむべき存在となる。」³

教会のすべての活動の究極的な目的は、夫と妻と子供が家庭で幸福に暮らし、福音の原則と律法によって守られ、永遠の神権の聖約によって間違いなく結び固

められるようにすることです。夫と妻は、自分たちの第一の召しは、お互いに対するもの、それから子供に対するものであって、この召しから解任されることは決してないことを理解するべきです。

子供を育てる中で分かる最も偉大なことの一つは、ほんとうに大切なことは、自分の親からよりも子供から学ぶことの方がはるかに多いということです。「小さいわらべに導かれ[る]」⁴というイザヤの預言が真実であることをわたしたちは悟ります。

エルサレムで「イエスは幼な子と呼ばれ寄せ、彼らのまん中に立たせて言われた、『よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。』」⁵

この幼な子のように自分を低くする者が、天国でいちばん偉いのである。』⁵

「イエスは言われた、『幼な子らをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない。天国はこの

ような者の国である。』

そして手を彼らの上においてから、そこを去って行かれた。』⁶

モルモン書には、キリストが新世界を訪れたことが書かれています。キリストは人々を癒し、祝福し、幼子をみもとに連れて来るようお命じになりました。

モルモンは次のように記録しています。「彼らは幼い子供たちを連れて来て、イエスの傍らに降ろした。イエスはその真ん中に立っておられた。また、群衆は道を譲って、幼い子供たちが皆、イエスのもとに来られるようにした。』⁷

イエスは次に人々にひざまずくよう命じられました。子供たちに囲まれて救い主はひざまずき、天の御父に祈りをささげられました。祈り終わると救い主は涙を流されました。「また、イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し、彼らのために御父に祈られた。

そして、イエスはこれを終わると、また涙を流された。』⁸

救い主が子供たちに抱いておられた気持ちわたしには理解できます。救い主の模範に従って「幼い子供たち」⁹のために祈り、祝福し、教えようとするときに、多くのことが学べます。

わたしは11人きょうだいの10番目でした。わたしが知るかぎり、父も母も教会で目立つような召しを受けて奉仕したことはありません。

両親は親という最も大切な召しを忠実に果たしました。父は家庭を義のうちに導き、怒ることも家族に恐れを抱かせることも決してありませんでした。そして、父の頼もしい模範は、母の優しい助言によって倍加しました。パッカー家の一人一人に福音は強い影響力がありました。そして、わたしたちが見るかぎり、その影響力は次の世代にも、そのまた次の世代にも、そのまた次の世代にも及んでいます。

裁きのときに、わたしも父のように良い男性と言われたいです。天の御父から「よくやった」という言葉を聞く前に、まず

わたしは肉親である父親からその同じ言葉を聞きたいと望んでいます。

わたしは「教会にあまり活発でない」と言われてもおかしくない父親のもとで育ちながら、なぜ使徒に召され、次に十二使徒定員会会長に召されたのだろうか、と何度も考えました。このような家庭で育ったのは十二使徒の中でわたしだけではありません。

ようやくわたしは、このような家庭で育ったからこそ、自分は今の責任に召されたのだということが分かり、理解できるようになりました。そして、教会で行われるすべてのことの中で、家族で一緒に過ごす方法を指導者が親と子供に提供する必要があるのはなぜかが理解できました。神権指導者は、教会が家族に祝福となるように注意を払わなければなりません。

イエス・キリストの福音に従って生活するということについては、出席簿の数字やグラフでは測ることのできない事柄がたくさんあります。教会員は建物や予算、プログラムや手順のことで忙しく働きますが、それらのことにかかわっているうちに、イエス・キリストの福音の持つほんとうの意味を見過ごしてしまう恐れがあります。

「パッカー会長、これこれをしてもいいですか」とわたしに聞きに来る人があまりにもたくさんいます。……

わたしは普通、彼らを遮って「だめです」と言います。それをするると新しい活動やプログラムができて、時間的、経済的な負担が家族にかかることになると思うからです。

家族の時間は神聖な時間ですから、守り、尊重するべきです。わたしたちは家族に献身的な愛を示すよう教会員に強く勧めています。

結婚当初、妻とわたしは生まれてくる子供を受け入れ、その出産と育児に伴う責任も受け入れると決心しました。やがて子供たちは自分の家族を持つようになりました。

わたしたちの息子のうち二人は、生まれ

たときに医師から「この子は長く生きないと思いますよ」と言われました。

どちらのときも、その言葉を聞いて、この小さな息子が生きられるのなら自分の命をささげてもよいとわたしたちは思いました。そんな気持ちになったとき、これこそ天の御父がわたしたち一人一人に対して持っておられる思いなのだということを知りました。何と神聖な気持ちでしょう。

人生も終わりに近づいた今、家族は永遠に続くものとなり得ることをパッカー姉妹とわたしは理解し、また証します。戒めを守って福音に完全に従うならば、わたしたちは守られ、祝福されます。子供や孫、そしてひ孫のためにささげる祈りは、それぞれの家族が幼い子供に同じように献身的な愛を注いでくれるようにということです。

父親と母親の皆さん、生まれたばかりの子供を次に腕に抱くときには、命の神秘と目的について奥深い洞察を得ることができるでしょう。この教会がなぜこのような教会なのか、なぜ家族は現在と永遠にわたって基本的な組織なのか、皆さんはさらによく分かるようになるでしょう。イエス・キリストの福音は真実であり、幸福の計画とも呼ばれる贖いの計画は、家族のための計画であることを証します。教会の家族が、親と子供たちが祝福され、この業が御父の御心のままに転がり進むように主にお祈りします。このことをイエス・キリストの御名によって証します、アーメン。■

注

1. モロナイ 8:12
2. 詩篇 127:3, 5
3. 1コリント 15:19
4. イザヤ 11:6
5. マタイ 18:2-4
6. マタイ 19:14-15
7. 3ニーフアイ 17:12
8. 3ニーフアイ 17:21-22
9. 3ニーフアイ 17:24



中央初等協会会長会第二顧問
チェリル・A・エスプリン

子供が理解するように教える

子供が理解するように教えるとは、情報を伝えるだけにとどまりません。教義が子供の心にしみ込むように助けることを意味します。

時の流れとともに、人生のこまごまとしたことについては記憶がますます薄れてきていますが、そんなわたしも実に鮮やかに覚えていることが幾つかあります。それは子供たち一人一人の誕生です。天国がすぐそばにあるかのように思えました。大切な子供たちをそれぞれこの腕に抱く度に味わったあの畏敬と驚嘆の念は、今でもほとんど色あせることはありません。

「子供たちは神から賜わった嗣業」です（詩篇127:3）。天の御父は一人一人を御存じで、完全な愛をもって愛しておられます（モロナイ8:17 参照）。わたしたちは親として、御父から何という神聖な責任を授かっていることでしょうか。御父とともに、御父のえり抜きの霊を、御父がなることができると御存じの人物になるよう助けていくのです。

子供を育てるのは神聖な特権ですが、同時に、主の助けがなければできない大変な責任でもあります。御父は、子供たちがみもとに帰るには、何を知り、何をを行い、どうなる必要があるのかを正確に御存じです。御父は、聖文、預言者、聖霊を通して、母親と父親に具体的な指示と導きをお与えになります。

預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた末日の啓示で、主は子供が悔い改め、イエス・キリストを信じる信仰、バプテスマ、そして聖霊の賜物の教義を理解するように教えなければならないと親に命じておられます。ただ単に親は「教義を教える」義務があるとは言っておられず、子供が「教義を理解する」ように教えなければならないと命じておられる点に注目してください（教義と聖約 68:25, 28 参照、強調付加）。

詩篇にはこう記されています。「わたしに知恵を与えてください。わたしはあなたのおきてを守り、心をつくしてこれに従います。」（詩篇 119:34）

子供が理解するように教えるとは、情報を伝えるだけにとどまりません。教義が子供の心にしみ込み、人格の一部となり、生涯を通じて態度や行動に表れるように助けることを意味します。

ニーファイは聖霊の役割とは「人の子らの心に」真理を伝えることであると教えました（2 ニーファイ 33:1）。親としてわたしたちの役割は、できるかぎり子供が御霊の影響を感じられるような環境作りをし、自分の感じていることが何かを理解できるように助けることなのです。

数年前に娘のミッシェルから電話がかかってきたときのことを思い出します。愛情を込めて、彼女はこう言いました。「お母さん、たった今、アシュリーと信じられないような経験をしたのよ。」アシュリーは彼女の娘で、当時5歳でした。ミッシェルの話では、その朝もアシュリーと3歳になるアンドリューはひっきりなしにけんかをしていたということでした。一方が何かを独り占めしてもう一方がたたくといった具合です。二人の間を何とか取り持った後で、ミッシェルは赤ちゃんの様子を見に行きました。

するとすぐにアシュリーが走ってやって来ました。アンドリューが独り占めすると怒っているのです。ミッシェルはアシュリーに、家庭の夕べのとき、きょうだいでもっと親切にし合うと決めたことを思い出すように言いました。

ミッシェルはアシュリーに天のお父様の助けが得られるように祈りたいかと尋ねました。しかし、アシュリーの怒りはなかなか収まらず、「いやだ」という答えが返ってきました。天の御父が彼女の祈りにこたえてくださることを信じるかと尋ねると、アシュリーは分からないと答えました。母親は試してみるように言い、優しく娘の手を取ると一緒にひざまずきました。

ミッシェルはアシュリーに、天のお父様をお願いしてアンドリューが独り占めしないように、また自分がアンドリューに優しくできるように助けてもらったかどうかと提案しました。弟が独り占めしないように天の御父が助けてくださるという考えにアシュリーは興味を覚えたに違いありません。祈り始めたのです。最初は、アンドリューが独り占めしないように助けてくださいと天のお父様をお願いしました。そして、自分が親切になれるよう助けてくださいと祈ると、泣き始めたのです。アシュリーは祈りを終え、頭を母親の肩に預けました。ミッシェルは彼女を抱き締め、どうして泣いているのかと尋ねました。アシュリーは分からないと答えました。



母親はこう言いました。「どうして泣いているのかわたしには分かるような気がするわ。心の中にいい気持ちがある？」アシュリーはうなずきました。すると母親は続けてこう言いました。「こんな気持ちになるよう助けてくれるのは御霊なのよ。天のお父様はこうやって教えてくださるの。あなたを愛している、あなたを助けてあげるってね。」

彼女はアシュリーにそのことを信じるか、また、天の御父が自分をお助けになれると信じるかと尋ねました。目に涙をいっぱいためて、娘は信じるかと答えました。

時として、子供が教義を理解するよう教える最も効果的な方法は、まさしくそのときに子供が経験していることに即して教えるという方法です。こうした機会には自然に起こり、予期することができず、家族の何気ない暮らしに訪れます。訪れてはすぐに去ってしまうのです。ですから、子供が疑問や心配を抱いてやって来たとき、

きょうだいや友人とうまくつきあっていくうえで問題があるとき、怒りを抑える必要があるとき、過ちを犯したとき、あるいは決断する必要があるとき、そのようなときに親は注意を払い、教える機会に気づく必要があります。〔『教師、その大いなる召し—福音を教えるための資料集』(1999年), 128; 『結婚と家族関係 教師用手引き』(1997年), 53 参照)

わたしたちが心の準備をしておき、こうした状況で、御霊が導いてくださるようになるならば、子供たちを教えるときに、より大きな効果と理解が期待できるでしょう。

これと同じくらい大切な、教える機会があります。それは家族の祈り、家族の聖文学習、家庭の夕べなどの家族活動といった、いつも決まっておくことをよく考えて計画するときに訪れます。

どのような状況で教える場合も、学びと理解は皆、御霊が注がれる温かく愛に満ちた環境で最も効果的に促されます。

ある父親は、子供があと2か月ほどで8歳になるというときに、バプテスマの準備ができるように、毎週時間を取りました。彼の娘は自分の順番が来たときに、父親から日記をプレゼントされ、親子で一緒に座り、福音の原則について話したり、気持ちを分かち合ったりしたと言いました。父親はそのとき娘に絵を描かせました。前世、現世、そして天の御父のみもとに帰るために必要な一つ一つのステップを表す絵でした。娘に救いの計画を教えるとき、父親は各々のステップについて証あかしをしました。

娘はこの経験を成長してからも覚えていて、こう言いました。「あのとき一緒に過ごしてくれた父の愛をわたしは決して忘れないでしょう。……バプテスマを受けたとき、わたしに福音の証があったのは、おもにあの経験のおかげだと思います。」〔『教師、その大いなる召し』129 参照〕

理解できるように教えるには、確固たる



一貫した努力が必要です。訓戒によって、模範によって、とりわけ子供が学んだことを実践できるよう助けることによって教える必要があります。

ハロルド・B・リー大管長はこう教えています。「福音の原則を具体的な行動として経験することがなければ、その原則を信じるのは、非常に難しいことなのです。」(『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』〔2000年〕, 126)

わたしは家族の祈りでひざまづくことによって初めて祈ることを学びました。両親の祈りに耳を傾け、両親に助けられながら最初の祈りをささげることで祈りの言葉を教わりました。天の御父に語りかけ導きを求めることができるということを学びました。

毎朝必ず、父と母が朝食前に台所の食卓の周りにわたしたちを集め、ひざまずいて祈りました。食事の度に祈りました。夜、床に就く前にも、皆で居間にひざまずき、家族の祈りで一日を終えました。

子供のわたしには祈りの意味がよく分かりませんでした。祈りは生活で重要な位置を占めるようになっていました。そのため祈りを忘れることはありませんで

た。わたしは今でも学び続けていますし、祈りの力に関する理解は今でも深まり続けています。

ジェフリー・R・ホランド長老はこう語っています。「福音のメッセージを伝えることに成功するかどうかは、幸福と救いの約束が実現するように教えられ、理解され、実践されるかどうかにかかって〔います〕。」「〔教会で教え、学ぶ〕〔世界指導者訓練集会、2007年2月10日〕『リアホナ』2007年6月号, 57; *Ensign*, 2007年6月号, 89)

福音の教義を完全に理解するまでの過程は、生涯にわたってたどるものであり、「ここにも少し、そこにも少しと、教えに教え、訓戒に訓戒を加えて」経ていくものです(2ニーファイ28:30)。子供が学び、学んだことに従って行動するとき、理解が深まり、その結果として、より学び、より行動できるようになり、さらにはより深くより永続的な理解を得ることができるのです。

たとえ外からの圧力または報いがなくても、教義が態度や行動に表れるようになったときに、子供が教義を理解し始めているということが分かります。福音の教義を理解できるようになると、さらに自立

し、責任を取れるようになります。家族の問題を解決するうえで重要な役割を果たしたり、家事の手伝いや家族の成功に積極的に貢献したりできるようになります。

教える機会がある度にうまく利用して、御霊を招き、模範を示し、学んだことを実践できるように助けるときに、わたしたちは子供が理解するように教えていることになります。

小さな子供の目を見詰めるときに、次の歌を思い出します。

神の子です
私やあなた
み言葉正しく
わかるように
私を助けて
導いて
いつかみもとへ
行けるように

(「神の子です」『賛美歌』189番、強調付加)

そうすることができま^みすように。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■



七十人会長会
ドナルド・L・ホールストロム長老

教会を通じて 福音に改宗する

教会の目的は、わたしたちが福音に従えるよう助けることです。

わたしはイエス・キリストの福音と末日聖徒イエス・キリスト教会を愛しています。福音と教会という言葉は、よく置き換えられますが、同じではありません。しかし深く関連していて、両方の言葉が必要です。

福音は栄光に満ちた神の計画です。その計画の中で、人は神の子供として、御父の所有されるすべてを受ける機会を与えられます(教義と聖約 84:38 参照)。これは永遠の命と呼ばれ、「神のあらゆる賜物の中で最も大なるもの」と描写されています(教義と聖約 14:7)。この計画に欠かせないのが地上での経験です。この世の生涯は信仰をはぐくみ(モロナイ 7:26 参照)、悔い改め(モーサヤ 3:12 参照)、神と和解するための時期なのです(モルモン書ヤコブ 4:11 参照)。

わたしたちには死すべき者としての弱さがあり、「すべての事物には反対のものが」あるため(2ニーファイ 2:11)、現世は非常に難しくなり、また、人は自分で自分の罪を清めることができないので、救い主が必要でした。永遠の神であり全人類の霊の御父であるエロヒムが救いの計画を示されたとき、わたしたちの中の一人が、「わたしがここにあります。わたしをお遣わしてください」と言いました(アブラハム 3:27)。彼の名はエホバでした。

主は霊的にも肉体的にも天の御父から生まれたので、この世に勝る全能の力をお持ちでした。また地上の母マリヤから生まれたので、死すべき人間の痛みや苦しみを御存じでした。偉大なるエホバはイエスと名付けられ、キリストという称号も受けられました。これはメシヤあるいは油注がれた者という意味です。主の最大の偉業は贖いでした。キリスト・イエスは「万物の下に身を落とさ」れました(教義と聖約 88:6)。そのことによって、わたしたち一人一人のために罪の代価を支払うことがおできになったのです。

イエス・キリストは地上での務めの間に、教会を「使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられ」ました(エペソ 2:20)。この「時満ちる神権時代」(教義と聖約 128:18)に、主はかつてあったままの教会を回復し、また特に預言者ジョセフ・スミスに向かってこう言われました。「わたしはあなたの手によって一つの教会を設けよう。」(教義と聖約 31:7) イエス・キリストは過去、現在、未来にわたって御自身の教会の頭であられ、地上にあって使徒の権能を有する預言者によって代表されています。

この教会はすばらしい教会です。教会の組織、効力、優れた美徳は、まじめに教会について理解を深めようとするすべての

人に高く評価されています。この教会には子供、若人、男性、女性のプログラムがあります。1万8,000以上の美しい集会所があります。今や世界各地に136の荘厳な神殿が建ち、そのほかに30が建設中あるいは建設が発表されています。5万6,000人以上の若い専任宣教師と、それほど若くない専任宣教師が150か国で奉仕しています。世界に広がる教会の、目を見張るような人道支援活動は、会員の寛大さを示しています。福祉制度は会員に手を差し伸べ、だれにもまねできない方法で自立を促しています。教会には一般会員から召された私利私欲のない指導者と聖徒がいて、互いに奉仕し合うその様は驚くべきものです。世界にこのような教会は存在しません。

わたしの生まれた小さな家は、教会の歴史的な集会所の一つ、ホノルタバナクルの敷地内にありました。この場を借りて、教会の施設を監督する管理ビショップリックの皆さんに謝罪します。わたしは幼いころ、その施設を隅から隅まで、下は、周囲の風景を鏡のように映し出す池の底から、上は、ライトアップされて人目を引く尖塔の内部まで、よじ登り、潜り込み、忍び込みました。敷地内にある巨大なパンヤンの木から長く垂れたつるに、(ターザンのように)ぶら下がって遊んだことすらあります。

教会がすべてでした。たくさん集会、今よりも多くの集会に出席しました。木曜の午後は初等協会に出席しました。扶助協会の集会は火曜の朝でした。若人のためのミューチャルは水曜の夜でした。土曜はワードの活動でした。日曜の朝は、成人男性と若い男性が神権会に出席しました。同じく正午には、日曜学校に出席しました。それから夜になると、聖餐会に出席するためにまた教会に行きました。教会と家を何度も往復し、日曜は一日中、週日はほぼ毎日、わたしたちの時間は教会活動とともに過ぎていくようでした。

教会が大好きでしたが、何かそれ以上

のものがあることに初めて気づいたのは、こうした少年のころでした。5歳のとき、大きな大会がタバナクルで開催されました。わたしたちは、自宅の前の細い道から小さな橋の上を歩いて立派な集会所へ行き、大きな礼拝堂の10列目ぐらいの席に座りました。集会を管理し、話すのは、大管長であるデビッド・O・マッケイでした。彼の言葉は何一つ覚えていませんが、そこで見て、感じたことは、はっきりと記憶しています。マッケイ大管長はクリーム色のスーツを着ていました。ウェーブがかかった白髪で、とても堂々として見えました。島の伝統で、赤いカーネーションで作った3重のレイをかけていました。話を聞きながら、とても強烈で内面的な何かを感じました。そのとき感じていたのは聖なる御霊の影響だったということの後になって知りました。わたしたちは閉会の賛美歌を歌いました。

主の方には
誰が立つや
恐れず聞かん
時は至る

(「主の方には」『賛美歌』165番)

2,000人近い人たちが歌っていましたが、歌詞にある問いはまさに自分に聞かれているような気がして、立ってこう言いたくなりました。「わたしが立ちます！」

教会に活発であることが究極の目標だと考える人がいます。そのような考えは危険です。教会には活発でも福音には活発でないこともあるのです。強調しておきます。教会に活発であることは望ましい目標ですが、それだけでは不十分です。教会に活発であることは、霊的な望みが外に表れたものです。集会に出席し、教会の責任を受けて果たし、人々に奉仕するならば、それは人の目に触れます。

対照的に、福音に関する事柄は、通常人の目につかず評価しにくいものですが、永遠から見るとはるかに重要です。例え

ば、わたしたちの信仰は、ほんとうはどれくらい深いでしょうか。どれほど悔い改めているでしょうか。儀式は生活にどれほど意味を持っているでしょうか。聖約にどれほど心を集中しているでしょうか。

繰り返します。わたしたちには福音と教会の両方が必要です。実際、教会の目

的は、わたしたちが福音に従えるよう助けることです。わたしたちはよく次のように考えます。若いときには教会に完全に活発なのに、年を取るとそうでなくなるのはなぜだろうか。いつも集会に出席し奉仕していた人が、急に来なくなるのはなぜだろうか。指導者やほかの会員に失望した



人が、それをきっかけに教会に来なくなるのはなぜだろうか。それは恐らく、彼らは福音に、つまり永遠の事柄に、十分帰依していなかったからでしょう。

福音を自分の基礎とするための大切な方法を3つ提案します。

神会についての理解を深めてください。
神会の御三方についての確固とした知識と御三方への愛は欠かせません。御父に対して、御子の御名によって心から祈り、聖霊の導きを求めます。祈りに加えて、常に学び、へりくだって深く考えることによって、イエス・キリストに対する揺るぎない信仰をはぐみ続けてください。「なぜならば、……見も知らぬ他人で、心の思いと志を異にしている主人を、どのようにして人は知ることができようか。」(モーサヤ5:13)

儀式と聖約に心を集中してください。
救いに欠かせない儀式でまだ受けていないものがあれば、一つずつ受ける準備を真剣に始めてください。聖約に忠実に生活する習慣を身に付け、聖餐という賜物を毎週完全に活用します。多くの人は、この神聖な儀式に対する敬虔さを欠くために、清めの力による定期的な変化という祝福にあずかっていません。

福音と教会は一つだと考えてください。
福音に心を集中するときに、教会は生活から祝福を奪うものではなく、増し加えるものとなります。集会に出席するときに「研究によって、また信仰によって学問を求め」る備えができていれば(教義と聖約88:118)、聖なる御霊が教師となってくれます。楽しませてもらうために来るならば、多くの場合、失望するでしょう。スペンサー・W・キンボール大管長は次のように尋ねられたことがあります。「聖餐会が退屈なときはどうしていますか。」彼の答えはこうでした。「分かりません。そのような経験がないものですから。」(ジーン・R・クックによる引用。ゲーリー・アバント, "Learning Gospel Is Lifetime Pursuit," *Church News*, 1990年3月



24日付, 10)

わたしたちは日々、主が新世界を訪れて教会を確立された後に起こったことを望むべきです。聖文にはこうあります。「そして、彼ら[すなわち主の弟子たち]はすべてのニーファイの民の中に出て行って、地の面のすべての人に、キリストの福音を宣べ伝えた。すると人々は、主に帰依し、キリストの教会に加わった。このように、

その時代の人々はイエスの言葉のとおり
に祝福を受けた。」(3ニーファイ28:23)

主は教会員が福音に完全に帰依することを望んでおられます。これこそが現世における霊的な安全と永遠における幸福を得るための、唯一の確かな方法なのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



七十人
ポール・E・コーリカー長老

主はわたしたちを 心から愛しておられる

天によって定められた家族という規範のおかげで、わたしたちは天の御父がわたしたち一人一人を等しく、心から愛してくださっていることをよりよく理解できます。

わたしは専任宣教師といるのが大好きです。宣教師は信仰、希望、純粋な慈愛にあふれています。伝道で得る経験は、1年半から2年に凝縮された人生のようなものです。宣教師は伝道地に着いたときは霊の赤ん坊のように、学ぶことに強い意欲を持っており、帰るころには成熟した大人のように、目の前のいかなるチャレンジにも立ち向かう備えができて見えるように見えます。わたしは献身的なシニア宣教師も大好きです。彼らは忍耐と知恵と落ち着き払った自信にあふれています。周りの若い宣教師から醸し出される若々しい活気に安定と愛の賜物たまものをもたらします。専任宣教師とシニア宣教師の双方は善に対してたくましく、根気強さを備えており、彼ら自身の生活にも、彼らが奉仕する人々にも、計り知れない影響を及ぼします。

最近、二人のすばらしい若い宣教師から、彼らの経験や働きを聞きました。いろいろな出来事を振り返りながら、彼らはその日に接触した人々について考えました。何人かはほかの人よりも良い反応を示していました。二人はこのように自問しました。「どうすれば、一人一人が天の御父に

ついてもっと知りたいと思えるように助けられるだろうか。どうすれば彼らが御霊を感じるのを助けられるだろうか。どうすればわたしたちが彼らを愛していることを知ってもらえるだろうか。」

わたしは心の中で、伝道が終わって3、4年後のその二人の若い青年の姿が想像できました。永遠の伴侶はんりよを見つけ、長老定員会で奉仕したり、若い男性を教えたりしている姿が浮かびました。今度は求道者ではなく、自分が養うために召された定員会の会員や若い男性について同じ質問を自問することでしょう。伝道で経験したことが、残りの生涯で人を養う際のひな形にできることが分かりました。これらの義にかなった弟子たちの軍勢が伝道を終えて地上の様々な国々に戻ると、教会を築く業の中で重要な貢献者になっています。

モルモン書の預言者リーハイも、自分が受けた指示と示現に対する息子の返事に耳を傾けながら、宣教師たちと同じことを自問したかもしれません。「このように、いちばん年上のレーマンとレムエルは父に対してつぶやいた。彼らがつぶやいたのは、自分たちを造られたあの神の計らい

を知らないためであった。」(1ニーファイ 2:12)

わたしたちも個々に、リーハイが二人の年長の息子に感じたもどかしさを味わったことがあるかもしれません。道をそれていく子供、福音を受け入れない求道者、あるいはあまり反応のない、長老になる見込みのある会員と向き合うときに、わたしたちもリーハイのように胸を痛め、次のように自問するかもしれません。どうすれば彼らがこの世のことで思い煩うことなく、御霊を感じ御霊に耳を傾けられるようにできるだろうか。世の煩いがあっても、道を見いだす助けとなる聖句がわたしの心に二つ浮かんで来て、神の愛の力を感じます。

ニーファイは学びという扉かぎの鍵を自分の経験により示しています。「わたしニーファイは……神の奥義を知りたいという大きな望みを抱いていたので、主に叫び求めた。すると見よ、主がわたしを訪れ、心を和らげてくださったので、わたしは、父がこれまでに語った言葉をすべて信じた。そのためにわたしは、兄たちのように父に逆らおうとはしなかったのである。」(1ニーファイ 2:16)

知りたいという望みを起こすことは、天の声を聞く霊的な力を与えてくれます。その望みを呼び起こす方法を見いだしてはぐくむことは、すべての宣教師、親、教師、指導者、会員を含むわたしたち一人一人が探求すべきことであり、責任です。知りたいという望みが心の中で芽生えるのを感じるなら、二つ目の聖句を学ぶ備えができます。

1831年6月、初期の教会指導者に召しが与えられているとき、ジョセフ・スミスは「サタン〔が〕地の方々におり、出て行ってもろもろの国民を惑わす」と言われました。この世的な悪い影響と戦えるように、主は、わたしたちが「欺かれぬために、……すべてのことに関して規範」を与えてくださるとおっしゃいました(教義と聖約 52:14)。



規範とは、神の目的に添ったひな形や指針、繰り返し行う手順、道です。規範に従えば、わたしたちは謙遜であり続け、感覚を研ぎ澄まさせ、聖霊の声と、ほかのこの世的なもので煩わせて道からそれさせる声を見分けることができます。そして主はこのような指示を与えておられます。「わたしの力の下でおののく者は強くされ、わたしがあなたがたに与えたもろもろの啓示と真理にかなって賛美と知恵の実を結ぶであろう。」(教義と聖約 52:17)

誠心誠意ささげる謙遜な祈りの祝福として、聖霊がわたしたちの心の琴線に触れ、現世に生まれる前に知っていた事柄を思い出すのを助けてくださいます。わたしたちは、天の御父が下さった計画を明確に理解すると、ほかの人が御父の計画を学び理解するのを助ける責任があることを認め始めます。わたしたちが個人的に福音に添って生活し、実践することは、人々が前世を思い出す助けとなります。イエス・キリストが教えられた規範に倣って、

実際に福音に添った生活をする、人を助ける力が増します。以下はこの原則がどのように作用するのかを示す一例です。

二人の若い宣教師がドアをたたきました。自分たちのメッセージを聞いてくれる人を探していたのです。ドアが開いて、わりと体格の大きな男性が、友好的とはいえない声で彼らを出迎えました。「二度うちのドアをたたくなと言ったはずだ。今度来たら不快な思いをさせると警告しただろう。ほっとしてくれ。」男性はあっという間にドアを閉めてしまいました。

長老たちがそこを去るとき、年上の、より多くの経験を積んできた宣教師が後輩宣教師を慰め、励まそうとして彼の肩に腕を乗せました。宣教師たちは知りませんでしたが、男性は宣教師がおとなしく帰るかどうかが確かめるために窓から見ていました。男性は、宣教師が自分のそっけない対応を笑い、軽んじるに違いないと思っていました。しかし、宣教師が互いを思いやるのを見て、男性の心は瞬時に和らげ

られました。彼はドアを再び開け、戻って来てメッセージを教えてほしいと宣教師に頼みました。

わたしたちが御霊を感じるの、神の御心に従い、主の規範に倣って生活するときなのです。救い主はこのように教えられました。「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ 13:35) 互いに愛し合い、思いと言葉と行いをキリストに焦点を当てたものとする、この能力をはぐくむ原則は、キリストの弟子となり、その福音を教える教師となるうえで重要です。

わたしたちはこの望みをわき起こすことで、約束された規範を探す準備ができます。規範を求めると、救い主やその預言者である指導者が教えたとおりのキリストの教義を見いだします。この教義の規範には、終わりまで堪え忍ぶことが含まれます。「その日、わたしのシオンを起そうと努める者は幸いである。彼らは聖



霊の賜物と力を受けるであろう。また、彼らは最後まで堪え忍ぶならば、終わりの日に高く上げられて、小羊の永遠の王国に救われるであろう。」(1 ニーファイ 13: 37)

わたしたちが聖霊の賜物と力を享受できる究極の方法は何でしょうか。それは、イエス・キリストの忠実な弟子となることでもたらされる力です。それは、主と同胞を愛する心です。救い主は愛の規範を定義して次のように教えておられます。「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える。互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」(ヨハネ 13: 34)

ゴードン・B・ヒンクレー大管長が次のように教えました。「『主を愛しなさい』ということは、単なる勧告ではありません。

そうするのが望ましいという程度のもではありません。それは……戒めなのです。……神の愛はすべての徳、善、人格の力、善へ導く忠実さの源です。」(「生ける預言者の言葉」『聖徒の道』1996年12月号、8: “Excerpts from Recent Addresses of President Gordon B. Hinckley,” *Ensign*, 1996年4月号、73)

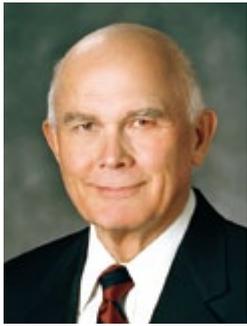
天の御父の計画はさらに、わたしたちが愛の力を学び、実践し、理解できるように、家族という規範を示しています。わたしの家族が組織された日、愛する妻のアンとわたしは神殿に行って、結婚の聖約を交わしました。その日、妻をほんとうに愛していると思いましたが、まだ愛というもののほんの一端を見たにすぎませんでした。子供や孫が一人ずつわたしたちの人生に加わるにつれ、わたしたちの愛はさら

に大きくなり、一人一人を等しく心から愛しました。愛が広がり大きくなるのに限りはないようです。

天の御父に愛されているという実感は、わたしたちを天に引き寄せる引力のようなものです。この世に引き込む悪影響を取り除き、選択の自由を行使して御父を求めることで、わたしたちは、御父に近づけてくれる日の栄えの力に対して心を開きます。ニーファイはその力の強さを「肉体が燃え尽きるほど」であると表現しています(2 ニーファイ 4: 21)。アルマはこの同じ愛の力を感じて「贖いをもたらず愛の歌」を歌いました(アルマ 5: 26; 9 節も参照)。御父の愛を感じたモルモンは感銘を受けて、「この愛で満たされるように、……[わたしたちの]熱意を込めて御父に祈りなさい」と勧告しました(モロナイ 7: 48)。

現代の聖文も、古代の聖文も、天の御父が子供たちに抱いておられる永遠の愛を思い出させてくれます。天の御父の御腕がいつでも差し伸べられており、わたしたち一人一人を抱き、あの静かな、心を貫く声で「愛している」とおっしゃることを確信しています。

天によって定められた家族という規範のおかげで、わたしたちは天の御父がわたしたち一人一人を等しく、心から愛して下さっていることをよりよく理解できます。わたしはこれが真実であると証します。神はわたしたちを御存じで、愛しておられます。御自分の聖なる場所をわたしたちに示してくださり、わたしたちがみもとへ帰るための原則と規範を教える預言者や使徒を召されました。わたしたちが、自分やほかの人たちの心の中に知りたいという願望を呼び起こすよう努め、わたしたちが見いだす規範に添って生活するときに、主に近くなれるでしょう。イエスが神の御子、すなわち手本を示す者、愛する贖い主であられることを、イエス・キリストの御名により証します、アーメン。■



十二使徒定員会
ダリン・H・オクス長老

犠 牲

わたしたちの奉仕と犠牲の生活はまさしく、主と隣人に仕える決意を表す最も適切な象徴なのです。

イエス・キリストの贖いの犠牲は「創世から無限の永遠までのあらゆる出来事の中で最も大きい出来事」¹ であると言われています。その犠牲は、あらゆる預言者が伝えてきたメッセージの中心を成しています。モーセの律法で定められた動物の犠牲はその予型でした。ある預言者はモーセの律法のすべての部分が「無限にして永遠」である「神の御子」の「大いなる最後の犠牲を指し示している」と宣言しました（アルマ 34：14）。イエス・キリストは万人の罪の犠牲となるため、想像を絶する苦しみに耐えられました。至上の善すなわち清い雄の子羊の全きものが、最大の邪悪すなわち全世界の罪に対する犠牲としてささげられたのです。エライザ・R・スノーはそれを印象的にうたいました。

尊き血流し
命捨てて、
罪なき犠牲にて
罪の世救う²

イエス・キリストの贖いであるその犠牲は、救いの計画の中心を成しています。

イエス・キリストの想像を絶する苦しきは、血を流す犠牲を終わらせましたが、福音の計画における犠牲の重要性が失われたわけではありません。救い主はわたし

たちに引き続き犠牲を求めておられますが、主が現在命じておられる犠牲は「打ち砕かれた心と悔いる霊を、犠牲として〔主〕にささげ〔る〕」ことです（3 ニーファイ 9：20）。主はまた互いに愛し合い、仕え合うように命じておられます。要するに、わたしたちの時間とわがままな優先事項を犠牲にすることにより主の犠牲に倣うのです。靈感された賛美歌の中でも、「犠牲は天の恵みをもたらす」³ と歌われています。

救い主がわたしたちにこの世で求めておられる犠牲について話したいと思えます。これにはやむを得ずささげる犠牲や、奉仕や犠牲ではなく個人の利益目的による行為は含まれません（2 ニーファイ 26：29 参照）。

I.

キリスト教には、究極の犠牲をはじめとした犠牲の歴史があります。その初期の時代に、ローマでイエス・キリストを信じる多くの人が虐殺されました。幾世紀も後、教義上の論争からクリスチャンが分裂したとき、ほかの教派の人々への迫害や殺害までが行われました。クリスチャンに殺されたクリスチャンは、キリストの信者として最も悲しい殉教者です。

多くのクリスチャンはキリストへの信仰とキリストに仕えたいという望みにより、

進んで犠牲をささげてきました。成人した後の全人生を主への奉仕にささげる人がいます。この気高い人の中にはカトリック教会の修道会の人々や、プロテスタントの様々な宗派で宣教師として生涯をささげた人々がいます。彼らの模範には心を鼓舞されますが、キリストを信じるほとんどの人は、生涯をささげた奉仕を求められず、行ったりすることはありません。

II.

キリストに従うほとんどの人にとって、犠牲には日常生活の中でできる事柄が含まれます。この意味において、わたしは末日聖徒ほど犠牲を払っている人々をほかに知りません。兄弟姉妹、皆さんの犠牲は、よくあるこの世の自己満足とは対照を成しています。

わたしが紹介する最初の例はモルモンの開拓者です。生活、家族関係、家庭、快適な生活をなげうった彼らの英雄的な犠牲は回復された福音の土台にあります。サラ・リッチは夫のチャールズが伝道に召されたときの記録の中で、何が開拓者を動機付けたか説明しています。「それはわたしにとっても夫にとっても試練の時でした。しばらく別れて暮らすこととなります。主の御心に従っていることを確信していたので、地上に神の王国を建設する……業を確立するために、自分たちの気持ちを二の次にする必要があったと感じました。」⁴

今日、末日聖徒イエス・キリスト教会の最も特徴的な強さは、会員たちの行う無私の奉仕や彼らのささげる犠牲にあります。ある聖職者がわたしたちの神殿の奉献の前に、ゴードン・B・ヒンクレー大管長に、キリスト教の最も一般的な象徴である十字架がどこにも見当たらないのはなぜかと尋ねました。ヒンクレー大管長はわたしたちのクリスチャンとしての信仰の象徴は「教会員の生活そのものです」⁵ と答えました。わたしたちの奉仕と犠牲の生活はまさしく、主と隣人に仕える決意



を表す最も適切な象徴なのです。

III.

末日聖徒イエス・キリスト教会には、専門的な訓練を受けた有給の聖職者はいません。このため、会員を導き、奉仕するよう召される一般会員は、教会の多くの集会やプログラム、活動をすべて管理運営しなければなりません。これは合衆国とカナダだけでも、1万4,000以上のユニットで行われています。もちろん、一般会員が教師や指導者を務めているのは、わたしたちの教会だけではなく。しかし、訓練と管理のために会員が互いにささげる時間は、飛び抜けて膨大です。毎月ホームティーチャーが会員の各家族を訪れ、また扶助協会の訪問教師が毎月成人女性を訪れる働きが、その一例です。これに匹敵する奉仕を行う組織は、世界のどこにも聞いたことがありません。

末日聖徒に特有の奉仕と犠牲の例として最もよく知られているのは、宣教師の働

きです。現在5万人以上の若い男女と5,000人以上の熟年の男女が、宣教師として奉仕しています。6か月から2年をささげて、世界中の160以上の国でイエス・キリストの福音を教え、人道支援活動を行っています。彼らの働きは常に犠牲を伴います。主の業にささげる歳月や、宣教師基金を捻出^{ねんしゅつ}するためにささげる犠牲もそれに当たります。

家に残される親や家族も、宣教師を送り出している間は、彼らとの交わりや彼らの助けを得られないという犠牲を払います。例を挙げると、ブラジルのある青年が宣教師の召しを受けました。彼は父親と母親の死後、自分のきょうだいを養うために働いていました。中央幹部によると、この子供たちは会議を開き、主に仕えるためにいつも備えておくようにと言っていた両親の言葉を思い出したそうです。その青年は宣教師の召しを受け、16歳の弟が家族を養う責任を引き継ぎました。⁶ほかに伝道に出るために、あるいは宣

教師を支えるために犠牲を払った多くの人の例をわたしたちは知っています。世界中のほかのどの団体にも、このような奉仕と犠牲を進んで行っている例はありません。

よく次のような質問を受けます。「学業や退職後の生活を離れて犠牲をささげるように、若い人や年配の会員をどう説得するのですか。」多くの人はこう説明しています。「救い主は、わたしが再び命を得られるように、わたしの罪のために苦しまれ、死に打ち勝たれました。その恵みを知っているため、主の業のために小さな犠牲を払うことは特権だと思います。主から受けた知識を分かち合いたいのです。」奉仕するようにとキリストに従う人々をどのように説得するのでしょうか。ある預言者が説明したように、「[ただ] お願いするだけです。」⁷

伝道活動に起因するそのほかの犠牲として、宣教師の教えに従って新たに教会の会員になる人が払う犠牲があります。



多くの改宗者にとって、この犠牲は重大です。友達をなくし、家族のつながりを失うこともあるからです。

何年も前の総大会で、ある青年の経験が紹介されました。彼は合衆国に留学している間に回復された福音を見いだしました。やがて祖国に帰ろうとしていたときに、ゴードン・B・ヒンクレー大管長か

グアテマラ、パツィシア



ら、クリスチャンとして帰国したら何か支障がないかと尋ねました。「家族はがっかりするでしょう」と青年は答えました。「家から追い出され、死んだものと見なされるかもしれません。この先仕事でもあらゆる機会が閉ざされると思います。」

ヒンクレー大管長は尋ねました。「福音のためにそれほど大きな代価を進んで払うつもりですか。」

青年は涙を浮かべて答えました。「福音は真実ではないのですか。」ヒンクレー大管長がそのとおりと答えると、彼は言いました。「それなら、ほかに何を心配する必要があるでしょうか。」⁸ 多くの新会員がこのような犠牲の精神を持っています。

神殿で奉仕する忠実な会員の生活にも、奉仕と犠牲の例を見ることができます。神殿での奉仕は末日聖徒に特有のもので、クリスチャンは皆、そのような犠牲の重要性を理解できることでしょう。末日聖徒には修道院で奉仕する習慣はありませんが、クリスチャンとしての信仰に

促されてその宗教活動に生涯をささげる人々の犠牲を理解し、尊敬することができるのです。

ちょうど1年前のこの大会で、トーマス・S・モンソン大管長は神殿の奉仕に関連した犠牲の例を紹介しました。太平洋上の遠く離れた島に住む忠実な末日聖徒の父親は、遠い所へ出かせぎに行き、6年間重労働を続けました。妻と10人の子供を連れてニュージーランドにある神殿に行き、永遠の結び固めを受けるのに必要な資金を蓄えるためでした。モンソン大管長はこう言いました。「神殿のもたらす永遠の祝福を理解している人は、これらの祝福を受けるためにいかなる犠牲、いかなる代価、いかなる苦勞もいといません。」⁹

わたしは末日聖徒の間に見られるクリスチャンの愛や奉仕、犠牲のすばらしい模範に感謝しています。皆さんはしばしば多くの時間と財産を犠牲にして教会の召しを果たしています。自分で費用を負担して伝道に携わっています。隣人に奉

仕するために喜んで専門技術をささげています。教会の福祉や人道支援を通して、あるいは個人的な働きにより、貧しい人の世話をしています。¹⁰ このすべては、アメリカ全土で行われたある研究の結果を裏付けています。すなわち、末日聖徒イエス・キリスト教会の活発会員は「平均的なアメリカ人よりもはるかに多くの奉仕活動と献金を行い、さらに宗教的信条を持つアメリカ人の上位 20 パーセントの人よりも時間と金銭に寛大である」のです。¹¹

そのような模範は会員全体の力となり、救い主の次の教えを思い起こさせてくれます。

「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て……なさい。

自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう。」(マタイ 16: 24 - 25)

IV.

無私の奉仕と犠牲について最も身近で最も大切な模範は、恐らく家族の中で行われるものでしょう。母親は子供を産み育てるために自分をささげます。夫は妻と子供を養うために自分をささげます。家族に対する永遠に大切な奉仕にかかわる犠牲は、数え切れないほど多く、言葉にする必要もないほど身近なものなのです。

末日聖徒が無私の精神で養子を迎え、かつて閉ざされていた希望と機会を与えようとしている姿も目にします。特別な必要を持つ子供を養子に迎える人もいます。先天性欠損症、精神や肉体の疾患、成長過程で起きた障がいなどを抱えた家族や隣人の世話をしている人を知っています。主は皆さんを見ておられます。そして預言者を通してこう宣言しておられます。「伴侶や子供のために犠牲を払うとき、主から祝福が与えられ[る]でしょう。」¹²

救い主の模範に従うことによって主を礼拝し、無私の奉仕と犠牲をささげる末日聖徒は、ほかのどのような団体よりも永



遠の価値観を大切にしていると、わたしは信じています。末日聖徒は、時間と財産を犠牲にすることが永遠の命を得るための教育であり、修養であると考えています。これは『信仰講話』(Lectures on Faith)の中で明らかにされた真理です。「すべてのものを犠牲にささげることを求めない宗教は、人を命と救いに導くのに必要な信仰をはぐくむ十分な力を得ることができません。……この犠牲を通して、この犠牲によってのみ、人が永遠の命を受けるよう神は定められました。」¹³

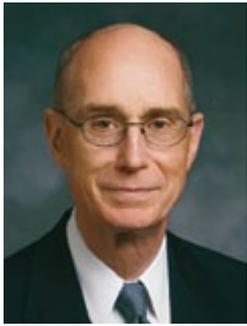
イエス・キリストの贖いの犠牲が救いの計画の中心であるように、キリストに従う人々は、その計画によって用意されている目的地へ行く備えをするために自らを犠牲にしなければなりません。

わたしはイエス・キリストが永遠の父なる神の独り子であられることを知っています。御子の贖いの犠牲のゆえに、わたしたちは不死不滅と永遠の命を得る機会があることを確信しています。御子はわたしたちの主であり、救い主であり、贖い主です。わたしはイエス・キリストの御名により主について証します、アーメン。■

注

1. ブルース・R・マッコンキー、*Promised Messiah:*

- The First Coming of Christ* (1981年), 218
 2. 「高きに満ちたる」『賛美歌』112 番
 3. “Praise to the Man,” *Hymns*, 27 番
 4. サラ・リッチの言葉、ギネビア・トーマス・ウルステンハルム、“I Have Seen Many Miracles,” リチャード・E・ターラー・ジュニア、ブリタニー・A・チャプマン編、*Women of Faith in the Latter Days: Volume 1, 1775–1820* (2011年), 283 で引用
 5. ゴードン・B・ヒンクレー「わたしたちの信仰の象徴」『リアホナ』2005年4月号, 3
 6. ハロルド・G・ヒラム「奉仕に伴う犠牲」『聖徒の道』1996年1月号, 47 - 48 参照
 7. ゴードン・B・ヒンクレー「信仰の奇跡」『リアホナ』2001年7月号, 84
 8. ゴードン・B・ヒンクレー「福音は真実です、違いますか?」『聖徒の道』1993年10月号, 3 - 4 参照。ニール・L・アンダーセン「福音は真実ではないのですか。それなら、ほかのものが何だというのですか?」『リアホナ』2007年5月号, 74 も参照
 9. トーマス・S・モンソン「聖なる神殿——世界に輝くかがり火」『リアホナ』2011年5月号, 92
 10. 例として、ナオミ・シェーフアー・ライリー、“What the Mormons Know about Welfare,” *Wall Street Journal*, 2012年2月18日付, A11 参照
 11. ラム・ナン他“Called to Serve: The Prosocial Behavior of Active Latter-day Saints” (草稿), 16
 12. エズラ・タフト・ベンソン「独身の兄弟たちに」『聖徒の道』1988年6月号, 52
 13. *Lectures on Faith* (1985年), 69



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

登るべき山

もしわたしたちがイエス・キリストを信じる信仰を持っているなら、人生で最も楽なときも苦しいときも、いずれも祝福となるでしょう。

総 大会のある部会で、スペンサー・W・キンボール大管長が次のように語り、登るべき山を下さいと神に頼むのを聞きました。「わたしたちの行く末には、立ち向かわなければならぬ数々の難題、機会が待ち受けています。しかし、わたしはそれらを明るい見通しをもって迎え、へりくだって主にこう申し上げたいと思います。『この山をわたしに下さい』『これらのチャレンジをわたしに下さい』と。」¹

大管長がすでに難題や苦難に直面してきたのを知っていたわたしは、心が揺り動かされました。大管長のように神の僕として雄々しく仕える人になりたいと思いました。それで、ある晩、自分の勇気を試す試練を祈り求めました。その祈りをよく覚えています。夜、寝室で胸が張り裂けんばかりの信仰に満たされてひざまずいたのです。

1日か2日すると、わたしの祈りはこたえられました。人生の最も厳しい試練を受け、驚き、謙遜けんそんになりました。試練は二つの教訓を与えてくれました。一つは、わたしの信仰の祈りを神が聞き、こたえてくださったことが明確に証明されたことです。しかし、もう一つは、そのときから今なお続いている個人指導が始まったことです。それは、試練を通して、いかなる犠牲をものぐ大きな祝福がもたらされるということ、あの晩なぜそれほど確

信をもって感じたかについて、わたしに教えるための指導です。

ずっと前に経験したその試練は、それ以来経験した試練に比べれば、わたしにとっても愛する者にとっても、今ではごく小さなものに思われます。今、皆さんの多くは、肉体的、精神的、情緒的な試練に遭遇しています。わたしがよく知っていたある忠実で立派な神の僕がしたように、泣き叫びたい気持ちになることでしょう。ベッドに横たわったその人が苦痛の極みにこのような叫び声を上げたのを看護師が聞きました。「生涯、善良であろうと努力してきたのに、どうしてこのようなことがわたしの身に起きるのだろうか。」

そのような問いに対して、預言者ジョセフ・スミスに主がどのようにこたえられたか、皆さんは御存じでしょう。

「また、たとえあなたが穴の中に投げ込まれたり、殺人者の手に渡されたりして、死刑の宣告が下されても、たとえあなたが深みに投げ込まれても、たとえ寄せて来る大波があなたを巻き込もうとしても、たとえ暴風があなたの敵となっても、たとえ天が暗黒を集め、すべての元素が結束して道をふさいでも、また何にも増して、たとえ地獄の入り口が大口を開けてあなたをのみ込もうとしても、息子よ、あなたはこのことを知りなさい。すなわち、これらのことはすべて、あなたに経験を与え、あなたの益となるであろう。

人の子はこれらすべての下に身を落とした。あなたは人の子よりも大いなる者であろうか。

それゆえ、あなたの道に踏みとどまりなさい。そうすれば、神権はあなたとともにある。彼らの限界は定められており、彼らはそれを越えることはできない。あなたの命数は知られており、あなたの寿命が短くされることはない。それゆえ、人のなし得ることを恐れてはならない。とこしえにいつまでも、神はあなたとともにいるからである。」²

なぜ試練があり、わたしたちは何をすべきかという問いに対して、主御自身の言葉以上に良い答えはないように思われます。主はわたしたちのために、人の想像を絶する恐ろしい試練に遭われた御方だからです。

主を信じる信仰によって悔い改めるべきであると勧告された、主の次の言葉を皆さんは覚えているでしょう。

「それゆえ、わたしは、悔い改めるようにあなたに命じる。わたしの口のくちばしによって、わたしの憤りによって、またわたしの怒りによって打たれて、つらい苦しみを被ることのないように、悔い改めなさい。これらの苦しみがいかにつらいか、あなたは知らない。いかに激しいか、あなたは知らない。まことに、いかに堪え難いか、あなたは知らない。

見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。

しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。

その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大いなる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦い杯を飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った。



しかしながら、父に栄光があるように。わたしは杯を飲み、人の子らのためにわたしの備えを終えたのである。」³

皆さんにもわたしにも信仰があります。試練を克服する方法は信仰です。「ギレアデに……乳香」⁴があることを、そして「わたしはあなたを……見捨てることもしない」⁵との主の約束を信じることです。それこそが、どうすることもできないように思える孤独な試練に遭遇するわたしたちを、またわたしたちが仕える人々を助けるために、トーマス・S・モンソン大管長が教えてくれたことなのです。⁶

しかし、またモンソン大管長は賢明にも、これらの約束が実現するという信仰の土台を作るのには時間がかかると教えています。最後まで堪え忍ぶという戦いをあきらめようとする人の枕もとで、皆さんはわたしのように、そのような土台を作る必要性を理解した経験があるかもしれません。信仰の土台が心の中に築かれていないと、堪え忍ぶ力は崩れてしまうのです。

今日わたしは、そのような揺るぎない土台を築く方法について知っていることをお話ししたいと思います。非常に謙遜になってお話しする理由が二つあります。一つは、わたしの話を聞いて、大きな苦難のさなかにあって苦しんでいる人が落胆して、信仰の土台が崩れていると感じてしまうかもしれないからです。もう一つは、

わたし自身の生涯が終わる前に、さらに大きな試練が待っていることを知っているからです。ですから皆さんへの助言は、わたしが自分自身の人生を最後まで堪え忍び終えて初めて証明されるのです。

若いころ、わたしは新築住宅の土台や基礎を作る土建業者と一緒に働いていました。地面を整え、型枠にセメントを流し込んで土台を作る作業は、暑い夏には大変な仕事でした。機械はなく、つるはしとシャベルを使いました。長持ちするような土台を作ることは当時、大変な作業でした。

忍耐力も必要でした。土台にセメントを流し込んだ後、固まるまで待ちました。仕事を先に進めたいと思いましたが、型枠を外す前に、待たなくてはなりませんでした。

新米の建設作業員にとってさらに印象的だったのは、土台が仕上がったときに強度を加えるため、型枠の中に金属の棒を注意深く入れる、退屈で時間のかかる工程でした。

このように、わたしたちの信仰の土台を築くためには、だれの人生にも訪れる嵐に耐えられるよう、基礎を注意深く整えなくてはなりません。そうした、信仰の土台となる堅固な基礎は高潔な人格です。

選択するときは、常に正しいことを選択することにより、自分の信仰に堅固な基礎が築かれます。人はだれでも生まれたと

きから、キリストの御霊という賜物を無料で頂いています。神の前に正しいことを行ったかどうか、神の目に間違ったことをしたかどうか、その御霊の力で知ることができます。

こうした選択は、ほとんど毎日何度もしますが、それが積み重なって、信仰という建物を建てるための堅固な土台が築かれるのです。信仰を注ぎ込む金属の枠組みは、聖約と儀式と原則を含むイエス・キリストの福音です。

長続きする信仰にとって非常に重要なものの一つは、成熟して固まるのに必要な時間を正しく判断することです。そのようなわけでわたしは、人生のあまりにも早い時期に、登るべきいっそう高い山とさらに大きな試練を祈り求めるほど浅はかだったのです。

信仰を固めることは、時間の経過により自動的にできることではありません。それはとても時間がかかることなのです。ただ年を取ればよいというものではありません。真理に対する証を揺るぎない霊的な強さにまで固める方法は、全身全霊で絶えず神と人に奉仕することです。

厳しい試練のさなか、苦難に見舞われ、信仰が消えかかっていると感じている人々を励ましたいと思います。試練は人を強め、ついには揺るぎない信仰を手に入れるための方法となり得ます。モルモン書の中でモルモンの息子のモロナイは、

そうした祝福がどのようにして来るかについて述べています。わずかな信仰でさえ行使するなら、神はそれを伸ばしてくださいという、単純で美しい真実を教えているのです。

「さて、わたしモロナイはこれらのことについて少々述べたい。信仰とは待ち望んでいながらまだ見ていないものであることを、世の人々に示したい。あなたがたは、自分が見ていないからということで疑ってはならない。信仰が試されてからでなければ、証は得られないからである。

キリストが死者の中からよみがえられた後、わたしたちの先祖に御自身を現されたのは、信仰による。先祖がキリストを信じてからでなければ、キリストは先祖に御自身を現されなかった。したがって、キリストを信じていた人々がいたに違いない。キリストは、俗世の人々には御自身を現されなかったからである。

しかし、人々が信じたので、キリストは世の人々に御自身を現し、御父の名の栄

光を表し、さらに、ほかの人々が天の賜物にあずかる者となれるように、また、彼らがまだ見ていないものを待ち望むことができるように、道を備えられた。

したがって、あなたがたも信仰を持ちさえすれば、望みを持つことができ、賜物にあずかる者となれるのである。」⁷

主イエス・キリストを信じる信仰とは、わずかであっても非常に貴重であり、できる限りの方法で守り行使すべきものなのです。モロナイはその信仰の力についてこのように教えています。「どのようなときでも、信じてからでなければ奇跡を行った者はいない。したがって、奇跡を行った者はまず神の御子を信じたのである。」⁸

「主は生けりと知る」⁹ という言葉を何度も繰り返すという単純なことで、想像もできないような喪失感に堪えるための十分な強さを身に付けるという奇跡を経験した、ある女性と話したことがあります。彼女の子供時代の記憶は薄れてはいましたが、完全に消え去ってはいませんでした。

た。けれども、彼女の信仰と証の言葉は揺らぐことはありませんでした。

別の女性のことについても知り、衝撃を受けました。長年自分のことを不当に扱ってきた人を赦したというのです。わたしは驚いて、長年にわたる意地悪な仕打ちを赦し忘れるという道を選んだ理由を尋ねました。

彼女は静かにこう言いました。「これほど難しいことをしたのは、今まで一度もありませんでした。でもしなければならぬと分かったので、そうしました。」もし自分がほかの人を赦すなら、救い主は自分を赦してくださいという信仰により、彼女は死に直面したときにも、平安と希望の気持ちを抱くことができました。それは悪いと思っていてもいない相手を赦してからわずか数か月後のことでした。

彼女はこう尋ねました。「わたしが天国に行くとき、どのように受け入れられるでしょうか。」

わたしはこのように答えました。「信仰を働かせて人を赦すというあなたの力を見るかぎり、すばらしい帰郷となるでしょう。」

最後までよく堪え忍ぶために、イエス・キリストを信じる自分の信仰が十分にあるかどうか疑わしく思っている人々を、もう少し励ましたいと思います。今わたしの話を聞いている皆さんの中には、若いころ活力と人並み以上の才能に恵まれて救い主の模範に従って行動する方を選んだ人々がいます。わたしはそういう人々を知る祝福にあずかりました。皆さんは豊かな祝福を受けながら、自分の置かれた境遇にあって、今までに無視したり見下したりすることもできた人々を、逆に助け、思いやる方法を見いだしました。

厳しい試練に遭うとき、それによく堪えるだけの信仰がそこにあるでしょう。その信仰は、キリストの純粋な愛の気持ちから行動し、救い主がされたように仕え、ほかの人々を赦すことにより築かれてきたのです。それが今ならわかるかもしれませんが、実際に自分が行動しているときに

ブラジル、サンパウロ





は気がつかなかったかもしれません。救い主が愛されたように愛し、主に仕えることから、信仰の土台が築かれたのです。主を信じる信仰が、慈愛を動機とする行いへと導き、希望をもたらすのです。

信仰の土台を強めるのに遅すぎるという事は決してありません。いつでも時間はあります。救い主を信じる信仰により、悔い改め、赦しを請うことができます。だれかを救済することができます。だれかに感謝することができます。だれかに奉仕して、励ますことができます。どこにいても、どんなに寂しく、見捨てられたように感じても、そうすることができるのです。

わたしは、この世での苦難が終わると約束することはできません。試練はただ一時のものに思えるよう安心させることはできません。人生の試練の特徴の一つは、時間の流れが遅くなり、ついにはあたかも止まっているかのように見えてしまうことです。

そのように見えてしまうことには理由があります。理由を知っていることで慰められることはあまりないかもしれませんが、忍耐する気持ちは持てるでしょう。その

理由は皆、次の一つの事実に基づいています。天の御父と救い主は皆さんへの完全な愛の気持ちから、みもとで家族とともに永遠に住まうにふさわしくなりたいと望んでおられます。イエス・キリストの贖いを通して完全に清められた人だけがみもとへ行くことができるのです。

わたしの母は10年近く癌と闘いました。治療と手術を受け、最後に寝たきりになることは母にとって試練でした。

最後の息を引き取る母を看取りながら父が言った言葉を覚えています。「これで天の家へ帰って休めるね。」

母の葬儀で話をしてくれた人の中に、スペンサー・W・キンボール大管長がいました。このような追悼の言葉を述べてくれたことを覚えています。「ミルドレッドがそれほど長い間ひどく苦しんだのは、試練を必要とするような何か悪いことをしたからだと考えた方がおられるかもしれませんが、そうではありません。神は彼女にもう少し磨きをかけたいと思われたのです。」そのときにわたしはこう思ったのを覚えています。「もしあれほどすばらしい女性にそれほどの磨きが必要だったと

したら、わたしはどうなるのだろう。」

もしわたしたちがイエス・キリストを信じる信仰を持っているなら、人生で最も楽なときも苦しいときも、いずれも祝福となるでしょう。どのような状況でも、御霊の導きにより正義を選ぶことができます。わたしたちにはイエス・キリストの福音があり、自らの選により、福音を人生の指針とすることができます。また預言者たちは、救いの計画においてわたしたちがいるべき場所を示しており、完全な希望と平安を抱いて生活することができます。主に仕えるときに、愛されていないという思いや孤独感を抱く必要は決してありません。そうではないからです。わたしたちは神の愛を感じることができます。救い主は、わたしたちの左右に天使がいて支えてくれると約束しておられます。¹⁰そして主は常に約束を守ってくださいます。

父なる神は生きておられること、最愛の御子はわたしたちの贖い主であられることを証します。この大会で教えられた真理は聖霊により確認され、皆さんが聖霊を求めて耳を傾け、主に承認された僕たちのメッセージを後で研究するとき、再び確認されることでしょう。トーマス・S・モンソン大管長は今日、全世界に向けて語る主の預言者です。主は皆さんを見守ってくださいます。御子、イエス・キリストは生きておられ、わたしたちの贖い主です。彼の愛は絶えることはありません。イエス・キリストの御名により証します、アーメン。■

注

1. スペンサー・W・キンボール「この山地をわたしにください」『聖徒の道』1980年3月号、112 参照
2. 教義と聖約 122:7-9
3. 教義と聖約 19:15-19
4. エレミヤ 8:22
5. ヨシヤ 1:5
6. トーマス・S・モンソン「神に頼って生きる」『聖徒の道』1998年7月号、59-62 参照
7. エテル 12:6-9
8. エテル 12:18
9. 「主は生けりと知る」『賛美歌』75 番
10. 教義と聖約 84:88 参照



大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長による提示

教会役員の支持

わたしたちは預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第一顧問としてヘンリー・ベニオン・アイリングを、大管長会第二顧問としてディーター・フリードリッヒ・ワークトドルフを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

十二使徒定員会会長としてボイド・ケネス・バックナーを、また同定員会会員として、ボイド・K・バックナー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・

ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アンダーセンを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

大管長会顧問と十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

わたしたちはスティーブン・E・スノー長老を七十人会長会の会員から解任しました。

わたしたちとともに感謝を示してくださる方は、その意を表してください。

また、リチャード・J・メインズ長老を七十人会長会の会員として支持するよう

提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

わたしたちは、七十人第一定員会のジェラルド・ジーン・コセー長老とゲーリー・E・スティーブソン長老を感謝の挙手をもって解任するよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

これまで長年にわたって忠実で実り豊かな奉仕をしてこられた、管理ビショップリックのH・デビッド・パートンビショップ、リチャード・C・エッジリービショップ、キース・B・マクマリンビショップを解任し、名誉中央幹部として任命するよう提議いたします。

わたしたちとともに感謝を表明してくださる方は、その意を表してください。

わたしたちは次の方々を、2012年5月1日をもって地域七十人から解任するよう提議します。

リチャード・K・アハジ、クリマト・C・A・アルメイダ、フェルナンド・J・D・アルージョ、マービン・T・プリンカーホフ、マリオ・L・カーロス、ラファエル・E・カストロ、デビッド・L・クック、セザール・A・ダビラ、モーシア・S・デルガド、ルイス・G・ホワーテ、フアン・A・エチェガライ、ステーブン・L・フルッキガー、J・ロジャー・フルーマン、ロバート・C・ゲイ、ミゲル・イダルゴ、ギャリス・C・ヒル、デビッド・J・ホーア、デビッド・H・イングラム、石井哲志、カプンバ・T・コーラ、グレンドン・ライオンズ、R・ブルース・メレル、エンリケ・J・モントーヤ、ダニエル・A・モレノ、アデシナ・J・オルカニ、ガマリエル・オソルノ、パトリック・H・プライス、マルコス・A・プリエト、パウロ・R・プエルタ、カルロス・F・リバス、A・リカルド・サンタナ、ファビアン・L・シナンパン、ナタ・C・トビアス、スタンリー・ワン、ベリー・M・ウェップ、リチャード・W・ウィーラー、スコット・D・ホワイティング。

彼らのすばらしい奉仕に、ともに感謝





を示してくださる方は手を挙げてその意を表してください。

わたしたちは、中央扶助協会会長会のジュリー・B・ベック姉妹、シルビア・H・オールレッド姉妹、バーバラ・トンプソン姉妹を心からの感謝をもって解任するよう提議いたします。

それに伴って扶助協会中央管理会の会員の姉妹たちを解任いたします。

これらの姉妹たちの特筆すべき奉仕と献身に感謝してくださる方は、その意を表してください。

わたしたちは、新たに七十人第一定員会の会員として、クレグ・A・カードン、スタンレー・G・エリス、ラリー・エコー・ホーク、ロバート・C・ゲイ、スコット・D・ホワイティングを支持するよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方は、同様にその意を表してください。

わたしたちは末日聖徒イエス・キリスト教会の管理ビショップとして、ゲーリー・E・スティーブソンを、第一顧問としてジェラルド・ジーン・コセーを、第二顧問としてディーン・マイロン・デービスを支

持するよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方は、同様にその意を表してください。

わたしたちは次の方々を新しい地域七十人として支持するよう提議します。

ペドロ・U・アドゥル、デトレフ・H・アドラー、アンヘル・H・アラルコン、アレイ・K・アウナ・ジュニア、W・マーク・バセット、ロバート・M・コール、ヘルナンド・カマルゴ、ジーン・R・チデスター、ホアキン・E・コスタ、ラルフ・L・デュースナップ、アンヘル・A・ホワーテ、エドワード・デュベ、モロニ・ガオナ、テイラー・G・ゴドイ、フランシスコ・D・N・グランハ、ユーリ・A・グーシン、リチャード・K・ハンセン、トッド・B・ハンセン、クリフォード・T・ハーバートソン、アニエフィオク・ウド・イニオン、ルイス・M・レアル、アレハンドロ・ロベス、L・ジーン・クラウド・マバヤ、アルビン・F・メレディス・3世、アドネイ・S・オバンド、ジャレド・R・オカンポ、アデインカ・A・オジェディラン、アンドリュー・M・オリョーダン、ヘスス・A・オルティス、フレッド・A・パーカー、シュー・ホン・ボン、アブラハム・E・ケロ、ロベルト・クレア・リエン、ホーヘル

イス・ロメウ、ホーヘ・サルディバル、ゴードン・H・スミス、アリン・スパンナウス、モロニ・B・トルガン、スティーブ・L・トロント、ダニエル・イレンヤタイワ。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

わたしたちは、中央扶助協会会長として、リンダ・ケアー・バートンを、第一顧問としてキャロル・マンツェル・スティーブズを、第二顧問としてリンダ・シェフィールド・リーブズを支持するよう提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

そのほかの中央幹部、地域七十人、中央補助組織協会会長会を現在のまま支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

モンソン大管長、わたしが見たかぎり、カンファレンスセンターにおいては全会一致で支持されました。

兄弟姉妹の皆さん、皆さんの賛意の表明と信仰、献身と祈りに感謝します。

新しい中央幹部と中央扶助協会会長会の方々、壇上のそれぞれの席にお着きください。■

2011年度 教会監査部報告

教会監査部実務運営ディレクター
ロバート・W・キャントウェル提出

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会に対して提示

愛する大管長会の皆さん。教義と聖約第120章の啓示に定められているように、教会基金の支出の承認は、じゅうぎん什分の一配分評議会が行います。同評議会は、大管長会、十二使徒

定員会、および管理ビショップリックで構成されています。

同評議会は、教会の各部門と運営組織の予算、ならびに教会の各ユニットに関連した配分の予算を承認します。評議会

の承認を得た後、教会の各部門は承認された予算のとおり、教会の方針と手続きに従って基金を使います。

教会監査部は、基金の収支と資産の保全が適切に管理されているかを監査するうえで必要なあらゆる記録やシステムから情報を入手する権利があります。教会監査部は、教会のほかのあらゆる部門や運営組織から独立しており、監査を実施する人々は公認会計士、公認内部監査人、公認情報システム監査人、そのほかの資格ある専門家によって構成されています。

監査の結果、教会監査部では、2011年度において、教会のすべての資材、献金や寄付、支出、および教会資産は、適切な会計と承認された予算、および教会の方針と手続きに従って記録し、管理されているという見解に達しました。

以上、謹んでご報告いたします。

教会監査部
ロバート・W・キャントウェル
実務運営ディレクター ■



2011年度統計報告

大管長会秘書

ブルック・P・ヘイルズ提出

教 会員に情報を提供するために、大管長会は2011年12月31日における教会の発展に関する統計報告を次のように発表しました。

教会のユニット数

ステーク	2,946
伝道部	340
地方部	608
ワードおよび支部	28,784

教会員数

会員総数	14,441,346
2011年における新たな記録上の子供	119,917
2011年にバプテスマを受けた改宗者	281,312

宣教師数

専任宣教師	55,410
教会奉仕宣教師	22,299

神殿数

2011年に奉献された神殿数（エルサルバドル・サンサルバドル神殿およびグアテマラ・ケツアルテナンゴ神殿）	2
2011年に再奉献された神殿数（ジョージア州アトランタ神殿）	1
儀式が執行されている神殿数	136

昨年4月の総大会以降に他界した、以前の中央役員およびその他の著名な教会員

元七十人定員会会員、マリオン・D・ハンクス長老、ジャック・H・ゴーズリンド・ジュニア長老、モンティ・J・ブラフ長老、

ロナルド・E・ポールマン長老、キース・W・ウィルコックス長老、ハロルド・G・ヒラム長老；元中央扶助協会会長会顧問、ジョイ・F・エバンズ姉妹、チエコ・N・岡崎姉妹；元七十人、フィリップ・T・ソントグ長老の夫人、ノーマ・ソントグ姉妹；

元七十人、ロイド・P・ジョージ長老の夫人、レオラ・ジョージ姉妹；元七十人、リノ・アルバレス長老の夫人、アルジェリア・ビリヤヌエバ・デ・アルバレス姉妹；元タバナクル合唱団団長、ウェンデル・M・スムート・ジュニア兄弟。■





十二使徒定員会
ジェフリー・R・ホランド長老

ぶどう園の労働者たち

まさに今この瞬間に告げる聖なる御霊の促しにどうぞ耳を傾けて、主イエス・キリストの贖いの賜物を受け入れてください。

先ほど大管長会が召しと解任を
発表しましたが、わたしはこれ
まで忠実に奉仕をしてくださっ
た方々のことをいつまでも忘れることなく
愛していると、すべての皆さんに代わって
申し上げます。同時に早速、新たな職務
に召された人たちを愛し、歓迎します。わた
したちの心からの感謝を皆さんすべて
にお伝えます。

今日わたしは、救い主の一つのたとえ
について話したいと思います。それは、
「労働者を雇うために、夜が明けると同時
に、出かけて」行ったある家の主人のたと
えです。最初に労働者を朝6時に雇った
主人は、収穫を急ぐ必要が増すにつれて、
朝9時と正午と午後3時に戻って来て、
さらに労働者を雇いました。そして、聖文
によれば、最後に「五時ごろ」やって来
て、最後に労働者を雇っています。それか
らちょうど1時間後、労働者がすべて集
められ、その日の賃金を受け取ることに
なります。驚いたことに、労働時間が異なっ
ていたにもかかわらず、皆、同額の賃金が
支払われたのです。最初に雇われた者た
ちがすぐに怒って言いました。「この最
後の者たちは一時間しか働かなかったの
に、あなたは一日じゅう、労苦と暑さを辛
抱したわたしたちと同じ扱いをなさいまし
た。」¹ このたとえを読んで、恐らく皆さん
も、この労働者たちと同様に、ここでは不
公平だと感じるでしょう。その問題につ

いて短く話したいと思います。

第1に、ここで不公平に扱われた人が
一人もいなかった点に注目することが大
切です。最初の労働者たちは、1日分の
賃金に同意のうえで、それを受け取りまし
た。恐らく彼らはその仕事を得て非常に
感謝したことでしょう。救い主の時代の
平均的な個人や家族は、その日の稼ぎで
生活することで精いっぱいだったはずで
す。もし畑や漁や商売などの仕事がなけ
れば、食べることができなかつたでしょ
う。仕事の数よりも働けそうな人の方が
多かったのです。その朝最初に選ばれた彼
らは、就業希望者の中でも最も幸運な
人々でした。

実際、だれかに同情するとしたら、扶養
家族を抱えながらも選ばれなかった人々
にまず同情するべきでしょう。幸運はい
つも一部の人にだけ来るものだと、彼らは
思ったかもしれません。主人がやって来
ても、その度に、ほかの人が選ばれてい
くのを一日中眺めていたのです。

しかしその日の終わりに、何と主人が
5度目に現れ、11時間目にしてさらに労
働者を募ったのです。今まで雇われず最
も落胆していた労働者は、公平に扱われ
るとだけ聞いて、賃金も知らずに仕事を請
け負います。何かもらえれば、何ももら
えないよりはよいと分かっていたからです。
実際、その日はそれまで何ももらえませ
んでした。賃金が払われる段になって、彼

らはほかの労働者と同じ額を受け取り啞
然とします。どれほど驚き、感謝したで
しょう。長い労働者生活の中で、そのよ
うな思いやりに触れたことは一度もなかつ
たからです。

物語の背景をこのように理解したう
で、最初に雇われた人の不満に目を向け
る必要があるとわたしは思います。たと
えに登場する主人の言葉を(わたしの言
葉も少し交えて)聞いてください。「友
よ、わたしはあなたに不正をしてはいな
い。あなたは今日の賃金は十分だと同意
していた。仕事に就けたことに喜んでい
たし、わたしもあなたの働きを喜んでい
る。あなたは約束どおりの支払いを受け
た。賃金を受け取って、その祝福を味わ
いなさい。ほかの人については、わたし
には、自分のお金でしたいことをする自
由があるのだ。」そして、当時も今も心
を貫く、万人が聞くべき鋭い質問が続き
ます。「それともわたしが気前よくしてい
るので、ねたましく思うのか。」

兄弟姉妹の皆さん、この人生では、時々
だれかほかの人が思わぬ祝福や特別な称
賛を受けることがあります。ほかの人に
幸運が訪れても、わたしたちが決して傷つ
いたり、ねたんだりすることがないように
祈ります。人に付け加えられても、自分
のものが取り去られるものではありません。
わたしたちは、豊かさや才能、美しさ、祝
福の多さを競っているわけではありませ
ん。わたしたちがほんとうの意味で競っ
ているのは、罪との戦いであり、ねたみは
最も身近な罪の一つです。

さらに、ねたみという過ちは尾を引くも
のなのです。不幸な出来事が自分に降り
かかると心が少し痛むのは当然です。し
かし、知人のだれかに幸運が訪れると心
が痛むのがねたまみです。何と明るい未来
でしょうか。周りの人に幸せが訪れる度
に、苦虫をかみつぶすのです！ 終わりが
来て、神が公正で憐れみ深く、御自分
に従った人に、聖文にあるとおり「自分の
全財産」²を与える御方なのだと分かった



ときには、大いに悔しがることになるでしょう。ですから、主のぶどう園から学ぶ第1の教訓は、人をねたんでも、すねても、けなしたりしても、自分を高めることはなく、人を落とすとしても、自分のイメージは上がらないということです。ですから、人に優しく接し、神の優しさに感謝しましょう。それが幸せに生きる道です。

このたとえから学ぶべき第2のポイントは、途中で起きた問題で頭がいっぱいになるあまり、一日の終わりに受け取るは

ずの賃金を放棄するという、悲しむべき過ちを犯す可能性があるということです。この聖句には、主人の顔に硬貨を投げつけて、一文も受け取らずに怒って帰った人について書かれていませんが、そのような人もいたかもしれません。

愛する兄弟姉妹の皆さん、この物語で9時と正午と3時に起きた出来事は、その日の終わりに全員が受け取る惜しみない報酬に比べたら、何でもありません。信仰の公式は、続けること、働くこと、や

り遂げること、そして、途中で悩みが生じたら、それが現実のことであろうと、想像上のことであろうと、最後に頂く豊かな報いのもとに追いやることです。自分自身や、隣人、あるいはまことの生ける教会に関する、過去の出来事や不満にいつまでもこだわらないでください。あなたや隣人の人生、そしてイエス・キリストの福音のすばらしさは、最初から常にすべての人に気づかれることはないかもしれませんが、終わりの日には必ず明らかにされます。ですから午前9時に起きた出来事にとらわれないでください。皆さんのその日の仕事の取り決めがどうであれ、恵み深い神は、午後6時に皆さんに報いを与えようとしておられるのです。

子供のころピアノの発表会で大失敗をしてしまった記憶や、今後20年は蒸し返し続けてやると心に決めている20年前の伴侶の言動、あるいは死すべき人間は神が期待しておられるような者になろうと常にもがいていることをただ単に証明したにすぎない教会歴史のある出来事、わたしたちはそうしたことにこだわり続けているために、とても大切な心と霊の力を使い果たしています。不満の種をまいたのが自分ではなくても、その芽を摘むことができます。やがてぶどう園の主とお会いするときに、皆さんはどれほど報われることでしょうか。地上で過ごす日が終わると、すべてが清算されるのです。

これは第3のポイントにも関連しています。このたとえは、羊や山羊のたとえと同様、ほんとうは労働者や賃金について述べているのではありません。神の慈しみ、神の忍耐と救し、主イエス・キリストの贖いについての物語です。寛容と哀れみの物語であり、恵みについての物語です。何年も前に聞いたことですが、神御自身が最も喜ばれるのは、憐れみを受けることを期待していない人やその資格がないと感じている人に、憐れみを施されるときであり、このたとえが言わんとしていることは、まさにそれを表しているのです。



今日この話を聞いている多くの人の中で、だれがこのたとえにある赦しのメッセージを必要としているか分かりませんが、自分でもう手遅れだと思ひ込み、機会を逃したと考え、多くの過ちを犯してしまったと感じていても、あるいは自分には才能がないと思ひ、家庭や家族からも、神からも、遠く離れてしまったと感じていても、わたしは証します、あなたは神の愛が及ばないほど遠くに在るわけでは**ありません**。キリストの贖いの無限の光が届かない深みなどあり得ないのです。

あなたがまだ教会員でなくとも、教会から離れていった人でも、あなたが過去にしたことの中で、元に戻すことのできない事柄はありません。克服できない問題はありません。永遠という時が流れてもなお実現することのない夢など一つもありません。たとえ自分は11時間忘れられている最後の労働者だと感じたとしても、ぶどう園の主は今なお立って招いておられます。「はばかりことなく恵みの御座に近づき」³、イスラエルの聖者の足もとにひれ伏しなさい。来て、主の食卓のごちそうを「金を出さずに、ただで」⁴ 味わいなさい。

夫や父親、神権者、そして未来の神権者の皆さんに、特に強くお願いします。リーハイが言ったように、「目を覚ましなさい。そして、地から立ち上がり、……男らしく」ありなさい。⁵ 常にはないにせよ、多くの場合「来たりて隊に入れ」⁶ という呼びかけに応じないのは男性です。女性や子供たちはもっと喜んで応じているようです。兄弟の皆さん、行動してください。自分自身のために、また皆さんを愛し、呼びかけに応じるように祈っている人のために、皆さんの将来のために測りがたい代価を払ってくださった主イエス・キリストのために、行動してください。

愛する兄弟姉妹の皆さん。恵まれて早くに福音を見つけ、長年にわたって祝福を受けてきた皆さん、その後少しづつ福音のもとにやって来た皆さん、そして教会員であるなしを問わずまだしりごみしている皆さん、わたしは一人も漏らすことなくすべての人に、あらゆるものを更新する神の愛の力について、そして神の恵みの奇跡について、心から証します。**神の関心は、皆さんが最後にどのような信仰にたどり着くかであって、いつたどり着いたかではないのです。**

ですから、聖約を交わした人は守ってください。まだの人は聖約を交わしてください。交わした聖約を破っている人は、悔い改めて、正してください。ぶどう園の主人がまだ時間があると言われるかぎり、遅すぎることは**決してないのです**。まさに今この瞬間に告げる聖なる御霊の促しにどうぞ耳を傾けて、主イエス・キリストの贖いの賜物を受け入れ、喜んで主とともに働いてください。引き延ばさないでください。時は迫っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. マタイ 20:1-15 参照
2. ルカ 12:44
3. ヘブル 4:16
4. イザヤ 55:1
5. 2 ニューファイ 1:14, 21
6. 「戦い止むまで」【賛美歌】162 番



十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ長老

本心に立ち返る—— 聖餐, 神殿, 奉仕による犠牲

わたしたちはよく祈って聖約を守るとき、改心し、霊的に自立します。

救い主は弟子たちに、裕福な父親のもとを離れて遠い所へ行き、財産を使い果たした息子の話をされました。飢饉が起こったとき、その青年は豚を飼う卑しい仕事に就きました。ひどく空腹で家畜のえさを食べたいと思うほどでした。

家を離れ、自分の望んでいた状態に及びもつかない貧窮の中、青年は彼の人生に永遠にわたり大きく影響するような出来事を経験しました。救い主によれば、「彼は本心に立ちかえつた」のです。¹自分が何者かを思い起こし、逃してきたものに気づいた息子は、父の家で存分に得られる恩恵を願い求め始めたのでした。

生涯を通して、たとえ暗黒、困難、悲しみ、罪の中にあっても、わたしたちは思いやりのある天の御父のまことの息子娘であり、御父に愛されていること、また、御父しかお授けにできない神聖な祝福を熱望していることを聖霊が思い出させてくださることがあります。そのようなときにわたしたちは本心に立ち返り救い主の愛という光の中に戻る努力をする必要があります。

これらの祝福は、天の御父のすべての子供たちに権利として属するものです。

喜びと幸せにあふれる生活を含むこれらの祝福を望むことは、わたしたち一人一人に対する御父の計画の最も重要な部分を成しています。預言者アルマはこう教えました。「たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい。……その望みを育ててゆけ。」²

霊的な望みが大きくなるにつれて、霊的に自立していきます。では、救い主に従い、福音に添って生活したいという望みを周りの人、自分、家族が強めるにはどうすればよいでしょうか。悔い改めてふさわしくなり最後まで堪え忍びたいという望みを、どうすれば強められるでしょうか。青少年やヤングアダルトが改心し、「主なるキリストの贖罪により、[真の]聖徒とな[る]」³までこれらの望みを育てるために、どのような助けができるでしょうか。

わたしたちはよく祈って聖約を守るとき、改心し、霊的に自立します。聖約を守るとはすなわち、ふさわしく聖餐を受け、神殿推薦状を持つにふさわしくあり、人々に奉仕するために犠牲を払うのです。

ふさわしく聖餐を受けるために、バプテスマのとき交わした聖約を新たにしていることを思い起こします。聖餐を毎週霊

的に清める機会とするには、聖餐会に出席する前に備える必要があります。日常の仕事や娯楽を意識して離れ、この世的な思いや関心を捨てて、思いと心に聖霊を受けるゆとりを作るのです。

このようにして贖罪について深く考える備えをします。救い主の苦しみや死という事実についてただ思いを致すこと以上に、深く考えることで、救い主の犠牲を通してまさしく心からの変化を生活にもたらす希望、機会、力を得ることに気づきます。

聖餐の賛美歌を歌い、聖餐の祈りに参加して、主の肉と血の記念を受ける間、自分の罪や欠点について祈りの気持ちで赦しを求めます。前の週に交わり、そして守ってきた約束を思い起こし、次の週も救い主に従うために明確で個人的な決意をするのです。

親と指導者の皆さん、皆さんは青少年に、生活における贖罪の関連性について学び、話し合い、理解する特別な機会を設けることで、青少年が聖餐のたぐいまれな祝福を味わうのを助けることができます。自ら聖文を調べ、自分の経験から互いに教え合うよう彼らを導いてください。

父親、神権指導者、定員会会長会の皆さんには、アロン神権者が聖餐の神聖な務めを果たすため真剣に準備するよう助ける特別な責任があります。週の中間、福音の標準に添った生活をするがこの準備となります。ふさわしく敬虔に聖餐を準備し、祝福し、配るときに、彼らは文字どおり、最後の晩餐⁴における救い主の模範に従い、主のようになるのです。

聖餐は本心に立ち返り、心の「大きな変化」⁵を経験する、つまり自分が何者であり、いちばん望んでいるものは何かを思い出す機会となることを証します。戒めを守るという聖約を新たにするとき、天の御父のみもとへ戻るよう導いてくださる聖霊を伴侶とすることができます。このため、わたしたちが「パンと[水]を頂くためにしばしば集ま[り]」⁶、また霊の糧となるよう聖餐を受ける⁷よう命じられてい

るのは当然のことなのです。

聖餐に加えて、神殿推薦状を受けるにふさわしくなると、天の御父のみもとに戻りたいという望みが強まります。わたしたちは着実にまた確固として戒めを守ることでふさわしくなります。この従順さは子供のころに始まり、備えの時期の間アロン神権や若い女性での経験によって、より確かになります。そして願わくは、祭司あるいはローレルになったら目標を決め、神殿でエンダウメントと結び固めを受ける

ために具体的に備えるのです。

推薦状を持つ者の基準は何でしょうか。詩篇の作者はこう言っています。

「主の山に登るべき者はだれか。その聖所に立つべき者はだれか。

手が清く、心のいさぎよい者……こそ、その人である。」⁸

神殿推薦状を持つふさわしさは神殿の聖約を守る力をくれます。どうしたらその力を自らの身に受けられるでしょうか。わたしたちは天の御父、イエス・キリスト、

聖霊を得るよう、また贖罪が現実に行われたこと、預言者ジョセフ・スミスと回復が真実であることに証を得るよう努力します。指導者を支持し、思いやりをもって家族に接し、主のまことの教会の証人となり、教会の集会に出席し、聖約を尊び、親の務めを果たし、徳高い生活を送ります。要するに、忠実な末日聖徒でいることだと考えるかもしれません。そのとおりです。神殿推薦状を持つ基準は到達できないほど高いものではありません。福音を忠実





に守って生活し、預言者に従うだけのことで

です。そして、エンダウメントを受け、神殿推薦状を持つ者として、わたしたちはキリストのように生活するという規範を確立します。この規範には従順、戒めを守るために犠牲を払うこと、互いに愛し合うこと、思いと行いを清くすること、神の王国の建設のために献身することが挙げられます。救い主の贖罪と、これら忠実さの基本的な規範に従うことにより、「高い所から力を」⁹ 授かり、人生の問題に立ち向かうことができます。わたしたちは今この神聖な力がかつてなく必要としています。それは神殿の儀式を通してのみ受けられる力です。神殿の儀式を受けるために払う犠牲は、どんな努力をしても払う価値があることを証します。

福音を学びたい、従いたいという望みが強まると、わたしたちは自然と互いに仕えようとしています。救い主はペテロに言われました。「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」¹⁰ 今日こんにちの青少年が抱いている望み、すなわち人に仕え、祝福をもたらす、世に変化をもたらしたいという強い望みにわたしは感銘を受けています。彼らはまた、奉仕によって得る喜びを心から望んでいます。

けれども、今の行動が将来の奉仕の機会に対してどのように備えとなるか、あるいは妨げとなるのかを理解するのは青少

年にとって容易なことではありません。自立するのを助けることで、彼らが生涯の奉仕に備えられるようにする「ぜひと果たすべき義務」¹¹ がわたしたち全員にあります。これまで話してきた霊的な自立に加えて、物質的な自立もあります。これには高校卒業後の教育や職業訓練、働くことを覚えること、収入の範囲内で生活することが含まれます。今から負債を避け、貯金することにより、将来専任で教会奉仕の業に携わる準備をします。物心両面で自立する目的は、援助を必要とする人を引き上げられるように自分を高めることなのです。

若かろうと年を重ねていようと、わたしたちの今の行動が、将来どのような奉仕ができ、明日を楽しめるかを決めます。ある詩人はこう記しています。「舌やペンが紡ぎ出すあらゆる悲しい言葉の中で、最も悲しいのはこれだ。『こうだったかもしれない』」¹² 自分のしたことやしなかったことを後悔しながら生きることがありませんように。

愛する兄弟姉妹、わたしたちが放蕩息子と呼ぶ、救い主が語られた青年は、家に帰って来ました。父は息子を忘れていませんでした。息子を待っていました。そして「[息子が] まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思って走り寄り、……接吻した」¹³ のです。息子の帰還を祝って、父は最上の着物と指輪を用意

させ、肥えた子牛で祝宴を開きました。¹⁴ これはわたしたちが天の御父のみもとへ帰る道のりを忠実に堪え忍ぶならば、あらゆる祝福にあずかれることを思い出させてくれます。

わたしは御父と御子の愛を心に抱いて皆さんに強く求めます。わたしたち一人一人が自分の霊的な望みに従い、本心に立ち返ることができるよう。鏡に向かって自分にこう問いかけてください。「わたしはどれほど聖約に添って生活しているだろうか。」こう答えることができれば、正しい道を歩んでいます。「わたしは毎週ふさわしい状態で聖餐を受け、神殿推薦状を持つにふさわしく、神殿に参入し、人々に奉仕し祝福をもたらすために犠牲を払っています。」

神はわたしたちの罪を贖うため「そのひとり子を賜わったほどに」¹⁵ 一人一人を愛しておられることを特別に証します。神はわたしたちが遠く離れていても、わたしたちを知っていて、待っておられます。自分の望みに基づいて行動し本心に立ち返るとき、わたしたちは「主の愛の御腕みうでに永遠に抱かれ」¹⁶、天の家に迎え入れられます。救い主イエス・キリストの聖なる御名みにより証します。アーメン。■

注

1. ルカ 15:17
2. アルマ 32:27
3. モーサヤ 3:19
4. マタイ 26:17 - 28; ルカ 22:1 - 20 参照
5. アルマ 5:12. モーサヤ 5:2; アルマ 5:13 - 14 も参照
6. モロナイ 6:6
7. モロナイ 4:3; 教義と聖約 20:77 参照
8. 詩篇 24:3 - 4
9. 教義と聖約 95:8
10. ルカ 22:32
11. 教義と聖約 123:11
12. "Maud Muller," The Complete Poetical Works of Whittier (1894年) 48 より
13. ルカ 15:20
14. ルカ 15:22 - 24 参照
15. ヨハネ 3:16
16. 2 ニーフアイ 1:15



七十人
デビッド・S・バクスター長老

信仰, 不屈の精神, 充実感—— ひとり親の皆さんへ

皆さんは、正義と真理の中で子供を育てようと努力しています。過去を変えることはできないけれども、将来を作り出すことはできると知っているからです。

ひとり親の教会員の皆さん、大半はシングルマザーであり、様々な状況の中、独りで子育てと家事をこなしている勇敢な女性の皆さんにお話したいと思います。夫と死別または離別した人もいるでしょう。あるいは未婚のまま母親になるという苦難に遭遇し、今は福音の原則に従って生活し、より良い人生を送っておられる人もいるでしょう。徳や福音への忠実さを犠牲にしなければならないような結婚生活を避けるという選択をされている皆さんが祝福されますように。そのような結婚生活は、支払う代価があまりにも大きいのです。

時には「どうしてわたしが?」と自問することもありますが、人生の苦難を通してわたしたちは神に近づくように成長するのです。神は人の選択の自由を尊重しておられるので、わたしたちは苦難に遭遇し、苦悩を伴う大きな試練を経験することで人格が形成されます。ニール・A・マックスウェル長老が述べたように、わたしたちはすべての事実を知らないた

めに、物事の理由をすべて理解することはできません。¹

置かれた状況やその理由が何であれ、皆さんはすばらしい人々です。毎日生活の苦難に直面し、本来なら夫婦二人でやるべきことをほとんど独りでこなしています。母親だけでなく父親の役も果たさなくてはなりません。家事を切り盛りし、家族を見守り、時には生計を立てるのに苦勞し、さらには教会で重要な奉仕を行う才覚さえ見いだす驚異的な力を発揮しています。子供を養育しながら、子供と一緒に、そして子供のために泣き、祈ります。子供のために最上のものを望みますが、自分が最善の努力をしても決して十分ではないことで毎晩、悩むのです。

あまり個人的な話はしたくありませんが、わたしもそのような母子家庭で育ちました。子供のときから10代の大部分、母は貧しい状況の中独りで子育てをされました。お金のやり繰りを慎重にしました。心の中で寂しさと向き合いながら、時には支えとなる伴侶がいなかったことに打ちひ

しがれることもありました。でも、そうした苦難にもかかわらず、母は毅然としていました。生粋のスコットランド人特有の不屈の精神です。

ありがたいことに、母の後半生は以前より祝福されていました。妻を亡くした新会員と結婚したのです。二人はイギリスのロンドン神殿で結び固めを受け、後に儀式執行者として短期間ですが奉仕しました。ほぼ四半世紀の間一緒に暮らし、この世を去るまで幸せで満たされた、充実した人生を過ごしました。

世界中の教会には、同じような境遇にありながら、毎年同じように、苦境から立ち直る力を示している善良な女性たちがたくさんいます。

こうした状況は、人生の旅路に就いたときに抱いた希望や計画、祈りや期待とは必ずしも同じではありません。山や谷、紆余曲折のある人生はたいてい、試練の場である現世の試しの結果です。

それでも皆さんは、正義と真理の中で子供を育てようと努力しています。過去を変えることはできないけれども、将来を作り出すことはできると知っているからです。そうした努力の過程で、たとえすぐに目に見える形を取らないとしても、過去を埋め合わせる祝福が得られるのです。

神の助けがあるので、将来に不安を抱く必要はありません。皆さんの子供は成長して、皆さんを幸いな女性と呼ぶでしょう。そして、子供たちが成し遂げた多くの業績が皆、母親に対する賛辞となることでしょう。

皆さんは教会員としてほかの会員よりもどこか劣っているとか、主の祝福を受ける資格が何か足りないとか、決して思わないでください。神の王国に住む人に上下の差はありません。

皆さんが集会に出席し、外見上は申し分なく幸せに見える家族の姿を目にした時、家族の理想について語る話を聞いたとき、家族を重視し、天の御父が子供たちの幸福のために作られた計画の中



で家族が中心的な役割を果たすことを教える教会の一員であることをうれしく思うように望んでいます。苦難に満ち、倫理観が衰退するこの世の中で、わたしたちが持っている教義、権能、儀式、聖約は、世の人々に最良の希望を与え、皆さんの子供たちと子供たちが作る家族に将来幸福をもたらします。

2006年9月の中央扶助協会集会でゴードン・B・ヒンクレー大管長は、当時7歳から16歳までの7人の子供を持つ離婚した母親の経験について話しました。向かいの隣人に届け物をした母親はこう言いました。

「歩いて帰って来るとき、明かりのともった我が家が目に入りました。すると数分前に家を出たとき、子供たちが口々に言っていた言葉が耳にこだましました。『ママ、晩御飯は?』『図書館に連れて行って。』『今日中に画用紙が要るんだけど。』疲れ切って自宅を眺めると、どの部屋にも電気がついていました。わたしが帰って自分たちの必要を満たしてくれるのを待っている一人一人の子供のことを考えると、の

しかかる肩の荷に耐えられそうにありませんでした。

わたしは涙でかすんだ目で空を見上げて、こう言ったのを覚えています。『愛するお父様、今夜はできません。とても疲れました。無理です。帰って、独りで全員の世話をするなんてできません。今晚だけでけっこうですから、少しみそばで休ませ

アルゼンチン、コルドバ



てください。……』

すると、実際に返答する声を聞いたわけではありませんが、心にこう聞こえました。『いいえ、娘よ。今来てはいけません。……その代わりに、わたしがあなたのところへ行きましょう。』²

姉妹の皆さん、家族を育て、善と平安、機会に満ちた愛ある家庭を作るために皆さんが行っているすべてのことに感謝しています。

皆さんは孤独感を抱くことがよくあると思いますが、実際にはまったくの孤独では決してないのです。忍耐と信仰をもって前進するとき、主と一緒に歩いてくださったり、必要な祝福が天から授けられたりします。

失望してうつむくのではなく、希望をもって主を見上げるとき、物の見方や人生観が変わります。

皆さんの多くは、人を変える大きな真理をすでに見いだしてきました。ほかの人の重荷を軽くするために生きる時、自分自身の重荷が軽くなるという真理です。状況は変わらなくても、態度が変わった

のです。以前よりも広い心で受け入れ、よく理解し、自分が持っていないものを気にかけるよりはむしろ、持っているものに深く感謝する気持ちになると、自分自身の試練に直面することができます。

絶望的な人生を送っているように見える人を慰めようと努めるときに、自分自身が慰められ、わたしたちの杯はほんとうにあふれる(詩篇23:5参照)ことを皆さんは見いだしてきました。

義にかなった生活を通して、皆さんと皆さんの子供たちはいつの日か、完全な永遠の家族となる祝福にあずかるでしょう。

会員と指導者の皆さん、ひとり親の家族に対して、裁いたり批判したりせずに、助けるためにできることがもっとあるのではないのでしょうか。母子家庭の子供たちの良き相談相手になり、特に若い男性に良き男性の行動や生き方の手本を示してはどうでしょうか。父親のいない家庭にふさわしい模範となっているのでしょうか。

もちろん、ひとり親が父親である場合もあります。兄弟の皆さん、わたしたちは皆さんのためにも祈っており、皆さんに敬意を表しています。このメッセージは皆さんにも向けたものです。

ひとり親の皆さん、人が遭遇する最も困難な境遇の中で最善を尽くすときに、天が祝福してくださると証します。ほんとうに皆さんは独りではありません。イエス・キリストの贖いと愛の力が皆さんの生活を祝福し、永遠に変わらぬ約束の希望で心を満たしてくれるでしょう。勇気と信仰と希望を持ってください。不屈の精神をもって現在の生活に耐え、確信をもって未来に目を向けてください。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ニール・A・マックスウェル, *Notwithstanding My Weakness* (1981年), 68
2. ゴードン・B・ヒンクレイ「主の愛の御腕」『リアホナ』2006年11月号, 117参照



七十人
ユリシス・ソアレス長老

主の領域にとどまっていなさい

「この行動は自分を主の領域に置くものだろうか、それとも悪魔の領域に置くものだろうか」と毎日問わなければなりません。

トーマス・S・モンソン大管長はこう話しました。「選択を迫られるときに判断の尺度となる簡単な公式を紹介します。それは覚えやすいものです。『悪いことを行えば正しい人にはならないし、正しいことを行えば悪い人にはならない。』」(「完成への道」『リアホナ』2002年7月号, 112; *Ensign* 2002年5月号, 100) モンソン大管長の公式は簡単明瞭であり、その原理はリーハイに与えられたリアホナと同じです。信仰を働かせ、主の戒めに熱心に従うなら、特に日々の選択の場面において、進むべき正しい方向を容易に見つけることができます。

使徒パウロは、霊にまかくことの大切さ、そして肉にまかないように注意することの大切さについて勧告しています。

「まちがってはいけない、神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを、刈り取ることになる。

すなわち、自分の肉にまかく者は、肉から滅びを刈り取り、霊にまかく者は、霊から永遠のいのちを刈り取るであろう。

わたしたちは、善を行うことに、うみ疲れてはならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる。」(ガラテヤ6:7-9)

霊にまかくとは、考え、言葉、行動のすべ

てが、天の両親である神の階級にまでへとわたしたちを高めるものでなければならぬという意味です。一方、聖文は、肉を、身体の本質、つまり生まれながらの人が持つ肉の性質と表現しています。聖霊からの靈感を探し求めるように導くのではなく、激情、欲望、食欲、また、肉体の衝動に左右されるようにするのがこの肉の性質です。気をつけていなければ、これらの影響力はこの世の悪の圧力と一緒にあって、わたしたちを粗野で向こう見ずな行動に駆り立て、それがそのまま人格の一部になることもあります。このような悪い影響を避けるには、常に霊にまかくよう預言者ジョセフ・スミスに言われた主の指示に従わなくてはなりません。「それゆえ、善を行うことに疲れ果ててはならない。あなたがたは一つの大きいなる業の基を据えつつあるからである。そして、小さなことから大きいことが生じるのである。」(教義と聖約64:33)

わたしたちの霊を強化するためには、「すべての無慈悲、憤り、怒り、騒ぎ、そして、また、いっさいの悪意を捨て去る」こと(エペソ4:31)、そして「試しの生涯にあって賢くあり……あらゆる汚れを取り除く」こと(モルモン9:28)が必要です。

聖文を研究すると、主の約束はわたしたちの従順を条件としており、義にかなった生活をするよう勧めていることが分かります。これら主の約束があることで、わたしたちの霊は養われ、この世で日々遭遇する困難にもあきらめないよう力づけられて希望を持つことができます。世の中では、倫理や道徳にかなった価値が失われようとしています。それが人々をますます肉にまく気持ちにさせています。では、自分の選択が肉ではなく霊にまく助けとなっていると、どのように知るのでしょうか。

ジョージ・アルバート・スミス大管長は、彼の祖父からの勧告を繰り返し、かつてこのように言いました。「主の領域と悪魔の領域の間には、はっきりとした境界線がある。もし主の側にとどまれば、あなたたちは主の影響を受け、悪いことをしようなどとは思わない。しかし境界線を越えて少しでも悪魔の側に行けば、あなたたちはもう誘惑者の力に捕らえられる。誘惑者の力が強ければもう正しく考えることも推論することもできなくなる。あなたたちはもはや主の御霊を失っているからである。」（『歴代大管長の教え——ジョージ・アルバート・スミス』191）

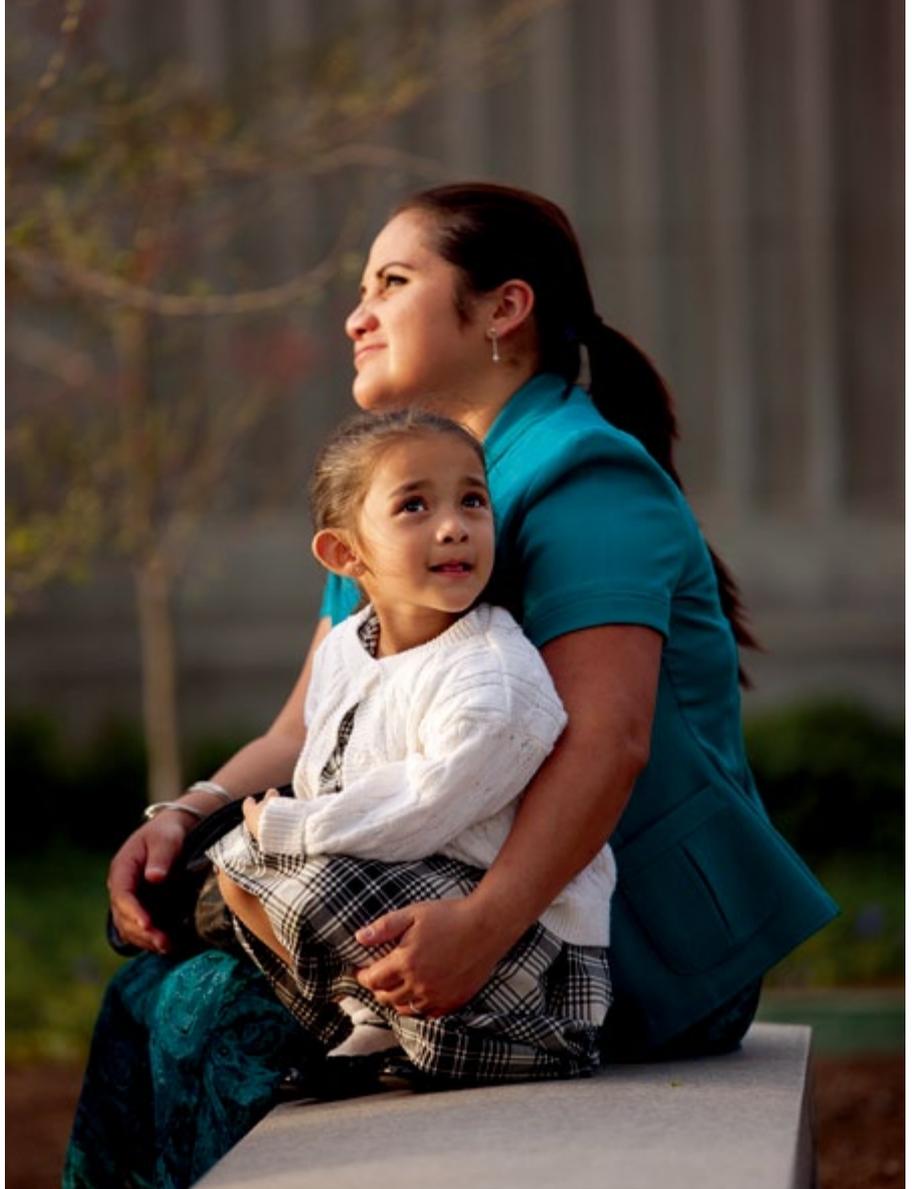
ですから、「この行動は自分を主の領域に置くものだろうか、それとも悪魔の領域に置くものだろうか」と毎日問わなければなりません。

預言者モルモンは自分の民に、善と悪を見分ける能力を身に付けることの大切さについて注意を呼び起こしています。

「したがって、善いものはすべて神から出て、悪いものは悪魔から出る。悪魔は神に対する敵であって、絶えず神と戦い、また人を誘い、そそのかして罪を犯させ、いつも悪いことを行わせようとする。

しかし見よ、神から出るものはいつも善を行うように誘い、促す。」（モロナイ7：12 - 13）

キリストの光と、さらに聖霊を伴侶とすることで、わたしたちは必ず、自らの生き



方が自分を主の領域に置くものであるかどうかを判断できるでしょう。心の持ち方が善ければ、神の靈感を受けています。善いものはすべて神から出るからです。しかし、心の持ち方が悪ければ、悪魔の影響を受けています。悪魔は人に悪を行うよう説き勧めるからです。

アフリカの人々の主の領域にとどまる決心と不断の努力にわたしは感銘を受けました。キリストのみもとに来るようという招きを受け入れた人々は、人生の逆境にあっても世の光となっています。数週間前に南アフリカのあるワードを訪問した際、二人の若い祭司とそのビショップ、そして彼らのステーキ会長に同伴して、教会に来ていない祭司定員会の若い男性を何人か訪ねる機会がありました。わたしは、訪問した若い男性に教会に戻るよう誘う二人の祭司が示した勇気と謙虚な態度に、強い感銘を受けました。そして、

教会に来ない若い男性と話す二人の祭司の顔が救い主の光を映し出していると同時に、周りにいる全員を光で満たしていることに気づいたのです。二人は「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強めなさい」という義務を果たしていたのです（教義と聖約81：5）。この二人の祭司の態度は、主の領域に二人を置くものであり、ほかの人にも同じことをするよう招くことで、主の御手に使われる者として奉仕したのです。

主は教義と聖約20章37節で、霊にまくことの意味を教え、わたしたちを真に主の領域に置くものは次のようなものと教えておられます。すなわち、神の御前にへりくだること、打ち砕かれた心と悔いる霊をもって進み出ること、自分のすべての罪を心から悔い改めたことを教会に証明すること、イエス・キリストの御名を受けること、最後までイエス・キリストに仕

える決意をすること、キリストの霊を受け、主の教会にバプテスマによって受け入れられたことをその行いによって明らかにすることです。これらの聖約を進んで果たそうとすることで、わたしたちは昇栄した者として神のみもとで生活するよう自らを備えています。これらの聖約を覚えていれば、家族に対して、また社会における人間関係において、そして特に救い主との関係において、どのように振る舞うべきかが分かるはずで

す。イエス・キリストは完全な行動規範を定められました。その規範によって、わたしたちは、これらの神聖な聖約を果たすために必要な心の持ち方を身に付けていくことができます。救い主は、神聖な使命から注意をそらす恐れのあるあらゆるものを御自分の生活から排除されました。この地上での務めの中で、敵や弟子たちから試されたときには特にそのようにされました。主は決して罪を犯さず、打ち砕かれた心と悔いる霊を持ち、天の御父とすべての人に対する愛に満ちておられました。主は天の御父の御前にへりくだり、自らの思いを捨て、最後まで御父から求められたことをすべて果たされたのです。全人類の罪の重荷を肩に負い毛穴から血を流すという、肉体的、霊的な極度の苦しみのときにさえ、主は御父に次のように言われました。「しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください。」(マルコ 14:36)

兄弟姉妹の皆さん、聖約について考えるとき、わたしたちが「敵対する者の……火の矢」(1ニーファイ 15:24)に対して常に強くあり、救い主の模範に従って霊にまくことで、主の領域にとどまることができるように祈っています。「悪いことを行えば正しい人にはなれないし、正しいことを行えば悪い人にはならない」というモンソン大管長の公式を覚えておきましょう。イエス・キリストの御名により、アーメン。



十二使徒定員会
クエンティン・L・クック長老

信仰の調べに 波長を合わせる

神は御自分のすべての子供たちを愛し、一人も欠けることなく御自身のもとに戻るよう望んでおられます。一人一人が信仰の神聖な調べに波長を合わせるよう望んでおられるのです。

教会の中央幹部として世界中の会員と会うとき、末日聖徒がどのようにして善を推し進める力となっているかをじかに目にします。あらゆる人々の生活を祝福するために皆さんが行っているすべての働きに、わたしたちは賛辞を贈ります。

広報の割り当てを受けている幹部たちが痛感していることがあります。それは、合衆国および世界中の多くの世論の担い手やジャーナリストによって、教会と教会員について公の場で論じられる機会が増えていることです。様々な要因が独特な形で重なり合い、教会の認知度が大幅に上がりました。¹

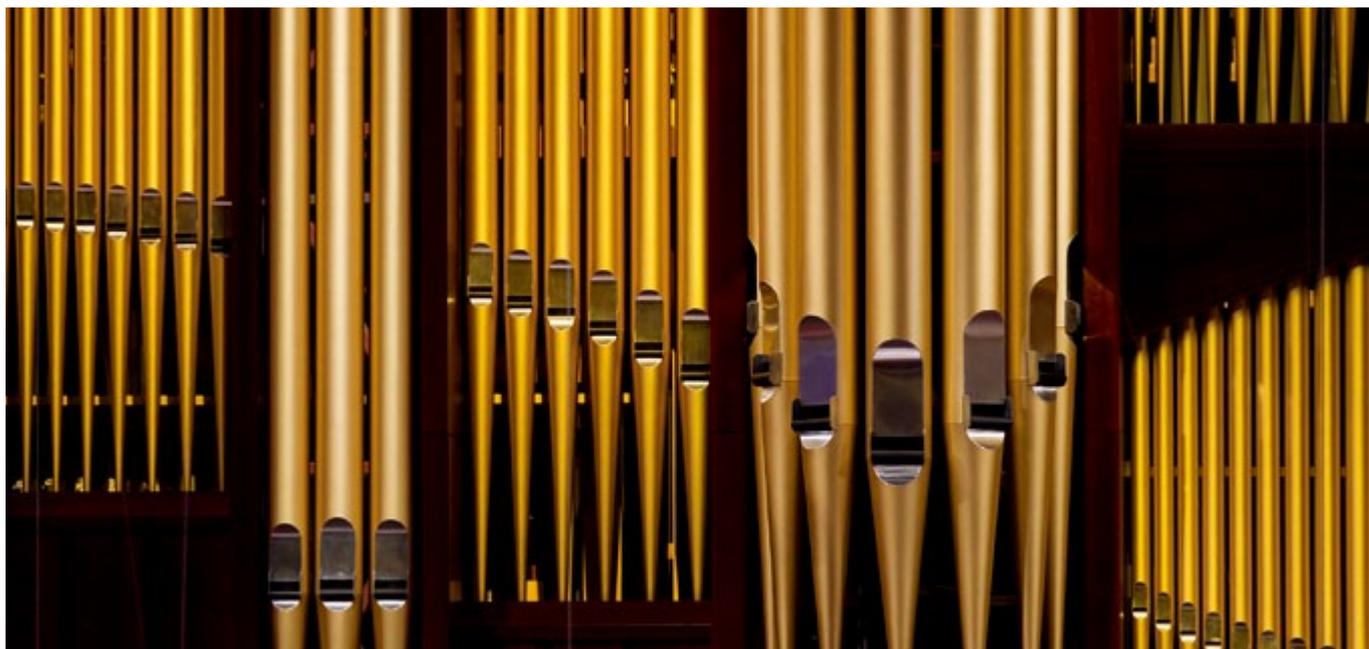
教会について書く人たちの多くが、教会員と教会の教義を理解しようと真剣に努力しています。礼儀正しく、客観的であろうとするその姿勢に感謝します。

同時に、神聖な事柄が理解できない人たちが大勢いることも知っています。イギリスの首席ラビであるサックス卿は、昨年12月に教皇庁管轄の神学校であるグレゴリアン大学でローマカトリック教会の指導者に行った講演の中で、世界の一部の地域がいかに世俗的になっているかにつ

いて言及しました。彼はその原因の一つは、「信仰の調べを聞き分けられない、好戦的で科学的な無神論にあります」と述べています。²

モルモン書の冒頭には偉大な示現が記されています。預言者リーハイが見た命の木についての夢です。³ この示現には、今日も存在する信仰のチャレンジと、神を愛し、礼拝し、自分には神に対して報告をする責任があると感じている人々とそうでない人々との大きな隔たりがはっきりと描かれています。リーハイは信仰を減ぼす幾つかの行いについて説明しています。高慢で虚栄心の強い愚かな人々がいます。彼らはいわゆる世の知恵にしか関心がありません。⁴ 神に対して少しは関心があるものの、この世的な暗黒の霧と罪の中で道に迷う人々もいます。⁵ 神の愛と御言葉^{みことば}を味わったのに、人にあざけられて恥ずかしく思い、「禁じられた道」に踏み込む人々もいます。⁶

最後に、信仰の調べに波長を合わせている人々がいます。皆さんは自分が何者であるか知っています。主とその福音を愛しており、絶えず主の教えに添って生活し、人々に、特に自分の家族に、それを分



かち合おうとしています。⁷ 御霊^{みたま}のささやきに従い、神の御言葉の力を実感し、家庭にあって教えを守り、主の弟子としてキリストのような生活をしようと熱心に努力しています。

わたしたちは皆さんがどれほど忙しいか知っています。有給の聖職者がいないこの教会では、その管理運営の責任は任じられた会員の皆さんの肩にかかっています。ピシヨップリックやステーキ会長会、そしてそのほかの多くの人々がよく長時間にわたって献身的に奉仕しているのも承知しています。補助組織や定員会の会長会が模範的な無私^{みせき}の奉仕をしていることも承知しています。このような奉仕と犠牲は、記録をつける書記、忠実なホームティーチャーと訪問教師、クラスを教える教師など、全会員の中に見られます。スカウトや託児の指導者として雄々しく奉仕する人々にも感謝します。皆さん全員の行いとひととなり^{なごころ}をわたしたちは愛し、感謝しています。

救い主の教えの一部について関心が低く、あまり忠実でない会員がいることも承知しています。わたしたちは彼らが信仰をしっかりと呼び覚まして、より活発に、より強い決意を持つように願っています。神は御自分のすべての子供たちを愛し、一人も欠けることなく御自身のもとに戻るよう望んでおられます。一人一人が信仰の神聖な調べに波長を合わせるよう望んでおられるのです。救い主の贖罪^{しよくざい}はすべての人への贈り物です。

わたしたちはリーハイの夢に出てくるようなあらゆる種類の人を愛し、大切に思っています。そのことを教え、理解してもらう必要があります。⁸ 覚えておいてください。裁きはわたしたちのすることではありません。主のなさることです。⁹ トーマス・S・モンソン大管長は「人を裁くことをやめる勇気」を持つよう具体的に求めています。¹⁰ また、大管長は忠実な教会員一人一人に、細くて狭い道をまだ見つけていない人々だけでなく、福音の実を味わいながら道に迷っている人々も救助するように呼びかけています。彼らが棒をしっかりとつかみ、神の愛を味わえるよう祈ります。その愛によって彼らの「心は非常に大きな喜びに満たされ[る]」でしょう。¹¹

リーハイの示現にはすべての人が含まれていますが、最も重要な教義的概念は、永遠の見地から見た家族の大切さです。「家族は神によって定められたものである。家族はこの世と永遠にわたって最も大切な単位である。」¹² 命の木の実(神の愛)を食べたリーハイは、「家族にも食べてほしい」と思いました。¹³

わたしたちは真理と義の中で子供たちを育てたいと切に望んでいます。これを実現するのに役立つ原則が一つあります。それは愚かな、あるいは思慮に欠けた行いではあるけれども罪深いものではないことについて批判しすぎないことです。何年も前、我が家の子供たちがまだ家にいたころに、ダリン・H・オークス長老が、正すべき若いときの過ちと、懲らしめと悔

い改めが必要な罪とを区別することが大切だと教えました。¹⁴ 子供が知恵に不足しているときには教える必要があります。罪を犯した場合は悔い改めが不可欠です。¹⁵ この教えはわたしたち家族にとって大変役に立ちました。

家庭で信仰を実践すれば家族が祝福されます。模範は特に大切です。子供はわたしたちの言葉よりも行いから多くを学びます。わたしが5歳になる少し前、第二次世界大戦が終わりに近づいたときのことです。母の弟が乗っていた戦艦が日本沿岸で爆撃に遭い、弟が戦死したという知らせが母のもとに届きました。¹⁶ 母はこの知らせに大きな衝撃を受けました。感情を抑え切れず、寝室に入って行きました。しばらくして母の様子を見ようと部屋をのぞいてみると、母はベッドのそばにひざまずいて祈っていました。祈るように、また救い主を愛するようにと母から教えられていたわたしは、大きな平安に包まれました。母はこのような模範をいつも示してくれました。子供と祈る母親や父親の模範は、ほかのどんな模範より大切かもしれせん。

わたしたちの救い主であるイエス・キリストの教えと務めと贖罪は、家族で学ぶべき必須科目です。ニーファイ第二書第25章26節ほど、わたしたちの信仰の特性を雄弁に表現している聖句はありません。「わたしはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに

罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。」

リーハイの示現が教える基本的な原則の一つは、忠実な会員は命の木に続く細くて狭い道にとどまるためにしっかり鉄の棒につかまらなければならないという原則です。会員にとって聖文を読み、深く考え、研究することは不可欠です。¹⁷

モルモン書にはきわめて偉大な価値があります。¹⁸ もちろん、この神聖な書物の重要性を過小評価する人々は常にいて、この書物をけなす人々さえいます。ユーモアを用いてきた人々もいます。わたしが伝道に出る前、ある大学教授が、モルモン書から“and it came to pass”（訳注——英語のモルモン書で頻繁に用いられている表現。日本語では「さて」「そして」「そこで」などと訳されている）という言葉を取り除いたら「薄っぺらい小冊子になるだろう」というマーク・トウェインの言葉を引用したことがありました。¹⁹

それから数か月後、イギリスのロンドンで伝道していたときのことです。ロンドン大学で教鞭を取るオックスフォード大学出身の著名な教授が、モルモン書を読みました。セム語族の言語の権威であるこのエジプト人教授は、デビッド・O・マッケイ大管長と連絡を取って、宣教師と会いました。彼は宣教師に、モルモン書がその中で述べられている時代の「ユダヤ人が学んでいたこととエジプト人の言葉」を翻訳したものと確信していると告げました。²⁰ 彼が挙げた数多い例の中に、“and it came to pass”という接続句がありました。古代セム語の文献で用いられる言い回しを自分が翻訳するときも、そっくりな表現を選ぶだろうと言いました。²¹ しかし教授は、職業柄持ち合わせていた予備知識は助けになったが、霊的な証を得ることが不可欠だと告げられました。彼は研究と祈りを通して証を得て、バプテスマを受けました。このように、有名なユーモア作家が冷やかしの対象と見なしたもの



を、この学者はモルモン書が真実である大きな証拠として認め、御霊による確認を受けたのです。

選択の自由という非常に重要な教義により、回復された福音についての証は、外部の、あるいは科学的な証拠ではなく、信仰に基づくものでなければなりません。救い主はどのようにしておとめから誕生したり、復活したりされたのか、ジョセフ・スミスはどのようにして聖文を翻訳したのかなど、まだ完全に明らかにされていない事柄に執着することは効果的でなく、霊的な進歩も得られません。これらは信仰に関する問題だからです。結局のところ、聖文を読み、深く考えて、その後、それが真実であることを御霊の証によって確認するために神に誠心誠意問うようにというモロナイの勧めが、その答えなのです。²² また、聖文にある教えを生活に取り入れて福音を実践するとき、わたしたちは御霊によって祝福を受け、喜びと幸福と、特に平安を感じて、主の慈しみを味わいます。²³

明らかに、信仰の調べが聞こえる人と音を聞き分けられない人や音が外れる人

との違いは、聖文を熱心に学んでいるかどうかです。何年も前、絶えず聖文を読み、学ぶことの必要性を強調した愛する預言者スペンサー・W・キンボール大管長の言葉に、わたしは深く心を動かされました。キンボール大管長は次のように述べました。「わたしは自分と神との関係が密接でなくなったと感じるとき、また神が耳を傾けず、声を発しておられないように感じるとき、神から遠く離れていることが分かります。そのようなとき、もし熱心に聖文を読むならば、その距離は縮まり、霊性が戻ってきます。」²⁴

皆さんが子供たちと定期的にモルモン書を読んでいるようにと願っています。このことについて自分の子供たちと話し合ったことがあります。彼らは二つのことを話してくれました。まず、家族で毎日聖文を読み続けることが鍵であるということです。ほとんどが10代の子供たちと一緒に聖文を読み続けようと奮闘しているわたしの娘が、家族の早朝の様子をおもしろおかしく話してくれました。娘と夫は二人で朝早く起きて、眠気で霧のようにか

すむ階段を、鉄の手すりをしっかりとつかみ、家族が神の御言葉を読むために集う部屋まで昇って行くのだそうです。大切なのは続けることです。ユーモアのセンスも助けになります。毎日家族一人一人の大きな努力が必要ですが、努力する価値があります。一時的に挫折しても、続けることで乗り越えられます。

二つ目に、小さい子供がいる末の息子夫婦がどのように聖文を読んでいるかを紹介しましょう。4人の子供のうち二人はまだ字が読めません。5歳の子には指を使った5つの合図を用意し、その子が合図に従うことで家族の聖文学習に十分に参加できるようにしています。指1本は“and it came to pass”の合図で、モルモン書を読んでいてその言葉が出てくる度に、その子が復唱します。正直に言うと、この言葉がとても頻繁に出てくるのは素晴らしいことだと、わたしは思っています。ちなみに、小さいお子さんのいる人たちのために言うと、指2本は「このようにして」という言葉で、指3本、4本、5本は、読んでいる章に出てくる言葉の中から両親が選びます。

わたしたちは家族の聖文学習と家庭の夕べがいつも完璧にはできないことを知っています。どのような困難に直面しても、がっかりしないでください。

主イエス・キリストを信じる信仰を持ち、主の戒めを守っていけるかどうかは、今もこれからも常に現世の生涯を特徴づける試みであることを理解してください。何よりも、信仰の調べを聞き分けられないときは御霊に波長が合っていないのだということ、一人一人が理解しなければなりません。預言者ニーファイは次のように教えました。「あなたがたはその声を……聞いています。〔その方〕は静かな細い声で語りかけましたが、あなたがたは心が鈍っていたので、その言葉を感じることができませんでした。」²⁵

教会の教義は明らかです。わたしたちは前向きになり、元気を出さなければなり

ません。わたしたちが強調するのは信仰であって、恐れではありません。わたしたちの傍らに立ち、導きと指示を与えてくださるといふ主の約束に、わたしたちは喜びを感じます。²⁶ わたしたちには愛ある天の御父がおられて、イエス・キリストの贖いの犠牲によって、御父の憐れみ深い贖いの計画があらゆる面で成就することを、聖霊がわたしたちの心に証してくださいます。

「神の子です」の作詞者ナオミ・W・ランドールはこう書いています。「主の御霊は導き、主の愛は約束する、信仰保てば恐れは去ると。」²⁷

ですからわたしたちは、リーハイの示現で示された主の弟子となる道において今どの地点にしようと、自分の家族の中に、永遠の命という救い主のすばらしい賜物を得たいというさらに強い望みを持つと決意しようではありませんか。信仰の調べに波長を合わせていることができますように。イエス・キリストの神性と、主の贖罪が現実であることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 1:30 参照
2. ジョナサン・サククス, “Has Europe Lost Its Soul?” (2011年12月12日, 教皇庁管轄

ブラジル, サンパウロ



の神学校, グレゴリアン大学における講義), chiefrabbi.org/ReadArtical.aspx?id=1843

3. 1 ニーファイ 8 章参照
4. 1 ニーファイ 8:27; 11:35 参照
5. 1 ニーファイ 8:23; 12:17 参照
6. 1 ニーファイ 8:28
7. 1 ニーファイ 8:12 参照
8. 救い主は迷える羊を捜し求めるよう教えておられる。マタイ 18:12-14 参照
9. ヨハネ 5:22 参照。マタイ 7:1-2 も参照
10. トーマス・S・モンソン「勇気を持てるように」『リアホナ』2009年5月号, 124
11. 1 ニーファイ 8:12
12. 『手引き第2部: 教会の管理運営』(2010年), 1.1.1
13. 1 ニーファイ 8:12
14. ダリン・H・オクス, “Sins and Mistakes,” *Ensign*, 1996年10月号, 62 参照。オクス長老はこの考えを、彼がブリガム・ヤング大学の学長であった1980年ごろに説いている。
15. 教義と聖約 1:25-27 参照
16. マーバ・ジーン・キンボール・ペダーセン, *Vaughn Roberts Kimball, a Memorial* (1995年)。ボーンは1941年の秋、ブリガム・ヤング大学でフットボールのクォーターバックの選手だった。真珠湾攻撃の翌日の1941年12月8日、合衆国海軍に入隊。1945年5月11日、空母「バンカー・ヒル」が敵の爆撃を受けた際に戦死し、水葬される。
17. ヨハネ 5:39 参照
18. エズラ・タフト・ベンソン「モルモン書——わたしたちの宗教のかなめ石」『聖徒の道』1987年1月号, 4。
19. マーク・トウェイン, *Roughing It* (1891年), 127-128。世代が変わる度にトウェインの言葉は重要な新発見のように採り上げられる。通常、マーク・トウェインがキリスト教および宗教一般に対して同じように否定的であった事実と言及されることはほとんどない。
20. 1 ニーファイ 1:2 参照
21. わたしがロンドンでエベイド・サロフィム博士に会ったのは長老たちが彼を教えていたときだった。N・エルドン・タナー, *Conference Report*, 1962年4月, 53も参照。古代セム語・エジプト語文献の学者の多くが, “And it came to pass” という接続句が文頭に繰り返し使われることに言及している。ヒュー・ニブリー, *Since Cumorah*, 第2版(1988年), 150 参照
22. モロナイ 10:3-4 参照。批判する人々にはこれを誠心誠意で試した人がほとんどいない。
23. 教義と聖約 59:23 参照
24. 『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』66-67
25. 1 ニーファイ 17:45。エズラ・タフト・ベンソン「主のみたまを求めなさい」『聖徒の道』1988年9月号, 5も参照。「多くの場合、主の御言葉は、『感じ』を通して与えられます。主は、謙遜で、受ける備えのできた人に、感情を通してささやいてくださるのです。」
26. 教義と聖約 68:6 参照
27. “When Faith Endures,” *Hymns*, 128 番



十二使徒定員会
リチャード・G・スコット長老

個人の生活で 啓示と靈感を 受ける方法

主はなぜ、主に祈り、尋ねるよう望んでおられるのでしょうか。なぜなら、それこそが啓示を受ける方法だからです。

この説教壇に立ってメッセージを伝える人はだれでも、世界中の会員たちから強さと支えを感じます。わたしは幕の向こう側の愛する妻からの支えにも感謝しています。ありがとう、ジェニー。

聖霊は、現世の旅路の指針となる欠くことのできない大切な情報をわたしたちに伝えてくださいます。それが簡潔明瞭かつ不可欠な情報であるならば、啓示と呼ぶに値します。それがふさわしい目的に一步一步導いてくれる一連の促しである場合は、この説教の中ではそれを靈感と呼ぶことにします。

啓示の事例として、スペンサー・W・キンボール大管長が、教会のすべてのふさわしい男性に神権を授けることに関して、長い間主に尋ねた後に受けた導きが挙げられるでしょう。当時、神権はごく一部の男性しか受けていませんでした。

啓示のもう一つの事例は、ジョセフ・F スミス大管長に与えられた次の導きです。「わたしたちは天の使者や天にいる人々の目の前で動き、存在しているとわたしは信

じています。彼らから離れているのではありません。……わたしたちと、先に霊界へ行った……親族や先祖との間には密接な関係があります。彼らを忘れることも、彼らへの愛が消えることもなく、彼らはいつもわたしたちの心と記憶の中にいます。このように、わたしたちは彼らと断ち切ることのできないきずなで結ばれています。……死すべき弱いわたしたちでさえそうであるならば……この世を去った忠実な人々は……わたしたちが彼らを見ている以上にわたしたちを見ていて、わたしたちが彼らを知っている以上にわたしたちを知っていることでしょう。……わたしたちは彼らの目の前で生活しています。彼らはわたしたちを見、わたしたちの福利を願い、かつてなかったほどわたしたちを愛しています。なぜなら彼らは今、わたしたちを取り巻く危険を見ているからです。……わたしたちに対する彼らの愛、幸福を願う思いは、わたしたちが自分たちに対して抱くそのような思いよりも大きいに違いないのです。」¹

わたしたちは、幕の向こうにいるよく知

り愛する人々との関係を深めることができます。正しいことを続けて行おうと決心し努力することによって、それは可能となります。別離は一時的であり、神殿で交わした聖約は永遠であると認めることによって、わたしたちは愛する故人との関係を強めることができます。神殿の聖約を首尾一貫して守るときに、永遠にわたる約束の実現が聖約に含まれていることを確信できます。

わたしの人生で非常にはっきりと啓示を受けた例は、ジェニー・ワトキンスに神殿で自分と結び固められてほしいと伝えるよう強く促されたことです。

一人一人が学ぶ必要のある偉大な教えの一つは、尋ねることです。主はなぜ、主に祈り、尋ねるよう望んでおられるのでしょうか。なぜなら、それこそが啓示を受ける方法だからです。

わたしは非常に難しい問題に直面すると、次のようにして、なすべきことを知ろうとします。断食し、役に立つ聖句を見つけて理解できるようにと祈ります。このプロセスを繰り返します。まず聖句を少し読みます。その節の意味を深く考え、靈感を求めて祈ります。それから、主がわたしに望んでおられることを自分がすべて把握したかどうか知るために、深く考え祈ります。多くの場合、受ける印象が多いほど、教義の理解も深まります。このパターンは聖文から学ぶ良い方法だと分かりました。

啓示を受けるための実用的な原則があります。まず、怒りや傷ついた気持ちを抱え込み、防衛的になってしまうと、聖霊は遠ざかります。そのような感情をなくさなければ、啓示を受ける可能性は低いままです。

もう一つの原則は、ユーモアに注意することです。騒々しく、不適切な笑いは御霊を傷つけます。健全なユーモアは啓示を招きますが、高笑いは違います。ユーモアは生活の緊張をほぐしてくれます。

もう一つ、大げさでやかましい話し方も

啓示を妨げます。注意深く静かに話すなら、啓示を受けやすくなります。

一方、霊的な交信は、健康的な生活習慣によって改善されます。運動、適度の睡眠、良い食習慣は、啓示を受け理解する能力を高めてくれます。わたしたちは定められた寿命を生きます。しかし、注意深く、適切に選択することによって、その寿命の中で行う奉仕の質と自分自身の幸福感を上げることができます。

日々の活動が御霊に耳を傾けるのを妨げないようにすることは大切です。

啓示は夢の中でも与えられます。そのときには、わずかに睡眠から覚醒への移行が起こります。夢は、覚めてから即座に記録しようと努めれば詳しく記録できますが、そうしなければすぐに忘れます。睡眠中に霊的な交信をする場合、通常、その経験全体に対して神聖な気持ちを抱きます。主はわたしたちが心から尊敬する人を使って、夢の中で真理をお教えになります。わたしたちがその人を信頼し、勧告に耳を傾けるからです。聖霊を通してお教えになるのは、ほかならぬ主です。しかし、わたしたちが愛し尊敬する人を通して教えることによって、主はその夢を理解しやすく、心に触れやすいものにしてくださるのです。

主は御心のままに、わたしたちの記憶をよみがえらせることがおできになります。だからといって御霊の印象を記録する決意を緩めてはなりません。靈感を入念に記録することで、神との交信を神聖に扱っていることを神に示すことができます。記録することによって、啓示を思い起こす力が強められます。御霊の導きの記録は、なくしたり人に見られたりしないように保護するべきです。

常に真理に従っているなら、なすべきことを教える靈感の扉が開き、必要なときには神の力によって人の能力が高められることを、聖文は雄弁に物語っています。聖文にはまた、助けが必要なときに主が困難や疑い、克服し難い試練を乗り越える力をど

のように与えてくださるかが描かれていません。そのような例について思い巡らすとき、それらの経験は真実であるという静かな確信が、聖なる御霊を通して得られるでしょう。自分にも同じような助けが得られることが分かるようになるでしょう。

自分の経験ではどうしてよいか分からない事柄に出合ったときに、どう対処すべきか心得ている人をわたしは何人も見てきました。彼らは主を信頼し、差し迫って必要な解決策を主が示してくださることを知っていました。

主は宣言されました。「あなたがたは高い所から教えを受けなければならない。自らを聖めなさい。そうすれば、あなたがたは力を授けられて、わたしが語

たように与えることができるであろう。』² 自らを聖めるという言葉は分かりにくいかもしれませんが。リー大管長はかつて、この言葉は「わたしの戒めを守りなさい」という表現で言い換えることができるとわたしに教えてくれました。そのように解釈すると、この勧告は分かりやすくなるでしょう³

主から靈感を受けるには、身も心も清く、清い動機を持っていないといけないのです。そのような人は、なすべきことを教える主の靈感と、必要な場合は、靈感を実行する神聖な力を授かることができます。

霊性をはぐくみ、発揮するためには、義にかなった環境にその種を植える必要が



あります。傲慢^{ごうまん}、おごり、うぬぼれは、霊的な実を結ばない石地のようなものです。

謙遜^{けんそん}さは肥沃な土地のように、霊性をはぐみ、なすべきことを教える靈感の実を結びます。謙遜さは、義務を果たすために神の力を使う条件です。称賛されたい、認められたいという動機で動いている人に、御霊から学ぶことはできません。傲慢な人、感情に任せて決断する人は、靈感を受けることも、御霊から力強く導かれることもありません。

自分のことだけを考えるときよりも、人に奉仕するときに靈感を受けやすくなります。人を助けているときに、主はわたしたちの益となる導きを与えてくださるのです。

天の御父がわたしたちを地上に置かれたのは、失敗させるためではなく、輝かしい成功を収めさせるためです。だからこそ、祈りの答えを認識するのが時折非常に難しいのです。時折、わたしたちは愚かにも自分の経験と力に頼って人生に立ち向かおうとします。祈りと神からの靈感によってなすべきことを知ろうとする方がはるかに賢明です。従順であれば確かに、求めるときに靈感された目的を達成するための神の力を受けることができるのです。

多くの人と同様に、オリバー・カウドリも主からすでに受けていた祈りの答えに気づきませんでした。彼とわたしたちの目が開くように、ジョセフ・スミスを通じて次の啓示が与えられました。

「あなたが行ってきたことのために、あなたは幸いである。あなたはわたしに尋ね、そして見よ、尋ねる度に、わたしの御霊からの教えを受けてきたからである。そうでなかったならば、現在あなたがいる所に来ることはなかったであろう。

見よ、あなたがわたしに尋ねたので、わたしがあなたの思いを照らしたことを、あなたは知っている。そして今、あなたが真理の御霊に照らされたことを知るように、わたしはこれらのことをあなたに告げるのである。」⁴

神が祈りにこたえてくださらないと感じ



たら、この聖句を深く考えてください。それから、神がすでに祈りにこたえておられる証拠を自分の生活の中で注意深く探してください。

ある気持ちや促しが神からのものであるかどうかを知る二つの指標は、心の平安と静かな温かい気持ちが生じるかどうかです。わたしが話した原則に従うならば、皆さんは人生の重大な時に啓示を識別できるように備えられるでしょう。

神の導きに従うにつれて、現世と永遠の世でさらに幸福になり、それに加えて、さらに進歩を遂げ、奉仕する力も増すでしょう。それがどのように起こるのかわたしには完全には分かりませんが、導きを受けるからといって選択の自由が取り去られるわけではありません。皆さんは思いのままに決定を下すことができます。しかし覚えておいてください。正しいことを行う性質は思いと心に平安をもたらします。

間違った選択をしたとしても、悔い改めを通して修正することができます。その条件がすべて満たされたとき、救い主イエス・キリストの贖いは、過ちに対する正義の要求からわたしたちを解放してくれます。驚くほど簡潔で、何よりすばらしいことです。義にかなった生活を続けると、なすべきことを知るよう常に促されるようになります。時として、取るべき行動に気づいたために非常に努力と信仰が必要にな

ることがあります。それでも皆さんは、生活の中で神聖な導きを受ける条件を満たすときに、すなわち、主の戒めに従い、神の幸福の計画に信頼を置き、その計画に反するいかなることも回避するようになるときに、自分のなすべきことを知るよう促されるのです。

天の御父との交信は、ささいなことではありません。それは神聖な特権であり、永遠不変の原則に基づいています。わたしたちは、信仰と従順に応じて、また選択の自由を適切に使うことの報いとして天の御父から助けを受けます。

個人の啓示と靈感を受ける原則を理解し、活用することができるように主が皆さんを導いてくださいますよう、イエス・キリストの御名によって祈ります、アーメン。

注

1. ジョセフ・F・スミス、Conference Report, 1916年4月, 2-3。Gospel Doctrine, 第5版(1939年), 430-431も参照
2. 教義と聖約 43:16
3. 『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』34
4. 教義と聖約 6:14-15



十二使徒定員会
デビッド・A・ベドナー長老

天の力

老いも若きも、神権者には権能と力の両方、すなわち、救いの業において神を代表するために必要な許可と霊的な能力の両方が必要なのです。

愛 する兄弟の皆さん、神権者としてこのように大勢とともに礼拝できることを感謝します。わたしは皆さんを愛しており、皆さんがふさわしさを保ち、世界中で良い影響を及ぼしていることに敬意を表します。

皆さん一人一人に、次の質問に自分ならどう答えるか考えてほしいと思います。何年も前にデビッド・O・マッケイ大管長が教会員に問いかけたものです。「もし今、皆さん一人一人が、末日聖徒イエス・キリスト教会の最も際立った特徴を一文あるいは一言で述べるように求められたとしたら、何と答えますか。」(“The Mission of the Church and Its Members,” *Improvement Era*, 1956年11月号, 781)

自らの質問に対してマッケイ大管長が挙げた答えは、神権という「神の権能」でした。ほかの教会は自分たちの権能はいにしえの時代から継承されてきたもの、あるいは聖文や神学教育に基づくものであると主張していますが、末日聖徒イエス・キリスト教会は、それとは異なる立場を取っています。わたしたちは、神権の権能が**あしゅ**によって直接天の使者から預言者ジョセフ・スミスに授けられたという、ほかの教会とは明らかに異なる宣言をしています。

わたしのメッセージは、この聖なる神権と天の力についてです。これらの重要な真理についてともに学ぶに当たって、主の御霊の助けがあるよう心から祈ります。

神権の権能と力

神権は、人類の救いのためにあらゆることを行うよう地上の人に託された神の権能です(スペンサー・W・キンボール, “The Example of Abraham,” *Ensign*, 1975年6月号, 3参照)。神権は主が人を通じて人々の魂を救う業を行われるための手段です。昔も今も、イエス・キリストの教会のとでも大切な特徴の一つは、神の権能です。神の権能がなければ、まことの教会は存在し得ません。

神権の権能は普通の人々に与えられません。神権に聖任されるために求められるものは、経験や専門知識や学歴ではなく、ふさわしさと進んで行く気持ちです。

信仰箇条第5条には、神権の権能を得るための規範が述べられています。「わたしたちは、福音を**の**宣べ伝え、その儀式を執行するためには、人は預言によって、また権能を持つ者による**あしゅ**によって、神から召されなければならないと信じる。」このように、すでに神権を持っていて、必要な神権の**かぎ**を持つ指導者から権限を与

えられた人物によって、少年や男性は神権の権能を授けられ、特定の職に聖任されます。

神権者はこの神聖な権能を、神の聖なる思いと御心と目的に従って行使するよう期待されています。神権には自己本位なところが一つありません。神権は常にほかの人々に仕え、ほかの人々を祝福し、強めるために用いられます。

大神権は厳粛な聖約によって授かり、その聖約には、与えられた権能を行使し(教義と聖約 68:8 参照)職務を遂行する(教義と聖約 107:99 参照)という義務が含まれます。神の聖なる権能を持つ者として、わたしたちは強いられることなく、自ら選択し行動します(2ニーファイ 2:26 参照)。神権は元来受動的ではなく能動的なものなのです。

エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように教えています。

「神権を受けた後、行動を起こすようだれかに促されるまで消極的にじっと待っているだけでは十分ではありません。神権を受けるとき、わたしたちは地上で義の大義を推し進める業に積極的かつ熱心に携わるという義務を負います。主が次のように述べておられるからです。

『命じられるまで何事も行わず、疑いの心をもって戒めを受け入れ、それを不承不承守る者は、罰の定めを受ける。』[教義と聖約 58:29] (So Shall Ye Reap [1960年], 21)

スペンサー・W・キンボール大管長も、神権の能動的な性質を強調しています。「神権の聖約は戒めに背くことによって破られますが、義務を果たさずに放置することによっても破られます。したがって、この聖約を破るには、何も行わないでいればよいのです。」(『救しの奇跡』96-97参照)

神権の責任を果たそうと最善を尽くすとき、わたしたちは祝福されて神権の力を受けることができます。神権の力は、わたしたちのような男性や少年を通して作用す



る神の力であり、個人の義と忠実さ、従順、勤勉が求められます。少年や男性は、按手によって神権の権能を受けることができますが、もし従順さやふさわしさ、進んで奉仕しようという気持ちに欠けるなら、神権の力は受けられません。

「神権の権利は天の力と不可分のもの

として結びついており、天の力は義の原則に従ってしか制御することも、運用することもできない……。

なるほどそれらがわたしたちに授けられることもある。しかし、わたしたちが自分の罪を覆い隠そうとしたり、自分の高慢、自分のうぬぼれた野望を満たそうと

したり、あるいはいかなる程度の不義によっても、人の子らを制御し、支配し、強制しようとしたりするとき、まことに、天は退き去り、主の御霊は深く悲しむ。そして、主の御霊が退き去ると、その人の神権、すなわち権能は終わりである。」(教義と聖約 121:36 - 37, 強調付加)

兄弟の皆さん、少年や男性が神権の権能を授かっていながら、神権の力を受ける資格を得るために必要な行いを怠ることを、主は受け入れてくださいません。老いも若きも、神権者には権能と力の両方、すなわち、救いの業において神を代表するために必要な許可と霊的な能力の両方が必要なのです。

父から学んだ教訓

わたしは忠実な母親とすばらしい父親のいる家庭で育ちました。母は神の教会と王国のためにすべてを犠牲にした開拓者の子孫でした。父はわたしたちの教会の会員ではなく、若いころにはカトリック教会の司祭になりたいと思っていました。結局、父は神学校に行くことは選ばずに、工具や鋳型を作る職人としての道を歩きました。

父は結婚後のほとんどの期間、家族と一緒に末日聖徒イエス・キリスト教会の集会に出席しました。実際、ワードの多くの人が、父が教会員でないとまったく知りませんでした。父はワードのソフトボールチームの選手や監督を務め、スカウト活動を手伝い、母が様々な召しや責任を果たすのを支えました。神権の権能と力について、父から学んだ大切な教えの一つについて話したいと思います。

少年のころ、わたしは父にいつバプテスマを受けるのかと毎週何度も尋ねました。わたしが困らせる度に、父は愛情を込めて、しかしきっぱりとこう言うのでした。「デビッド、お父さんは、お母さんやデビッドや、ほかのだれかのために教会に入るつもりはない。教会員になるのが正しいことだと分かったときに、教会に入るつも

りだよ。』

10代前半のころだったと思いますが、父と次のような会話をしました。一緒に日曜日の集会に出席して帰宅したとき、わたしは父にいつバプテスマを受けるのかと尋ねました。父はほほえんで言いました。「バプテスマを受けることについてデビッドに聞かれてばかりだけど、今日はお父さんの方から聞こうかな。」わたしはついに状況が進展しようとしていると早合点して胸を躍らせました。

父は続けて言いました。「デビッド、君の教会では、神権がかつて地上から取り去られ、天の使者によって預言者ジョセフ・スミスに回復されたと教えているよね。」わたしはそのとおりだと答えました。その後、父が言いました。「では質問だ。毎週神権会で、ビショップやほかの神権指導者が兄弟たちに、ホームティーチングを行い、神権の義務を果たすように教え、お願いし、熱心に頼んでいる。もし君の教会に、回復された神の神権がほんとうにあるのなら、自分の宗教上の義務を果たすことについて、君の教会のとても多くの男性たちがわたしの教会の男性たちとさほど違わないのはどうしてなんだい。」未熟なわたしの頭は瞬時に完全に真っ白になりました。どう答えればよいか分かりませんでした。

神の権能があるという教会の主張の正当性を、父が自分の交わっていたワードの男性たちの至らない点を基に判断したのは適切でなかったと、わたしは信じています。しかし、父があのような質問をしたのは、神の聖なる神権を持つ者はほかの男性たちとは異なっているべきだと思っていたからであり、それは正しい考えです。神権を持つ男性は、生まれながらにほかの男性よりも優れているわけではありませんが、異なった行いをする必要があります。神権を持つ男性は、神権の権能を授かるだけでなく、神の力を注ぐパイプ役としてふさわしく忠実な者とならなければなりません。「主の器を担う者たちよ、清くあり



なさい。)(教義と聖約 38:42)

神権の権能と力について父から学んだこの教訓を、わたしは決して忘れたことがありません。それはわたしたちと異なる信仰を持ち、神の神権を受けていると主張する男性たちにもっと多くを期待していた、一人の善良な男性から学んだことでした。何年も前、あの日曜日の午後に父と

交わした会話を通して、わたしの中に「善い少年」になりたいという望みが生まれました。回復された福音について学ぶ父にとってのつまずきの石や、悪い手本にはなりたくありませんでした。とにかく善い少年になりたいと思いました。主の権能を持つ者として、わたしたち全員がいつでもどこでも高潔で、徳高く、善良な男性でい

ることを、主は求めておられます。

興味深く思うかもしれませんが、何年も後、父はバプテスマを受けました。そしてふさわしいときに、わたしは父にアロン神権とメルキゼデク神権を授ける機会にあずかりました。人生におけるすばらしい経験の一つは、父が神権の権能と、そしてついには、神権の力を受けるのを目にしたことです。

父から学んだこの印象深い教訓を紹介するのは、一つの簡単な真理について強調するためです。按手によって神権の権能を授かることは重要な出発点ですが、それで十分ではありません。聖任によって権能を授かりますが、人の魂を高揚し、教え、証し、祝福し、助言し、救いの業を推し進めようと努めるとき、力をもって行動するには、義が求められるのです。

この世の歴史におけるこの重要な時期に、皆さんとわたしは神権を持つ者として、義にかなった男性となり、神の御手に使われて望ましい働きをする者となる必要があります。神の人として立ち上がる必要があります。ヒラマンの孫であり、救い主がニーファイ人の中で務めを始めた際にお召しになった十二弟子の最初の人物であるニーファイに学び、その模範を心に留めるとよいでしょう。「〔ニーファイ〕は多くのことを民に教えた……。ニーファイは、力と大きな権能をもって教えた。」(3 ニーファイ 7:17)

「夫が理解できるように助けてください」

わたしはビショップやステーク会長として神殿推薦状の面接を行うとき、既婚の姉妹には最後によく、わたしが彼女とその家族のためにできるいちばんの助けは何かと尋ねていました。それらの忠実な女性たちの答えは共通していて、参考になるとともに、不安も覚えました。姉妹たちは不平を言ったり批判したりすることはめったにありませんでしたが、しばしば次のように答えたのです。「夫が家庭における神権指導者としての自分の務めを理解で

きるように助けてください。わたしは喜んで聖文学習や家族の祈り、家庭の夕べを率先して行いますし、これからもそうするつもりです。でも、夫が対等のパートナーとなって、夫だけにできる神権者としての強いリーダーシップを発揮してくれたならと思います。家庭の中で、管理し保護する族長となり神権指導者となる方法を、夫が学べるように助けてください。」

わたしはそれらの姉妹たちの心からの言葉と願いについて度々考えます。今日、神権指導者たちも同様の懸念を聞いています。神権の権能だけでなく神権の力も持つ夫を求めている妻が大勢います。彼女たちは、キリストを中心とし福音に焦点を合わせた家庭を築く業において、忠実な夫、神権を持つ同僚と均等にくびきを負うことを切に願っています。

兄弟の皆さん、わたしは約束します。もし皆さんやわたしがこうした姉妹たちの



嘆願について祈りをもって深く考えるなら、ありのままの自分自身を見て(教義と聖約 93:24 参照)、変えるべきことや改善すべきことに気づけるように、聖霊が助けてくださるでしょう。今こそ行動する時なのです。

義の模範となる

今晚わたしは、神権者として「義の模範」となるようわたしたちに勧めているトーマス・S・モンソン大管長の教えを繰り返します。わたしたちは主の用向きを受けていて、個人のふさわしさに基づいて主の助けを受ける権利があることを、モンソン大管長は繰り返し教えています(「義の模範」『リアホナ』2008年5月号、65-68 参照)。皆さんとわたしは、この神権時代に天の使者たちによって、すなわちバプテスマのヨハネと、ペテロ、ヤコブ、ヨハネによって、地上に再び与えられた神権の権能を持っています。ですから、メルキゼデク神権を受けるすべての男性は、個人の神権の系譜を主イエス・キリストまでたどることができるのです。わたしたちがこの驚くべき祝福に感謝するよう願っています。そしてわたしたちが主の神聖な権能を行使するときに清くあって、主を代表するにふさわしくあるように祈っています。わたしたち一人一人が、神権の力を受ける資格を得ることができますように。

この末日に聖なる神権が確かに地上に回復されて、末日聖徒イエス・キリスト教会に存在することを証します。また、トーマス・S・モンソン大管長が教会の大神権を管理する管理大祭司であり(教義と聖約 107:9, 22, 65-66, 91-92 参照)、すべての神権の鍵を持ち、行使する権限を託された地上で唯一の人物であることを証します。これらの真理を、主イエス・キリストの聖なる御名によって厳粛に証します。アーメン。■



前管理ビショップリック第一顧問
リチャード・C・エッジリービショップ

まことの成長のための 救助の業

人を救う業に、主はすべての教会員を召しておられます。

こ 数か月、教会の指導者は、教会は「まことの成長」を遂げなければならぬと強調してきました。これは、進んで救いの儀式を受け、聖約を交わしてそれを守るすべての人が教会に集えるようにするというものであり、アルマが記した大きな心の変化をもって生活するということです（アルマ5:14参照）。教会のまことの成長を遂げる最も有意義で重要な方法の一つは、バプテスマを受けたもののあまり活発でなく、祝福や救いの儀式の恩恵にあずかっている人々と連絡を取って、彼らが教会に戻れるようにすることです。受けている召しがホームティーチャーや訪問教師であろうと、日曜学校の教師であろうと、ビショップ、父親、母親であろうと、たとえ中央幹部であろうと、わたしたちは皆、有意義な方法でこの再活発化という救助の業に取り組むことができます。最終的には、家族をはじめ教会員でない人、あまり活発でない会員、罪を犯した人など、すべての人をキリストのみもとに導いて救いの儀式を受けられるようにすることは、わたしたち皆に共通する神聖な召しなのです。

わたしがステーク会長会で奉仕していた30年ほど前のある日曜日、ある忠実なビショップから電話がありました。ビショップはワードが急速に発展したためにすべ

てのふさわしい会員にやりがいのある召しを提供できなくなったことを説明し、ワードの分割を申請してきました。分割の承認が下りるまでの間、わたしたちはステーク会長会としてそのワードの会員を訪問し、すべての立派でふさわしい兄弟姉妹をステーク宣教師に召すことにしました。

わたしが訪ねた3人目ぐらいの姉妹は、地元の大学に通う女子学生でした。2、3分雑談をしてから、宣教師として奉仕する召しを伝えました。しばらくの沈黙の後、彼女はこう言いました。「ステーク会長、わたしが教会に行っていないことを御存じではないのですか。」

今度はしばらくわたしが沈黙してしまい、その後「ええ、知りませんでした」と言いました。

彼女は「わたしは何年も教会に行っていないんです」と答え、こう言ったのです。「しばらく教会に行っていない人にとって、教会に戻るのとはそんなに簡単ではないと思いませんか。」

わたしは答えました。「そんなことはないですよ。あなたのワードの集会は午前9時に始まります。礼拝堂に来れば、あなたも活発な会員ですよ。」

彼女は言いました。「いいえ、そんなに簡単なことではありません。教会に戻ろうと思う人はいろいろなことを心配するの

です。あいさつしてくれる人はいるのか、それとも独りぼつんと座って、集会の間、だれも見向きもしないのではないかと心配します。それに、受け入れられるのか、どんな人が友達になってくれるのかも心配です。」

彼女は涙を流しながらこう続けたのです。「わたしが教会に戻るよう父と母が長い間祈ってきたことは分かっています。」またしばらく沈黙があり、こう言いました「ここ3か月の間、教会に戻る勇氣と強さと方法が見いだせるようにと祈ってきました。ステーク会長、この召しは祈りの答えだとお考えですか。」

わたしは涙ながらに答えました。「主はあなたの祈りにこたえてくださっていると思いますよ。」

彼女は召しを受けただけでなく、良い宣教師になりました。そして自分自身だけでなく両親にも、きっとそのほかの家族にも、大きな喜びをもたらしたとわたしは確信しています。

彼女との面接や、似たような面接からわたしが学んだ、あるいは思い起こしたことが幾つかあります。

あまり教会に来ていない会員には、その人が教会に戻って来るよう毎日ひざまずいて主に願い求めている家族がいる場合が多いということを学びました。

あまり教会に来ていない会員にとって、教会に戻るのとはそれほど簡単なことでも心地よいことでもないということを学びました。彼らには助けが必要です。支えが必要です。フェロウシップが必要です。

あまり教会に来ていない会員の中には、教会に戻る道を見いだそうと、進んで努力している人がいるということをわたしは学んだのです。

また、あまり教会に来ていない会員の多くは、お願いすれば召しを引き受けられることを学びました。

あまり教会に来ていない会員は愛にあふれる神の息子娘として同じように扱われ、神の息子娘と見なされるべきだとい



ことを学びました。

もしもわたしが彼女をあまり教会に来ていない会員であると見なして接していたらあの面接はどうなっていたらうかと、長年にわたって考えてきました。答えは皆さんにゆだねます。

再活発化は、主の業の中で常に重要な部分となってきました。教会に来ていない人に働きかけて救い出すことはすべての会員の務めですが、アロン神権者とメルキゼデク神権者には、率先してこの業に取り組む義務があります。結局、これが神権者の奉仕のすべてなのです。つまり、すべての人を昇栄に至る聖約に導き、彼らに平安と幸福、自尊心をもたらすに導くということです。

ゾーラム人が教会から離れていることを知った息子アルマが、ゾーラム人を救うために再活発化チームを編成したというモルモン書の出来事を覚えているでしょう。アルマは、割り当てを果たす際に、次のように主に祈りました。

「おお、主よ、どうかわたしたちがこの民をキリストにあって再びあなたのみもと

に連れ戻すのに、成功を収められるようにしてください。

「まことに、おお、主よ、彼らは貴い人々であり、その多くはわたしたちの同胞^{ほらから}です。ですから、おお、主よ、わたしたちが同胞であるこれらの人々を再びあなたのみもとに連れ戻すことができるように、わたしたちに力と知恵をお与えください。」(アルマ 31:34 - 35, 強調付加)

数か月前、新会員とあまり教会に来ていない会員、再び教会に来るようになった会員が集った会の後、わたしと同年代の紳士がやって来てこう言いました。「わたしは人生の大半、教会に来ていませんでした。若いときに教会を離れたのです。でも今は教会に戻って妻と一緒に神殿で奉仕しています。」

わたしは彼に、万事はうまくいくことを伝えるために、このように答えたと思います。「終わり良ければすべて良しですよ。」

すると彼はこう言ったのです。「いいえ、すべてが良いわけではありません。わたしは教会に戻りましたが、子供も孫も、皆教会に来ていません。そして、今度は

ひ孫も失いそうです。だれもが教会から離れてしまいました。すべて良しと言うわけにはいかないのです。」

わたしの家系には教会初期にヨーロッパで教会に入った先祖がいます。一人の息子が教会に行かなくなりました。エッジリー姉妹とわたしは、この先祖の子孫のうち、教会に行っていない子孫を調べようと試みてきました。

妻と二人で、いとも簡単にこんな結論に達しました。6世代にわたって妥当な推定値を用いて計算した結果、最大で3,000人もの家族を失った恐れがあります。では、今からもう2世代後のことを考えてみましょう。理論上、天の御父の子供のうち2万人から3万人を失うことになりかねないのです。

人々を救い出す務めは、教会の最も基本的な教義の一つに基づいています。

「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。

見よ、主なるあなたがたの贖い主は、肉体において死を受けた。それによって、すべての人が悔い改めて自分のもとに来



ることができるように、主はすべての人の苦を引き受けた。……

あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのものに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約 18:10 - 11, 15; 強調付加)

一人を失うことが莫大な数の人を失うことになり、一人を救うことが非常に多くの人を救うことになるということを、わたしたちは真剣に考えたことがあるでしょうか。わたしはこれまでに、教会に来ていない人を何人か救い出す特権にあずかったことがあります。さて、一人の人を教会に戻れるよう助けるとき、わたしはそれを一人だとは見なしません。6代、7代、またはそれ以上の世代にわたる何千人もの人を教会に導くと見なすのです。そして、次の聖句について考えます。「一人でもわたしのものに導くならば、……あなたがたの喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約 18:15)

主は使徒たちにこう言われました。「収穫は多いが、働き人が少ない。」(マタイ 9:

37) 働き人は本来なら少ないはずはないのです。全世界のあらゆる地域に何千人もの有能でふさわしい神権者と何百万人もの献身的な教会員がいます。わたしたちにはワード評議会や神権定員会、扶助協会などよく機能している組織がありますが、これらの組織には皆、再活発化という救助の責任があります。人を救う業に、主はすべての教会員を召しておられます。

わたしは先に、アルマと同僚たちがゾラム人を救う業に出で立つときに、アルマがささげた祈りについて述べました。第二次世界大戦中、約500人の米軍兵士とそれを援護する地元の民間人が捕まり、捕虜収容所に入れられました。彼らの苦痛と安全への懸念から、100人ほどの米軍兵士が選ばれて、この捕虜たちを救出する義勇軍が組織されました。兵士が集まると、指揮官はこのようことを言いました。「今晚君たちは自分の信じる宗教の指導者のもに行ってひざまずき、捕虜になった者たちがこれ以上一瞬たりとも苦しむことがないように最後の一息まで戦うと神に誓ってきなさい。」(ハンプトン・サイヅ, *Ghost Soldiers: The Forgotten Epic*

Story of World War II's Most Dramatic Mission [2001年], 28-29 参照) 成功を収めたこの救出作戦は、物理的で一時の苦しみからの救出でした。わたしたちは永遠の結果を左右する霊的な苦しみ悩む人々を救う業にも勇敢に取り組むべきではないでしょうか。同じように固い決意を神に表明するべきではないでしょうか。

結論として、キリストのまことの教会の会員であるわたしたちの決意は、主がわたしたち一人一人のために苦しまれたという事実根ざしていなければなりません。主は、教会員でない人や教会にあまり来ていない会員、罪人、わたしたち自身の家族全員のためにも苦しまれたのです。わたしたちは、喜び、平安、福音の祝福を何千、何十万、いや何百万人もの人々、および後の世代の人々にもたらすことができるとわたしは信じています。主の教会なのですから、必ずそうできます。わたしたちには神権があり、わたしたちは主の教会の会員なので、わたしたちは成功するよう召されているのです。このことをイエス・キリストの御名によって証します、アーメン。■



中央若い男性会長会第二顧問
エードリアン・オチョア

アロン神権——立って 神の力を使いなさい

神権もまた、善いことを成し遂げるためには行使する必要があります。皆さんは、暗闇の中で自分の光を隠すことなく「立って光を放〔つ〕」よう呼びかけられています。

少し前に南アフリカに行ったときのことです。わたしはカギソワードの祭司定員会第一補佐であるタビソとともにある家庭を訪れました。タビソと、祭司定員会を管理し定員会の鍵を持つビショップは、あまり教会に来ていない定員会の会員たちのために祈り、だれを訪問しどのように助ければいいのか、靈感を求めてずっと祈っていました。そして二人はタベロの家を訪問するよう促しを受け、一緒に訪問するようわたしを誘ってくれたのでした。

凶暴な番犬の前を通り過ぎると、わたしたちはタベロのいる居間へ通されました。タベロはおおらかな若い男性で、日曜日にほかのことで忙しくなったために教会に来られなくなってしまったのでした。タベロはわたしたちの訪問に緊張しながらも喜んでくれて、話に加わるよう家族を招いたほどでした。ビショップはタベロの家族に愛を伝え、神殿で結び固めを受けて永遠の家族となれるよう助けたいと申し出ました。それを聞いた家族の心は動かされました。わたしたちは皆その場に聖霊がおられ、言葉の一つ一つやあらゆる感情の源となっておられるのを

強く感じました。

しかし、この訪問を特別なものにしたのは、何といたってもタビソの言葉でした。この若い祭司はまるで天使の言葉を語っているかのようにでした。愛にあふれたタビソの言葉はだれもが完全に理解できる簡単なものでしたが、特にその友の心を打ちました。タビソはこのように言いました。「教会でいつも君と話せてとても楽しかったよ。君はいつでもほくに親切な言葉をかけてくれる。それに、君がいないのでサッカーチームはとても弱くなってしまったんだ。君はほんとうに上手だからね。」

タベロはこう答えました。「ごめんね。チームに戻るよ。」

「よかった。それと、ほくたちが前に宣教師になる備えをしていたのを覚えているかな。もう一度始めてみないか」とタビソは言いました。

「うん」とタベロはまた言いました。「教会に戻るよ。」

中央若い男性会長会の顧問としてわたしが経験する最も大きな喜びは、恐らく世界各地のアロン神権者がアロン神権の力を行使している姿を見ることです。しかし、自分が持っている力を使ってい

に多くの善い行いができるかを理解していない多くの若い男性を見て悲しく思うこともあります。

神権は、神の子供たちに仕えるために用いる神御自身の力であり権能です。すべての若い男性、すべてのアロン神権者が、自分が持つ神権に天使の働きの鍵があることを完全に理解できたらどんなに素晴らしいことでしょうか。友人が救い主のみもとへと続く道を見いだせるよう助けるといふ神聖な務めが自分にあることを理解できたらどんなによいでしょう。回復された福音を明瞭かつ率直に説明し、それを聞く人にキリストの言葉が紛れもなく真実であると感じさせる力を天の御父が授けてくださることを知ることができたらどんなに素晴らしいでしょう。

愛する教会の若い男性の皆さん、皆さんに尋ねたいことがあります。ぜひこの質問を生涯大切に心に留めておいてください。地上で手に入れることのできる力の中で、神の神権に勝るものがあるでしょうか。人々の人生を変え、罪と過ちから清められて永遠の幸福に至る道を歩めるよう人々を助けるという主の業を助けるうえで、神権をしのぐ力を発揮するものがほかにあるでしょうか。

ほかのすべての力と同じように神権もまた、善いことを成し遂げるためには行使する必要があります。皆さんは、暗闇の中で自分の光を隠すことなく「立って光を放〔つ〕」よう呼びかけられています（教義と聖約 115：5）。勇敢な者のみが、選ばれた者の一人に数えられます。自分の持つ神聖な神権の力を行使するならば、皆さんの勇氣と自信は増すでしょう。若い男性の皆さん、皆さんは神の務めを行っているときに最高の自分になれることを知っているはずで、熱心に善いことに携わっているときに最も幸福を感じることを知っているでしょう。清く、ふさわしくなり、神権の力を尊んで大いなるものとしてください。

ジェフリー・R・ホルランド長老が半年前



にこの壇上で話したことをもう一度繰り返します。「老いも若きも、この善と悪の戦いを危惧するすべての男性に、参戦して声を上げるようお願いします。これは戦いです。……さらに強く、献身的に福音を証してください。悪……に対する証だけでなく、善と福音についての証と、神についての証をしてください。」「戦い止むまで」『リアホナ』2011年11月号、44、47)

そうです。アロン神権者の皆さん、これは戦いなのです。そしてこの戦いにおいて、悪から身を守る最も良い方法は、積極的に義を押し進めることです。下品な

言葉を聞きながら聞かなかったふりをすることはできません。独りで、あるいはだれかと一緒に、汚れていると分かっている映像や画像を見ながら見なかったように装うこともできません。不潔なものに触れながら、大したことではないと偽ることもできません。サタンが健全で清いものを打ち砕こうとしているときに消極的であってはなりません。果敢に真実だと知っていることを擁護するのです。主の標準にそぐわないものを見聞きしたら、自分が何者であるかを思い起こしてください。皆さんは、神の聖なる神権の力を授けられた、神御自身の軍勢の兵士なので

す。偽りの父である敵に対抗するうえで、真理に勝る武器はありません。神権の力を行使するときに皆さんの口から発せられる真理以上の武器はないのです。友人の多くは、皆さんの勇気と高潔さゆえに敬意を払ってくれるでしょう。そうでない人もいます。しかし、それはどうでもよいことです。天の御父の目的を達成するために御父の力を用いるならば、天の御父の敬意と信頼を勝ち得ることでしょう。

すべてのアロン神権定員会会長会の皆さんにもう一度お願いします。自由の旗を掲げ、皆さんの軍勢を組織し導いてください。悔い改めとバプテスマを通してキリストのみもとに来るよう周りの人を招くことにより神権の力を活用してください。皆さんはそのように行うよう天の御父から命令と力を受けているのです。

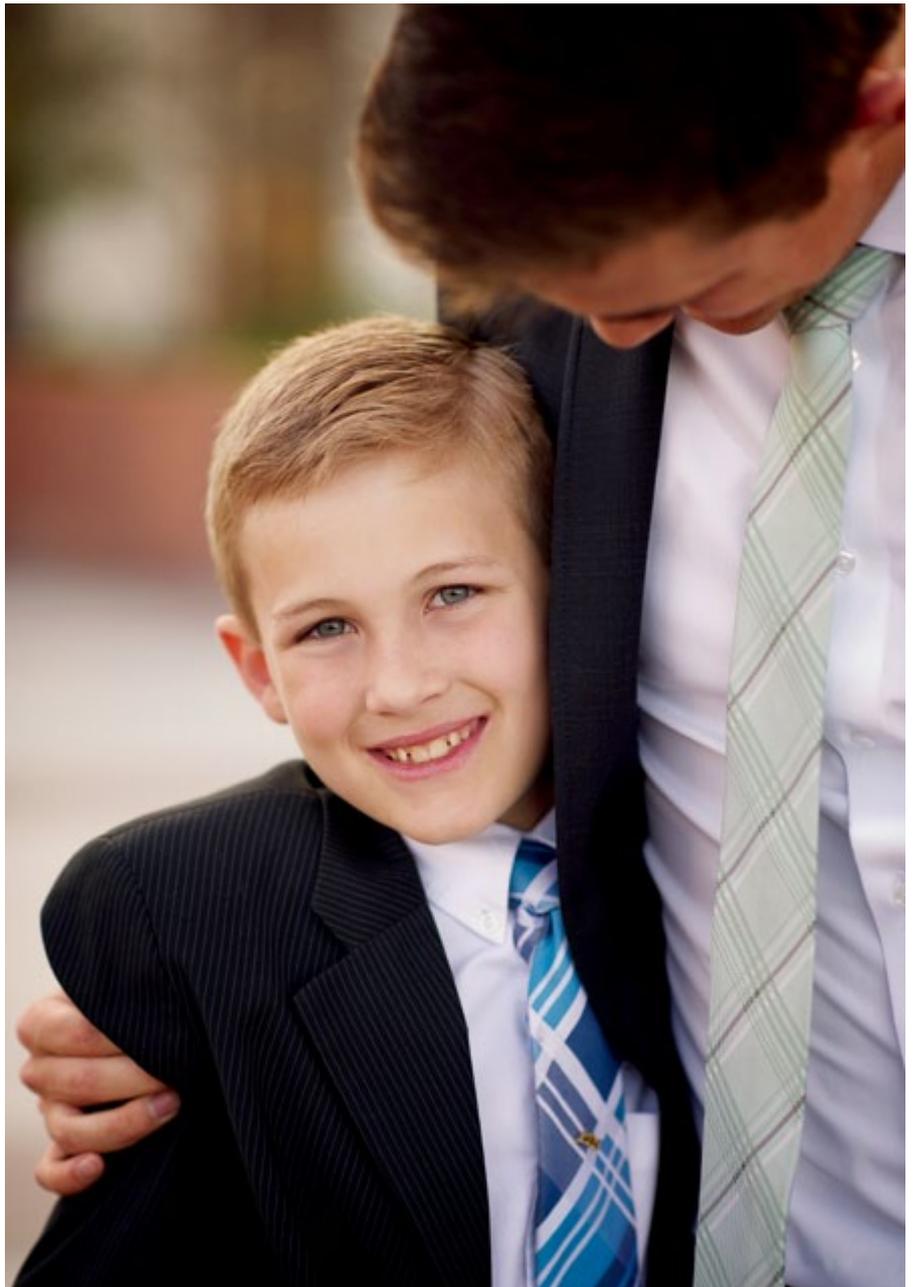
2年前にチリのサンティアゴを訪問した際、わたしはダニエル・オラテという若い男性に大変感銘を受けました。ダニエルは、宣教師とよく一緒にいました。わたしはダニエルに手紙を書いてほしいと頼みました。本人の了承の下、最近届いた電子メールの一部を読みます。「先日ぼくは16歳になり、日曜日に祭司の職に聖任されました。その日、カロリーナという友達にバプテスマを施しました。ぼくが彼女に福音を教えると、彼女は定期的に教会に出席するようになり『成長するわたし』の達成賞までもらいましたが、両親がバプテスマを受けることを許可してくれませんでした。しかしついに両親とぼくは親しくなり彼らがぼくを信頼してくれるようになったのでバプテスマを受けられることになりました。カロリーナはぼくからバプテスマを受けたいと望んだので、ぼくが16歳になる日曜日まで1か月待たなければなりません。彼女のような善い人がバプテスマを受ける手助けができたことをとてもうれしく思います。そして、自分がバプテスマを施せたこともうれしいです。」

ダニエルは、神から託された力にふさわしく生活する、世界各地に住む大勢の若

い男性の一人にすぎません。もう一人、ホンジュラスに住むルイス・フェルナンドという若い男性を紹介しましょう。ルイスは、ある友人が霊を脅かす数々の選択をしていることに気づき、友人に証を述べて文字どおり友人の命を救いました（“A Change of Heart,” lds.org/youth/video 参照）。ブラジルに住むオラボも模範を示してくれました。自分の家庭における真の常任教導者（教義と聖約 84：111 参照）であるオラボは、教会に活発に集うよう母親を促しました（“Reunited by Faith,” lds.org/youth/video 参照）。これらの話の一部や同様の話は、教会の青少年向けウェブサイト、youth.lds.org で視聴することができます。ちなみに、インターネットやソーシャルメディアなどの科学技術は、皆さんが神権の務めを果たし、真理と徳の影響を広めるのを助けるために主が皆さんに授けてくださった道具です。

愛する若い男性の皆さん、わたしが説明したとおりにアロン神権を行使するならば、将来与えられる自分の責任に備えることができます。しかし、皆さんはそれ以上のことを行っているのです。アロン神権者の偉大な模範であるバプテスマのヨハネと同じように、皆さんは主の道を備え、その道筋をまっすぐに行っているのです。ヨハネのように悔い改めとバプテスマの福音を大胆に宣言するならば、皆さんも主の来臨に人々を備えることができます（マタイ 3：3；教義と聖約 65：1-3；84：26-28 参照）。皆さんは、皆さんが大きな可能性を秘めているということをししばしば耳にするでしょう。今こそその可能性を行いに移し、人々を祝福するために神が授けてくださった能力を活用し、人々を暗闇の中から光のもとへと連れ出し、主の道を備える時です。

皆さんが自分の務めを学びそれを果たすことができるよう、教会から冊子『神への務め』が資料として配付されています。この冊子を頻繁に研究してください。ひ



ざまずき、一切の科学技術から遠ざかり、主の導きを求めてください。そして、立って神の力を使ってください。自分自身の生活を送る方法と人を助ける方法について、天の御父から答えが授けられることを約束します。

トーマス・S・モンソン大管長の言葉を引用したいと思います。「皆さんの証が及ぼす影響力を過小評価してはなりません。……皆さんには、友達があまりいない人や目立たない人の長所に気づいてあげる能力が備わっています。目をよく見開き、耳を澄まし、感受性を研ぎ澄ますなら、同年代の人に手を差し伸べ、救いの

道に導くことができるでしょう。」（「模範になりなさい」『リアホナ』2005年5月号、115）

神権の力が実在することを証します。わたしは神権を自分で行使することにより証を得ました。また、アロン神権の力を持つ人々が数々の奇跡を起こすのを目の当たりにしてきました。忠実なアロン神権者が御霊にあふれた希望の言葉を語り、光と愛を必要としている人々の心を開くときに、天使の働きを目にしてきました。わたしたちの主であり、導き手であり、救い主であるイエス・キリストの御名により、アーメン。■



大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長

神権の奉仕をする理由

なぜ福音に従って生きるかという理由となぜ神権があるかという理由を理解することによって、あらゆることに神の目的を見いだすことができます。

神 権を持つ兄弟たちとともに、イエス・キリストの福音の不思議とすばらしさを祝うこの機会を喜びに思います。皆さんの信仰、立派な働き、変わることのない義を称賛します。

わたしたちは皆、聖なる神権の権能と力を託された人から神の神権に聖任されているという、一つのきずなで結ばれています。これは大いなる祝福であり、神聖な責任です。

なぜという問いの持つ力

わたしはこの数日、神権者として教会で受けた二つの重要な召しについて考えました。

一つ目は執事のときに受けた召しです。ドイツのフランクフルトで、わたしは家族とともにある小さな支部に出席していました。支部にはすばらしい人がたくさんいました。支部会長のランツシュルツ兄弟がその一人でした。いつも少しまじめで、固い感じがして、たいいてい黒っぽいスーツを着ている人でしたが、わたしは彼を心から尊敬していました。少年時代には、支部会長がどれほど古くさいか友達と冗談を言ったものでした。

今このことを考えると笑ってしまいます。今日教会の青少年はわたしを同じように見ているかもしれないからです。

ある日曜日、ランツシュルツ会長はわたしに話があると言いました。とっさに、「何か悪いことをしただろうか」と考えました。支部会長と執事の話し合いの引き金となったかもしれない自分の振る舞いを急いであれこれ考えました。

集会所に支部会長室がなかったので、ランツシュルツ会長は小さな教室にわたしを招き入れました。そして、執事定員会会長として奉仕する召しをわたしに告げたのです。

支部会長は「これは大切な責任ですよ」と言ってから、時間を取って、理由を説明しました。主と支部会長がわたしに何を期待しておられるか、またわたしがどのように助けを受けられるかを説明してくれました。

支部会長が何を言ったかはほとんど忘れてしまいましたが、自分がどう感じたかははっきりと覚えています。彼が話している間、聖なる神の御霊を感じました。この教会が救い主の教会であり、支部会長から受けた召しが聖霊によって靈感を受けたものであると感じました。わたしはちょっとだけ大人になったような気持ちでその小さな教室を後にしたことを覚えています。

それから60年近くがたちますが、そのとき感じた信頼と愛は今も大切にしてい

ます。

この経験を振り返っていたとき、当時支部に執事が何人いたかを思い出そうとしました。わたしの記憶が正しければ確か二人だったと思いますが、わたし一人だったかもしれません。

しかし執事が1人であろうと12人であろうと、問題ではありませんでした。わたしは誇りを感じ、最善を尽くして奉仕したい、支部会長や主を失望させたくないと思いました。

今考えると、支部会長は形だけわたしをその職に召すこともできました。廊下で簡単に伝えることも、あるいは神権会の中にわたしが新しい執事定員会会長になったと発表することもできました。

しかし彼は時間を取って、わたしの割り当てと新しい責任が何かということだけでなく、それよりはるかに重要である、割り当てがなぜあるのかを理解できるように助けてくれました。

このことはずっとわたしの記憶に残るでしょう。

この話の目的は、(正しく行われたすばらしい模範ではありますが、)教会で召しを伝える方法を説明するものではありません。これは、神権指導者に備わっている、人を動かす力、すなわち霊を呼び覚まし行動を起こさせる力についての教えです。

わたしたちは、行うよう命じられていることの背後にある永遠の理由を、常に心に留めておく必要があります。たとえ何度も繰り返し学ぶことを意味するとしても、福音の基本原則を生活に取り入れていかなければなりません。と言っても、その過程が機械的で退屈だということではありません。むしろ家庭や教会で基本原則を教えるとき、福音に対する熱意と、力強い証が相手の心に光とぬくもりと喜びをもたらすようにしてください。

聖任されたばかりの執事から最高齢の大祭司に至るまで、わたしたちには皆、神権の責任において何ができ、何をなすべきかを挙げたリストがあります。わたした



ちの働きにおいて、**何**をするかは重要であり、注意を払う必要があります。けれども、神権の奉仕をするのは**なぜか**という理由の中にこそ、神権のほとばしる火と情熱と力を見いだすことができるのです。

神権の奉仕とは**何であるか**を知ることにより、なすべきことを理解します。そして神権の奉仕をするのは**なぜか**を知ることによって心が奮い立ちます。

何であるかという問いは知識を与えますが、**なぜか**という問いは物事を変えるのです。

なすべき「良い」ことは数多くある

わたしの心に浮かんだもう一つの神権の召しは、それから何年も後に家庭を持ってから受けたものでした。ドイツのフランクフルトに戻ったわたしは仕事で昇進し、そのためかなりの時間を取られ、意識も向けなければなりません。人生のこの多忙な時期に、ジョセフ・B・ワースリン長老からステーク会長として奉仕する召しを受けました。

その面接の間、多くの思いが胸をよぎりましたが、この召しに必要となる時間が取れないかもしれないと悩むことはありませんでした。その召しによってわたしはへりくんだり、また榮譽に感じましたが、受けることができるだろうかと少しの間だけ考えました。けれどもそれはすぐに消えました。なぜなら、ワースリン長老は神から召されていて、主の業を行っていることをわたしは知っていたからです。受け入れる以外に選択肢があるでしょうか。

時にわたしたちは、足を踏み出せば神が必要な答えと指示を与えてくださると信じて、^{くらやみ}暗闇の中を信仰によって歩まなければならないことがあります。そしてわたしは神が与えてくださると確信し、喜んで召しを受けました。

この割り当てを受けた初めのころ、わたしたちはステークとして、ラッセル・M・ネルソン長老やトーマス・S・モンソン大管長など、教会の最も偉大な教師や指導者の訪問を受け、訓練される特権にあずかりました。彼らの教えはわたしたちにとって

天からの露のようであり、靈感となりました。そうした訓練集会で記したメモは今でも持っています。彼らは、個人の証を築き家族を強めることで神の王国を築くとはどのようなことか理解させてくれました。福音の真理と原則を当時のわたしたちの状況に合わせて応用する方法を分かってくれました。別の言葉で言えば、靈感あふれる指導者たちは福音の中にある**なぜ**という問いを理解できるよう助けてくれました。それからわたしたちは腕まくりをして実行に取りかかったのです。

程なくして、ステーク会長会ができることはたくさんあることを知りました。事実、あまりに多かったので、靈感によって優先順位を決めないと、重要なことを見落としてしまう恐れがありました。優先度が競合するようになり、幹部の兄弟たちから教わったビジョンからそれてしまうのです。なすべき「良い」ことはたくさんありますが、すべてが最も重要というわけではありません。

わたしたちは一つの大切な教訓を学び

ました。良いことだとしても、それが必ずしも時間や人手を注ぎ込む理由にはならないということです。わたしたちの活動、取り組み、計画はなぜ神権の奉仕をするのかという基本的な理由を根拠とすべきであって、流行や一時的な関心に流されてはならないのです。さもないと、それらは努力の妨げとなり、力を弱め、主の弟子としての焦点から外れ、自分たちの霊的、物質的な関心に偏ってしまいかねません。

兄弟の皆さん、神と隣人に対する愛を深め、結婚生活を活気づけ、家族を強め、地上に神の王国を築くために最も役立つ事柄に集中し続けるには、自分を律することが必要です。枝や葉が生い茂る果樹と同じように、わたしたちの生活も定期的に剪定し、「良い実をならせる」¹ というまことの目的に労力と時間を使う必要があります。

あなたは独りではない

何を選ぶべきかを知るにはどうすればよいでしょう。選ぶ責任はわたしたち一人一人にあります。けれども、わたしたちは熱心に聖文を研究し、預言者の言葉に聞き従い、信仰を込めて、厳粛かつ熱心に祈るよう命じられています。

兄弟の皆さん、神は必ず約束を果たしてくださいます。神は聖なる御霊を通して、わたしたちが人生の様々な場面で行くべき道を、思いと心に告げてくださいます。

清い心を持ち、自分の栄光ではなく全能の神の栄光を求め、御父の御心を行うことを求め、家族と隣人の生活に祝福をもたらすことを願うならば、わたしたちは独りで歩むことはありません。モンソン大管長がしばしば述べているように、「わたしたちは主の用向きを受けて働くときには、主の助けを頂く特権があるのです。」²

天の御父はこう言われました。「わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたが

たの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」³

行動の力

愛する兄弟の皆さん、神権の奉仕に対して神が授けてくださる祝福は、わたしたちが熱心に努力し、進んで犠牲を払い、正しいことを行いたいと望むときに実現します。作用されるものでなく作用するものになりましょう。教えを説くことはいいことですが、行動に結びつかない説教は、熱くない火や、渴きをいやせない水のようなものです。

教義を応用してこそ、福音の聖めの炎が燃え、神権の力が心を燃え立たせるのです。

白熱電球を発明したトーマス・エジソンは「アイデアの値打ちは、活用することにある」と言いました。⁴ 同じように、福音の教義は実践するときにいっそう価値を持ちます。

神権の教義を心の中で眠らせ、生活に応用しないままにははいけません。自分自身の家庭も含め、救い出す必要のある夫婦や家族がいるとしたら、手をこまねていることのないようにしましょう。信



仰、悔い改め、赦し、再出発の機会を伴う幸福の計画に感謝しましょう。神権とその力は永遠の家族のすばらしさと聖さを取り戻し、守るために存在します。わたしたちは神権の教義を応用することによって、神権の奉仕をする理由を理解する夫、父親、息子になることができます。

総大会は常に、福音に耳を傾け、実行する良い機会です。「ただ聞くだけの者」でなく、「御言を行う人」になりましょう。⁵ 兄弟の皆さん、今週末に神の僕たちが語る言葉を深く考えるよう勧めます。それから、ひざまずいて祈ってください。思いを啓発し、慰めを与えてくださるよう天の父なる神に願い求めてください。日常生活や教会の責任について、また現在の具体的な問題について、導きを求めてください。御霊の促しに従いましょう。先延ばしにはなりません。これらすべてを行うならば、主はともに歩んでくださることをわたしは約束します。

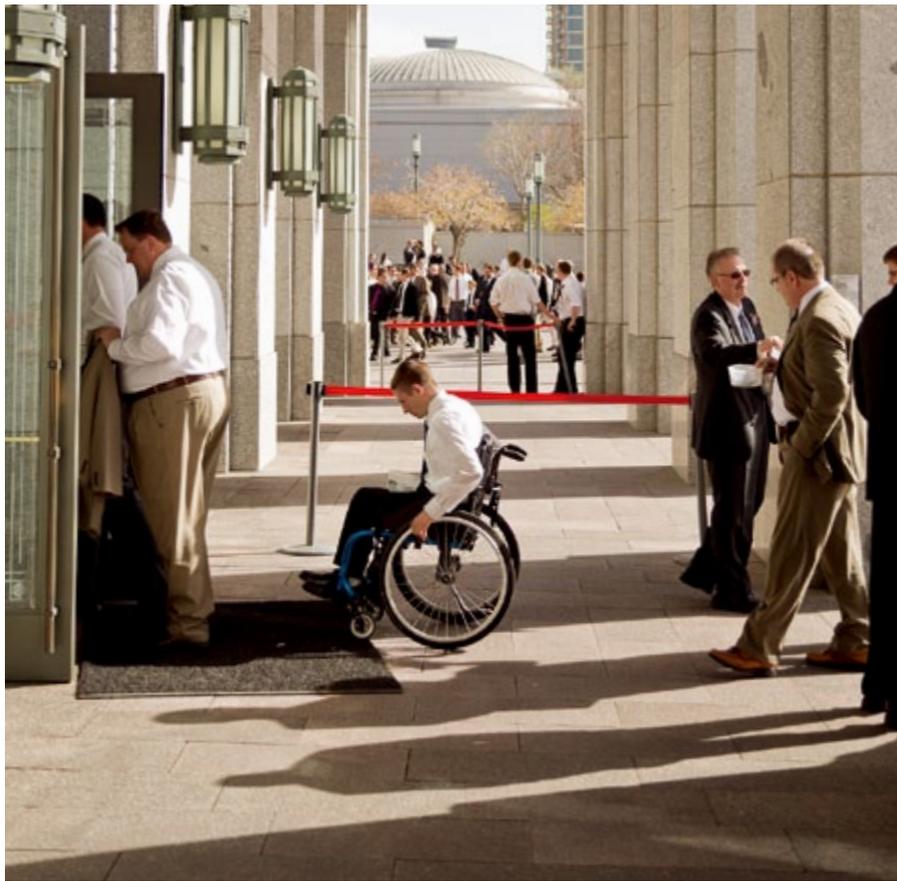
忍耐し続けなさい

善意があっても、物事は必ずしも計画どおりにいきません。わたしたちは人生や神権の奉仕において過ちを犯します。時にはつまずき、今一歩届かないことがあります。

「[わたしたち]が完全になるまで忍耐し続けなさい」⁶と助言しておられる主は、時間と根気が必要であることを御存じです。なぜ福音に従って生きるかという理由となぜ神権があるかという理由を理解することによって、あらゆることに神の目的を見いだすことができます。たとえ難しいことだとしても正しいことを行うよう、励まし力づけてくれます。福音に従って生活するという基本原則に常に集中することによって、明瞭さと知恵と導きを祝福されます。

「わたしたちはこのような偉大な大義において前進しようではありませんか。」⁷ そうです、兄弟たち、前進しましょう。

わたしたちは聖なる御霊の導きにより、



過ちから学びます。つまずいても起き上がり、たじろぐことがあっても前進しましょう。わたしたちは決して揺れ動かず、あきらめません。

神の永遠の神権を持つ偉大な兄弟たちの集まりとして、わたしたちは肩を並べて団結し、イエス・キリストの回復された福音の原則に集中し、献身と愛をもって喜んで神と隣人に仕えます。

神は生きておられる

愛する兄弟の皆さん、父なる神と御子イエス・キリストは生きておられることを証します。御二方は実在し、そこにおられます。

皆さんは独りではありません。天の御父は皆さんを気遣っておられ、皆さんを義のうちに祝福し支えたいと願っておられます。

神は確かに、今の時代においても人類に言葉をかけておられます。神は皆さんに話されるのです。

預言者ジョセフ・スミスは彼が見たと書いたものを見ました。末日聖徒イエス・キリスト教会は全能の神の力と権能によって地上に回復されました。

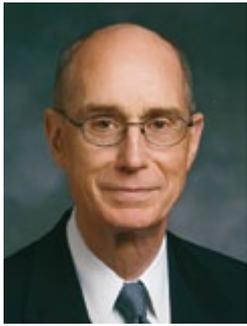
わたしたちが神の神権者として、自分の生活と仕える人々の生活を変えるため、

なぜ神権の奉仕をするのかという目的にいつも添って歩み、回復された福音の原則を活用するよう祈っています。

そのように行なうなら、贖いの無限の力により霊と人格を清められ、磨き上げられて、わたしたちは目指しているような人になることができます。このことをイエス・キリストの聖なる御名によって証します、アーメン。■

注

1. マタイ7:18
2. トーマス・S・モンソン「学び、行い、人格を築く」『リアホナ』2008年11月号、62
3. 教義と聖約84:88
4. トーマス・エジソン。エルバート・ハバード、Little Journeys to the Homes of Good Men and Great, Book 2 (1910年)、155で引用
5. ヤコブの手紙1:22
6. 教義と聖約67:13
7. 教義と聖約128:22



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

聖約の下にある家族

皆さんの家族に与えられるものの中で、結び固めの祝福ほど大切なものはありません。

地 上で神の神権を持つすべての者が招かれているこの集會に皆さんとともに集えたことに感謝しています。わたしたちは祝福されて、トーマス・S・モンソン大管長の管理の下でこの集會を開いています。モンソン大管長は、教会の大管長として生ける者の中でただ一人、家族を結び固め、永遠の命を得るために必要なすべての神権の儀式を結び固める鍵かぎに対して責任を持つ人です。永遠の命は、神のあらゆる祝福の中で最も大なるものです。

教会に再び活発になったある父親が今晚、この集會の話に耳を傾けています。それは、結び固めという保証が欲しいと心から望んでいるからです。この父親とその妻は、二人の幼い子供、自分たちの小さな息子と娘を愛しています。ほかの親と同じく、この父親も、次の言葉を読んで、天にある幸福を思い浮かべることができます。「ここでわたしたちの間にある交わりが、そこでもわたしたちの間にある。ただし、その交わりには、わたしたちが今享受していない永遠の栄光が伴う。」¹

今晚わたしたちと一緒に話を聞いているその父親は、どうすればその輝かしい目標に到達できるかを知っています。生易しい方法ではありません。そのことを彼はすでに知っています。イエス・キリストを信じる信仰を持ち、心から悔い改め、心の変化を経験する必要がありました。

それができたのは、愛にあふれる主の赦ゆるしを感じられるよう助けてくれた優しいビショップのおかげです。

エンダウメントを受けるために聖なる神殿に参入したとき、さらにすばらしい変化が彼に起こりました。エンダウメントについては、この神権時代の最初の神殿で力を授けられた者たちに主が次のように説明しておられます。オハイオ州のカートランドで主は次のように言われました。

「このために、わたしは、オハイオへ行くようにという戒めをあなたがたに与えたのである。わたしはそこであなたがたにわたしの律法を与えよう。あなたがたはそこで、高い所から力を授けられるであろう。

そして、……わたしには備えてある一つの大なる業がある。イスラエルは救われ、わたしは自分の望む所に彼らを導く。そして、どのような力もわたしの手をとどめ得ないであろう。」²

最近教会に活発になったわたしのこの友人と、すべての神権者にとって、備えてある一つの大なる業とは、わたしたちに託されたイスラエルの民の一部である自分の家族や、これから託される家族を救う働きを率先して行うことです。家族を救うためには神の聖なる神殿で、メルキゼデク神権の力によって家族が結び固められなければならないことを、わたしのこの友人とその妻は知っていました。

彼は結び固めの執行をわたしに頼んで来ました。友人とその妻は、できるだけ早く結び固めをしたいと思っていました。総大会を間近に控えた忙しいスケジュールの中、わたしは秘書と話し合っただけいい日を見つけるようその夫婦と彼らのビショップに伝えました。

結び固めを4月3日に設定したことを教会でこの父親から聞いたときのわたしの驚きと喜びを想像してみてください。それは、身を変えられた預言者エリヤが1836年にカートランド神殿に送られてジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに結び固めの権能を授けた日です。この結び固めの鍵かぎは今日教会にあり、時の終わりまで続きます。³

これは、主が次のように約束してペテロに授けた聖なる権能と同じ権能です。「わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつなぐれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。」⁴

エリヤの再来は、神権を持つすべての人を祝福しました。ハロルド・B・リー長老は、総大会でジョセフ・フィールディング・スミス大管長の言葉を引用しながら、これについて分かりやすく話しています。よく聞いてください。「わたしも、ここにいる兄弟の皆さんも神権を持っています。わたしたちはメルキゼデク神権を受けています。これは、エリヤとその他の預言者が持っていた神権であり、ペテロ、ヤコブ、ヨハネが持っていた神権です。バプテスマを施す権能があり、あんしゅ按手によって聖靈の賜物たまものを授け、ほかの人を聖任してこれらすべての儀式を行わせる権能があったとしても、結び固めの権能がなければわたしたちには何もできません。行った儀式に効力がないからです。」

スミス大管長は、続けてこう述べました。「神の王国で昇栄するために不可欠な、より高度な儀式、さらに大なる祝福は、……ある特定の場所でしか得ることができません。……そうした儀式を執行する



権限は、鍵を持つ人から権能を受けないかぎり、いかなる人も持つことができません。……

……鍵を持つ教会の大管長が承認しないかぎり、この福音のどのような儀式を執行する権限も、この地上の人は持つことがないのです。大管長はわたしたち神権者に権能を与えました。そして彼はわたしたちの持つ神権の中に、結び固めの権能を含めました。そのようなことができるのは、大管長がその鍵を持っているからです。』⁵

ボイド・K・バッカー会長も結び固めの権能について書いたときに同じことを述べています。これらの言葉が確かであることを知っているのがわたしは心が安らぎます。4月3日に結び固めを受ける家族も同じように感じているでしょう。「ペテロは、この鍵を持つことになりました。結び固めの力、すなわち、地上でつなぎ、結び固め、解くことが、天でもそのとおりになるという権能でした。このもろもろの鍵は大管長、すなわち預言者、聖見者、啓示者が保持します。この神聖な結び固めの力が、今この教会にあります。この権能

の意味を理解している人にとって、この権能ほど神聖なものはありません。また、この権能ほど大切に保持されてきたものはほかにありません。いつの時代においても、地上でこの結び固めの力を授けられた人は、比較的少数でした。現在では各神殿に結び固めの力を持つ兄弟たちがいますが、それでもそう多くはいません。そしてこの力は、預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長からしか受けることができません。』⁶

エリヤが来たときには、神権に権能が与えられただけでなく、心が家族に向けられるようになりました。「エリヤの霊と力と召しとは、すなわち皆さんには啓示、儀式、神託、力、エンダウメントの鍵を持つ力があるということです。それは、メルキゼデク神権と地上における神の王国のすべてにかかわるものです。それは、神の王国に属するすべての儀式を受け、得、執行するためのものであり、先祖の心を子孫に、先祖すなわち天にいる人々に子孫の心を向けるためのものです。』⁷

わたしの友人とその家族は、すでに心を家族に向けています。皆さんも、今この

集会でそのような気持ちになっているかもしれません。わたしもそうですが、皆さんも心に母親や父親の顔を思い浮かべたかもしれません。あるいは姉や妹、兄や弟、あるいは、娘や息子の顔を思い浮かべているかもしれません。

皆さんが思い浮かべた人は霊界にいるのかもしれませんが、遠い所にいるのかもしれませんが、しかし、彼らとは、神が尊ばれる神権の儀式によってすでに、あるいはこれから結び固めを受けることができるのですから、彼らとのつながりを確信し喜ぶことができます。

結び固められた家族の父親であるメルキゼデク神権者は、なすべきことを教えられています。皆さんの家族に与えられるものの中で、結び固めの祝福ほど大切なものではありません。神の神殿で交わした、あるいはこれから交わす結婚の聖約と家族の聖約を尊重すること以上に大切なことは何もないのです。

方法は簡単です。約束の聖なる御霊が、わたしたちの従順と犠牲を通して神殿の聖約が来世で実現するよう結び固めてくれることでしょう。ハロルド・B・リー



大管長は、約束の聖なる御霊によって結び固められることの意味を、メルビン・J・バラード長老の言葉を引用して次のように説明しています。「わたしたちは人を欺くことができても、聖霊を欺くことはできません。そして、わたしたちが受けている祝福は、約束の聖なる御霊によって結び固められないかぎり永遠に続くことはないのです。聖霊は、人の思いと心を読み、彼らに宣言された祝福を承認して結び固めてくださる御方です。聖霊に承認されて初めて、結び固めは拘束力を持ち、有効となり、効力を発するのです。」⁸

アイリング姉妹とわたしはユタ州ローガン神殿で結び固められたとき、その約束の重大さをすべて理解していたわけではありませんでした。今でもそのすべての意味を理解しようと努めています。わたしは結婚生活をスタートした50年近く前に、家族の中にできるかぎり聖霊を招こうと決意しました。

若い父親だったとき、わたしは初めてジョセフ・フィールディング・スミス大管長に会いました。神殿で結び固められたわたしの心は妻と幼い子供たちに向いていました。大管長会室に呼ばれて行くと、そこでこの上ない確かな証が与えられました。ハロルド・B・リー管長は、彼のす

ぐ隣に座っていたスミス大管長について、「あなたは彼が神の預言者であると信じますか」とわたしに尋ねました。

スミス大管長は部屋に入って来たばかりで、まだ一言も話していませんでした。わたしは自分の心に降ってきた何かに促されて次のようにはっきりと答えられたことに永遠に感謝することでしょう。「彼が預言者であることを知っています。」わたしは、太陽が輝いているのと同じくらい確かに、彼が預言者であって、地上のすべての人のために神権による結び固めを行う権能を持っていることを知っていたのです。

この経験の後だったので、スミス大管長が1972年4月6日に総大会の部会で次の勧告を与えたとき、その言葉はわたしと妻の心に響きました。「家族のきずなを強め守るよう主は望んでおられます。父親が家族の長としてふさわしい地位を占めるようにとわたしたちは願っています。母親が夫を支え励まし、子供たちの光となるよう願っています。」⁹

天の御父と救い主のみもとに帰れるよう家族を励まし導くために、神権を持つ父親として皆さんにできることを4つ提案します。

第1に、わたしたちには神権の鍵があ

り、教会の大管長がその鍵を持っているという確かな証を得て、その証を保ってください。その証が得られるよう毎日祈ってください。祈りはこたえられて家族を導こうとする決意と望みが強くなり、奉仕の喜びが増し加わります。皆さんはさらに明るく楽天的になるでしょう。それは、妻と家族にとって大いなる祝福です。

2番目に必要なのは、妻を愛することです。必死に生きていく中で、自分のことよりも妻のことを優先させるには、信仰と謙遜けんそんが必要になります。ほかの人のために奉仕しながらも、妻と家族を扶養する責任があなたにはあります。時には精力も力も使い果たしてしまうかもしれませんが、年を取り、病気がちになると妻に手がかかるようになるかもしれません。そうなったとしても妻の幸せを優先するならば、妻への愛が深まることを約束します。

第3に、家族全員が互いに愛し合えるよう助けてください。エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう教えています。

「永遠の見地に立って見れば、救いは家族で取り組む事業です。……

子供にとって何にも増して必要なのは、自分が愛され、必要とされ、価値を認められていると心で感じ、理解することです。子供たちは、このことを繰り返し確信する必要があります。これは、明らかに両親が果たすべき務めです。そして最も頻繁に、最善の方法でこの務めを果たせるのは母親なのです。」¹⁰

愛されているという気持ちを与えてくれるもう一つの大切な源があります。それは、家族の中のほかの子供たちからの愛です。親のたゆまぬ努力と神の助けがあって初めて、兄弟姉妹は常に助け合うようになります。これが真実であることを、皆さんは自分の家族で経験して知っているはずで、そして、義にかかったリーハイと妻サラリアの家庭で起こった争いについてモルモン書の記録を読むたびに、確かにそのとおりだと思うのです。

彼らが家庭内の争いをうまく治めたこ

とは、わたしたちにとって指針となります。リーハイとその妻は、イエス・キリストの福音を非常に上手に、しかも忍耐強く教えました。その結果、子孫は幾世代にもわたって、神と互いに対して心を和らげたのです。例えば、ニーファイと他の人々は、敵であった家族のために記録を書き、手を差し伸べました。御霊は折にふれて何千人もの人々の心を和らげ、憎しみを愛に変えました。

父リーハイのように家族をうまく治める方法の一つは、家族の祈りを行い、家庭の夕べなどの家族の時間を取るよう導くことです。祈りの輪の中に祝福の必要な人がいて、その人のために祈ることができる場合には、祈る機会を子供に与えてください。特に兄弟間の不和の兆候を即座に察知し、自分勝手な行動を見逃さないでください。互いのために祈り、互いのために奉仕し合うならば、心は和らぎ、互いのことも両親のことも思いやることができるようになるでしょう。

第4に、戒める必要があるときに、主の方法で家族を導くことができます。わたしたちは主の方法で子供たちを正し、永遠の命に導くという義務を果たすことが

できます。

皆さんは次の言葉を覚えているかもしれません。しかし、日の栄えに行ったときと同じように相手に接することができるよう家族を備えるために、メルキゼデク神権者が力を発揮している様子は見たことはないかもしれません。皆さんはその言葉を覚えています。それはとても有名な言葉です。

「いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、

優しさと純粋な知識による。これらは、偽善もなく、偽りもなしに、心を大いに広げるものである。

聖霊に感じたときは、そのときに厳しく責めなさい。そしてその後、あなたの責めた人があなたを敵視しないために、その人にいっそうの愛を示しなさい。

それは、あなたの誠実が死の縄目よりも強いことを、その人が知るためである。」¹¹

そして次に、シオンの父親であるわたしたちにとって偉大な価値のある約束が与えられます。「聖霊は常にあなたの伴侶

となり、あなたの^{しやく}は義と真理の不変の笏となるであろう。そして、あなたの主権は永遠の主権となり、それは強いられることなく、とこしえにいつまでも、あなたに流れ込むことであろう。」¹²

これはわたしたちには高い標準かもしれませんが、信仰をもって感情の起伏を抑え、高慢な気持ちをへりくだらせるならば、聖霊が認めてくださり、聖なる約束と聖約が確かに果たされるのです。

皆さんには、神権の鍵が再び送られてわたしたちとともにあるという信仰があります。その信仰を通して、愛のきずなで妻と結ばれ、主の助けを頂いて子供たちが互いに対しても両親に対しても心を向け、愛に導かれて御霊が促す方法で行いを正し、教え導くことができるでしょう。

イエスがキリストであり、わたしたちの救い主であられることを知っています。トーマス・S・モンソン大管長が今日地上にある神権のすべての鍵を持ち、それを行使していることを^{あかし}証します。わたしはモンソン大管長を愛し、支持しています。わたしは皆さんを愛し、皆さんのために祈っています。イエス・キリストの聖なる^{みな}御名によって、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 130 : 2
2. 教義と聖約 38 : 32 - 33
3. ジョセフ・フィールディング・スミス, *Sealing Power and Salvation*, Brigham Young University Speeches of the Year (Jan. 12, 1971), speeches.byu.edu 参照
4. マタイ 16 : 19
5. ジョセフ・フィールディング・スミスの言葉, ハロルド・B・リー, Conference Report, 1944年10月, 75で引用
6. ボイド・K・バッカー「聖なる神殿」『リアホナ』2010年10月号, 34 参照
7. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』11
8. メルビン・J・バラードの言葉, ハロルド・B・リー, Conference Report, 1970年10月, 111で引用
9. ジョセフ・フィールディング・スミス「聖徒と世の人々への勧告」『聖徒の道』1972年12月号, 537 参照
10. エズラ・タフト・ベンソン「救い: 家族で取り組む事業」『聖徒の道』1992年11月号, 3, 4
11. 教義と聖約 121 : 41 - 44
12. 教義と聖約 121 : 46

アルバニア、ティラナ





トーマス・S・モンソン大管長

奉仕する意志と ふさわしさ

神権が理解され、その力が尊ばれ、正しく行使され、信仰が示される所ではどこでも、奇跡が起こります。

愛する兄弟の皆さん、皆さんに再び会えて光栄です。総大会の神権部会に出席するときはいつも、これまで教会の神権部会で話してきた、神に仕える気高い指導者たちの教えを思い起こします。多くは他界して永遠の報いを受けていますが、その才気と深み、温かい心は、今なおわたしたちに、靈感された導きを与えてくれています。今晩は神権について、そうした指導者たちの教えを少し紹介します。

預言者ジョセフ・スミスはこう述べています。「神権は永遠の原則であり、日の初めもなく年の終わりもなく、これまでもこれからも神とともに永遠から永遠にわたって存在するものです。」¹

ウィルフォード・ウッドラフ大管長はこう教えています。「聖なる神権は、神が地上の人に御心を伝え、人に働きかけられる際に用いられる手段です。これまで地上を訪れて人に語りかけてきた天の使者たちは、肉体を持っていたときに神権を持ち、尊んだ人々です。そして人が地上に来て以来、神が人の救いのために行ってきたことはすべて永遠の神権によるのであり、それは世の贖いに至るまで変わることはありません。」²

ジョセフ・F・スミス大管長はそれをさらに明瞭に述べています。「神権は……人に委任された神の力であり、この力によって、人は御父と御子と聖霊の御名により、人類家族の救いのために地上で正当に行動することができるのです。権能があると装っているのでもなく、死んだ過去の世代から借りているのでもありません。神権の権能は、わたしたちが生きているこの現代に、天から、すなわち**直接、全能の神の御前から**訪れた仕える天使と霊が授けたものです。」³

最後に、ジョン・テラー大管長はこう教えています。「神権とは何でしょうか。……地でも天でも神の統治を意味します。なぜなら、地でも天でもあらゆる物事が統治されているのは、神権の力と働き、原則によるからであり、その力によってこそあらゆる物事が守られ、支えられているからです。神権はすべてのものを統治し——すべてのものに指示を与え——すべてのものを支え——神と真理に結びつくすべてのものと関係を持っています。」⁴

神の神権が地上にあるこの終わりの時に生きているわたしたちは何と祝福されていることでしょうか。神の神権を持つということは何と大きな特権でしょう。神権は

賜物というよりも、託された奉仕、人の霊を高める特権、人の生活を祝福する機会です。

こうした機会には責任と義務が伴います。わたしは**義務**という気高い言葉と、その言葉が意味するものすべてが好きですし、大切にしています。

立場や状況はいろいろでしたが、わたしは12歳で執事に聖任されてから過去72年間、神権会に出席してきました。ほんとうに時の流れは速いものです。時が流れるにつれて義務は増していきます。義務が薄れたり、減ったりすることはありません。激しい紛争は起きてはまたやみますが、人の魂を勝ち取る戦いには終わりはないのです。主の御言葉はラッパの響きのように、皆さんに、わたしに、そして至る所にいる神権者に響きわたります。「それゆえ、今や人は皆、自分の**義務**を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。」⁵

義務の召しはアダム、ノア、アブラハム、モーセ、サムエル、ダビデが受けました。預言者ジョセフ・スミスも、その後継者たちも受けました。義務の召しは若きニーファイも受けました。ラバンから**真鍮**の版を手に入れるために兄たちと一緒にエルサレムへ戻るよう、父親のリーハイを通して主から指示されたときのことです。ニーファイの兄たちは頼まれたことが難しいと言ってつぶやきました。ニーファイはどのように答えたでしょうか。「わたしは行って、主が命じられたことを行います。主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それだけでなく、主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです。」⁶

それと同じ召しを受けたら、皆さんやわたしは何と答えるでしょうか。レーマンやレムエルのように、求められていることが難しいと言ってつぶやくのでしょうか。⁷それとも、ニーファイのように、「わたしは行きます。わたしはやります」と断言する



でしょうか。進んで奉仕を行い、従うでしょうか。

時折、神の知恵が愚かしく見えたり、難しすぎると思えたりすることがあります。けれどもこの死すべき世で学べる最も偉大で貴重な教訓の一つは、神が語り、人が従うとき、人は常に正しいということです。

わたしは **義務** という言葉と、義務を果たすことによっていかにわたしたちの生活とほかの人の生活が祝福されるかを考え

ると、ある有名な詩人であり作家の書いた言葉思い出します。

わたしは眠り、夢を見た。
人生は喜びである。
わたしは目覚め、知った。
人生は義務である。
わたしは役割を果たし、悟った。
義務は喜びである。⁸

ロバート・ルイス・ステイブソンは別の言い方をしています。「わたしは喜びが何かを知っている。なぜなら務めをよく果たしたからである。」⁹

わたしたちが義務を果たし、神権を使用するとき、真の喜びを見いだします。自分の務めをやり遂げたという満足感を得るのです。

アロン神権であれ、メルキゼデク神権であれ、わたしたちは自分が持つ神権の具体的な義務を教えられてきました。そうした義務について深く考えた後、全力を尽くして遂行してください。そうするためには、各人がふさわしくなければなりません。天の御父が御自分から受け取ってほしいと願われるものを人に差し出すことがともにできるよう、準備を整え、自身を清め、自発的に働きましょう。ふさわしくなければ、神権の力を失う危険性があります。そして神権の力を失えば、昇栄に不可欠な要素を失います。奉仕するためにふさわしくなりましょう。

教会の偉大な教師の一人ハロルド・B・リー大管長はこう述べています。「人は神権者になるとき、主の代理人になります。主から用向きを受けたかのように召しを考えるべきです。」¹⁰

第二次世界大戦中の1944年初頭、神権に関してある経験をした人がいます。マーシャル諸島の中にあり、太平洋上でオーストラリアとハワイの中間地点にあるクウェジェリン環礁を合衆国海兵隊が占領していたときのことです。ハワイで新聞記者として働いていた教会員でない人が語りました。その経験をした後で1944年に書いた記事で記者はこう説明しています。彼とほかの記者たちは、クウェジェリン環礁で海兵隊の第二陣に同行しました。進んで行くと、若い兵士が海中にうつ伏せに浮かんでいるのに気づきました。明らかに重傷を負っています。周囲の浅瀬の水は血で赤く染まっていました。すると、もう一人の兵士が負傷兵のもとへ向かいました。この二人目の兵士も負傷してお

り、左腕が体のわきにだらりと垂れ下がっています。彼は水中に浮かんでいる兵を溺死させないように顔を上に向けさせました。うろたえた声で助けを求めて叫びました。新聞記者たちは、彼が支えていた青年を再び見て答えました。「わたしたちが彼にできることはもう何もないよ。」

記者は書いています。「すると、これまで目にしたことのない光景を見た。自分もひどく負傷しているこの青年は、もう息絶えていそうな仲間の兵士を何とか岸へ運んで行った。そして、仲間の頭を自分のひざに載せた。何という光景だったであろう。ひどく負傷したこの二人の青年は……窮地にあっても清く、立派な若者であった。一人の若者がもう一人の上に頭を垂れてこう言った。『イエス・キリストの御名と、神権の力によって、医師の助けを得られるまで生き長らえるように命じる。』」記者は記事の最後にこう書いています。「わたしたち3人〔二人の兵とわたし〕は、今病院にいる。〔どうして生きていられたのか〕医師は知らない。しかし、わたしは知っている。」¹¹

神権が理解され、その力が尊ばれ、正しく行使され、信仰が示される所ではどこでも、奇跡が起こります。信仰が疑いに取って代わり、無私の奉仕が利己主義を消し去るとき、神の力によって神の目的が遂げられます。

神権を持つわたしたちが、受ける割り当てにこたえるときに、義務の召しは静かに訪れます。謙虚でありながら有能な指導者ジョージ・アルバート・スミス大管長はこう断言しています。「皆さんの義務は、まず主が何を望んでおられるかを知り、それから、人々が喜んで皆さんに従うように、皆さんの聖なる神権の力と強さにより、人々の前で皆さんの召しを尊んで大いなるものとするのです。」¹²

そのような義務の召し、劇的ではなくともなお人の救いに役立つ召しをわたしは受けました。1950年にビショップに新たに召されたときのことです。ビショップと

しての責任は多岐にわたるものでしたが、わたしは求められたすべてのことを行うよう全力を尽くしました。当時、合衆国はまた別の戦争にかかわっており、多くの教会員が従軍していました。そこで教会本部からすべてのビショップへ割り当てが来ま

した。各軍人のために、『チャーチニュース』(Church News)と当時の教会機関誌『インブループメント・エラ』(Improvement Era)の予約購読手続きをし、さらにビショップは皆、自分のワードから出ている軍人一人一人に毎月個人的に手紙を書くよ



うにという依頼でした。わたしたちのワードからは23人の軍人が出ていました。神権定員会が苦心して出版物の購読料を集めました。わたしは毎月23人にそれぞれ手紙を書くという仕事、すなわち義務に取り組み始めました。その後何年もたった今でも、そのときわたしが書いた手紙の多くの写しと返事を持っています。それらの手紙を読み返すと、涙があふれてきます。福音に従って生活したいという兵士の強い願いや、家族とともに福音に忠実であり続けようという水兵の決心を再び知ると喜びを感じます。

ある晩、わたしはその月に出す23通の手紙の束をワードのある姉妹に手渡しました。彼女の割り当ては手紙の郵送と絶えず変わる住所録の整理でした。姉妹は1通のあて名を見て、ほほえんで尋ねました。「ビショップ、がっかりしないのですか。またブライソン兄弟に出すのですか。彼に送るのはこれで17通目ですが、一度も返事が来ていません。」

わたしは答えました。「ええ、でも今月は来るかもしれませんよ。」果たしてほんとうにきました。彼がわたしの手紙に初めて返事をくれたのです。その手紙は大切な記念の宝物です。彼の任地は遠く離れた所で、仲間もなく、ホームシックになり、孤独でした。手紙にはこう書いてありました。「愛するビショップ、わたしは手紙を書くことが苦手です。」(それは数か月前から分かっていました。)続けてこう書いていました。「『チャーチニュース』と機関誌をありがとうございました。でも何より、わたしに向けて書いてくださる手紙に感謝しています。わたしは生活を一新しました。アロン神権の祭司に聖任されたのです。胸がいっぱいで、幸せです。」

ブライソン兄弟にもまして幸せだったのは、彼のビショップでした。わたしは次の言葉を実生活で応用する方法を学びました。「最善の道は、自分の義務を果たすことです。あとは主にゆだねなさい。」¹³

何年か後、わたしはソルトトレック・コッ

トンウッドステークに集っていました。ジェームズ・E・ファウスト長老がステーク会長を務めていたときです。わたしは軍人に心を向けるように勧めるために、軍務に就く会員に手紙を書いたときの話をしました。集会後、立派な青年が進み出て来ました。彼はわたしの手を取ると尋ねました。「モンソンビショップ、わたしを覚えていらっしゃいますか。」

すぐに、だれだか分かりました。「ブライソン兄弟ですね」と大声で言いました。「お元気ですか。教会ではどんなことをしているのですか。」

親しみを込め、そして明らかに誇らしげに、兄弟は答えました。「はい、元気です。長老定員会の会長会で奉仕しています。わたしのことを気にかけて、個人的に手紙を書いてくださってほんとうにありがとうございました。頂いた手紙は今も大切にしています。」

兄弟の皆さん、世の人々はわたしたちの助けを必要としています。わたしたちはすべきことをすべて行っているでしょうか。ジョン・テラー大管長の次の言葉を覚えているでしょうか。「召しを尊んで大いなるものとしなければ、神は、皆さんが義務を果たしていたら救えたはずの人々への責任を皆さんに帰せられます。」¹⁴足を踏み外さないよう助けてあげられる人がいます。手を握り、励まし、鼓舞し、救うべき人がいます。永遠の祝福が皆さんを待っています。神権の奉仕という舞台の観客ではなく出演者となるのは皆さんの特権です。ヤコブの手紙に書かれた、心を揺り動かす勧告に耳を傾けましょう。「御言みことばを行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけません。」¹⁵

わたしたちの義務を学び、深く考えましょう。奉仕する意志とふさわしさを身に付けましょう。義務を果たすときに、主の模範に従いましょう。皆さんもわたしもイエスの歩まれた道を歩むとき、主が、ベツレヘムで生まれた子、大工の息子、かつて

生を受けた最も偉大な教師以上の御方であられることが分かるでしょう。主は神の御子であり、わたしたちの救い主、贖い主であられることが分かるようになるでしょう。主は義務の召しを受けたとき、このようにお答えになりました。「父よ、あなたの御心が行われ、栄光はとこしえにあなたのものでありますように。」¹⁶わたしたち一人一人がそのように行えますように、主イエス・キリストの聖なる御名により祈ります、アーメン。■

注

1. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』104
2. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』38
3. ジョセフ・F・スミス、*Gospel Doctrine*, 第5版(1939年),139-140, 強調付加
4. 『歴代大管長の教え——ジョン・テラー』119
5. 教義と聖約107:99, 強調付加
6. 1ニーファイ3:7。1-5節も参照
7. 1ニーファイ3:5 参照
8. ラビンドラナート・タゴールの言葉。ウィリアム・ジェイ・ジェーコブズ, *Mother Teresa: Helping the Poor* (1991年), 42で引用
9. ロバート・ルイス・スティーブンソンの言葉。エルバート・ハバード2世編, *The Note Book of Elbert Hubbard: Mottoes, Epigrams, Short Essays, Passages, Orphic Sayings and Preachments* (1927年), 55で引用
10. *Stand Ye in Holy Places: Selected Sermons and Writings of President Harold B. Lee* (1976年), 255
11. アーネスト・エバーハート・ジュニア, "Giving Our Young Men the Proper Priesthood Perspective," タイプ原稿 1971年7月19日付, 4-5, 教会歴史図書館
12. ジョージ・アルバート・スミス, *Conference Report*, 1942年4月, 14で引用
13. ヘンリー・ワーズワース・ロングフェロー, "The Legend Beautiful," *The Complete Poetical Works of Longfellow* (1893年), 258
14. 『歴代大管長の教え——ジョン・テラー』164
15. ヤコブの手紙1:22
16. モーセ4:2



大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長

あわ 憐れみ深い人たちは 憐れみを受ける

心が神の愛で満たされると、わたしたちは、「互に情深く、あわれみ深い者となり、……互にゆるし合〔う〕」ようになります。

愛 する兄弟姉妹の皆さん、先日、悩みを抱えたある母親から手紙を受け取りました。総大会で、彼女の二人の子供にとって特に助けとなる話をしてほしいとありました。彼女の二人の子供は仲が悪くなり、口をきかなくなりました。母親は心を痛めました。手紙の中で、総大会でこのテーマについて語られれば、子供たちは和解し、万事が好転するだろうと書いています。

この姉妹の心からの願いは、今日わたしが話すべきことについて、この数か月受けてきた促しの一つでした。それは、気に病んでいる一人の母親のみならず、多くの教会員、さらには、この世の多くの人にとって深刻な問題となっているテーマでもあるのです。

総大会の話によって子供たちは和解できると信じる、この愛情深い母親の信仰にわたしは感動しました。話者の能力よりも、「どのようなことよりも民の心に力強い影響を及ぼ〔す〕……神の言葉の力」¹の方に彼女は信頼を置いているとわたしは確信しています。愛する姉妹、御霊がお子さんたちの心に働きかけてくださるようわたしは祈っています。

関係が悪くなるとき

人間関係のひずみや破綻は、人類の歴史と同じくらい古くからあります。古代のカインは、反感と恨みという癌に心をひどくむしばまれた最初の人です。彼は心という名の畑をねたみと憎しみで耕し、そうした感情を熟すに任せ、やがてとんでもないことをしました。弟を殺害し、その過程でサタンが言う偽りの父となったのです。²

このとき以来、ねたみと憎しみという感情が、これまでに大変痛ましい出来事を引き起こしてきました。その感情によってサウルはダビデに、ヤコブの息子たちは弟のヨセフに、レーマンとレムエルはニーフアイに、アマリキヤはモロナイに敵対したのです。

地上のすべての人は、争い、憤り、復讐心という破壊的な感情に何らかの形で影響されていることでしょう。自分がこの感情を抱えていることに気づくことさえあるでしょう。不快感や怒り、ねたみを抱くとき、自分の憤りを正当化するために、相手の行動には邪悪な動機があると決めつけて、裁くことは容易なことです。

教義

もちろん、それが正しくないことはだれもが知っています。教義は明らかです。わたしたちは皆救い主に依存していて、救い主なしにはだれも救われません。キリストの贖罪は無限であり永遠です。わたしたちの罪の赦しは条件付きです。悔い改めが必要で、人を快く赦さなければなりません。イエスはこう教えておられます。「互いに赦し合〔いなさい〕。……過ちを赦さない者は、主の前に罪があるとされ、彼の中にもっと大きな罪が残るからである。」³「あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう。」⁴

これらの言葉は、他人に当てはめる場合には、まったくそのとおりでと思えます。他人が裁き、悪意を持つときには、その弊害がはっきり見えます。また、確かに、人から裁かれるのは嫌なものです。

しかし、自分が偏見や不満を抱いている場合、自分の怒りは義にならなっていて、判断は確かだと正当化してしまうことが頻繁にあります。人の心の中をのぞけないのに、悪い動機あるいは悪い人間までも、見れば分かると思いついでいるのです。自分が悪感情を抱いているときだけは、例外を設けてしまいます。なぜなら、だれかほかの人を軽蔑して然るべき情報を自分はすべて得ていると感じてしまうからです。

使徒パウロはローマ人への手紙の中で、人を裁く者は「弁解の余地がない」と言っています。また、罪のない人はだれもいないので、相手を裁く瞬間に自分自身を罪に定めるのであるとも述べています。⁵ 赦さないのは重大な罪です。救い主はこの罪について警告しておられます。イエスの弟子たちは、「互いに機をうかがい合い、またその心の中で互いを赦さなかった。そして、この悪のゆえに彼らは苦しめられ、ひどく懲らしめられた」⁶とあります。

救い主はこの件に関して、誤解する余地がないほどはっきり述べておられます。



末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

2012年4月現在

大管長会



第一顧問
ヘンリー・B・アイング



大管長
トーマス・S・モンソン



第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会



ロバート・D・ヘイルズ



L・トム・ペリー



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オックス



M・ラッセル・バラード



リチャード・G・スコット



ロナルド・A・ラスバンド



ジェフリー・R・ホランド



ティモシー・A・キャノン



クエンティン・L・クック



D・トッド・クリストファースン



ニール・L・アンダーセン

七十人会長会



ロナルド・A・ラスバンド



ウォルター・F・ゴンサレス



L・ホイットニー・ユング



ジェイ・E・ジェンセン



ドナルド・L・ホルストロム



タッド・R・カリスター



リチャード・J・メインズ

七十人第一定員会
(アルファベット順)



マルクス・A・
アイトケン



Steve・L・アロンソン



ガーイ・H・アスマス



イアン・S・アサートン



マービン・B・アーンロッド



デイビッド・S・バクスター



ジェームズ・M・ボエーン



クレイグ・A・カードン



権 謙
チノ



クレイグ・C・クリステンセン



ドン・R・クラーク



カール・B・クラック



ローレス・E・コー



クラグ・M・コストロ



リチャード・R・カーター



ベン・H・スミス



ジョン・B・チャキン



ケビン・R・ダンカン



ラリー・E・ハーク



ステファン・G・ヘル



デイビッド・F・エヴァンス



エリック・R・フェラ



エドワード・ガブレイス



ロバート・C・ガイ



カロス・A・ゴット



クリスティアン・E・グートゼン



シェリル・W・ゴンク



G・スコット・グレイ



ジェームズ・J・ハルザ



キース・K・ヘルウィグ



マービン・K・ジェンセン



ダニエル・L・ジョンソン



ロバート・V・ジョンソン



パトリック・K・キロン



ロバート・E・コーリス



エリック・W・コバヤシ



マーク・B・チャピン



ブレント・H・ニールソン



アラン・F・パーカー



ケビン・W・ピソニ



アンドリュー・D・パーソンズ



ポール・B・ペイン



ラフエイル・E・ピップス



ブルース・D・ポーター



チャールズ・G・リーランド



マイケル・T・リングワルド



ロン・G・ロビソン



ジョセフ・W・シャイファー



スティーブン・E・スローン



クルティス・A・ソレンセン



ジェイ・D・マツカレ



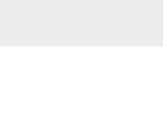
ケント・F・リチャーズ



グレゴリー・A・シュウイッラー



ケント・D・ウィントン



ラリー・Y・ウィルソン

七十人第二定員会
(アルファベット順)



ウィルフォード・W・アンダーソン



菅野 弘一
チノ



ランドール・K・ベネット



ブルース・A・カールソン



ドン・R・クラーク



カール・B・クラック



ローレス・E・コー



クラグ・M・コストロ



リチャード・R・カーター



ベン・H・スミス



ジョン・B・チャキン



ケビン・R・ダンカン



ラリー・E・ハーク



ステファン・G・ヘル



デイビッド・F・エヴァンス



エリック・R・フェラ



エドワード・ガブレイス



ロバート・C・ガイ



カロス・A・ゴット



クリスティアン・E・グートゼン



シェリル・W・ゴンク



G・スコット・グレイ



ジェームズ・J・ハルザ



キース・K・ヘルウィグ



マービン・K・ジェンセン



ダニエル・L・ジョンソン



ロバート・V・ジョンソン



パトリック・K・キロン



ロバート・E・コーリス



エリック・W・コバヤシ



マーク・B・チャピン



ブレント・H・ニールソン



アラン・F・パーカー



ケビン・W・ピソニ



アンドリュー・D・パーソンズ



ポール・B・ペイン



ラフエイル・E・ピップス



ブルース・D・ポーター



チャールズ・G・リーランド



マイケル・T・リングワルド



ロン・G・ロビソン



ジョセフ・W・シャイファー



スティーブン・E・スローン



クルティス・A・ソレンセン



ジェイ・D・マツカレ



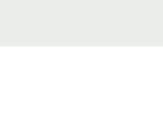
ケント・F・リチャーズ



グレゴリー・A・シュウイッラー



ケント・D・ウィントン



ラリー・Y・ウィルソン

管理ビショップリック



第一顧問
シェルドン・コセー



管理ビショップ
ウィリアム・E・シュタインヒルバー



第二顧問
トーマス・M・テーツ



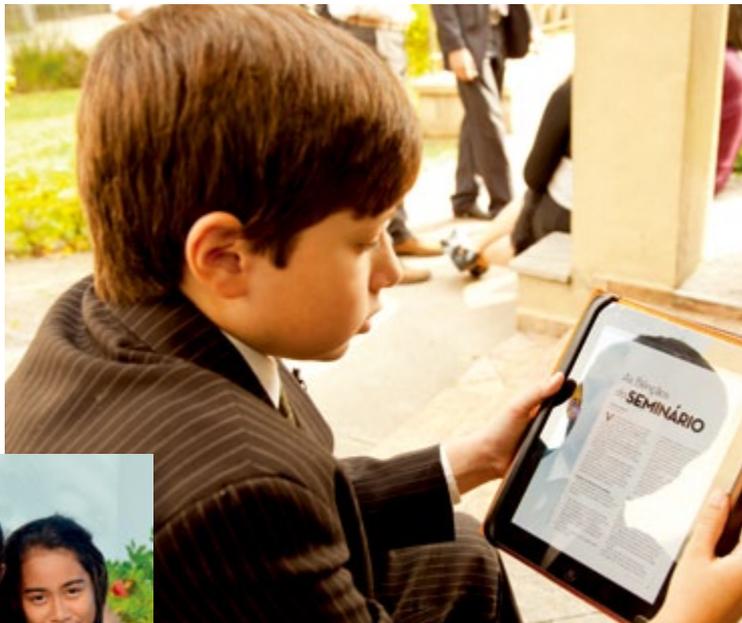
W・クレーク・スワック



クラグ・D・シビック



ポール・F・ザロス



末日聖徒は
 第182回年次総大会のメッセージを聞き、
 人に紹介するという「大きな特権……を
 喜(んだ)」(アルマ61:14)
 宣教師と会員たち——左上の写真から時計回りに、
 アルバニアのティラナ、イングランドのロンドン、
 ブラジルのサンパウロ、
 アメリカ合衆国ミネソタのミネアポリス、
 ロシアのモスクワ、グアムのバリガダ、
 フランスのパリ。





「主なるわたしは、わたしが赦そうと思う者を赦す。」しかし一方で主はこう言われました。「あなたがたには、すべての人を赦すことが求められる。」⁷

ここで一つの注釈を加えたいと思います。すべての人を赦すようにと主が求められるとき、そこには自分自身を赦すことも含まれています。時々、世界中のすべての人の中で赦すのが最も難しい人、そして恐らくわたしたちの赦しを最も必要としている人、それは鏡の中から自分を見詰めている人です。

基本原則

人を裁くというテーマに関しては、実に簡潔な言葉で教えることができます。憎しみ、うわさ話、無視、あざけり、悪意、傷つけたいという衝動を抑えるためには、次の指示に従ってください。

やめなさい!

とても簡潔です。人を裁くのをやめて、批判的な思いや感情を、神とその子供たちへの愛に満ちた心に置き換えるだけでよいのです。神はわたしたちの御父です。わたしたちは神の子供です。皆、兄弟姉妹です。人を裁かないというこの原則を心に刻みつけるために、どれほど雄弁に

熱意と説得力をもって語ればよいか分かりません。聖文を引用し、教義を説いてみることもできます。最近見かけた車のステッカーも紹介しましょう。多少武骨に見える男性が運転する車の後部に張られていた言葉ですが、意義深い教えを伝えています。「あなたとは違う罪を犯しているからと言って、わたしを裁かないください。」

わたしたちは、皆が不完全であること、神の御前に物乞いであることを認識しなければなりません。わたしたちは皆、憐れみの御座に謙虚に近づき、恵みを請うたことがしばしばあるのではないのでしょうか。自分が犯した過ちと罪を赦されようと、あらゆる力を尽くして憐れみを願ったことがあるのではないのでしょうか。

神の憐れみに頼る身であるわたしたちが自分のために恵みを必死に願っているが、その恵みを幾分でも人に施すことを拒めるのでしょうか。愛する兄弟姉妹の皆さん、自分が赦されたいのと同じように、赦すべきではないのでしょうか。

神の愛

それは難しいことでしょうか。はい、もちろんです。

自分も他人も赦すことは容易ではありません。実際、わたしたち大多数の者は、そうするために態度と考え方を大きく変える必要があります。心の変化です。しかし、うれしい知らせもあります。この心の「大きな変化」⁸こそ、イエス・キリストの福音がわたしたちの人生にもたらすものなのです。

どのようにもたらされるのでしょうか。神の愛によってです。

心が神の愛で満たされると、好ましく清い何かがわたしたちに起こります。わたしたちは「[神の] 戒めを守る……。そして、その戒めはむずかしいものではない。なぜなら、すべて神から生れた者は、世に勝つからである。」⁹

神の愛が頭と心を占めるようになればなるほど、天の御父への愛が胸の中で膨らめば膨らむほど、キリストの純粋な愛で人を愛することが容易になります。わたしたちが心を開いて、光り輝くあけぼののような神の愛を受け入れるなら、暗く冷たい悪感情とねたみは、最終的には消えてなくなるでしょう。

キリストはここでもまたわたしたちの模範です。主はその生き方と教えによって道を示されました。邪悪な者、不道徳な

者、御自分を傷つけ危害を加える者を赦されました。

自分を愛する者を愛することは悪人にさえできる容易なことだと、イエスは言われました。しかしイエス・キリストはより高い律法を教えられました。その御言葉は何世紀も前に述べられましたが、今日のわたしたちにも当てはまります。キリストの弟子になろうとするすべての人に当てはまります。皆さんとわたしに当てはまります。「敵を愛し、あなたがたをのろう者を祝福し、あなたがたを憎む者に善をなし、あなたがたを不当に扱い迫害する者のために祈りなさい。」¹⁰

心が神の愛で満たされると、わたしたちは、「互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあって〔わたしたち〕をゆるして下さったように、〔わたしたち〕も互にゆるし合〔う〕」¹¹ ようになります。

キリストの純粋な愛は、憤りと怒りのうろこをわたしたちの目から落とします。天の御父がわたしたちを見ておられるようにほかの人を見ることができるようになります。わたしたちは欠点があり不完全でありながらも、人には想像も及ばぬ可能性と価値を持つ者として御父の目に映っているのです。神がわたしたちを深く愛してくださっているので、わたしたちも互いに愛し合い、赦し合わなければなりません。

弟子の道

愛する兄弟姉妹、自己診断テストとして次の質問について考えてみてください。

あなたは、だれかに悪意を持っていませんか。

あなたの言葉はたとえ真実だとしても、うわさ話になっていませんか。

人がした何かを理由に、その人を無視し、遠ざけ、邪険にいませんか。

だれかをひそかにねたんでいませんか。

だれかを傷つけたいと思いませんか。

これらの質問のどれかに「はい」と答えた場合は、前に述べた簡潔な教えに

従ってください。つまりこうです。やめなさい！

非難と不親切の世界では、石を集めて投げることは容易です。しかし、そうする前に、わたしたちの主であり模範である御方の言葉を思い出しましょう。「あなたがたの中で罪のない者が、まず……石を投げつけるがよい。」¹²

兄弟姉妹、石を置きましょう。

親切になりましょう。

赦しましょう。

穏やかに語り合いましょう。

神の愛を心に満たしましょう。

「だれに対しても……善を行」いましょう。¹³

救い主はこのように約束されました。「与えよ。そうすれば、自分にも与えられるであろう。人々はおし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに量をよくして……くれるであろう。あなたがたの量るその量りで、自分にも量りかえされるであろうから。」¹⁴

この約束は、後ろ向きの態度をやめて、

常に人を思いやり、赦し、愛するために払う努力に十分見合うのではないのでしょうか。

イエス・キリストの弟子として、善をもって悪に報いるようにしましょう。¹⁵ 報復を求めず、怒りに負かされないようにしましょう。

「『主が言われる。復讐はわたしのすることである。わたし自身が報復する』と書いてあるからである。

むしろ、『もしあなたの敵が飢えるなら、彼に食わせ、かわくなら、彼に飲ませなさい。……』

悪に負けてはいけない。かえって、善をもって悪に勝ちなさい。」¹⁶

覚えておいてください。結局、憐れみを受けるのは憐れみ深い人たちなのです。¹⁷

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、どこにしようとも、「互に愛し合う」¹⁸ 民として知られるようになるうではありませんか。

互いに愛し合う

兄弟姉妹、この人生には心痛や悲しみ



は十分あるのですから、わたしたちが頑固や反感や憤りによって、さらに増し加えなくてもよいのです。

わたしたちは完全ではありません。

周りの人は完全ではありません。¹⁹ 人は人を悩まし、失望させ、怒らせるようなことをします。死すべき世では、それはこれからも変わることはないでしょう。

それでも、不満を捨てなければなりません。死すべき世の目的の一部は、そのようなものの捨て方を学ぶことです。それが**主の道**なのです。

覚えておいてください。天国は、赦されもしたし赦しもした人で満ちているのです。

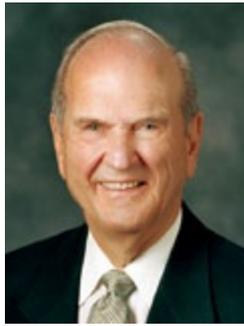
あなたの重荷を救い主の足もとに置いてください。裁かないでください。キリストの贖罪によって心を変えられ癒されてください。互いに愛し合い、赦し合ってください。

憐れみ深い人たちは憐れみを受けるでしょう。

このことを、御自分の命をささげるほどわたしたちを友として深く完全に愛して下さった御方みなの御名あかしによって証します。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

注

1. アルマ 31:5
2. モーセ 5:16 - 32 参照
3. 教義と聖約 64:9
4. マタイ 5:7
5. ローマ 2:1 参照
6. 教義と聖約 64:8
7. 教義と聖約 64:10, 強調付加
8. モーサヤ 5:2
9. 1ヨハネ 5:3-4
10. マタイ 5:44 参照。45 - 47 節も参照
11. エペソ 4:32
12. ヨハネ 8:7
13. ガラテヤ 6:10
14. ルカ 6:38
15. マタイ 5:39 - 41 参照
16. ローマ 12:19 - 21
17. マタイ 5:7 参照
18. ヨハネ 13:35
19. ローマ 3:23 参照



十二使徒定員会

ラッセル・M・ネルソン長老

神に感謝しましょう

皆さんが神の導きと愛にさらに気づき、感謝の気持ちを御父に伝えることができたならどんなにいいでしょうか。

愛 する兄弟姉妹、わたしたちは皆さんの支持と献身に感謝しています。皆さんの一人一人に、わたしたちの感謝と愛をお伝えします。

先日、ネルソン姉妹とわたしは小さな民営の水族館で熱帯魚の美しさを楽しみました。様々な形をした色鮮やかな大小の魚が勢よく泳ぎ回っていました。わたしはそばにいた飼育係に尋ねました。「このきれいな魚たちにえさをあげているのはどなたですか。」

「わたしです」と係の女性は答えました。

そこで、こう尋ねました。「魚たちにお礼を言われたことはありますか。」

「まだありません」とのことでした。

わたしは、同じように自分たちの創造主でありまことの「命のパン」である御方のことを気に留めていない知人たちを思い浮かべました。¹ 彼らは神にも、自分たちに対する神の慈しみにも気づかずに毎日を経営しています。

すべての人が神の摂理と愛にもっと気づき、神に感謝の気持ちを表すことができたなら、どんなにすばらしいでしょう。アンモンは次のように教えています。「〔神〕に感謝をささげよう。神はとこしえに義を行われるからである。」² 感謝の度合いで、神に対する愛の深さが分かります。

神はわたしたちの霊の御父です。³ 栄光を受け、完全なものとした骨肉の体を持っておられます。⁴ わたしたちは生まれ

る前、神とともに天に住んでいました。⁵ そして神によって形ある者に創造されたとき、わたしたちは神の形に造られて、それぞれが自分の体を授かりました。⁶

肉体に養いを与えてくれるものについて考えてください。どれもまさに天から与えられています。空気も食物も水も、必要なものはすべて愛にあふれた天の御父からの贈り物としてもたらされます。大地は、わたしたちのこの世での短い生活を支えるために造られました。⁷ わたしたちは生まれながらに、成長し、愛し、結婚し、家族を築く能力を備えています。

結婚と家族は神によって定められています。家族はこの世においても永遠にわたっても最も大切な社会単位です。神の偉大な幸福の計画の下、家族は神殿で結び固められ、神の聖なる御前みまへに戻ってとこしえに住むのに備えることができます。その生活が永遠の命です。それによって人類の心の奥底にある強い望み、すなわち愛する家族と永遠に親しく交わりたいという自然な願いが成就するのです。

わたしたちは神の神聖な目的の一部です。「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である」と神は言われました。⁸ これらの目的を果たすために、「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子みこを信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためであ

る。』⁹ その行いは、神の至上の愛の表れでした。「神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。』¹⁰

神の永遠の計画の中心にあるのが、御子イエス・キリストの使命です。¹¹ 御子は神の子供たちを贖うために世に來られました。¹² 主の贖罪のおかげで、復活（すなわち不死不滅）が現実のものとなりました。¹³ 贖罪のおかげで、資格を得るすべての人が永遠の命を受けられるようになりました。イエスはこのように説明しておられます。

「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。

また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。』¹⁴

主の贖罪と復活という贈り物に対して、復活祭に関するこの崇高なメッセージに対して、神に感謝しましょう。

天の御父は御自分の子供たちを愛しておられます。¹⁵ 一人一人に肉体と霊に関する贈り物を下さっています。それぞれの贈り物について話しましょう。「神の子です」を歌うとき、皆さん自身の肉体という御父からの贈り物について考えてください。皆さんの体に備わっているたくさんの驚くべき性質が、皆さん自身が持つ「神の性質」を証明しています。¹⁶

皆さんの体の器官一つ一つが神からの驚くべき贈り物です。目にはそれぞれ自動焦点レンズが付いています。神経と筋肉が二つの目を調節して、一つの三次元画像を作ります。目は脳につながっていて、見たものが脳に記録されます。

心臓は驚くほど優れたポンプです。¹⁷ 精巧な弁が4つ付いていて、血液の流れる方向を制御します。これらの弁は1日に10万回以上、1年に3,600万回開閉します。それにもかかわらず、疾患による変化がないかぎり、そうした働きに半永久的に耐えることができます。

体を守る仕組みについて考えてくださ

い。自らを危険から守るために、体は痛みを感知します。病原体が侵入すれば、抗体を作ります。皮膚は体を保護し、過度の熱や寒さのために負傷する恐れがあれば警告します。

体は古くなった自らの細胞を新しくし、生命の維持に不可欠な物質の量を調節します。切り傷や打ち身、骨折を治します。生殖の能力もまた神からの神聖な贈り物です。

人の神聖な行く末を実現するために完全な体は必要ありません。事実、最も清らかな霊の一部は、病弱な体や不完全な体に宿ります。身体に障がいのある人々が、まさにそうした障がいを抱えているが

ゆえにすばらしい霊的な強さを身に付けることがよくあります。

人体の働きを研究する人であれば確かに「尊厳と力をもって進む神を見〔て〕」います。¹⁸ 体は神の律法によって治められているので、どのような治癒も、その祝福が基づく律法に従うことによってもたらされます。¹⁹

それにもかかわらず、肉体が持つこれらの驚くべき性質は偶然生じたもの、あるいはどこかで起こった大爆発の結果生じたものだと誤って考えている人々がいます。自問してみてください。「印刷店で爆発が起こって辞書が誕生するということがあるだろうか。」その可能性はきわめて



わずかです。たとえそのようなことがあったとしても、その辞書が破れたページを自ら直したり、新版を生んだりすることは決してあり得ません。

もし体が正常に機能し、保護、修復、調節、再生する能力が限りなく働き続けたとしたら、この世での生活が永久に続くでしょう。そうです、わたしたちは地上で立ち往生してしまうでしょう。憐れみ深いことに、創造主は老化やそのほか最終的に肉体の死へと至る過程を用意してくださいました。誕生と同じように、死は人生の一部です。聖文は次のように教えています。「そのときすぐに人がこの肉体の死から救われることは、偉大な幸福の計画を損なうことになるので適当ではなかった。」²⁰ 死と呼ばれる門を通して神のみもとに戻ることは、神を愛し、神にお会いする用意のできている者にとって喜びです。²¹ やがて時が来ると、それぞれの「霊と体は再び結合して完全な形になり、手足も関節も……その本来の造りに回復され」、²² もう決して分かれません。これらの肉体に関する贈り物に対して、神に感謝しましょう。

霊に関する贈り物

体は大切なものですが、人の永遠の霊が宿る幕屋としての役割を担います。わたしたちの霊は前世で存在していて、²³ 体が死んだ後も生き続けます。²⁴ 霊は体に動きと人格をもたらします。²⁵ この世と次の世において、霊と体は一つとなるときに至高の価値を持った生ける者となります。

人の霊は非常に大切であるため、その成長は永遠にわたって重要な意味を持ちます。わたしたちが謙遜な祈りによって愛にあふれた天の御父と交わるときに、霊は強められます。²⁶

わたしたちはいつの日か裁きを受けますが、裁かれる性質はすべて霊に関するものです。²⁷ これには愛、徳、高潔、思いやり、周りの人への奉仕が含まれます。²⁸ 皆さんの霊は、体とともにあり体に宿って



いるときに、永遠の進歩に欠かせない方法でこれらの性質を身に付け、示すことができます。²⁹ 霊的な成長は、信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物、そして聖なる神殿でのエンダウメントや結び固めの儀式を含む、最後まで堪え忍ぶという段階を踏むことによって達成されます。³⁰

体が生きていくために日々の食物を必要とするように、霊にも養いが必要です。霊は永遠の真理によって養われます。昨年、わたしたちは英語の欽定聖書刊行400周年を祝いました。また、モルモン書を得て200年近くになり、今では107の言語に完全に、もしくは部分的に翻訳されています。これらやそのほかの貴い聖典のおかげで、わたしたちは神がわたしたちの永遠の御父であられ、その御子イエス・キリストがわたしたちの救い主、贖い主であられることを知っています。これらの霊に関する贈り物に対して、神に感謝しましょう。

福音の贈り物

わたしたちは、アダムやノア、モーセ、アブラハムなど、多くの神権時代の預言者たちが皆、天の御父とイエス・キリストの神性について教えたことを知っています。現在のわたしたちの神権時代は、1820年、天の御父とイエス・キリストが預言者ジョセフ・スミスに御姿を現されたときに、御二方によってもたらされました。1830年には教会が組織されました。それから182年後の今も、わたしたちは引き続き「あらゆる国民、部族、国語の民、民族」に福音を伝えるという聖約の下にありま

す。³¹ それを実行するとき、与える者も受ける者も祝福を受けるでしょう。

わたしたちには神の子供たちを教え、彼らの中に神に対する意識を呼び覚ます責任があります。何年も前にベニヤミン王は次のように述べています。

「神を信じなさい。神がましますことと、神が天と地の万物を創造されたことを信じなさい。神はすべての知恵を備え、また天と地の両方で一切の権威を持っておられることを信じなさい。……

……あなたがたは、罪を悔い改めてその罪を捨て、神の御前にへりくだらなければならないことを信じなさい。そして、神があなたがたを赦してくださいるように真心から求めなさい。これらのことをすべて信じるならば、必ずそれを実行しなさい。」³²

神は昨日も、今日も、またとこしえに変わらない御方ですが、わたしたちはそうではありません。わたしたちには日々贖罪の力を受けるという課題があります。心から変わって、よりキリストのような者となり、昇栄という贈り物を頂く資格を得て、神とイエス・キリストと、そしてわたしたちの家族とともに、永遠に住むことができるようにするためです。³³ これらの力と特権と福音の贈り物に対して、神に感謝しましょう。

神が生きておられ、イエスがキリストであられ、この教会がその神聖な行く末を達成するためにこの末日に回復された主の教会であることを証します。今日わたしたちはトーマス・S・モンソン大管長によって導かれており、わたしたちは心を尽くして大管長を愛し、支持し、また大管長

の顧問たちと十二使徒を、預言者、聖見者、啓示者として支持します。イエス・キリストの聖なる御名によって証します、アーメン。■

注

1. ヨハネ 6:35, 48; 51 節も参照
2. アルマ 26:8; アルマ 7:23 も参照
3. 使徒 17:27-29 参照
4. 教義と聖約 130:22 参照
5. モーセ 6:51; ローマ 8:16; ヘブル 12:9; エレミヤ 1:4-5 参照
6. 創世 2:7; 1 コリント 15:44; モーセ 3:7 参照
7. 1 ニーファイ 17:36 参照
8. モーセ 1:39
9. ヨハネ 3:16
10. ヨハネ 3:17
11. 3 ニーファイ 27:13-22 には主の目的が簡潔に要約されている。
12. アルマ 11:40 参照
13. 2 ニーファイ 9:6-7, 20-22 参照
14. ヨハネ 11:25-26
15. 1 ニーファイ 17:40; 1 ヨハネ 4:10 参照
16. 2 ペテロ 1:4
17. 心臓は1日に約2,000 ガロン (7,570 リットル) を送り出す。
18. 教義と聖約 88:47
19. 教義と聖約 130:21 参照。実際に、その神の律法は否定しようのないものである。
20. アルマ 42:8
21. 詩篇の作者は神の観点を次のように表現している。「主の聖徒の死はそのみ前において尊い。」(詩篇 116:15) 伝道 12:7 も参照
22. アルマ 11:43. 伝道 12:7; アルマ 40:23; 教義と聖約 138:17 も参照
23. 教義と聖約 93:38 参照
24. アルマ 40:11; アブラハム 3:18 参照
25. 霊は体の形である (教義と聖約 77:2 参照)。
26. 3 ニーファイ 14:9-11 参照
27. 人を成す要素のうちで主体性を持ち、責任を負うものは、体ではなく霊である。霊がなければ、体は死んだものである (ヤコブの手紙 2:26 参照)。したがって、霊が善悪を選ぶのであり、最後の裁きにおいて自らが持つ善い性質と悪い性質の両方に対して責任を負うことになる (アルマ 41:3-7 参照)。
28. 「信仰、徳、知識、節制、忍耐、兄弟愛、信心、慈愛、謙遜、勤勉」など (教義と聖約 4:6)。
29. 2 ニーファイ 2:11-16, 21-26; モロナイ 10:33-34 参照
30. これがキリストの教義である (2 ニーファイ 31:11-21 参照)。
31. モーサヤ 15:28. 1 ニーファイ 19:17; 2 ニーファイ 26:13; モーサヤ 3:20:15; 28:16:1; アルマ 37:4; 教義と聖約 1:18-23; 77:11; 133:37 も参照
32. モーサヤ 4:9-10
33. 「永遠の命……は、神のあらゆる賜物の中で最も大いなるものである。」(教義と聖約 14:7)



七十人会長会
ロナルド・A・ラズバンド長老

特別な教え

わたしたちが勇敢に自らの重荷を負い続けるように、また、助けと励ましが必要な苦しむ同胞に手を差し伸べられるように願い、祈っています。

これまでの20か月間、わたしたち家族は祝福されて、非常に特別な赤ちゃんを迎える特権にあずかっています。

わたしたちの孫、小さなパクストンは非常にまれな染色体欠失の状態で生まれてきました。その遺伝性疾患により、彼は文字どおり何億人に一人という特別な存在となりました。パクストンの誕生で、娘と娘の夫にとって人生を変える未知の旅が始まったのです。この経験は永遠にかかわる特別な教訓を得る試練となりました。

先ほど話した、愛するラッセル・M・ネルソン長老は次のように教えています。

「わたしたちには分からない理由により、肉体に障がいのある状態で生まれてくる人がいます。体の一部に異常があるかもしれませんが。調節機能のバランスが崩れているかもしれません。そして、すべての肉体は、病気と死に直面します。しかし、肉体はさきわめて貴重な賜物なのです。

神聖な目的を達成するために、完全な肉体が必要なわけではありません。事実、最もすばらしい霊が、弱い体に宿ることもあります。……

やがてその時が来ると、『霊と体は再び結合して完全な形になり、手足も関節も、……その本来の造りに回復され』ます (アルマ 11:43)。こうしてわたしたちは、イエス・キリストの贖いのおかげで、主に

あって完全になることができるのです。』¹

愛する人のために、困難や不安を抱え、失望し、心を痛めているすべての皆さん、天の父なる神が無限の愛と永遠の哀れみをもって、皆さんの抱える大切な人を愛しておられることを知ってください。皆さんを愛しておられることを知ってください。

こうした苦しみに遭うと、全知全能の神はどうしてこのようなことが起こるまにされるのだろう、と思う人がいるかもしれませんが、「なぜ自分に降りかかるのか」と問うのも当然なことのように思われます。愛する家族に障がいを負わせ、早く天に召し、何年も痛みが消えない病気や出来事を経験しなければならないのはなぜなのか、なぜ苦悩しなければならないのか、と思うのです。

そのようなとき、天の御父が備えてくださった偉大な幸福の計画のことを考えましょう。その計画が前世で提示されたとき、わたしたちは皆思わず喜びの声を上げました。² 簡単に言うと、この世の生涯は永遠の昇栄のための訓練であって、途中には試しと試練があることを意味しています。これまでずっとそうでしたし、それを免れる人はいません。

神の御心を信頼することが、死すべき状態にあるわたしたちには大変重要です。山のようにある疑問に対する答えがほとんどないときでも、神への信仰によ

り、わたしたちはキリストの贖いの力を受けます。

復活後、救い主イエス・キリストはアメリカを訪れ、すべての人を招いて言われました。

「あなたがたの中に病気の者がいるか。彼らをここに連れて来なさい。足の不自由な者、目の見えない者、足の悪い者、手の不自由な者、重い皮膚病にかかっている者、体のまひしている者、耳の聞こえない者、あるいはどんなことでも苦しんでいる者がいるか。彼らをここに連れてきなさい。癒してあげよう。わたしはあなたがたのことを哀れに思い、わたしの心は憐れみに満たされている。……」

さて、イエスがこのように言われると、群衆はこぞって、病気の者、苦しんでいる者、足の不自由な者、目の見えない者、口の利けない者、そのほかどんなことでも苦しんでいる者たちを伴って前に進み出た。するとイエスは、御自分のところに連れて来られた者をことごとく癒された。』³

「群衆はこぞって……進み出た」という言葉に大きな力を見いだすことができます。「こぞって」、つまり全員がという意味です。兄弟姉妹、わたしたちはだれでも困難に直面します。そして聖句は「どんなことでも苦しんでいる者」と続きます。皆さんも共感するのではないのでしょうか。

バクストンが生まれて間もなく、天の御父がわたしたちを祝福し、わたしたちに特別な教えを授けようとしてくださっていることを知りました。バクストンのために幾度となく施した神権の祝福の最初のときに、彼の父親とわたしが彼の小さな頭に指を置いている間、「神のみわざが、彼の上に現れるためである」⁴ というヨハネ書第9章の言葉が心に浮かんできました。

神の業は、確かにバクストンを通して表れています。

奉仕による慰め、いつまでも張り詰めたままの気持ち、共感の涙、そして助けが必要な愛する人たち、特にバクストンとその両親のための祈りと愛情表現を通して、



わたしたちは忍耐と信仰、そして感謝を学んでいます。

わたしの少年時代のステーキ会長であったジェームズ・E・ファウスト管長は次のように言いました。「生まれながらに心身に重い障がいや背負った子供や、途中でそのような障がいを負うようになった子供を抱えながら、悲しみや苦しみを克服し、毅然として耐えてきた愛情深い両親の皆さんに心から感謝します。大抵の場合、この苦痛は子供にしても親にしても一生涯やむことなく、毎日続きます。昼夜を問わず、決して終わることのない超人的な介護が親に求められることが珍しくありません。何年もの間、特別な子供の苦痛を和らげ、慰めを与え続けてきた多くの母親の腕と心は痛みます。』⁵

わたしたちは、すべての人に注がれる救い主の純粋な愛がバクストンの家族に

与えられたのを見ました。モーサヤは次のように説明しています。「そこで、アルマと彼の同胞に負わされた重荷は軽くなった。まことに、主は、彼らが容易に重荷に耐えられるように彼らを強くされた。そこで彼らは心楽しく忍耐して、主の御心にすべて従った。』⁶

バクストンが生まれて間もないある夜、ユタ州ソルトレーク・シティにあるプライマリー小児医療センターの新生児集中治療室にいたわたしたちは、医師や看護師や介護士のつきっきりの献身的な働きぶりに驚嘆しました。わたしは娘に治療費を一体どうやって支払ったらよいだろうかと尋ね、金額を推測してみました。そばに立っていた医師がそれとなく、わたしの予想は低すぎて、幼いバクストンの治療費はわたしの見積もりよりはるかに高額だと教えてくれました。わたしたちは、この病

院での治療に使われる費用の大部分が、人々が惜しみなく寄付する時間とお金で賄われていることを知りました。彼の言葉を聞き、パクストンを大切に世話してくれる人たちにとってのこの小さな子供の価値を思い、謙虚な気持ちになりました。

「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい」⁷ という宣教師の聖句が思い浮かび、このよく知っている聖句に新たな意味が加わりました。

人が神にとって肉体的、霊的にいかに価値があるかを力強い方法で学ぶ一方で、わたしたち一人一人に対する天の御父と御子イエス・キリストの無限の愛について深く考えていると、涙がこみ上げてきました。

パクストンの家族は、自分たちが天と地の無数の仕える天使に囲まれていることを知りました。助けが必要ときにそっとやって来て、そっと帰って行った人たちがいました。食事を持って来てくれた人、洗濯してくれた人、子供たちの送り迎えをしてくれた人、電話で励ましてくれた人、そして特に、パクストンのために祈ってくれた人たちがいました。そこで、また一つ教訓を得ました。おぼれかけている人がいたら、助けが必要かどうか聞くでしょうか、それともすぐ飛び込んで水に沈もうとしている人を助ける方がよいでしょうか。善意から頻繁に語られる、「何かできることがあったら言ってください」という言葉は、実際には何の役にも立たないのです。

周りにいる人の様子に気づき、関心を持つことの重要性をわたしたちは学び続けています。助けることの大切さだけでなく、助けることで受ける圧倒されるほどの喜びも学んでいます。

打ちひしがれている人を助けることにおいて最高の模範である、愛するトーマス・S・モンソン大管長はこう語りました。「神が、同胞の守り手となる努力をしているすべての人を祝福して下さいますように。彼らは人の苦しみを和らげるために自分の大切なものを差し出しています。自分の持つあらゆる善を用いて世界をよ

り良くしようとしています。そのような人の笑顔がより輝いていることに皆さんは気づいていますか。足取りはより確かで、見るからに安らぎと充実感に満ちています。それは、人を助けることでその人自身が豊かな祝福を必ず受けるからです。」⁸

わたしたちは試練や逆境、障がい、苦悩など、あらゆる苦難に遭います。しかし、わたしたちを気遣い、愛してくださる救い主は、必ずわたしたちのそばにいてくださいます。主はこう約束しておられます。

「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに戻って来る。……

わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」⁹

わたしたちの英雄パクストンを下さった天の御父に、わたしたちは心から感謝しています。彼を通して主はその業を表し、大切に神聖な、特別な教訓を受け続けてくださっています。

最後に、大好きな賛美歌の歌詞を読んで終わりにします。

戦い^や止^つむまで慕^つらる
われらは^つ楽しき
つわもの冠を見よや
われらそれを受けん¹⁰

兄弟姉妹、わたしたちが勇敢に自らの重荷を負い続けるように、また、助けと励ましが必要な苦しむ同胞に手を差し伸べられるように願い、祈っています。神に祝福を感謝し、神の子供たちに謙虚な気持ちで奉仕するという天の御父への決意を一人一人が新たにすることができようように。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ラッセル・M・ネルソン「わたしたちは神の子である」『リアホナ』1999年1月号, 95
2. ヨブ 38:7 参照
3. 3 ニーファイ 17:7, 9
4. ヨハネ 9:3
5. ジェームズ・E・ファウスト「神のみ業」『聖徒の道』1985年1月号, 56 参照
6. モーサヤ 24:15
7. 教義と聖約 18:10
8. トーマス・S・モンソン “Our Brothers’ Keepers.” *Ensign*, 1998年6月号, 39
9. ヨハネ 14:18, 27
10. 「戦い止むまで」『賛美歌』162番





前中央扶助協会会長
ジュリー・B・ベック

扶助協会に関する 預言者のビジョン—— 信仰, 家族, 扶助

信仰, 家族, 扶助というこの3つの簡潔な言葉が教会の姉妹たちに対する預言者のビジョンを表すようになりました。

近年わたしは扶助協会について、その目的と特性¹、歴史の価値²、その業およびビショップとメルキゼデク神権定員会との連携³について話すように靈感を受けてきました。これからは扶助協会に関する預言者のビジョンに重点を置くことが大切だと感じています。⁴

主の預言者たちが長老や大祭司に自らの目的と義務を絶えず教えてきたように、預言者は扶助協会の姉妹たちにもビジョンを伝えてきました。預言者の勧告によれば、扶助協会の目的は明らかに、信仰と個人の義を増し加える、家族と家庭を強める、困っている人々を見つけ出し、助けることです。信仰, 家族, 扶助というこの3つの簡潔な言葉が教会の姉妹たちに対する預言者のビジョンを表すようになりました。

回復の初期の時代以来、預言者たちは、自身の永遠の価値と目的を理解し、強く、忠実で、決断力のある女性のビジョンを述べてきました。預言者ジョセフ・スミスが扶助協会を設立したとき、「この協会

を管理し、貧しい人を世話し、すなわち彼らの必要なものを与え、この協会の様々な業務を執行する」よう初代会長に指示しました。⁵そして、「世のあらゆる悪から離れ[た] …えり抜き協会の」という組織の姿を思い描いたのです。⁶

教会の第二代大管長のブリガム・ヤングは、「〔姉妹たちに〕様々なワードで婦人扶助協会を組織させ[る]」ためにビショップを指導するよう大管長顧問と十二使徒定員会に指示を与えました。大管長はこう付け加えました。「そんなことは無益だと考える人がいるかもしれませんが。しかし、そうではありません。」⁷

後に、ジョセフ・F・スミス大管長はこう述べています。「人が作った」この世の組織とは対照的に、扶助協会は「神が作られたものであり、……神により承認、設立、聖任されたもの」です。⁸ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は、姉妹たちには「たくさんの事柄を行う力と権能が与えられています」と述べました。⁹また、このように言いました。「皆さんは世界で最も偉大な女性の組織の一員です。

この組織は地上の神の王国の重要な一部であり、忠実な会員が御父の王国において永遠の命を得るのを助けるように作られ運営されています。」¹⁰

広範囲に及ぶ影響力

毎年、何十万人もの女性が、ますます拡大するこの「姉妹たちの輪」¹¹に入っています。その後、住む場所や奉仕する場所がどこであろうと、扶助協会の会員として活動を続けます。¹²大管長会は、扶助協会の重要な目的のために、若い女性は18歳になるずっと前から扶助協会へ入る準備をしてもらいたいという願いを表明しました。¹³

扶助協会はただのプログラムではありません。信仰, 家族, 扶助に関する目的において姉妹たちを教え、強め、鼓舞するために、「神により……聖任された」主の教会の正式な一部です。扶助協会は末日聖徒である女性の生き方であり、その影響は日曜日のクラスや社交的な集まりの域をはるかに超えています。扶助協会は、古代の主の教会において主イエス・キリストと主の使徒たちと一緒に奉仕した女性の弟子たちの模範に従うものです。¹⁴「男性にとつて、神権によって養われる人格の規範を自分の生活に生かすことが一つの義務であるように、扶助協会によって養われる徳を自分の生活に吸収することは、女性の義務です」とわたしたちは教えられてきました。¹⁵

預言者ジョセフ・スミスが扶助協会を組織したとき、姉妹たちは「貧しい人に慰めを与え」、「人々を救う」務めがあると教えました。¹⁶「人々を救う」責任を果たすために、姉妹たちは組織され、広範囲に影響を及ぼす活動に参加する権限を与えられました。初代の扶助協会会長は、聖文を教えるために任命されました。そして扶助協会は主の教会において、今でも教えるという重要な責任を担っています。扶助協会の組織は「神権の特権、祝福、賜物にあずかる」¹⁷のために姉妹たちを備



インド、コルカタ

えるであろうとジョセフ・スミスは姉妹たちに語り、主の救いの業を説明しました。人を救う業には福音を分かち合い、伝道活動に参加することが含まれます。また、神殿・家族歴史活動への参加など、霊的、物質的に自立するために、できることをすべて行うことが含まれます。

ジョン・A・ウイツォー長老は、扶助協会の働きは、「貧困、病気、疑い、無知など、女性の喜びと進歩を妨げるすべてのものから解放することです。何とすばらしい務めでしょうか」と断言しています。¹⁸

ボイド・K・バッカー会長は扶助協会を「防護壁」にたとえました。¹⁹ 姉妹とその家族を守る責任は、家庭訪問教師の見守り、教え導くという務めをさらに大切なものとし、主との聖約を進んで守るわたしたちの意志を証明するものです。「助けを必要とする人や苦しむ人を世話する」際に、ビショップと協力して働き、聖徒たちの物質的、霊的な必要を満たします。²⁰

スペンサー・W・キンボール大管長はこのように述べています。「ぼろを着ている姉妹たち、すなわち霊のぼろを着ている姉妹たちが大勢います。……彼女たちは豪華な霊の礼服を着るに価する人々です。……皆さんには、家庭を訪問してぼろを礼服と交換する特権があるのです。」²¹ ハロルド・B・リー大管長は次のようなビジョンを語りました。「これらの家を訪問する責任を主が扶助協会にお与えになっ

た理由がお分かりでしょうか。これほど優しい影響を及ぼし、人々の心と生活をこれほど深く理解できるのは、主御自身を除いて、扶助協会のほかには教会の中にだれもいないからです。」²²

ジョセフ・F・スミス大管長は扶助協会の姉妹たちと指導者たちに注意を呼びかけました。大管長は「扶助協会が……、人の作った組織と混同されることにより、人の組織に従い、混じり合い、それ自身が持っている本質を見失うような時が来るのを望みませんでした。」大管長は姉妹たちに「称賛に値する事柄、神聖な事柄、人々の霊を鼓舞し清める事柄すべてにおいて、世界、特に世界の女性たちの先頭に立つ」よう期待したのです。²³ 大管長の勧告は、扶助協会の目的と相いれない伝統、主題、流行、慣習も扶助協会から取り除く義務を強調しています。

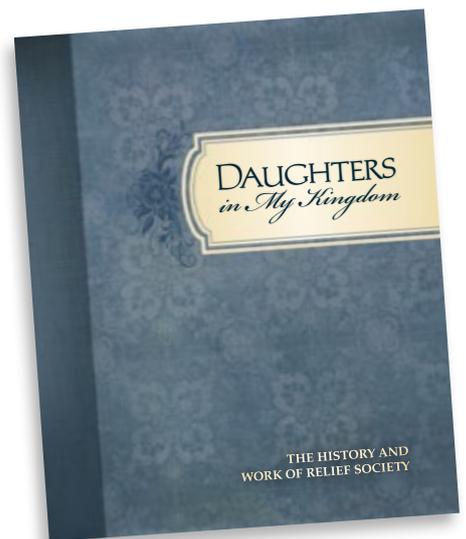
啓示を求める指導者は、扶助協会のあらゆる集会、レッスン、クラス、活動、取り組みが創設の目的を果たすようにすることができます。わたしたちが望む社交、友情、一致は、主の業において主とともに奉仕する中で得られる喜ばしい結果となるでしょう。

預言者のビジョンを実現する

最近、大管長会はこう述べました。「主は預言者ジョセフ・スミスを通して完全な福音を回復され、扶助協会がその回

復にとって重要な役割を果たしていることを証します。」扶助協会の「輝かしい受け継ぎ」を守るという大管長会の望みの証拠として、最近、『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』を出版し、世界中で配付しました。この本の中には、家族と教会において協力して働く兄弟姉妹の模範を見いだすことができます。そして、自分が何者であり、何を信じ、何を守るべきかについての原則を学ぶことができます。大管長会はわたしたちにこの重要な本を研究し、「その不変の真理と靈感あふれる模範から啓発を受ける」よう勧めています。²⁴

姉妹たちが扶助協会の目的にいつそう調和するようになるにつれて、預言者たちのビジョンが実現されるようになります。キンボール大管長はこう述べています。「この〔扶助協会の〕組織には、シオンの家庭を強め、神の王国を築くために、まだ十分に行使されていない力があります。姉妹と神権者がともに扶助協会のビジョンをよく理解して初めて、その力は完全に発揮されるのです。」²⁵ 大管長は次のように預言しました。「末日に当教会において驚くべき発展が見られますが、その多くは世の立派な（優れた霊性を備えている）女性たちが、大勢この教会に入ってくる



おかげであると言えるでしょう。これは、教会の女性が……幸福な生活を送り、世の女性たちとは明瞭に異なっていることが人目にも分かる度合いに応じて起きるでしょう。」²⁶

扶助協会に関する預言者たちのビジョンに感謝しています。ゴードン・B・ヒンクレー大管長と同じように、わたしも「この教会の扶助協会に匹敵する組織はどこを探しても見当たらないと確信しています。」²⁷ わたしたちは信仰を増し加え、家族を強め、扶助を与えようとするとき、扶助協会に関する預言者たちのビジョンと調和する責任があります。

最後に、ロレンゾ・スノー大管長の言葉で終わりたいと思います。「〔扶助〕協会には明るい未来があります。教会の成長に伴い、その力が及ぶ分野は広がり、善を行う力は以前よりも増すでしょう。」²⁸ 神の王国を推し進めるために働く姉妹たちに、大管長はこう述べました。「これらの働きをともに担ってきた皆さんは、主が忠実な子らにお与えになる御業の勝利、昇栄と栄光を間違いないと手にすることになるでしょう。」²⁹ このビジョンが真実であるとわたしも証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ジュリー・B・ベック「扶助協会の目的を達成する」『リアホナ』2008年11月号、108-111 参照
2. ジュリー・B・ベック「扶助協会について孫娘たちに理解してほしいこと」『リアホナ』2011年11月号、109-113；「扶助協会：神聖な業」『リアホナ』2009年11月号、110-114 参照
3. ジュリー・B・ベック“Why We Are Organized into Quorums and Relief Societies”（ブリガム・ヤング大学ディベーションナルの説教、2012年1月17日、speeches.byu.edu 参照）
4. このメッセージは扶助協会について預言者たちが述べたすべての言葉を網羅するものではない。彼らのビジョンと指示のごく一例である。『わたしの王国の娘：扶助協会の歴史と業』大会報告、その他教会出版物にはこの主題についてさらに多くの教えが掲載されている。
5. ジョセフ・スミス『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』12で引用参照
6. ジョセフ・スミス『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』15で引用



7. ブリガム・ヤング『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』41で引用
8. ジョセフ・F・スミス『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』65で引用参照
9. ジョセフ・フィールディング・スミス『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』142で引用
10. ジョセフ・フィールディング・スミス『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』97で引用
11. ボイド・K・バック『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』85で引用。
12. ボイド・K・バック「姉妹の輪」『聖徒の道』1981年4月号、211 参照
13. 大管長会の手紙、2003年3月19日付け、および2007年2月23日付け参照
14. 『わたしの王国の娘』3-6 参照
15. ボイド・K・バック『わたしの王国の娘』15で引用
16. ジョセフ・スミス『わたしの王国の娘』16で引用
17. ジョセフ・スミス、*History of the Church*、第4巻、602で引用
18. ジョン・A・ウィットフォア『わたしの王国の娘』25で引用
19. ボイド・K・バック「姉妹の輪」『聖徒の道』

- 1971年4月号、212
20. ジョセフ・フィールディング・スミス『わたしの王国の娘』142で引用
21. スペンサー・W・キンボール『わたしの王国の娘』117で引用
22. ハロルド・B・リー，“The Place of Relief Society in the Welfare Plan,” *Relief Society Magazine*, 1946年12月号、842
23. ジョセフ・F・スミス『わたしの王国の娘』65-66で引用
24. 大管長会『わたしの王国の娘』ixで引用
25. スペンサー・W・キンボール『わたしの王国の娘』142で引用
26. スペンサー・W・キンボール『わたしの王国の娘』94で引用
27. ゴードン・B・ヒンクレー『わたしの王国の娘』160で引用
28. ロレンゾ・スノー『わたしの王国の娘』19で引用
29. ロレンゾ・スノー『わたしの王国の娘』7で引用



十二使徒定員会
D・トッド・クリストファーソン長老

キリストの教義

今日の教会において、キリストの教義を確立したり教義的な逸脱を正したりする際には、昔と同様に、神の啓示によって行われます。

ベック姉妹とオールレッド姉妹、トンプソン姉妹、そして扶助協会管理会の皆さんに心からの愛と感謝をお伝えします。

近年、末日聖徒イエス・キリスト教会の信条に対する人々の関心が高まっています。わたしたちはこの傾向を歓迎します。結局のところ、教会の基本的な務めは、イエス・キリストの福音、キリストの教義を全世界の人々に教えることだからです（マタイ 28：19 - 20；教義と聖約 112：28 参照）。しかし、教会の教義と、それがどのように確立されるかについては、過去に多少の混乱があり、そうした混乱は今なお見られます。今日わたしはこのことについて話したいと思います。

救い主は時の中間に御自分の教義をお教えになり、救い主の使徒たちは、それを誤った言い伝えや哲学から守ろうと懸命に努めました。新約聖書の書簡には、使徒たちが教え導いていた間にも深刻かつ広範な背教がすでに始まっていたことを示す出来事がたくさん記されています。¹

その後何世紀もの間、時々福音の光がさすことはありましたが、ついに19世紀に、光り輝く回復の朝がこの世に訪れました。キリストの福音が再び完全にすべて地上にもたらされたのです。この栄えある日は、「太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱」の中に（ジョセフ・スミス—歴史 1：16）、父なる神とその愛子イエス・

キリストが少年ジョセフ・スミスに御姿を現されたときに幕を開けました。そして神の力と権能に伴って、啓示が洪水のごとく注がれ始めたのです。

この啓示の中に、地上に再び確立したイエス・キリストの教会の中心的な教義と呼べるものが示されています。「イエス・キリストについてのもう一つの証」であるモルモン書の中で、イエス御自身がその教義を次のように定義しておられます。

「これから述べるのがわたしの教義であり、父がわたしに与えてくださった教義である。わたしは父のことを証し、父はわたしのことを証され、聖霊は父とわたしのことを証する。父は、どこにいる人でもすべての人に、悔い改めてわたしを信じるように命じておられることを、わたしは証する。

わたしを信じてバプテスマを受ける者は、だれでも救われる。神の王国を受け継ぐのはこれらの者である。

また、わたしを信じないでバプテスマを受けない者は、だれでも罰の定めを受ける。

……わたしを信じる者は父をも信じるのである。その者に、父はわたしのことを証されるであろう。父はその者に火と聖霊を与えられる。……

まことに、まことに、あなたがたに言う。これがわたしの教義である。この教義の上に建てる者はわたしの岩の上に建てる

のである。地獄の門もこれらの者に打ち勝つことはない。」（3 ニーフай 11：32 - 35, 39）

これがわたしたちのメッセージであり、土台とする岩であり、教会のほかのすべてのことの基です。神から来るあらゆるものと同じように、この教義は純粋で、明瞭で、子供にも容易に理解できます。この教義を受け入れるようにと、わたしたちは喜びの心をもってすべての人に勧めます。

末日聖徒イエス・キリスト教会において、「わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じ」ています。「神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じ」ています（信仰箇条 1：9）。これは、まだ知らないことが数多くあるけれども、これまでに受けた真理と教義は神の啓示によってもたらされたのであり、これからも受け続けるという意味です。一部の宗教では、神学者が聖職者と同等の教える権限があると主張し、教義に関する事柄について意見を戦わせることがあります。中世の公会議やそこで出された宣言に頼る人もいれば、使徒が世を去った後の神学者による推論や、聖書の解釈学や注釈を重要視する人もいます。わたしたちは、理解を深めるための学問は重要だと考えています。しかし今日の教会において、キリストの教義を確立したり教義的な逸脱を正したりする際には、昔と同様に、主から使徒の権能を授かった人々が受ける神の啓示によって行われます。²

1954年、当時大管長会顧問であった J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長は、教会で教義が知らされる方法と、大管長が持つきわめて重要な役割について説明しています。大管長会と十二使徒定員会の会員について次のように述べました。「一部の中央幹部には特別な召しが与えられていることを覚えておく必要があります。彼らは特別な賜物を持っています。預言者、聖見者、啓示者として支持されて

おり、それによって、人々を教えることに
関して特別な霊的な祝福を受けています。
彼らは大管長が持つすべてにわたる力と
権能の下で、神の思いと望みをその民に
宣言する権利と力と権能を持っています。
そのほかの中央幹部には、教える際のこ
の特別な霊的な祝福と権能は与えられて
いません。彼らはその結果として制限を
受けます。教える際の力と権能に制限が
あることは、教会のほかのすべての役員
と会員にも当てはまります。彼らはだれも
預言者、聖見者、啓示者としての霊的な祝
福を受けていないからです。さらに、先ほ
ど述べたように、この点において大管長は
さらなる特別な霊的な祝福を受けていま
す。教会全体に対する預言者、聖見者、
啓示者だからです。』³

救い主はその御心と教義を、預言者、
聖見者、啓示者にどのように示されるので
しょうか。主は使者を通して、あるいは御
自身で行われます。御自身の御声により、
あるいは聖なる御霊の声によって語られ
ます。御霊が霊に語りかけられるとき、そ
れは言葉や気持ちによって表され、言葉
を超えた理解が伝えられます（1 ニーファ
イ 17：45；教義と聖約 9：8 参照）。主は
一人の僕に、あるいは評議を行う僕たち
に語りかけられます（3 ニーファイ 27：1 -
8 参照）。

新約聖書から二つの事例を紹介しま
しょう。一つ目は、教会の長が受けた啓
示です。使徒行伝の初めの方では、キリ
ストの使徒たちはイエスの務めの規範に
倣い、ユダヤ人だけに福音のメッセージを
伝えていました（マタイ 15：24 参照）。し
かし主の定められた変化の時が訪れまし
た。ヨッパで、ペテロが夢を見ました。夢
の中でペテロは様々な種類の動物が入っ
た「大きな布のような入れ物が、四すみを
つるされて」天から地上に降りて来るの
を見ました（使徒 10：11）。そして「それら
をほふって食べなさい」と命じられました
（使徒 10：13）。ペテロはためらいまし
た。少なくともその一部はモーセの律法



によって「清くないもの」と見なされてい
た動物であり、そのようなものを食べては
ならないという戒めをペテロは破ったこと
がないからです。しかし、夢の中で次のよ
うに告げられました。「神がきよめたもの
を、清くないなどと言ってはならない。」
（使徒 10：15）

この夢の意味はその後すぐに明らかに
なりました。ローマの百卒長コルネリオか
ら遣わされた人たちがペテロの滞在場所

に着き、主人に教えを説きに来てほしいと
ペテロに頼んだのです。コルネリオは親戚
や友人をたくさん呼び集めていました。ペ
テロは彼らが自分の教えを心待ちにして
いる様子を見て、次のように言いました。

「神は、どんな人間をも清くないとか、
汚れているとか言ってはならないと、わた
しにお示しになりました。……

……神は人をかたよりみないかたで、
神を敬い義を行う者はどの国民でも受



けいれて下さることが、ほんとうによくわかってきました。」(使徒 10:28, 34-35。17-24 節も参照)

「ペテロがこれらの言葉をまだ語り終えないうちに、それを聞いていたみんなの人たちに、聖霊がくださった。

ペテロについてきた人たちは、異邦人たちにも聖霊の賜物が注がれたのを見て、驚いた。

……そこで、ペテロが言い出した、

『この人たちがわたしたちと同じように聖霊を受けたからには、彼らに水でバプテスマを授けるのを、だれがこぼみ得ようか。』(使徒 10:44-47)

この経験と、ペテロが受けた啓示により、主はそれまでの教会の慣例を変え、御自分の弟子たちに教義をさらに完全に示されました。こうして福音を宣べ伝える業が全人類に及ぶようになったのです。

使徒行伝の後の方に、これに多少関係したもう一つの例があります。ここでは、教義に関する啓示が評議の場でどのように与えられるかが分かります。モーセの律法で定められた割礼を、キリストの福音や教会の戒めとして続けるべきかどうかについて論争が起きました(使徒 15:1, 5 参照)。「そこで、使徒たちや

長老たちが、この問題について審議するために集ま[りまし]た。」(使徒 15:6) この評議会の記録は確かに完全ではありませんが、「激しい争論があった後」、前任使徒であるペテロが立ち上がり、聖なる御霊から確認を受けたことを告げました(使徒 15:7)。割礼を受けていない異邦人にコルネリオの家で福音が宣べ伝えられたとき、割礼を受けたユダヤ人の改宗者と同様に彼らも聖霊を受けました。ペテロは評議会の人々にこのことを思い出させました。そして次のように言いました。神は「その信仰によって彼らの心をきよめ、われわれと彼らとの間に、なんの分けへだてもなさらなかった。

しかるに、諸君はなぜ、今われわれの先祖もわれわれ自身も、負いきれなかつたくびきをあの弟子たちの首にかけて、神を試みるのか。

確かに、主イエスのめぐみによって、われわれは救われるのだと信じるが、彼らとも同様である。」(使徒 15:9-11)

その後、パウロとバルナバ、そして恐らくほかの人たちもペテロの宣言を支持して語り、ヤコブはこの決定を書面で教会に送り履行することを提議し、「衆議一決」しました(使徒 15:25。12-23 節も参照)。

この決定を伝える書面の中で、使徒たちは「聖霊とわたしたちとは……決めた」と述べています(使徒 15:28)。言い換えれば、この決定は聖なる御霊を通して神の啓示によってなされたのです。

これと同じ規範が、今日、回復されたイエス・キリストの教会でも守られています。大管長は自分に与えられる啓示を基に、教義を宣言し、あるいは解釈します(例として、教義と聖約第 138 章参照)。また、教義の説明は、大管長会と十二使徒定員会が合同で評議して行う場合もあります(例として、公式の宣言二参照)。評議の場では、標準聖典や教会指導者の教え、過去の慣例がしばしば検討されます。しかし最終的な目的は、新約聖書の時代の教会と同様、単に評議会の会員の意見が一致することではなく、神から啓示を受けることです。評議は、主の思いと望みを知るために理性と信仰の両方を働かせて行う過程なのです。⁴

同時に、過去や現在の教会指導者が語ったことが必ずしもすべて教義となるわけではないことを覚えておく必要があります。教会では一般に、一人の指導者がある特定のときに語ったことは、熟慮されたものではあっても個人的な意見であることが多く、教会の公式な見解あるいは教会全体に対して拘束力を持つ言葉ではないと理解されます。預言者ジョセフ・スミスは「預言者は預言者として行動するときのみ預言者である」と教えています。⁵ クラーク管長は、先に紹介した話の中でこう述べています。

「この点に関して、わたしが少年のころに父から聞いた短い話があります。出典は分かりませんが、この点をよく表しています。[ジョンストンの] 軍隊がやって来るといって騒然となっていたとき、ブリガム兄弟は午前の集会で、迫り来る軍隊に果敢に抵抗しようという説教をし、軍隊を迎え撃ち、追い返すつもりだと宣言しました。ところが午後の集会で、ブリガム兄弟は立ち上がると、午前中はブリガム・

ヤングが語ったが、今からは主が語られると言ったのです。それから説教をしましたが、その内容は午前の話とは正反対でした。……

……教会員は、兄弟たちが述べる意見が『聖霊に感じるままに』語られた言葉かどうかを、聖霊の証を通して知るでしょう。そしてやがて、その知識が明らかにされるでしょう。』⁶

預言者ジョセフ・スミスは、わたしたちの教会の教義における救い主の中心的な役割について、次のようにはっきりと述べています。「わたしたちの宗教の基本原則は、使徒と預言者たちがイエス・キリストについて立てた証です。すなわち主が亡くなり、葬られ、3日目に再びよみがえって、天に昇られたことです。わたしたちの宗教に関するほかのすべての事柄は、それに付随するものにすぎません。』⁷ イエ

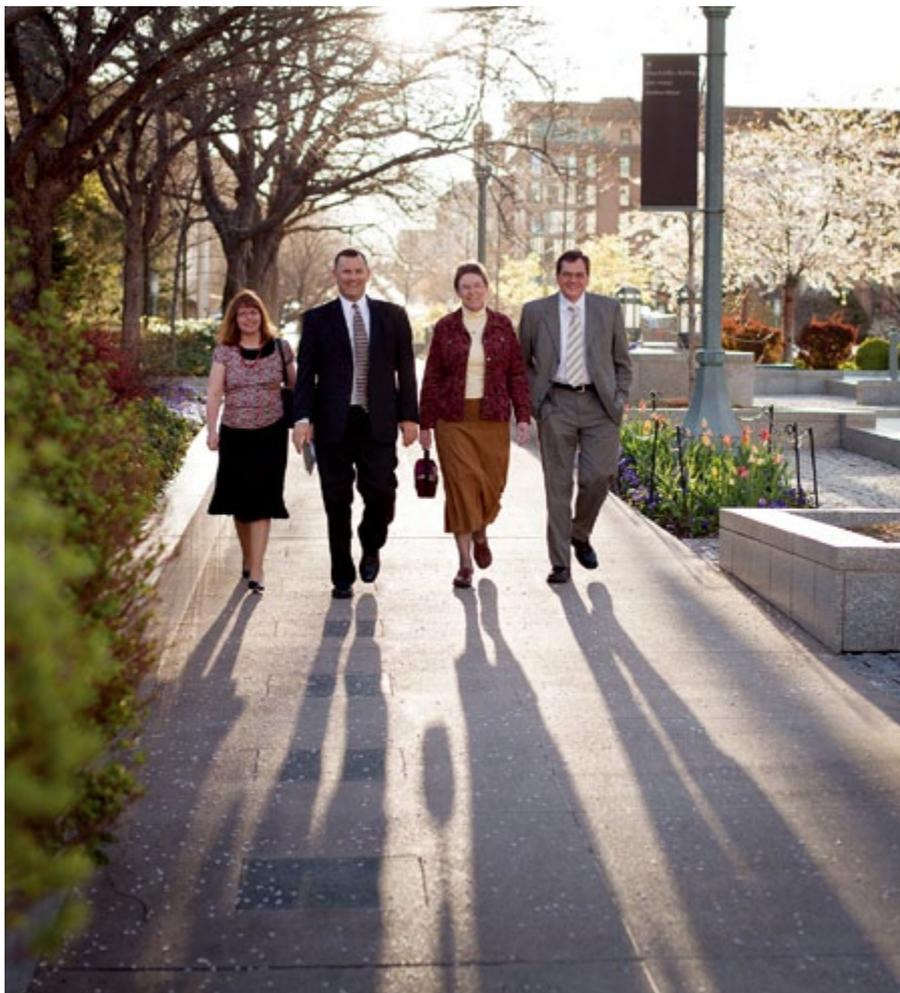
スについてのジョセフ・スミスの証は、主が生きておられるということです。「まことに神の右に小羊を見[て]……[その御方]は御父の独り子」であると証する声を聞いたからです(教義と聖約76:23; 22節も参照)。このメッセージを聞いた人すべての人に勧めます。祈りと聖文研究を通して、イエス・キリストの聖なる属性と、贖罪と、復活について、それと同じ証を求めてください。悔い改め、バプテスマを受け、聖霊の賜物を受け、その後、生涯にわたってイエス・キリストの福音の律法と聖約に従うことによって、主の教義を受け入れてください。

復活祭を前に、わたしはナザレのイエスが過去も現在も神の御子であり、いにしえの時代に預言されたメシヤであられることを証します。主はゲツセマネで苦しまれ、十字架の上で亡くなり、埋葬され、

3日目に実際によみがえられたキリストです。イエスは復活された主であり、わたしたちは皆、主によって復活し、贖われる意志のある者は皆、主によって贖われ、主の天の王国に高く上げられることができます。これがわたしたちの教義であり、イエス・キリストについて過去に述べられたあらゆる証と、この時代に改めて述べられる証を確認するものです。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ニール・A・マックスウェル「最初より」『聖徒の道』1994年1月号、21-22参照
「ヤコブは教会内の『戦いや争い』を非難しました(ヤコブの手紙4:1)。パウロは教会内の『分争』と『狂暴なおおかみが……群れを荒すようになること』を嘆きました(1コリント11:18; 使徒20:29-31)。彼は背教が起りつつあることを知り、テサロニケの人々に、イエスの再臨に先立って『まず背教のことが起[る]』と書き送り、さらに『不法の秘密の力が、すでに働いている』と忠告しました(2テサロニケ2:3, 7)。
パウロはその生涯の終わり近くに、非常に大規模な背教が起きていたことを認め、次のように述べました。「アジアにいる者たちは、皆わたしから離れて行った。」(2テモテ1:15)……
広く行われていた不貞と偶像礼拝を使徒たちは懸念しました(1コリント5:9; エペソ5:3; ユダ1:7参照)。ヨハネとパウロは偽使徒の出現を嘆きました(2コリント11:13; 黙示2:2参照)。明らかに教会は包囲攻撃を受けている状態でした。中には道から離れていくだけでなく、公然と敵対する人もいました。あるときパウロは孤立した状態で、『みなわたしを捨てて行った』と嘆いています(2テモテ4:16)。また、『数々の家庭を破壊』した人々を非難しています(テトス1:11)。
地方の指導者の中には、ある人が自分の高い地位に執着して兄弟たちを受け入れようとしなかったときに背いた人々もいました(3ヨハネ1:9-10参照)。
ブリガム・ヤング大管長が次のように言ったことは驚くに当たりません。『神権が教会から取り去られたと言われていますが、そうではありません。教会が神権から離れたのです。』(Journal of Discourses, 第12巻, 69)』
やがて、ニール・A・マックスウェル長老が述べているように、「ギリシャ哲学の伝統である理性偏重の傾向が支配的となり、啓示をよりどころとする方法に取って代わりました。善意のクリスチャンが自分たちの信条を当時の文化の主流に合わせたいと願ったことが、拍車をかけたように思われます。……
……啓示された教えを社会通念に合わせて変えるようなことはやめましょう。』(『聖徒の道』1994年1月号、23-24参照)
2. ジョセフ・スミスのような使徒や預言者は神





トーマス・S・モンソン大管長

人生というレース

わたしたちはどこから来て、なぜここにいるのか、この世を去った後はどこへ行くのか。この万人の抱く疑問は、もはや疑問ではなく、はっきりと解決されたのです。

愛 する兄弟姉妹の皆さん、今朝、わたしは永遠の真理、すなわち人生を豊かにし、家庭に平安をもたらし真理についてお話ししたいと思います。

周りを見渡せばだれもが慌ただしく、ジェット機は大切な乗客を乗せ、広大な大陸や大海原の上を飛び回っています。営業会議に出席し、責務を果たし、休暇を満喫し、家族を訪問するためです。高速道路であれ一般道路であれ、どこの道路でも、無数の車が、それをさらに上回る数の人々を乗せ、ひっきりなしに、また様々な理由で走り続けています。わたしたちは来る日も来る日も、仕事で飛び回っているのです。

この慌ただしい生活の中で、わたしたちは立ち止まり、瞑想する時間、すなわち永遠の真理に思いをはせる時間を取っているでしょうか。

永遠の真理に比べると、日常生活のほとんどの問題や悩みは実にささいなものです。夕食は何にしようか、リビングルームはどんな色に塗るべきだろうか、息子をサッカーチームに入会させるべきだろうか。こういった問題や悩み、またこれに類するほかの無数の問題や悩みは、例えば、愛する者が傷を負った、突然健康を害する者が出た、命のろうそくが消えかかり、暗闇が迫っているといった危機的な

状況に置かれたときには、取るに足りないものとなります。わたしたちの思いは研ぎ澄まされ、何が大切で何がささいなものか即座に判断できるようになります。

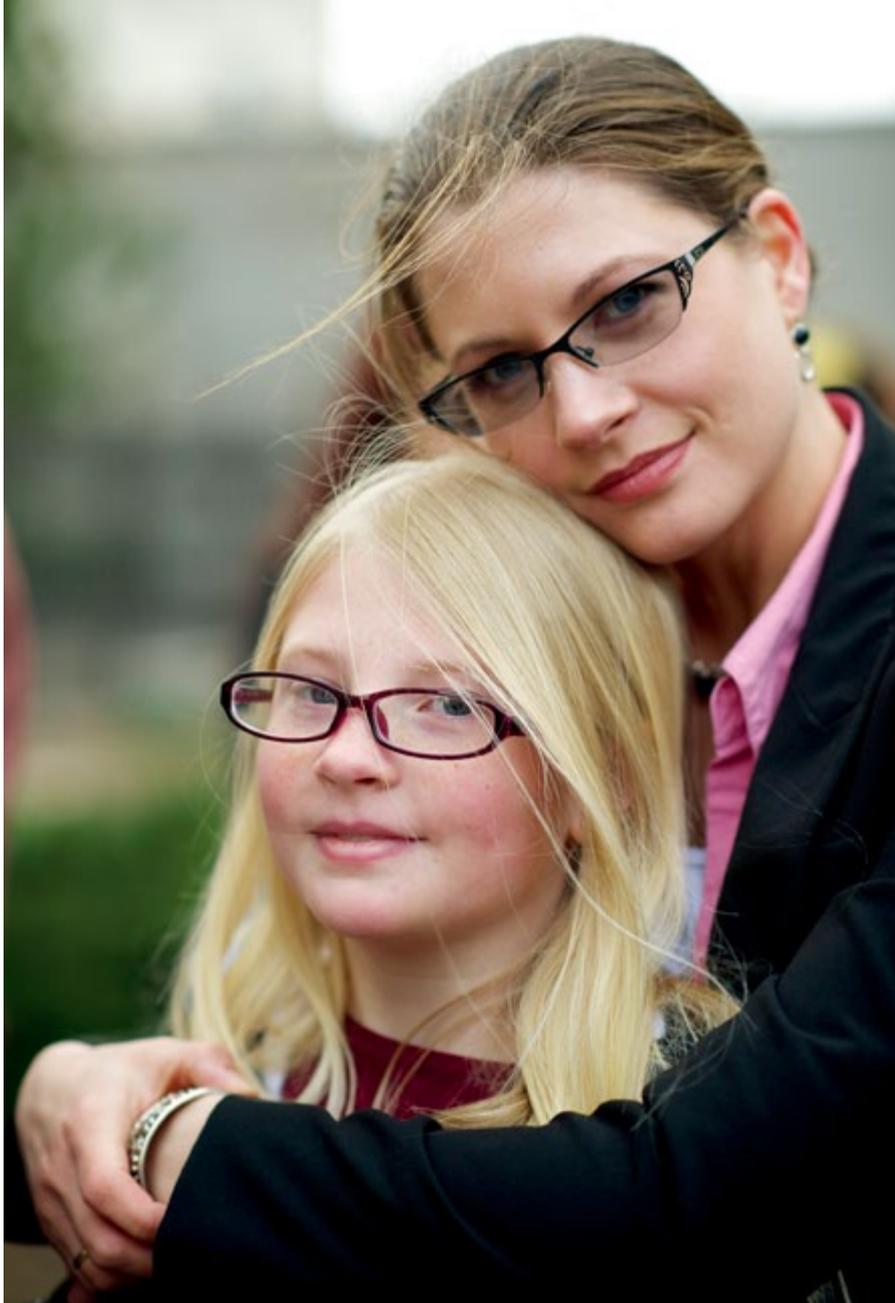
最近、わたしはある女性のもとを訪問しました。2年以上にわたって、生死にかかわる病氣と闘っている女性です。彼女は、健康を害する前の生活について、家を完璧に掃除し、屋内を美しい調度品で満たすといったことばかりしていたと話してくれました。週に2回美容室へ行き、洋服ダンスに追加する衣装のために毎月お金と時間を費やしました。孫を家に招待することはほとんどありませんでした。その小さく不注意な手で自分にとっては貴重な持ち物を壊されたり、そこまでいなくても、汚されたりするのが心配でたまらなかったからです。

そんなある日、彼女は衝撃的なことを知らされます。自分の死期が近づいており、これから先、残された時間がわずかしかないというのです。彼女は、医師の診断を聞いたその瞬間、すぐに、残された時間をすべて家族や友人とともに過ごし、福音を中心とした生活を送る決意をしたと語っています。それらが自分にとって最も価値あることだったからです。

この女性のように劇的な環境に置かれることはまれでしょうが、そのような目覚めはわたしたちのだれもがいつかは経験

の言葉を宣言するが、それに加えて、わたしたちは一般の男女、さらには子供でさえも、祈りや聖文研究の答えとして神の靈感から学び、導きを受けることができると信じている。古代の使徒の時代とまったく同様に、イエス・キリストの教会の会員には聖霊の賜物が与えられており、それによって天の御父と会話することができる。つまり、個人の啓示が受けられるということである(使徒2:37-38参照)。このようにして教会は霊的に成熟した献身的な個人の集まりとなり、彼らの信仰は盲目的なものではなく、聖なる御霊の示しと確認に基づいている。これは、全会員が教会を代表して語ったり、教会の教義を定義したりできるということではなく、会員一人一人が自分の人生で試練や機会に取り組むために神から導きを受けられることを意味している。

3. J・ルーベン・クラーク・ジュニア, "When Are Church Leaders' Words Entitled to Claim of Scripture?" *Church News*, 1954年7月31日付, 9-10。教義と聖約28:1-2, 6-7, 11-13も参照
4. 評議に参加する人々には「義……、聖さとへりくだった心、柔和と寛容……、信仰、徳、知識、節制、忍耐、信心、兄弟愛、および慈愛」といった備えと資質が求められる。「なぜならば、これらのものが彼らの内にますます豊かになるならば、彼らは主を知る知識について実を結ばない者となることはない、という約束があるからである。」(教義と聖約107:30-31)
5. ジョセフ・スミス, *History of the Church*, 第5巻, 265で引用
6. J・ルーベン・クラーク・ジュニア, "Church Leaders' Words," 10。クラーク管長は続けて次のように述べている。「実際にそのような事態となったかどうかは知りませんが、この話は一つの原則を教えています。すなわち、教会の大管長でさえも、民に語る時、常に『聖霊に感じて』いるとは限らないということです。これは一部の教義に関する問題(たいてい非常に不確かなもの)において起こってきたことであり、そのような場合、後の代の大管長たちや民自身が、それが『聖霊に感じるままに』語られたものではないと感じています。兄弟たちがこうした非常に推論的な原則や教義を推測するとき、掟に必要な『聖霊に感じるままに』語るという条件を満たしているかどうかは、どのように分かるのでしょうか。教会員は、兄弟たちが述べる意見が『聖霊に感じるままに』語られた言葉かどうかを、聖霊の証を通して知るでしょう。そしてやがて、その知識が明らかにされるでしょう。」("Church Leaders' Words," 10)
7. 「歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス」49-50



することです。人生でほんとうに大切なものは何か、どのような人生を送るべきなのか、わたしたちははっきりと理解するのです。

救い主はこう言っておられます。

「あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。

むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。

あなたの宝のある所には、心もあるからである。」¹

これ以上ないほどに深く思い巡らしたり、必要に迫られたりしたときに、人々の心は、人はどこから来て、なぜここにいる

のか、この世を去った後にどこへ行くのかといった、人生最大の疑問に対する神聖な答えを求めて、神の方向へ向きます。

これらの疑問に対する答えは、大学の教科書を開いても、インターネットで調べても分かるものではありません。これらは、この世を超越した永遠にかかわる問題なのです。

人はどこから来たのか。これは、すべての人が、口に出さないまでもいやおうなく思いをはせる質問です。

使徒パウロは、マルスの丘のアテネ人に、わたしたちは「神の子孫なのである」²と言いました。自分の肉体をこの世の両親から受け継いでいることを知っているわたしたちは、このパウロの言葉の意味を、もっと真剣に考える必要があるので

はないでしょうか。主はこのように宣言されました。「霊と体が人を成す。」³したがって、この霊をわたしたちは神から受け継いでいるのです。ヘブル人への手紙の著者は、神のことを「たましいの父」と呼んでいます。⁴すべての人の霊は、文字どおり「神のもとに生まれた息子や娘」⁵なのです。

わたしたちがこのような事柄について深く考えられるように、靈感を受けた詩人が心打つメッセージを書き、超越した思いを記していることに注目しましょう。ウィリアム・ワーズワースがこの真理を次のように歌い上げています。

われらの誕生はただ眠りと前世の忘却
とに過ぎず。

われらとともに昇りし魂、生命の星は、
かつて何処かに沈みて、
遙かより来れり。

過ぎ去りし昔を忘れしにあらず、
また赤裸にて来りしにあらず、
栄光の雲を曳きつつ、

われらの故郷なる神のもとより来りぬ
われらの幼けなきとき、天国はわれら
のめぐりにありき。⁶

両親は教え鼓舞する責任や、導き、指示を与え、模範を示す責任について深く思い巡らします。こうして両親の自覚が深まっていく一方で、子供たち、特に青少年たちは、「わたしたちはなぜここにいるのか」という鋭い疑問を抱き始め、「自分は何故ここにいるのだろうか」と心ひそかに問いかけるようになります。

賢明な創造主は地球を創造し、そこにわたしたちを置いてくださいました。そして前世を忘却の幕で覆い、わたしたちが試しの生涯、そして神が備えてくださったすべてのものを受け取るにふさわしくなるために自らを証明する機会を経験できるようにしてくださいました。

わたしたちがこの世にいるおもな目的の一つは、骨肉の体を受け取ることです。

また、わたしたちは選択の自由という賜物たまものを与えられています。わたしたちは実に多くの面で、自由に自分で選択することができます。この世にあって、わたしたちは経験という厳しい教師からいろいろなことを学びます。また、善と悪を見分け、人生の苦楽を味わい、自分の行為には結果が伴うということに気づきます。

神の戒めに従順になることにより、わたしたちは次のイエスの言葉にある「家」にふさわしくなるのです。「わたしの父の家には、すまいがたくさんある。……わたしは……あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。……わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。」⁷

わたしたちは「栄光の雲を曳きつつ」この世に生まれてきますが、それでも人生は容赦なく流れていきます。子供はやがて青年となり、知らぬ間にゆっくと大人になっていきます。わたしたちは人生の旅路を進んで行く中で、様々な経験をし、助けを受けるためには神の方向を向く必要があるということを学びます。

父なる神と主イエス・キリストは、完成へと至る道を示してくださいませ。御二方は、わたしたちが永遠の真理に従うことを選び、御自身が完全であられるように、わたしたちも完全になることを望んでおられるのです。⁸

使徒パウロは、人生を、レースにたとえています。彼はヘブル人に次のように強く勧めました。「わたしたちは、……からみつく罪……をかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競争を、耐え忍んで走りぬこうではないか。」⁹

伝道の書に記されている次のような賢明な勧告にぜひ耳を傾けていただきたいと思えます。「必ずしも速い者が競争に勝つのではな[い。]」¹⁰ 実は、終わりまで堪え忍ぶ者こそが、勝利を手にするのです。

人生というレースについて考えるとき、わたしはいつも子供時代にしたあるレースを思い出します。仲良しの男の子たちとポケットナイフを手にしたわたしは、柔ら

かい柳の木で小さなおもちゃの舟を作りました。小さな三角形の布で作った帆をかけただけのその舟を、少年たちは流れのやや急なユタ州のプロボ川に浮かし、競争させたのです。岸辺を駆けながら、わたしたちはその小さな舟が時には急流の中で荒々しく、深みの所では静かに流れて行くさまを見守りました。

このようなレースに興じていたあるときのことです。一つの舟がゴールの方に先頭を切って流れて行くのが見えました。すると突然、流れに乗った舟が大きな渦巻の中に入ってしまったのです。舟はあっという間に傾き、転覆してしまいました。回転しながら流されていくその舟は、どうしても元の流れには戻れませんでした。とうとう舟は、緑色をしたこけの毛にからまり、水に浮かぶいろいろながらくたの中に埋もれてしまいました。

子供時代に作ったそのおもちゃの舟には、安定させるための竜骨、方向舵、動力は一切付いていませんでした。そのため、船の行く先は、抵抗の最も少ない川下しかなかったのです。

そのような舟とは違い、わたしたちは行く先を導いてくれる天与の特質を身に付けています。わたしたちは人生という川の流れに、何も付けずに放り込まれたのではありません。考え、判断し、達成する力を備えて、この世に来たのです。

天の御父は、わたしたちが無事にみもとへ帰れるよう神の導きを受けることのできる手段を講じたうえで、わたしたちを永遠の航海に送り出してくださいませ。その手段とは祈りです。わたしたちの心に、静かな細い声として聞こえる、御霊みたまのささやきです。もちろん、わたしたちが立派にゴールへ到達できるよう助けるために与えられ、主の言葉と預言者の言葉が収められている聖典も見見過ごすことはありません。

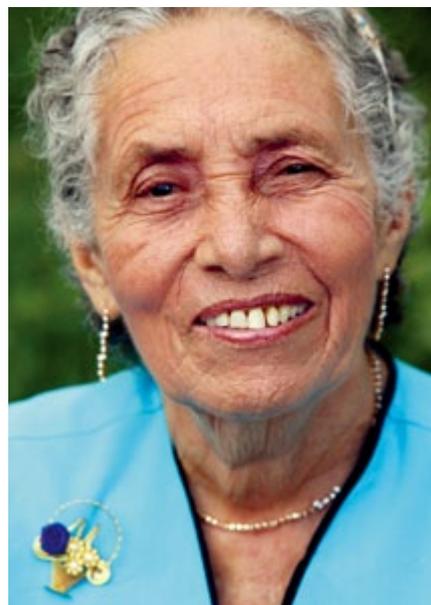
この世にあってわたしたちは、足もとがふらつき、笑顔が消え、病の苦痛に身を置くことがあります。すなわち、夏が去り、

秋が来てやがて冷たい冬を迎えるのです。この経験をわたしたちは死と呼んでいます。

思慮深い人ならだれでも、年老いたヨブの要を得た次の質問を自らに問いかけたことがあるはずです。「人がもし死ねば、また生きるでしょうか。」¹¹ この問いかけは、どんなに払いのけてもまた押し寄せてきます。死はすべての人にやって来ます。おぼつかない足どりで歩いている年老いた人々に、そして人生の半ばを過ぎたばかりの人々にも死は容赦なくやって来ます。また時折、死は、幼い子供たちの笑い声までも奪ってしまうのです。

いったい死の向こうには何があるのでしょうか。死によって何もかも終わりを告げるのでしょうか。ロバート・ブラッチフォードは、その著『神とわたしの隣人』(God and My Neighbor)で、神、キリスト、祈り、そして特に不死不滅といったキリスト教世界で受け入れられている信条を激しく攻撃しました。人の存在は死で終わり、それ以外のことを証明できる者などいないと断言したのです。それから驚くべきことが起こりました。彼を取り囲ん

ブラジル、サルバドル





でいた無神論の壁が、突然、崩れ落ちたのです。彼はむき出しで無防備の状態になりました。それから彼は少しずつ、かつてはあざ笑い放棄した信仰へと戻る道を探し始めました。彼の物の見方がこれほど大きく変化したきっかけは何だったのでしょうか。それは彼の妻の死でした。そのとき、彼は打ちひしがれた心で、妻のなきがらが横たえられた部屋に入り、自分がこよなく愛した妻の顔をもう一度見ました。部屋から出て来たとき、彼は友人にこう言いました。「あれは彼女ですが、彼女ではありません。すべてが変わってしまいました。以前彼女の中にあつた何かが、取り去られてしまったのです。もはや同じ彼女ではありません。霊以外に、取り去られるものがあるのでしょうか。」

後に、彼はこう記しています。「死とは一部の人が想像しているようなものとは異なる。それはもう一つの部屋に入るようなものだ。その別の部屋でわたしたちは、自分たちがかつて愛し失ったといふ女性や男性、かわいい子供たちと……再会するのだ。」¹²

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは死によって人生が終わりを告げるのではないことを知っています。この真理は、いつの時代でも、生ける預言者によって教えられてきました。聖典の中にも見いだすことができます。モルモン書の中には、次のような言葉が記されています。

「さて、死と復活の間の人の状態についてであるが、見よ、天使がわたしに知らせてくれたところによれば、すべての人の霊は、この死すべき体を離れるやいなや、まことに、善い霊であろうと悪い霊であろうと、彼らに命を与えられた神のみもとへ連

れ戻される。

そして、義人の霊はパラダイスと呼ばれる幸福な状態、すなわち安息の状態、平安な状態に迎え入れられ、彼らはそこであらゆる災難と、あらゆる不安と憂いを離れて休む。」¹³

救い主は十字架につけられました。その体は、3日間墓の中に横たえられた後、再び霊と結合あがなしました。石は取りのけられ、復活された贖い主は不死不滅の肉体をもって歩み出られたのです。

「人がもし死ねば、また生きるでしょうか。」ヨブのこの疑問は、マリヤとほかの人々が墓に近づいたとき、次のように語る、輝く衣を着た二人の男性を見たことで、はっきりとこたえられました。「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」¹⁴

キリストが死に対して勝利を収められたことにより、わたしたちは皆復活します。すなわち贖われるのです。パウロはこう書いています。「天に属するからだもあれば、地に属するからだもある。天に属するものの栄光は、地に属するものの栄光と違っている。」¹⁵

わたしたちが求めているのは日の栄えです。わたしたちが望んでいるのは、神のみもとで暮らし、永遠の家族の一員となることです。そして、これらの祝福は、生涯にわたって努力し、求め、悔い改め、ついには成し遂げることによって、確かに得られるのです。

わたしたちはどこから来て、なぜここにいるのか、この世を去った後にどこへ行くのか。この万人の抱く疑問は、もはや疑問ではなく、はっきりと解決されたのです。

心の底から、深くへりくだり、わたしはこれまでお話ししてきたことが真実であると証あかしします。

天の御父は、戒めを守る人々を喜ばれるだけでなく、墮落した人々や気乗りのしない10代の子供たち、気まぐれな若者たち、怠慢な親たちのことも深く気にかけておられます。また、主はこれらの人々を含めすべての人に、優しくこう呼びかけておられます。「戻って来なさい。上がって来なさい。入って来なさい。家に入って、わたしのもとに来なさい」と。

1週間すると、わたしたちは復活祭を祝います。救い主の生涯と死、そして復活に思いをはせます。主の特別な証人として、わたしは皆さんに証します。主は生きておられ、わたしたちが勝利のうちに帰って来るのを待っておられます。そのように帰ることができるよう、主の聖なる御名あな、すなわちイエス・キリスト、救い主、そしてわたしたちの贖い主の御名によって、へりくだりお祈りします、アーメン。■

注

1. マタイ 6:19 - 21
2. 使徒 17:29
3. 教義と聖約 88:15
4. ヘブル 12:9
5. 教義と聖約 76:24
6. ウィリアム・ワーズワース、田部重治訳「幼年時代を追想して不死を知る頌」『ワーズワース詩集』岩波文庫、167、ルビ付加
7. ヨハネ 14:2 - 3
8. マタイ 5:48:3 ニーファイ 12:48 参照
9. ヘブル 12:1
10. 伝道 9:11
11. ヨブ 14:14
12. ロバート・ブラッチフォード、*More Things in Heaven and Earth: Adventures in Quest of a Soul* (1925年)、11 参照
13. アルマ 40:11 - 12
14. ルカ 24:5 - 6
15. 1コリント 15:40



十二使徒定員会
L・トム・ペリー長老

解放する力

聖文の教えに心を向けることによって、わたしたちは悪の道から救い出していただくことができます。

わたしにはとても良い友人がいて、毎回、総大会の話をする部会で着ける新しいネクタイを送ってくれます。非常にセンスが良いと思いませんか。

その若い友人は困難な問題を抱えていて、そのために限られていることも幾つかありますが、並外れた点もあります。例えば、宣教師としての大胆さはモーサヤの息子たちに劣りません。これは、彼の信念が純粋であるがゆえに途方もなく確固としているからです。スコットには、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員でない人や、モルモン書を読んではない人、それが真実であるという証を持っていない人がいることなどきっと想像できないでしょう。

スコットが兄弟を訪ねて行くために初めて一人で飛行機に乗ったときの出来事を紹介しましょう。たまたますぐそばの席に座っていた近所の人が、スコットが隣の席の人と次のような会話をするのを耳にしました。

「こんにちは、スコットと言います。お名前は？」

隣に座っていた人が名前を言いました。

「お仕事は？」

「エンジニアです。」

「いいですね。家はどこですか。」

「ラスベガスです。」

「そこにはわたしたちの神殿があります。そのモルモンの神殿がどこにあるか知っていますか。」

「ええ、きれいな建物ですね。」

「あなたはモルモンですか。」

「いいえ。」

「ぜひなってください。素晴らしい宗教です。モルモン書を読んだことがありますか。」

「いいえ。」

「ぜひ読んでください。素晴らしい本です。」

わたしはスコットの言葉に心から賛成します。モルモン書は素晴らしい本です。モルモン書の序文に引用されている預言者ジョセフ・スミスの言葉に、わたしはいつも共感してきました。「わたしは兄弟たちに言った。『モルモン書』はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることに、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」

今年、わたしたちは日曜学校のクラスでモルモン書を学んでいます。準備して参加するときに、スコットの大胆な模範ならに倣って、この特別な聖典を愛する思いを教会員ではない人に伝えようという気持ちを抱くことができますように。

ニーファイ第一書第1章の最後の節に

は、モルモン書の中心となるテーマが述べられています。ニーファイはこう言います。「しかし見よ、主の深い憐れみあわは、信仰があるために主から選ばれたすべての者のうえに及び、この人たちを強くして自らを解放する力さえ与えることを、わたしニーファイはあなたがたに示そう。」(1ニーファイ1:20)

この末日のために保存された、主の深い憐れみであるモルモン書が、キリストの教義を純粋なまま「最も正確」に教えることによって、どのようにしてわたしたちを解放してくれるかについて話したいと思います。

モルモン書に記されている話の多くは、解放に関する話です。リーハイが家族とともに荒れ野へ立ち去ったのは、エルサレムの滅亡から救い出されるためでした。ヤレド人の話は解放についての話であり、ミュレク人の話もそうです。息子アルマは罪から解放されました。ヒラマンの若い兵士たちは戦いで救われました。ニーファイとリーハイは獄から救い出されました。解放というテーマは、モルモン書の至る所に見ることができます。

モルモン書には非常によく似た二つの話が載っていて、ある重要な教えを学ぶことができます。一つ目の話は、モーサヤ書第19章から始まります。ここには、ニーファイの地に住んでいたリムハイ王について書かれています。レーマン人がリムハイの民に戦争を仕掛けました。戦争の結果、レーマン人はリムハイ王がその民を治めることは認めましたが、民はレーマン人の奴隷になりました。その平和は苦悩に満ちたものでした(モーサヤ19-20章参照)。

リムハイの民はレーマン人による迫害に耐え切れず、王を説得してレーマン人と戦いに行きました。しかし、リムハイの民は3度にわたって破れ、民は重荷を負わされました。ついに民はへりくだって、自分たちを解放してくださるよう主に熱烈に叫び求めました(モーサヤ21:1-14参照)。



第21章15節に、主がそれにどうこたえられたかが記されています。「しかし、主は彼らの罪悪のために、彼らの嘆願を聞き届けるのを遅くされた。それでも主は、彼らの嘆願を聞き届け、レーマン人の心を和らげてくださったので、レーマン人はリムハイの民の重荷を軽くするようになった。しかし主は、彼らを奴隷の状態から救い出すのを、ふさわしいとは思われなかった。」

やがてアンモンの小さな一団がゼラヘムラからやって来て、彼らはリムハイの民の指導者の一人であったギデオンとともに

ある計画を立て、それが成功して、レーマン人による迫害から逃れました。主が彼らの嘆願を聞き届けるのを遅くされたのは、なぜだったのでしょうか。それは彼らの罪悪のためです。

もう一つの話は、多くの点で似ていますが、異なる点もあります。その話はモーサヤ書第24章に記録されています。

アルマとその民がヘラムの地に住んでいたとき、レーマン人の軍隊がその地の境に侵入して来ました。彼らは会って、何とか平和的に解決しました（モーサヤ23：25 - 29 参照）。ところがすぐにレーマン

人の指導者が自分たちの意向をアルマの民に押しつけるようになり、民に重荷を負わせました（モーサヤ24：8 参照）。13節には次のように書かれています。「そして、苦難の中にいる彼らに主の声が聞こえて、言われた。『あなたがたの頭を上げて喜びなさい。わたしは、あなたがたがわたしと交わした聖約を知っている。わたしは自分の民と聖約を交わし、その民を奴隷の状態から救い出す。』」

アルマの民はレーマン人の手から救い出され、無事に帰ってゼラヘムラの民に加わりました。

アルマの民とリムハイ王の民はどこが異なっていたのでしょうか。明らかに、幾つか異なる点がありました。アルマの民は平和を好む、より義にかなった人々でした。すでにバプテスマを受け、主と聖約を交わしていました。艱難が始まる前から主の前にへりくだっていました。これらすべての点で異なっていたために、主が彼らを奴隷の状態にしていた者たちの手から奇跡的な方法ですぐに救い出されたことは適切で公平なことだったのです。これらの聖句は、主の解放の力について教えています。

イエス・キリストの生涯と使命について予告している預言では、主が解放をもたらしてくださることをわたしたちに約束しています。主の贖罪と復活はすべての人に肉体の死から逃れる道をもたらし、もしわたしたちが悔い改めるならば、霊の死から逃れる道を、永遠の命の祝福とともにもたらしてくれます。贖罪と復活についての約束、すなわち肉体と霊の死からの解放についての約束を、神はモーセに次のように宣言しておられます。「見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」（モーセ1：39）

聖文の中ではわたしたちのために信条が見事に書き上げられている一方で、世俗主義的な反対勢力が聖なる書物にある古くから確立されている信条に戦いを挑ん

でいるのを目にします。何世紀にもわたって永遠の価値観と人生における行動の標準を定めるに当たって導きを与えてきた書物に、異議を唱えているのです。それらの反対勢力は、聖書の教えは誤っており、主の教えは時代遅れだと言います。人にはそれぞれ自分自身の標準を設ける自由がなければならないと叫び、聖文や預言者の言葉が教えていることに反して、信じる者たちの権利を変更しようと試みます。

聖書で宣言されている教義に対するもう一つの証として、モルモン書ではわたしたちの主、救い主の使命が宣言されています。その記録があるということは、何という祝福でしょう。世の人々にとって聖書とモルモン書の両方があるということが重要なのはなぜでしょうか。その答えはニーファイ第一書第13章に見つけることができます。ニーファイは次のように記録しています。「天使はわたしに言った。『あなたが異邦人の中で見たそれら後の方の記録〔モルモン書〕は、小羊の十二使徒から出た初めの記録〔聖書〕が真実であることを立証し、またその中から取り去られた分かりやすくて貴い部分を明らかにする。またそれらの記録は、神の小羊が永遠の御父の御子であって、世の救い主であられること、すべての人はこの救い主のみもとに來なければならず、そうしなければ救われないことを、すべての部族、国語の民、民族に知らせる。』」（40節）

聖書もモルモン書も、一方だけでは十分ではありません。キリストの教義を余すところなく完全に教え、学ぶには、両方が必要なのです。一方を必要とすることで、もう一方の重要性が下がることはありません。聖書とモルモン書はどちらも、わたしたちの救いと昇栄になくなくてはならないものです。エズラ・タフト・ベンソン大管長が力強く教えているように、「聖書とモルモン書を合わせて使用したならば、偽りの教えを打ち破〔る〕ものにな〔ります〕。」（『キリストに対する新しい証人』『聖徒の道』1985年1月号、8）



最後に二つの話を採り上げて、これら2冊の書物が調和しながら一緒に働きかけている様子を示しましょう。一つは旧約聖書の話で、もう一つはモルモン書の話です。

アブラハムの話は、偶像を礼拝するカルデヤ人から救い出されるところから始まります（創世 11：27 - 31；アブラハム 2：1 - 4 参照）。アブラハムと妻のサラは、後に悲しみから解放され、自分たちの子孫によって地のすべての民が祝福を受け

るという約束を受けました（創世 18：18 参照）。

旧約聖書には、アブラハムがおいのロトを連れてエジプトを出て行った話載っています。地を選ぶ機会を与えられたロトは、ヨルダンの低地を選び、非常に邪悪な町であるソドムの方に向かって天幕を張りました（創世 13：1 - 12 参照）。ロトは後に人生で様々な問題に直面しますが、そのほとんどは、最初に天幕の入り口をソドムの方に向けるという決断をしたこ

とに端を発しています。

忠実な者の先祖アブラハムは、異なった人生を経験しました。確かに多くの困難に遭いましたが、祝福された生涯でした。アブラハムの天幕の入り口がどちらに向いていたかわわたしたちには分かりませんが、創世記第13章の最後の節に有力な手がかりがあります。次のように記されています。「アブラム〔すなわちアブラハム〕は天幕を移してヘブロンにあるマムレのテレビンの木のかたわらに住み、その所で主に祭壇を築いた。」(創世 13:18)

知っているということではありませんが、個人的には、アブラハムの天幕の入り口は彼が主のために築いた祭壇の方を向いていたのではないかと信じています。なぜこのような結論に至るのでしょうか。それはモルモン書の話にある、ベニヤミン王の最後の説教を聞くために民が集まったときに王が与えた指示について知っているからです。ベニヤミン王は民に、天幕の入り口を神殿の方へ向けるように指示したのです(モーサヤ 2:1-6 参照)。

聖文の教えに心を向けることによって、わたしたちは悪の道から救い出していたことができ、救い主は偉大な解放者であられます。わたしたちを死と罪から解放して下さるからです(ローマ 11:26; 2 コリント 9:12 参照)。

わたしは宣言します。イエスはキリストであられ、わたしたちはモルモン書を読むことによって主に近づくことができます。モルモン書はイエス・キリストについてのもう一つの証です。救い主についての第1の証は旧約聖書と新約聖書で構成される聖書です。

繰り返しますが、わたしの友人スコットの言葉を忘れないようにしましょう。モルモン書は「すばらしい本です。」そしてモルモン書のすばらしさは、この書物が聖書と調和していることによる部分が大きいことを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード長老

道に迷った者が 見つかるように

キリストの福音と教義に従って生活しようと努めるとき、聖霊が皆さんと皆さんの家族を導いてくださるでしょう。

兄弟姉妹の皆さん、聖文には、リアホナは「入念な造りの丸い球」であり、2本の指針が付いていて、そのうちの1本がリーハイの家族が荒野で進むべき方向を指したとあります(1 ニーフай 16:10)。

わたしにはリーハイが初めてリアホナを見たときに非常に驚いた理由が分かります。GPS(全地球測位システム)の装置を初めて見たときの自分の反応を覚えているからです。わたしの中ではGPSは現代の「入念な造りの」装置でした。わたしの電話に埋め込まれたこの小さな装置は、わたしには想像も及ばない方法で、現在地を正確に示し、行きたい場所まで正確に誘導してくれます。

このGPSは、妻のバーバラにとってもわたしにとっても祝福です。バーバラはわたしに「車を止めて道を聞いて」と言う必要がなくなりましたし、わたしが「聞く必要はないよ。ちゃんと分かっているから」と言うとき、ほんとうにそうであってくれるのですから。

さて兄弟姉妹の皆さん、わたしたちには最も優れたGPSよりもさらに驚くべき手段が用意されています。だれもがどこかである程度道を見失います。しかし聖霊のささやきを通して、わたしたちは無事

に正しい道に戻ることができ、救い主の贖いの犠牲のおかげで、家に戻ることができるのです。

道を見失った状態は、個人だけでなく社会全体についても言えます。現代は世の中の大部分が道を見失ってしまっている時代であり、特に家庭内の価値観や優先順位に関してそれが顕著です。

今から100年前、ジョセフ・F・スミス大管長は幸福を直接家族と結びつけ、家族のことに努力を集中するよう勧告しました。こう言っています。「家庭とは別に、家庭を離れてほんとうの幸福は存在しません。……奉仕のないところに幸福はありません。家庭を神聖な場に変え、家族の生活を向上させ、維持するための奉仕に勝る奉仕はないのです。……改革が必要なのは家庭です。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』382, 384)

物質主義的で非宗教的になっていくこの世にあって、改革が必要なのは家庭であり家族です。驚くべき事例の一つが、ここ合衆国で結婚がどんどん軽視されるようになってきていることです。今年の初め、『ニューヨークタイムズ』紙(New York Times)は次のように報じました。「未婚の女性から生まれる子供の割合がこれまでになく高まっている。30歳未満のアメ



リカ人女性から生まれる子供の半数以上が婚外子である。」(ジェーン・デパレおよびサブリーナ・タバニス, “Unwed Mothers Now a Majority Before Age of 30,” *New York Times*, 2012年2月20日付, A1)

そして、合衆国では結婚する夫婦のうち半数近くが離婚しています。夫婦のままにいる人々も、ほかの物事が家族の関係を妨げるのを許し、道を見失ってしまうことがよくあります。

同じように気がかりなのは、貧富の差が広がっていること、そして家族に対する価値観や決意を守ろうと努める人々と、その努力を放棄した人々との差が広がる一方であることです。統計的に、十分な教育を受けず、そのため収入が低い人々は、結婚したり教会に行ったりすることがあまりなく、犯罪にかかわったり結婚せずに子供をもうけたりする傾向が高くなっています。そして、こうした動向は世界の大半の地域で悩みの種となっています。(W・ブラッドフォード・ウィルコックスほか, “No Money, No Honey, No Church: The Deinstitutionalization of Religious Life among the White Working Class,” www.virginia.edu/marriageproject/pdfs/Religion_WorkingPaper.pdf 参照)

かつて多くの人が考えていたこととは異なり、豊かな生活と教育は、昔ながらの家族や価値観を持つかどうかと関係があるように思われます。

もちろん、問題なのは**原因と結果**です。社会の一部がより堅固な価値観や家庭を持っているのは、十分に教育を受け豊かな生活を送っているからでしょうか。それとも、十分な教育を受け豊かな生活を送っているのは、彼らの価値観や堅固な家庭のおかげでしょうか。世界規模で発展するこの教会において、わたしたちは後者であることを知っています。人々が家族や宗教の中で福音の原則への決意をするとき、人々は霊的により豊かになり、しばしば物質的にも豊かになり始めるのです。

そしてもちろん、家族が強くなれば、社会全般が強くなっていきます。家族と価値観への決意が基本的な**原因**であり、それ以外はほぼすべて**結果**です。男女が結婚して互いに尽くすと約束するとき、経済的に安定する見込みは非常に高まります。結婚した夫婦の間に子供が生まれ、父親も母親もいるとき、その子が浴する幸運は大幅に増し、職業面で成功する可能性は飛躍的に高まります。そして家族がともに働き、遊ぶとき、近隣や地域社会は栄え、経済は好転し、政府機関や費用のかかるセーフティーネットの必要性は低くなります。

ですから、悪い知らせは、家族の崩壊がたくさんの社会的および経済的な病の原因となっていることです。しかし良い知らせは、ほかの因果関係と同様、それらの病は、原因となっているものを変えれば治せるということです。不公正は、正しい

原則と価値観に従って生きることによって変えられるのです。兄弟姉妹の皆さん、人生で最も重要な**原因**は家族です。この原因に自らをささげるなら、生活のほかのあらゆる面が改善し、わたしたちは一つの民として、また教会として、地のあらゆる民の模範となり、かがり火となるのです。

しかし、人々の心が様々な方向を向き、地球が丸ごと過去には想像もつかなかったような速さで絶えず動き、変化しているような世にあって、これは容易なことではありません。長く同じ状態にとどまっているものは何もありません。生活様式も傾向も流行も、政治的に正しいことも、善悪の認識ですら変化しています。預言者イザヤが預言したとおり、善が善として、善が悪として描かれています(イザヤ5:20 参照)。

悪がこれまで以上に人を欺く狡猾なものととなり、まるで暗黒の磁石のように人々を引き寄せようになるにつれて、霊的な隔たりはますます広がっていきます。同様に、真理と光の福音が、道徳的で善良なものを求める地上の正直で高潔な人々を引き付けるからです。

わたしたちは数の上では比較的少ないかもしれませんが、この教会の会員として、これらの広がっていく隔たりを越えて手を差し伸べることができます。キリストを中心とした奉仕には、霊的または経済的な状況にかかわらず、神の子供たちを一つにする力があることをわたしたちは知っています。1年前、大管長会は自立を助ける福祉プログラムの創設75周年を記念して、奉仕の日に参加するよう呼びかけました。そして世界中の教会員が数百万時間にも及ぶ奉仕に携わりました。

教会は荒れ狂う海における安全な港であり、変化と分離という高い波に下ろす錨であり、義を尊んで求める人のかがり火です。主はこの教会を、世界中にいる御自分の子供たちを福音という守りに引き寄せる道具としてお使いになります。

エリヤの霊もまた、子供たちの永遠の

行く末にかかわる主の目的の中で大きな力となります。エリヤの霊に境界線はありません。マラキ書には、聖霊の御霊は「父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる」とあります(マラキ4:6)。

教会員は、そのように心に向ける模範となり、世にあつて善を促す者となっています。神殿で結婚し、日曜日の集会に欠かさず出席する教会員は、離婚率が世の中のそれよりきわめて低く、家族がより親しい関係を保ち、コミュニケーションを密にしています。教会員の家族の健康状態は良好で、寿命も平均より数年長くなっています。困っている人のために教会員一人当たりが行う経済的支援と奉仕は世の人よりも多く、高い教育を目指す傾向が強いです。これらのことを指摘するのは自慢するためではなく、心を家族に向け、家族がキリストの福音の光の中で生活するとき人生がより豊かに(そしてより幸福に)なることを証するためです。

では、道を見失わないようにするために何ができるでしょうか。第1に、**優先順位を付ける**ことを勧めます。家庭の外で行うすべてのことを、家庭の中で起こることの後に置き、家庭を支えるものとしてください。ハロルド・B・リー大管長の次の言葉を忘れないようにしましょう。「あなたが行う最も大切な……業は、あなた自身の家庭という囲いの中にある。」(『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』140) また、いつの時代も色あせない、デビッド・O・マッケイ大管長の次の言葉も同様です。「いかなる成功も家庭における失敗を償うことはできない。」(J・E・マカロック, *Home: The Savior of Civilization* [1924年], 42 から引用。Conference Report, 1935年4月, 116)

生活をうまく計画し、祈りと聖文と家族の活動のために時間を取ってください。家庭で子供に責任を与えて、働き方を学べるようにしてください。福音に従って生活することで、インターネットやメディア、

ビデオゲームに見られる汚れや乱れ、暴力を避けられることを教えてください。そうすれば子供は道を見失うことなく、責任を任されたときに果たす備えができてい

ることでしょう。

第2に、物事を**正しい順序**で行う必要があります。結婚が先で、次に家族です。世のあまりに多くの人が物事の自然な順





序を忘れ、順序を変えることや、逆にすることさえできると考えています。信仰によっていかなる恐れも取り除いてください。皆さんを導く神の力を信頼してください。

まだ結婚していない皆さん、永遠の伴侶を見つけるために注意を払ってください。若い男性の皆さん、ジョセフ・F・スミス大管長が次のようにも言っていることを忘れないでください。「責任を最小限に抑えるために独身でいること……が望ましいという考えが、思慮の浅い人々の間に広まっています。……ほんとうの落ち度は若い男性たちにあります。自由気ままな若い時期が彼らを義務と責任の道からそらしています。……姉妹たちは犠牲者です。……彼女たちは可能なら結婚し、家族生活に伴う責任を喜んで引き受け

るのです。」(*Gospel Doctrine*, 第5版 [1939年], 281)

若い女性の皆さん、皆さんもこの責任を見失ってはけません。いかなる職業も、家族を築くことに勝る達成感をもたらすことはありません。そして、わたしの年齢になったときに、そのことをさらに強く実感するでしょう。

第3に、夫と妻の皆さん、皆さんは結婚生活において**対等のパートナー**でなければなりません。家族に関する宣言を何度も読んで理解し、従ってください。いかなる不義な支配も避けてください。伴侶や子供に支配権がある人はだれもいません。神はわたしたち全員の御父であって、わたしたちが神のような者となれるように、御自分だけのものであった自分自身の家族を持つという特権を与えてください

ました。神の子供として、わたしたちは家庭で神を愛することを学び、必要な助けを神に願って求めることができることを知る必要があります。既婚か独身かを問わず、どのような家族に属してようと、だれもがその中で幸福になり、支えとなることができるのです。

最後に、教会が提供する**家族に関する支援**を活用してください。子供を育てるに当たって、家族はワードの助けを求めることができます。神権組織や補助組織の指導者と協力して支え、働き、教会の青少年や家族のためのプログラムを最大限に活用してください。リー大管長の示唆に富んだもう一つの言葉を忘れないでください。教会はわたしたちが永遠の家族を築くための足場なのです（『教え——ハロルド・B・リー』[2000年], 155 参照）。

さて、何らかの理由で皆さんが個人や家族で道を見失ってしまったなら、必要なのはただ、ルカによる福音書第15章にある救い主の教えを当てはめて道を正すことです。ここで救い主は、いなくなった羊を捜した羊飼いの話や、なくなった硬貨を捜した女の話、家に戻って来た放蕩息子が温かく迎えられた話をしておられます。なぜイエスはこれらのたとえをお教えになったのでしょうか。どんなに道に迷っても、主の贖いと教えによって再び道を見いだせない人など一人もいないことを、わたしたちに知ってほしいと思われたからです。

キリストの福音と教義に従って生活しようと努めるとき、聖霊が皆さんと皆さんの家族を導いてくださるでしょう。皆さんは霊のGPSを得て、自分がどこにいて、どこへ向かっているかが絶えず分かるでしょう。わたしは復活した人類の贖い主がわたしたち全員を愛しておられることを証します。わたしたちが主に従うなら、無事に天の御父のみもとに戻れるように導くと、主は約束してくださっています。イエス・キリストの御名により証します、アーメン。■



七十人
O・ビンセント・ハレック長老

実行するために必要な 理解の目を持つ

滅びないで栄えたいと思うなら、わたしたちは救い主と同じ理解の
目で自分を見る必要があります。

すべての善い両親と同じように、わたしの両親も子供たちに明るい未来を望んでいました。父は教会員ではありませんでした。そして当時の特殊な状況を考慮して、両親は兄弟姉妹とわたしが、南太平洋に浮かぶ島国、アメリカ領サモアの故郷を離れて合衆国の学校へ行くべきだという結論に至りました。

子供たちと離れて暮らすことは、両親、特に母にとって、難しい決断でした。両親は、わたしたちが新しい環境に置かれることで未知の困難があることを知っていました。しかし、信仰と固い決意をもって計画を実行したのです。

母は末日聖徒として生まれ育ったため、断食と祈りの原則をよく知っていて、父も母も、子供たちを助けるには天の祝福が必要だと感じました。彼らはその気持ちから、毎週日を決めて、子供たちのために断食して祈りました。両親は子供たちに明るい未来を備えることを目指していました。その目標を実現するために行動し、主の祝福を求めて信仰を行使しました。断食と祈りを通して、二人はすべてがうまくいくという安心感と慰めと平安を得ました。

どうすればわたしたちも困難に遭った

ときに、救い主に近づかせてくれる事柄を実行するのに必要な理解の目を持てるでしょうか。理解の目と言えば、箴言は理解の目がなければ、民は滅びるという真理を教えています(箴言 29:18 参照)。滅びないで栄えたいと思うなら、わたしたちは救い主と同じ理解の目で自分を見る必要があります。

救い主は、彼に従うように呼びかけた謙遜な漁師たちが大きな可能性を秘めていることを御覧になりました。それは彼ら自身に元々見えていた以上のものでした。主は彼らがどのような人物になり得るかを理解しておられ、彼らの善良さと潜在能力について御存じでした。そして彼らを召すことを実行されました。漁師たちは初めは経験が足りませんでしたが、主に従いながら、主の模範を見て、主の教えを実感し、弟子となりました。一時期、何人かの弟子が主から離れたこともありましたが、耳にした事柄に彼らが耐えられなかったからです。ほかにも離れていく弟子がいることを知っていたイエスは、十二使徒にお尋ねになりました。「あなたがたも去ろうとするのか。」(ヨハネ 6:67) ペテロの答えから、彼が成長し、救い主がどなたであられるかを理解する目を持っていたことが分かります。「わたし

たちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言^{ことば}をもっているのはあなたです。」(ヨハネ 6:68)

その目を持ったおかげで、これらの忠実で献身的な弟子たちは救い主が去られた後に福音を宣べ伝え、教会を確立するために旅をするときに困難なことも成し遂げることができました。ついには自らの証^{あかし}のために命をささげた弟子もいました。

聖典には、福音を理解する目と証を持ち、その目を持ったゆえ行動した人々の例がほかにもあります。預言者アルマは、アビナダイがノア王の前で雄々しく教え、証しているのを聞いて、理解の目を開きました。アルマはアビナダイの教えを実行し、学んだことを方々で教え、彼の言葉を信じた大勢の人々にバプテスマを施しました(モーサヤ 17:1-4; 18:1-16 参照)。使徒パウロは、初期の聖徒たちを迫害していたとき、ダマスコへ行く道中で改宗し、その後はキリストについて教え証することを実践しました(使徒 9:1-6, 20-22, 29 参照)。

今日^{こんにち}でも、多くの若い男女や熟年夫婦が神の預言者の招きにこたえて伝道に出ています。彼らは信仰と勇気をもって家や慣れ親しんだものすべてを置いて行きます。宣教師として大きな善を行えると信じているからです。奉仕について自らの理解に基づいて行動する彼らは、多くの人の生活に祝福をもたらし、その過程で自らの人生も変えていきます。前回の総大会でモンソン大管長は、わたしたちが互いに行う奉仕に感謝を述べ、わたしたちには神の御手^{みで}となって地上にいる神の子供たちを祝福する責任があることを思い出させてくれました(「また逢う日まで」『リアホナ』2011年11月号, 108 参照)。預言者のビジョンを基にこの責任を果たす教会員は、心温まる経験をしています。

地上を去られるとき、救い主はわたしたちに助けが必要であることを御存じだったため、こう言われました。「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。」(ヨ

ハネ 14:18) 主は弟子たちに次のように教えられました。「助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。」(ヨハネ 14:26) これは、救い主や、現代の預言者と使徒たちが教える事柄を実行できるよう、わたしたちに力と動機を与えてくださると同じ聖霊です。

指導者の教えを実践すると、救い主がどのような目でわたしたちを見ておられるかをよりよく理解できるようになります。この大会の間、わたしたちは預言者や使徒から靈感あふれる勧告を受けてきました。彼らの教えを研究し、心の中で深く思い巡らし、これらの教えへの理解の目を生活の中で持てるように聖霊の助けを求めてください。その理解の目を持つとともに、信仰を行使して預言者の勧告を実践してください。

預言者が述べたメッセージに対し、さらなる光と知識を受けたいという思いをもって聖文を調べ、研究してください。それらについて心の中で思い巡らし、靈感を受けられるようにしてください。そして靈感に従って行動してください。

わたしたちが家族で学んだように、断食して祈る人は行動します。アルマは断食と祈りが確信を受けるための一つの方法であると語り、次のように述べました。「わたしは自分でこれらのことを知ることができるように、幾日もの間、断食をして祈ってきた。」(アルマ 5:46) わたしたちも生活で直面する困難に対処する方法を知ようになります。

わたしたちは人生の中で、目標を見失い、時にはなすべきことを行う信仰を失ってしまうほどの出来事を経験します。圧倒されてしまい、それ以上先に進めなくなるほど忙しくなることがよくあります。わたしたちは一人一人違いますが、救い主とその教えにしっかり目を向けるように、へりくだってお勧めします。救い主はペテ



ロ、ヤコブ、ヨハネやそのほかの使徒たちの中に何を見て、御自分に従うように招かれたのでしょうか。救い主は使徒たちだけでなく、わたしたちがどのような人物になれるかをよく理解しておられます。わたしたちが、永続する幸福と大きな喜びをもたらす最も大切な事柄に再び目を向けるには、最初の使徒たちと同じ信仰と勇気が必要です。

救い主の生涯とその教えを学ぶとき、救い主が人々の間で教え、祈り、彼らを霊的に引き上げ、癒して^いおられる姿が見えます。わたしたちが主^に倣^らって主がなされたことを行うなら、自分がどのような者になれるかが分かってきます。聖霊の助けによって、さらに善を行うための洞察力が

祝福されて増し加えられます。変化が起こり始め、あなたや家族に祝福をもたらす新しい秩序が生活にもたらされます。救い主はニーファイ人への教え導く業の中で、このようにお尋ねになりました。「あなたがたはどのような人物であるべきか。」そしてこのように答えられました。「まことに、あなたがたに言う。わたしのようでなければならない。」(3 ニーファイ 27:27) わたしたちが主のようになるためには主の助けが必要です。主はその方法を示してくださいました。「だから、求めなさい。そうすれば与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば開かれるであろう。求める者には与えられ、たたく者には開かれるからである。」(3 ニーファ

イ 27:29)

救い主が持つておられるのと同じ理解の目で自分を見て、その理解に基づいて行動するならば、わたしたちの生活は思わぬ方法で祝福されます。両親に理解の目があったおかげで、わたしの人生に教育を受ける祝福があったばかりか、福音を見いだして受け入れる状況に恵まれました。そして何よりも、善い、忠実な両親の重要性を学びました。短く言えば、わたしの人生は永遠に変えられたのです。

理解の目があったことでわたしの両親が子供たちの幸福を願って断食と祈りをしたように、そして初期の使徒が理解の目をもって救い主に従ったように、その理解の目はわたしたちにも靈感を与え、行動するように助けてくれます。兄弟姉妹、わたしたちは理解の目と、実行する信仰と勇気の歴史を持つ民です。わたしたちのこれまでの成長と、受けてきた祝福を見てください。主が皆さんの生活にも理解の目と行動する勇気を祝福して下さることを信じてください。

救い主がおられ、わたしたちが御自分のもとに帰ることを望んでおられると証します。そのためにはわたしたちに行動する信仰、すなわち主に従い、主のようになる信仰が必要です。わたしたちの人生の様々な時期に主は御手を差し出し、わたしたちを招いておられます。

「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやしく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11:29-30)

救い主は、初期の弟子たちに見いだされたのと同じ大きな可能性をわたしたちにも見いだしておられます。わたしたちも救い主と同じ目で自分を見ましよう。わたしたちがその理解の目を、実行する信仰と勇気とともに持つてくることを祈り、イエスキリストの御名によって申し上げます、アーメン。■



七十人
ラリー・Y・ウィルソン長老

義の原則に従ってしか

賢い親は、自分たちがいなくてもやっつけていけるように子供を備えます。子供が選択の自由を適切に使うほど霊的に成熟すると、成長の機会を与えます。

結 婚してから1か月ほど後、妻とわたしは車で長い旅をしました。妻が運転し、わたしはくつろいだ気分になるよう努めていました。「努めて」と言ったのは、そのとき走っていた道路はスピード違反の取り締まりで有名な場所であり、妻は当時、スピードを出す傾向があったからです。わたしはこう言いました。「スピードを出しすぎているよ。もっとゆっくり走りなさい。」

新婚の妻は心の中でこう思いました。「あら、わたしはもう10年近く運転してきたけれど、教習所の先生以外にはだれも、わたしに運転の仕方を指図した人はいないわ。」そして妻はこう答えました。「何の権利があってわたしに運転の仕方を指図するの?」

正直なところ、その質問に不意打ちを突かれました。けれど、夫としての責任を果たそうと必死になって、わたしはこう言いました。「さあね。わたしは君の夫で、神権を持っているからだよ。」

兄弟の皆さん、助言までに、もし似たような状況にあったとしても、それは正しい答えではありません。そのような間違いをしたことは、それ以来二度となかったと言えることをうれしく思います。

教義と聖約は、家庭であれどこであれ、神権を使う権利は生活における正義と

じかに結びついていると説明しています。「天の力は義の原則に従ってしか制御することも、運用することもできない」のです。¹ さらに、「いかなる程度の不義によっても、[ほかの人]を制御し、支配し、強制しようと」するとき、その力を失うと述べています。²

この聖句によれば、わたしたちは「義の原則」によって導かれなければなりません。そのような原則は教会のすべての指導者と同様、家庭の父親と母親にも当てはまります。³ 不義な方法で人を支配するとき、主の御霊を受ける権利も、神から授かっているどのような権威を主張する権利も失います。⁴ そのような方法は「支配」される側のためになると考えるかもしれません。しかし、自分の選択の自由を**使える**、または**使うべき人**を強制的に正義の道に歩ませようとするのは、不義な行為なのです。人に対して断固とした限度を設ける必要があるとき、常に愛ある忍耐と永遠の原則を教える方法によって行うべきです。

わたしたちは人に正しいことを行うよう強制できません。聖文はそれが神の方法ではないと明確にしています。強制は反感を招きます。人は自分が信頼されておらず無能だと感じます。支配する人が、ほかの人のためにすべての正しい答えを



持っている誇らしげに考えると、学習の機会をなくしてしまいます。聖文には、このような不義な支配をするのは、「ほとんどすべての人〔の〕性質と傾向」⁵であると書かれています。ですから、それが陥りやすいわなであることに注意すべきです。聖文は特に男性の問題として取り上げていますが、女性も不義の支配をすることがあります。

不義な支配には、絶え間ない批判、承認や愛の欠如が伴うことがよくあります。支配される側はまるで、そのような指導者や親を喜ばせることは決してできず、自分はいつも不十分であると感じてしまいます。賢い親は、子供が生活の特定の分野において自分の選択の自由を使う準備ができていることを見定めなければなりません。しかし、親がすべての決定権を握り、それを親の「権利」であると考えたら、子供の成長をひどく制限して

しまうのです。

子供はいつまでも家にいるわけではありません。子供が独立して家を出て行くころになって初めて、選択の自由を使う力を子供に与えるのでは遅すぎます。家にいる間に重要な決断をする自由を一度も与えられなかったとすれば、賢い決断をする能力を急に伸ばすことはできません。そのような子供はこうした強制に反抗するか、または自分で決断できなくなっているのです。

賢い親は、自分たちがいなくてもやっていけるように子供を備えます。子供が選択の自由を適切に使うほど霊的に成熟すると、成長の機会を与えます。これはもちろん、時に子供が間違いをして、失敗から学ぶということでもあります。

わたしたちの家族は、ある経験を通して子供の選択する能力を養わせることについて学びました。娘のメアリーは小さい

ころひときわ目立つサッカー選手でした。ある年、チームは決勝戦へ進み、試合はやはり日曜日に予定されていました。10代半ばのメアリーはずっと、安息日はレクリエーションのためではなく、休息と霊的な再生のための日だと教えられてきました。しかし、コーチやチームメートから試合に出ようプレッシャーを感じるとともに、チームを失望させたくないという気持ちもありました。

娘はわたしと妻にどうしたらよいか尋ねました。わたしたちは娘に代わってこの決断をすることがたやすくてできましょう。しかし、わたしたちはよく祈って考えた後、今回は娘が自分で決断するという霊的な責任を引き受ける準備ができていると結論づけました。一緒に聖文を少し読んでから、メアリーに祈って考えるように勧めました。

数日後、メアリーは自分の決断を告げ

ました。日曜日に試合に出ることにしたのです。ではわたしたちはどうしたらよいのでしょうか。さらに話し合い、御霊の再確認を得た後、以前に約束したとおり、試合に出るという選択を許可しました。試合が終わった後、メアリーは待っていた母親の方へゆっくりと歩いて来てこう言いました。「お母さん、**最悪の気分だった**。あんな思いはもう二度としたくない。安息日にはもう二度と試合に出ないわ。」そして娘はそのとおりにしました。

こうしてメアリーは安息日を守るという原則を自分自身で体得しました。もしわたしたちが試合に出ないように強制していたら、御霊によって学ぶという力強い貴重な経験を娘から奪ってしまったことでしょう。

お分かりのように、子供が選択の自由を正しく使うのを助けるためには、どのようにして祈り、祈りの答えを受けたらよいかを教える必要があります。また、従順はもちろん、ほかのすべての重要な福音の原則の価値と目的を教えなくてはなりません。⁶

わたしたちは、家族を養う際に最も大事な目標は子供が自分で天とつながりを持つように助けることだと決めました。最終的には子供は親ではなく、主に頼る必要があることをわたしたちは知っていました。ブリガム・ヤングはこのように述べています。「人の子らに求められているすべての義務について優先順位を付けるとしたら、わたしは第一の最も大切な義務として、天から地、言い換えれば神から人の心に通じる道が開かれるまで、主なる神に願い求め続けることを挙げます。」⁷

メアリーは以前にほかの状況で祈りに対する答えを受けていました。ですから、今回も娘が自分の生活の中で天との祈りの道を築いていることを信じました。こうして娘は、自分の経験から肯定的なことを学び、将来よりよい選択をする備えができたのです。そのような御霊とのつながりがないと、選択の自由を使うという口実を

設けて、子供も親もあらゆる好ましくない決断を合理化してしまうのです。聖文はこのように約束しています。「賢くて、……自分の導き手として聖なる御霊を受け〔た者は〕欺かれなかった……。」⁸

不義な支配のもう一つの悲劇的な副作用は、神の愛を信頼しなくなることです。あれこれ指図して厳しい要求をする指導者や親に支配された人を何人か知っていますが、そういう人たちは、義の道を進むように支え励ましてくれる、天の御父から受けるほんとうの愛を感じるのが難しくなってしまうのです。

わたしたちは自分に託された人が何より大切な天とのつながりを築くのを助けようとするなら、教義と聖約第121章に記されているような親や指導者にならなければなりません。「ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により」行動しなければなりません。⁹ ヘンリー・B・アイリング管長はこう述べて



います。「若人に与えられる最大の支援は、彼らが神の家に続く道を歩んでいて、実際そこに戻れるとわたしたちが確信しているということ、彼らに感じてもらうことです。」¹⁰

教会と家庭でわたしたちを導くべき原則について考えながら、トーマス・S・モンソン大管長の伝記から一例を挙げてわたしの話を締めくくりましょう。モンソン家の娘アン・ディブ姉妹の話によると、実家の玄関に入ると、父親は今でもこう言うそうです。「おや、だれかと思ったら、うれしいね。きれいになったじゃないか。」アンは続けてこう言います。「両親はいつもわたしを少し褒めてくれます。わたしの外見がどうであれ、また何をしようとして、……両親のところへ行くと、自分が愛され、褒められ、歓迎され、我が家にいることが分かるのです。」¹¹

兄弟姉妹の皆さん、これが主の道です。たとえ過去において誤った扱いを受けたとしても、主はみもとへ帰って来るよう望んでおられます。¹² **すべての人が愛されて、すべての人が歓迎されています。イエス・キリストの御名により、アーメン。** ■

注

1. 教義と聖約 121: 36
2. 教義と聖約 121: 37, 強調付加
3. ニール・A・マックスウェル「肉欲に従うことをすてて」『聖徒の道』1991年1月号, 15 - 17
4. 教義と聖約 121: 37 参照
5. 教義と聖約 121: 39
6. 教義と聖約 68: 25 - 29 参照
7. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』(1997年), 46
8. 教義と聖約 45: 57
9. 教義と聖約 121: 41
10. ヘンリー・B・アイリング「彼らが天の家に戻れるよう助けてください」『リアホナ』2010年5月号, 25
11. ハイジ・S・スウィントン, *To the Rescue: The Biography of Thomas S. Monson* (2010年), 372
12. マタイ 11: 28 参照



七十人
デビッド・F・エバンズ長老

その価値が あったでしょうか

わたしたちが気かけ、愛している人々と、自然に、また普通に福音を分かち合う業は、生涯の業であり、喜びです。

この大会を通して、またそのほかの最近の集会で、¹ 多くの人が、自分は住んでいる地域で主の教会を築き上げ、まことの成長を見る助けをするために何ができるかと考えてきたことでしょう。

今大会や他のすべての重要な働きの中で、わたしたちの最も重要な務めは、いつも自分の家庭と家族の中にあります。² 家族の中でこそ、教会が築き上げられ、まことの成長があるのです。³ わたしたちは自分の子供たちに福音の原則と教義を教えないければなりません。彼らがイエス・キリストを信じる信仰を持つのを助け、8歳のときにバプテスマを受けるように彼らを備える必要があります。⁴ わたしたち自身が忠実であって、主と主の教会を愛する自分の模範を子供たちが見られるようにしなければなりません。この模範により子供たちは、戒めを守る喜び、家族としての幸せ、ほかの人々に奉仕することに伴う感謝を感じられるようになります。わたしたちは家庭の中で、ニーファイが示した手本に従うべきです。彼はこう語っています。

「わたしたちは子孫……に、キリストを信じ、神と和解するように説き勧めるために、熱心に……努めている。……

……わたしたちはキリストのことを話

し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。」⁵

わたしたちは子供たちと一緒に教会に出席し、家庭の夕べを行い、一緒に聖文を読むことによって彼らにこれらの祝福をもたらすよう熱心に努めます。家族と一緒に毎日祈り、召しを受け入れ、病人やひとり暮らしの人を訪ねるなど、様々なことを行って、子供たちを愛していることと、天の御父とその御子と御二方の教会を愛していることを子供たちに伝えていきます。

家庭の夕べのレッスンをするときに、キリストについて話し、預言します。あるいは、子供とともに座り、その子への愛と回復された福音についての証^{あかし}を伝えます。

遠くにいる人々に手紙を書くことでキリストについて書くことができます。奉仕している宣教師、従軍している息子や娘、愛する人々は皆、わたしたちが書く手紙によって祝福を受けます。家庭からの手紙は短い電子メールだけではありません。実際の手紙は、保管し、考え、大事にしておける具体的な何かを与えてくれます。

わたしたちは子育ての中で愛と赦しを示すことにより、子供たちが救い主の贖

罪に頼り、愛に満ちた天の御父の赦しについて知るよう助けます。わたしたちの愛と赦しの模範は、子供たちをわたしたちに近づけるだけでなく、彼らの信仰も築きます。天の御父が彼らを愛しておられること、また悔い改め、より善い行いをし、より善い人になろうと努めるときに御父が赦してくださることが伝わるからです。彼らは、地上の両親から同じことを経験しているので、この真理を確信します。

わたしたちが自分の家庭で行う務めのほかに、ニーファイは次のように教えています。「わたしたちは……同胞に、キリストを信じ、神と和解するように説き勧めるために、熱心に……努めている。」⁶ 末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、わたしたちはそれぞれ、福音を分かち合う祝福と責任を受けています。人生で福音を必要としている人々の一部は、まだ教会員ではありません。ある人々がかつてわたしたちの中にいましたが、人生の早い時期に福音を喜んで受け入れたときに感じた喜びをもう一度感じる必要があります。主は、これまで福音を聞いたことのない人々と、主に立ち返ろうとしている人々の両方を愛しておられます。⁷ 主にとって、またわたしたちにとって、どちらに該当するかは問題ではありません。すべて一つの業です。状態はどうであれ、天の御父とその御子とわたしたちにとって大いなるものは、人の価値です。⁸ 天の御父とその御子の業は、人々の現状がどうであれ、神のすべての子供たちに「不死不滅と永遠の命をもたらす」ことなのです。⁹ わたしたちはこの大いなる業を手伝う祝福にあずかっているのです。

トーマス・S・モンソン大管長は、わたしたちがどのように手伝えるかを説明し、次のように述べています。「伝道の経験は最新のものでなければなりません。くつろいで、過去の経験を思い巡らすだけでは不十分です。達成感を味わうには、自然に、また普通に福音を絶えず分かち合っていかなければなりません。」¹⁰



わたしたちが気にかけて、愛している人々と、自然に、また普通に福音を分かち合う業は、生涯の業であり、喜びです。二つの経験をお話しましょう。

デイブ・オーチャードはソルトレーク・シティーで育ち、友人のほとんどが教会員で、彼に大きな影響を与えました。ほかに、近所に住む教会の指導者たちが絶えず彼を活動に誘いました。彼の友人たちも同様にしました。彼はそのときには教会に入りませんでした。その成長期に祝福されて、末日聖徒の善い友人たちと教会主催の活動の影響を受けました。彼は大学に入ると家を出て、友人のほとんどは伝道に出ました。彼はこれまでに受けてきた彼らの影響がなくなったことを寂しく

思いました。

デイブの高校時代の友人の一人がまだ家にいました。この友人は生活を整えて宣教師として奉仕できるようになるため、毎週ビショップに会っていました。彼とデイブはルームメートになり、自然に、また普通に、彼がなぜまだ宣教師として伝道しておらず、なぜビショップに度々会っているのかについて話しました。友人は、ビショップならびに悔い改めと奉仕の機会に感謝し、尊んでいると述べました。それからデイブに、次の面接に行きたいかどうか尋ねました。何という誘いでしょう。しかし、二人の友情と状況から、それは自然で、普通のことでした。

デイブは承諾し、間もなく一人でビショッ

プと会うようになりました。その結果、宣教師に会うことを決心しました。福音は真実であるという証を得、バプテスマの日付が設定されました。デイブはビショップからバプテスマを受け、1年後に、デビッド・オーチャードとキャサリン・エバンズは神殿で結婚したのです。二人には今、5人のすばらしい子供がいます。キャサリンはわたしの妹です。わたしは、この立派なビショップと、デイブを教会に導いたこの善良な友人に永遠に感謝するでしょう。

デイブは自分の改宗について語り、これらの出来事に関する証を述べたとき、次のように尋ねました。「その価値があったでしょうか。長年の、友人たちと青少年指導者たちとビショップのすべての努力は、たった一人の少年にバプテスマを受けさせる努力として価値があったでしょうか。」彼はキャサリンと5人の子供を指差してこう言いました。「少なくとも、妻と5人の子供にとって、その答えは『はい』です。」

福音を分かち合うときはいつも、「たった一人の少年」ではありません。改宗があるとき、あるいは人が主に立ち返るときはいつも、救われるのは家族です。デイブとキャサリンの子供たちは大きくなると、皆、福音を喜んで受け入れました。一人の娘と二人の息子が宣教師として奉仕しました。そして、一人はアルプス・ドイツ語伝道部で奉仕する召しを受けたばかりです。上の二人は神殿で結婚し、末の子は今高校生で、あらゆる点で忠実です。その価値があったでしょうか。はい、その価値がありました。

アイリーン・ウェイト姉妹は、デイブ・オーチャードが改宗談を話した同じステーク大会に出席しました。大会の間中、彼女は自分の家族と、また特に、長い間教会から離れている姉のミッシェルのことばかりを考えていました。ミッシェルは離婚し、4人の子供を育てていました。アイリーンは自分の証を添えて M・ラッセ

ル・バラード長老の著書『幸福の探求』(Our Search for Happiness)を送るよ
うという気持ちを感じ、それを実行しまし
た。まさにその翌週、もう一人の友人が、
ミッシェルに連絡を取るべきだと自分も感
じたとアイリーンに話しました。この友人
も、証を分かち合い、愛を伝える短い手紙
をミッシェルに書きました。必要な人を助
けるために御霊がしばしば何人かの人に
働きかけるということは、素晴らしいこと
ではありませんか。

時がたち、ミッシェルはアイリーンに電
話して、本のことを感謝し、人生で霊的な
むなしさを覚え始めていたと言いました。
アイリーンは彼女に、彼女の求めている平
安は福音の中で見いだせることを知って
いると告げました。彼女を愛しており、幸
せになってほしいと思っていると告げまし
た。ミッシェルは生活を変え始め、間もな
く、教会で活発な素晴らしい男性に出会
いました。二人は結婚し、1年後にユタ・
オグデン神殿で結び固めを受けました。
最近、彼女の24歳の息子がバプテスマを
受けました。

ミッシェルの家族と、この教会が真実
であることをまだ知らない皆さん、教会が
真実であるかどうか祈りの気持ちで深く
考えるようにお勧めします。家族や友達
や宣教師の言葉に耳を傾けてください。
そして、教会が真実だと分かったら、あな
たの人生に同じ段階を踏むことによって、
わたしたちに加わってください。

この話の結末はまだ書かれていません
が、この素晴らしい女性とその家族に数々
の祝福が与えられています。彼女を愛す
る人々が御霊の促しに従って行動し、自
然に、また普通に自分の証を分かち合い、
戻って来るように勧めたからです。

わたしはこの二つの経験について多く
のことを考えました。自分の生活を整え
ようとしていた一人の若者は、真理を求め
ていた別の若者を助けました。一人の女
性は、20年間教会を離れていた姉に証と
信仰を伝えました。わたしたちが天の御



父に祈り、だれを助けることができるか尋
ね、そして助けることのできる方法を伝え
ようと御父が与えてくださる促しに従って
行動することを約束するならば、御父は祈
りにこたえてくださいます。そして、わた
したちは御父の業を行うために御父の御
手に使われる者となるのです。御霊によ
って与えられる促しに従って愛をもって
行動することは、変化のきっかけとなりま
す。¹¹

気にかけている人々に、自然に、また普
通に福音を分かち合うというこの二つの
経験を聞いている皆さんの多くは、アイ
リーン・ウェイトと同じ経験をしてきた
ことでしょう。皆さんは、手を差し伸べ、
戻って来るように誘うか、それともイエス・
キリストの福音について自分が感じて
いることを分かち合うか、どちらかをする
相手について考えてきました。わたしの
勧めは、速やかにその促しに従って行動
することです。友人や家族に話してくださ
い。自然に、また普通に行ってください。
彼らと主に対するあなたの愛を知らせて
ください。宣教師が手伝うことができま
す。わたしの助言は、モンソン大管長が
この説教台から何度も語ってきたことと
同じです。「促しに従うのを決して先延ばし
にしないでください。」¹² 促しに従って行
動し、愛をもってそれを行うとき、天の御
父が皆さんの行動する意欲を用いて、皆
さんの人生と、皆さんが気にかけている人
の人生に奇跡をもたらされるのを見てくだ

さい。¹³

愛する兄弟姉妹、わたしたちは自分の
家族と愛する人々に福音の祝福をもたら
すように努めるとき、御父の教会を築き上
げ、まことの成長を見ることができます。
これは天の御父とその御子の業です。御
二方が生きておられ、祈りにこたえてくだ
さることを、わたしは知っています。奇跡
をもたらす御父の力に信仰を持ち、その
促しに従って行動するとき、奇跡が起こ
り、人生が変わります。イエス・キリスト
の御名により、アーメン。■

注

1. 『世界指導者訓練集会』2012年2月11日、LDS.org 参照
2. 『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』134 参照
3. ボイド・K・バックナー「家庭における神権の力」『世界指導者訓練集会』2012年2月11日、LDS.org 参照
4. 教義と聖約 68:25 - 28 参照
5. 2 ニーフай 25:23, 26
6. 2 ニーフай 25:23
7. ルカ 15:4 - 7 参照
8. 教義と聖約 18:10 参照
9. モーセ 1:39
10. "Status Report on Missionary Work: A Conversation with Elder Thomas S. Monson, Chairman of the Missionary Committee of the Council of the Twelve," *Ensign*, 1977年10月号, 14
11. トーマス・S・モンソン「熱心に携わる」『リアホナ』2004年11月号, 56 - 59; 「救助に向かう」『リアホナ』2001年7月号, 57 - 60; 「愛の扉」『聖徒の道』1996年10月号, 3 - 7 参照
12. アン・M・ディブ, "My Father Is a Prophet" (ブリガム・ヤング大学アイダホ校ディボーションナル, 2008年2月19日) byui.edu/devotionals/andspeeches; トーマス・S・モンソン「任命された職にしっかりと立つ」『リアホナ』2003年5月号, 54 - 57; 「静まれ、黙れ」『リアホナ』2002年11月号, 53 - 56; 「神権の力」『リアホナ』2000年1月号, 58 - 61; 「霊は人を生かす」『聖徒の道』1985年7月号, 68 - 70 参照
13. トーマス・S・モンソン大管長に加え、ほかの預言者たちもこの同じ原則を教えている。例えば、スベンサー・W・キンボール大管長は、御霊を通して与えられた気持ちに従って行動することの重要性を次のように教えている。「神はわたしたちを心に留め、見守っておられます。しかし、神は普通、だれかほかの人を通してわたしたちの必要を満たされます。ですから、王国で互いに仕え合うことがきわめて大切なのです。」(『歴代大管長の教え——スベンサー・W・キンボール』82)



七十人
ポール・B・パイパー長老

神聖に保つ

神聖なものはより注意深く扱い、大いなる敬意を与え、より深くあがめられなければなりません。

紀 元前約 1500 年、一人の羊飼いが導かれ、ホレブ山で燃えるしばを見ました。その神聖な出会いがモーセを羊飼いかから預言者へ変え、その業を羊の世話からイスラエルの集合に変えたのです。それから 1300 年後、宮廷で特権階級の若い祭司が、罪に定められた預言者が語る証に深く心を動かされました。その出会いがアルマを公僕から神の僕に変えました。それからさらに 2000 年ほど後、14 歳の少年が真剣な疑問を抱き、答えを求めて森に入りました。森での出会いから、ジョセフ・スミスは預言者への道をたどり、回復を担うことになりました。

モーセ、アルマ、そしてジョセフ・スミスの人生は皆、神聖なものとの出会いによって変わりました。このような経験により彼らは強められ、敵対する大きな力やその後の厳しい試練に屈することなく、残りの生涯を主とその業に忠実であり続けることができたのです。

神聖なものとのわたしたちの経験は、それほど直接的でも劇的でもなく、乗り越えるべきものもそれほど過酷ではないかもしれません。しかし、忠実に堪え忍ぶ強さを持てるかどうかは、3 人の預言者のように、天から受けるものに気づき、それを忘れず、神聖に保つかどうかにかかっています。

今日、権能も鍵も儀式も地上に回復さ

れています。聖文もあり、特別な証人もいます。神を求める人々は罪の赦しを受け、バプテスマと、「火と聖霊によるバプテスマのための按手による」確認を受けることができます（教義と聖約 20:41）。このような尊く回復された賜物があるので、神聖なものとの出会いはおもに神会の第 3 の御方、聖霊を通して得られるのです。

「御霊は小さな声で導く
悪いことはやめるように」
（「小さな声で」『子供の歌集』144）

「みたまはわれに
真実告げたもう
キリスト証し
天開きたもう」
（「みたまはわれに」『賛美歌』82 番）

神からの答えを求めるとき、わたしたちは霊にささやきかける静かな細い声を感じます。その感覚や印象はあまりに自然で繊細なため、わたしたちは見過ごしたり、理性や直観だと思い込んでしまったり、このような個々に与えられるメッセージは、神が一人一人の子供たちを愛し、関心を寄せ、子供たちに現世で個人的な使命があることを証しています。御霊から受けた印象について毎日思い巡らし、それを記録することで、(1) 神聖なもの自身

との出会いに気づき、(2) 自分と子孫のためにそれを保存するという二つの目的を果たすことができます。記録を残すことは、神に改まって感謝を表すことでもあります。「すべてのことの中に神の手を認めない者……のほかに、人はどのようなことについても神を怒らせることはない、すなわち、ほかのどのような人に向かって神の激しい怒りは燃えない」からです（教義と聖約 59:21）。

御霊によって受けたものに敬意を払うことに関して、主はこのように言っておられます。「上から来るものは神聖であ[る]……ことを覚えておきなさい。」（教義と聖約 63:64）この御言葉は単なる促しではありません。定義であり、説明でもあります。天からの光と知識は神聖なものです。天がその源であるから神聖なのです。

神聖であるとは、あがめ敬うにふさわしいことを意味します。何かを神聖なものとして定めることで、それにはより大きな価値があって、ほかのものより優先されるべきであると主は示しておられるのです。神聖なものはより注意深く扱われ、大いなる敬意が払われ、より深くあがめられなければなりません。天で価値あるものを並べると、神聖なものは上位に位置します。

神にとって神聖なものは、選択の自由を働かせることによって、わたしたちにとっても神聖なものとなるのです。神が神聖であると定義なさったものを一人一人が受け入れ、神聖に保つ選択をしなければなりません。神は天から光と知識を送ってください。送ってくださったものを受け取り、神聖に扱うよう神はわたしたちに求めておられます。

しかし、「すべての事物には反対のものが」あります（2 ニーファイ 2:11）。神聖の反対は不敬なものや世俗のもの、すなわち現世あるいはこの世のものです。この世のものは神聖なものに絶え間なく対抗してわたしたちの注意を引き、優先させようとします。わたしたちが日々現世で



暮らしていくためには世俗の知識も必要不可欠です。わたしたちは学問と知恵を探し求め、最良の書物から研究して学び、またもろもろの言語と国語と民族に通じるようにしなければならぬと主は勧告しておられます(教義と聖約 88:118; 90:15 参照)。このように、世俗のものよりも神聖なものを優先する選択は、相対的な優先順位の選択の一つであって、どちらかを選んで他をまったく締め出すということではありません。「[わたしたちが] 神の勧告に聞き従うならば、学識のあるのはよいこと」です(2 ニーファイ 9:29, 強調付加)。

一人一人の心の中にある、神聖なものと世俗のものとの優先順位を巡る闘いは、燃えるしばを見たときのモーセの経験によって説明することができます。モーセはエホバからイスラエルの子らを奴隷の境遇から救い出すという神聖な召しを受けました。しかし、エジプトとパロの力についてこの世の知識があった彼は、初めは疑いました。最終的にモーセは主の御言

葉を信じる信仰を働かせました。世俗の知識を抑え込み、神聖なものを信じたのです。信じることによって力を得た彼は、現世の試練を克服し、イスラエルの民をエジプトから導き出しました。

ノアの軍隊から逃れたもののアミュロンの手に落ち奴隷となった後に、アルマはアビナダイの言葉を聞いていた間に受けた霊的な証を疑うこともできたはずですが、彼は神聖なものを信頼し、耐える力を授けられ、現世の試練から逃れました。

ジョセフ・スミスはモルモン書の翻訳を始めたころに似たような窮地に陥りました。彼は版とその翻訳の業が神聖なものだと知っていました。しかし、神聖な指示に反し、友情と経済援助というこの世の問題を優先するようマーティン・ハリスに説き伏せられてしまいました。その結果、翻訳原稿を紛失してしまったのです。主は、「神聖なものを悪に引き渡した」とジョセフをしかり(教義と聖約 10:9)、しばらくの間、彼を版からも翻訳の賜物から

も遠ざけられました。ジョセフの優先順位が再び正しく定まったとき、神聖なものは戻され、翻訳の業が再開したのでした。

モルモン書にはほかにも、神聖なものを優先しようと葛藤する例が記されています。信仰によって命の木まで導かれ、神の愛である神聖な実を食べた信者について語られています。その後、大きな広々とした建物にいる人々にあざけられ、信者は神聖なものから世俗のものに焦点を移してしまいます(1 ニーファイ 8:11, 24-28 参照)。後にニーファイ人は高慢を選び、預言と啓示の霊を否定して、「神聖なものをあざけり」ます(ヒラマン 4:12)。主の降誕にかかわるしるしや奇跡をその目で見た人の中にも、そのような天からの神聖な現れを否定し、世俗の解釈を選ぶ人々がいました(3 ニーファイ 2:1-3 参照)。

今日もこの葛藤は続いています。世俗の声は大きさも激しさも増えています。世の人々は信じる人々に、この世的に不合理に思えるものを捨てるように駆り立てています。「わたしたちは、……鏡に映して見

るようにおぼろげに見て」いて(1コリント13:12)「すべてのことの意味を知っているわけではありません」から(1ニエファイ11:17), わたしたちは自分の弱さを感じ、さらに大なる霊的な確信が必要だと感じるかもしれません。オリバー・カウドリは主にこう教えられました。

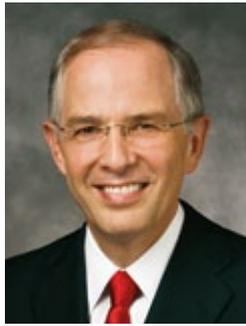
「あなたはこれ以上の証を望むならば、これらのことが真実であることを知ろうとして心の中でわたしに叫び求めた夜のことを思い出さない。

わたしはこの件についてあなたの心に平安を告げなかったであろうか。神からの証よりも大なる証があるであろうか。」(教義と聖約6:22-23)

主はオリバーとわたしたちに、試練に遭うときには、すでに受けている神聖な個人の証に頼ることを思い出させました。昔のモーセやアルマやジョセフのように、そのような神聖な出会いは、わたしたちが試練に遭うときに安全に守り、正しい方向に進むための霊的な礎となるでしょう。

神聖なものを選んで放棄することはできません。ましてや神聖なものを軽々しく捨ててしまう人々は思いが暗くなり(教義と聖約84:54参照)、悔い改めなければ、受けている光も取り去られてしまいます(教義と聖約1:33参照)。神聖なものに支えられずに、世俗の海の中をさまようことになるでしょう。反対に、神聖なものを神聖に保つ人々は次のように約束されています。「神から出ているものは光である。光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。」(教義と聖約50:24)

主の祝福によってわたしたちが常に天から受けたものに気づき、忘れず、それを神聖に保つことができますように。そうするとき、試練に耐え、現代の困難な問題を乗り越えることができると証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。



十二使徒定員会
ニール・L・アンダーセン長老

キリストはわたしを どう思われるか

主を愛し、主を信頼し、主を信じ、主に従うとき、主の愛と承認を感じることでしよう。

ブラジルの大手雑誌社から派遣されたレポーターが、特集記事を組むに当たって、この教会を取材しました。¹ 彼はわたしたちの教義を研究し、宣教師訓練センターと人道支援センターを訪問しました。教会の友人だけでなく教会に対してあまり好意的でない人とも話をしました。その後、わたしとのインタビューで、このレポーターはほんとうに当惑している表情を浮かべながら、こう尋ねたのです。「皆さんのことをキリストチャンではないと思っている人がいますが、これはどういうことでしょうか。」彼が教会全体のことを話しているのは分かっていましたが、わたしは自分に向けられた質問と感じ、心の中でこう自問しました。「わたしの生活は、わたしが救い主に対して感じている愛や献身を反映しているだろうか。」

イエスはパリサイ人にこう尋ねられました。「あなたがたはキリストをどう思うか。」² 最後の裁きのときに、わたしたち個人が主の弟子になっているかどうかを裁くのは、友人でもなければ敵でもありません。むしろパウロが言っているように、「わたしたちはみな、神のさばきの座の前に立つので[す]。」³ その日、わたしたち一人一人にとって次のような質問が重みを

帯びてきます。「キリストはわたしをどう思われるか。」

イエスは全人類を愛しておられました。しかし、イエスを取り巻く人々の中には、偽善者⁴、愚かな人⁵、不法を働く者⁶と称され、主にとがめられた人々もいました。御国の子⁷、世の光⁸と呼ばれ、主によしとされた人々もいました。目をくらまされた人⁹、実を結ばなくなる人¹⁰と称され、主に非難された人々もいました。心の清い人¹¹、義に飢え渴いている人¹²として主に褒められた人々もいました。不信仰な人¹³、この世の者¹⁴として主の嘆きを買った人々もいましたが、選ばれた者¹⁵、弟子¹⁶、友¹⁷として主に尊ばれた人々もいました。そのようなわけで、わたしたちはそれぞれ次のように自問します。「キリストはわたしをどう思われるか。」

トーマス・S・モンソン大管長は、今日の社会は「霊的なものから」遠く隔り、「わたしたちの周りで世の中が変わり、社会の道徳基準が目の前で崩れていこうと[している]」と語っています。¹⁸ キリストとキリストの教えを信じず、ないがしろにする傾向が増してきている時代なのです。

この激動する環境の中で、イエス・キリストの弟子であることはわたしたちにとって大きな喜びです。わたしたちは主の御

手^てが世界中に伸べられているのを目^めの当たりにしています。わたしたちの目的地へと続く道は美しく整えられています。イエスはこう祈られました。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがたかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」¹⁹ この末日に弟子となることは、永遠に輝く勲章となるでしょう。

この大会期間中に聞いたメッセージは、弟子としての旅の途上で主から与えられる道標です。この2日間に大会の話を聞き、霊的な導きを求めて祈り、耳を傾け、さらには、これらのメッセージについてこれからの数か月間、研究し祈るときに、主は聖霊の賜物^{たまもの}を通して、わたしたちの状況に見合った指示を授けてくださいます。このようにするときを感じる気持ちは、わたしたちをさらに神へと向けさせ、悔い改め、従順、信仰、そして信頼へと導いてくれます。救い主はわたしたちの信仰ある行いにこたえてくださいます。「もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行って、その人と一緒に住むであろう。」²⁰

アンジー・サンテラス、ガンチ・サンテラス、ガンスリー・サンテラス



「わたしに従ってきなさい」²¹ というイエスの呼びかけは、霊的なオリンピックで競争に参加できる人だけに向けられたものではありません。実は、主の弟子になることは、決して競争ではなく、すべての人に対する招きなのです。主の弟子としての旅は競技場のトラックを走る短距離走でもなければ長距離マラソンでもありません。実は、よりすばらしい世界を目指し、生涯をかけた旅なのです。

この招きは日々の務めへの呼びかけです。イエスはこう言っておられます。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」²² 「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」²³ わたしたちはいつも最高の状態というわけにはいかないかもしれませんが、わたしたちが努力しているかぎり、イエスの招きは励ましと希望に満ちています。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」²⁴

今、主の弟子としての道を歩んでいるのであれば、その道のどの地点にいようと、皆さんは正しい道、すなわち永遠の命

へと続く道を歩いていることになります。わたしたちの前途には偉大でかけがえのない日々が待ち受けています。その中でわたしたちは互いに高め合い強め合うことができます。どのような困難に直面しようとも、どのような弱点に縛りつけられようとも、あるいはまたどのような信じ難いことに取り巻かれようとも、「信ずる者には、どんな事でもできる」と宣言された神の御子を信じる信仰を持つてはなりませんか。²⁵

主の弟子として行動する二つの例を紹介しましょう。最初の例はトーマス・S・モンソン大管長の生涯から引用します。この例から、小さな思いやりと「あなたがたのうちでいちばん偉い者は、仕える人でなければならない」というイエスの教えには力があることが分かります。²⁶

20年ほど前のこと、モンソン大管長は総大会で、癌^{がん}を患っている12歳の若い女性について話しました。彼女の勇気と彼女をユタ中部にあるティンパノゴス山の頂上まで抱えて行った友人たちの思いやりがテーマでした。

数年後、わたしはジェイミー・パーマー・ブリントンに会って、同じ話を別の視点、すなわちモンソン大管長が彼女のために何をしたかという視点から聞きました。

ジェイミーは1993年3月にモンソン大管長に会いました。それは右ひざ上部のはれ物は急激に悪化する骨肉種だと医者から言われた翌日のことでした。彼女の父親とともに、モンソン大管長は神権の祝福を施し、「イエスはあなたの右におられ、また左におられ、あなたを支えてくださるでしょう」と約束しました。

ジェイミーはこう語っています。「その日、モンソン大管長のオフィスを離れるとき、わたしは自分の車いすにつないであった風船を外して、彼に上げました。『あなたは最高!』風船には色鮮やかな文字でそう書かれていました。」

化学療法と四肢温存手術の間も、モンソン大管長は彼女のことを忘れませんで



した。ジェイミーはこう語っています。「モンソン大管長は、キリストの真の弟子になるとはどういうことかを模範で示してくれました。〔大管長は〕わたしを悲しみから大きく揺るぎない希望へと引き上げてくれたのです。」最初の出会いから3年後、ジェイミーはモンソン大管長のオフィスに再び訪れる機会がありました。この2度目の出会いの最後にモンソン大管長がしてくれたことをジェイミーは決して忘れないでしょう。いかにも思いやりのあるモンソン大管長らしい行為でした。3年前にジェイミーからもらった風船で彼女を驚

かせたのです。「あなたは最高!」と記されたあの風船です。モンソン大管長は、癌が治ったら、彼女が自分のオフィスを再び訪れると分かっている、その風船を取っておいたのです。ジェイミーとの最初の出会いから14年後、モンソン大管長はソルトレーク神殿で、ジェーソン・プリントンと彼女の結婚式を執り行いました。²⁷

わたしたちはモンソン大管長が主の弟子として示した模範から多くのことを学ぶことができます。モンソン大管長は中央幹部に、次の簡単な質問について心に留める大切さをよく思い起こさせてくれま

す。「イエスなら、どうされるだろうか。」

イエスは会堂司に言われました。「恐れることはない。ただ信じなさい。」²⁸ 主の弟子になるとは、平穏なときだけでなく、困難なときにも主を信じることです。主はわたしたちを愛し、御自身の約束を守られます。そのことを確信することによってのみ、わたしたちの痛みや苦痛は和らげられます。

わたしは最近、主をどのように信じるかをすばらしい模範によって示した家族に会いました。ハイチのポルトープランスに住むオルガン・サンテラス、ソリン・サンテラス夫妻です。二人は次のような話をしてくれました。

2010年1月12日、地震がハイチを襲い壊滅的な被害をもたらしました。そのときオルガンは職場、ソリンは教会にいました。3人の子供たち、ガンチ（5歳）、アンジー（3歳）、ガンスリー（1歳）は自宅のアパートにいました。一人の友人が付き添っていました。

町のあちこちが見るも無残な有様ありさまでした。皆さんも記憶しているとおり、あの1月にハイチで何万人もの人々が命を失いました。オルガンとソリンは、子供たちを探すために、自分たちのアパートに駆けつけました。サンテラス家が住んでいた3階建てのアパートの建物は崩壊していました。

子供たちは逃げ遅れていました。建物の崩壊があまりにもひどい場合、救助活動は行われませんでした。

オルガン・サンテラスとソリン・サンテラスは二人とも専任宣教師として奉仕し、神殿で結婚していました。彼らは救い主を信じ、自分たちに対する救い主の約束を信じていました。しかし、悲しみは深く、涙がとめどもなく流れ落ちました。

オルガンは、最もつらいその状況の中で次のように祈り始めたと言っています。「天の父なる神様、もし御心みこころにかなうことでしたら、一人だけでも、子供を生かしてください。どうかわたしたちをお助けくだ

さい。」何度も何度も、彼は靈感を祈り求めながら、建物の周辺を歩き回りました。隣人たちは彼を慰め、子供が亡くなったという事実を受け入れさせようとしてきました。それでもオルガンは、希望を持ち、祈りながら、倒壊した建物のがれき周辺を歩き回りました。そのとき、途方もなく奇跡的なことが起こりました。オルガンの耳に、小さな赤ちゃんの泣き声がかすかに聞こえたのです。それはほかでもない彼の赤ちゃんの泣き声でした。

隣人たちは、何時間も、必死になって、自分の身を危険にさらしながら、がれきを掘り起こしました。夜が来て辺りはまっ暗になりました。耳をつんざくようなハンマーとのみの音が響き渡る中、救助活動を行っている人たちはもう一つの音を耳にしました。彼らは作業の手を止めて、音のする方向へと耳を傾けました。自分たちの耳が信じられませんでした。小さな子供の声だったのです。しかも、歌っていたのです。後日談ですが、5歳のガンチは、歌を歌ったら父親が自分の声に気づくのを知っていたと語っています。落ちてきた重たいコンクリートの下敷きになり、後に腕を切断することになりましたが、そんな状況で、ガンチはお気に入りの歌「神の子です」を歌っていました。²⁹

時間が経過し、ハイチに住む多くの貴い神の息子、娘たちが暗闇、死、そして絶望を経験していたとき、サンテラス家は奇跡を経験しました。ガンチ、アンジー、ガンズリーは押しつぶされた建物の下から生きて発見されたのです。³⁰

奇跡はいつもそのように即座に起こるわけではありません。時折わたしたちは、熱心に祈り求めている奇跡がどうして今ここで起きないのだろうと考え込んでしまうことがあります。しかし、救い主に信頼を置いているかぎり、約束された奇跡は起こります。現世か来世か分かりませんが、すべては然るべき形に収まるのです。救い主はこう宣言しておられます。「あなたがたは心を騒がせるな、またおじける



な。」³¹「あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出さない。わたしはすでに世に勝っている。」³²

主を愛し、主を信頼し、主を信じ、主に従うとき、主の愛と承認を感じることを証します。「キリストはわたしをどう思われるか」と自問するときに、皆さんは主の弟子であり、主の友であることが分かるでしょう。主はその恵みによって、皆さんが自分一人の力ではできないことを皆さんに代わってしてください。

わたしたちは愛する預言者の最後のお話を心から楽しみにしています。トーマス・S・モンソン大管長は、わたしが12歳のときに、主イエス・キリストの使徒として聖任されました。48年以上もの間、わたしたちは祝福されて、彼がイエス・キリストについて証するのを聞いてきました。わたしは彼が現在、この地上における救い主の前任使徒であることを証します。

この教会の会員ではない、イエス・キリストの多くの弟子たちに対し心からの愛と尊敬を抱きつつも、わたしたちはへりくだり宣言します。わたしたちの時代に天使がこの地上を再び訪れました。主が古代に設立されたように、イエス・キリストの教会が、力、儀式、天の祝福を伴って回復されたのです。モルモン書はイエス・キリストのもう一つの証です。

わたしはイエス・キリストが世の救い主であり、わたしたちの罪のために苦しみと死を経験し、3日目によみがえられたことを証します。主は復活されました。将来、いつの日か、すべてのひざがかがみ、すべての舌が、彼こそキリストであると告白することでしょう。³³ その日、わたしたちの関心は、「周囲の人々はわたしをクリスチャンだと考えているか」ということには向けられないでしょう。そのとき、わたしたちの目は主に釘付けとなり、わたしたちの心は次の質問に集中するでしょう。「キリストはわたしをどう思われるか。」主は生きておられます。このことをイエス・キリストの御名によって証します、アーメン。■

注

1. アンドレ・ベトレー、"Entre a Fé e a Urna," *Veja*, 2011年11月2日付, 96 参照
2. マタイ 22:42
3. ローマ 14:10
4. マタイ 6:2 参照
5. マタイ 23:17 参照
6. マタイ 7:23 参照
7. マタイ 13:38 参照
8. マタイ 5:14 参照
9. マタイ 15:14 参照
10. マタイ 13:22 参照
11. マタイ 5:8 参照
12. マタイ 5:6 参照
13. マタイ 17:17 参照
14. ヨハネ 8:23 参照
15. ヨハネ 6:70 参照
16. ヨハネ 13:35 参照
17. ヨハネ 15:13 参照
18. トーマス・S・モンソン「聖なる地に立つ」『リアホナ』2011年11月号, 83, 86
19. ヨハネ 17:3
20. ヨハネ 14:23
21. ルカ 18:22
22. ヨハネ 14:15
23. ルカ 9:23
24. マタイ 11:28
25. マルコ 9:23
26. マタイ 23:11
27. ジェイミー・ブリントン、著者への手紙、2012年1月27日付
28. マルコ 5:36
29. 「神の子です」『子供の歌集』2-3
30. オルガン・サンテラスおよびソリン・サンテラスとの話から、2012年2月10日付。ジェニファー・サミュエルズ、"Family Reunited in Miami after Trauma in Haiti," *Church News*, 2010年1月30日付, 6も参照
31. ヨハネ 14:27
32. ヨハネ 16:33
33. ローマ 14:11 参照



トーマス・S・モンソン大管長

今大会を 閉じるに当たり

主皆さんがここで聞いた真理について深く思い巡らして、昨日大会が始まったときよりもさらに善良な人になれますように。

この輝かしい大会を終えるに当たり、わたしは胸がいっぱいです。わたしたちは話者の勧告や証に耳を傾けて、非常に豊かな祝福を受けました。皆さんもわたしと同じように感動し、証が強くなり、主の御霊を感じたことと思います。

今大会でもまた、美しい音楽を楽しみました。音楽は大会の各部会に活力と彩りを添えてくれました。音楽の才能を分かち合ってくれたすべての人に、感謝を伝えます。

各部会で話してくれた人たち、また祈りをささげてくれた人たちに心から感謝します。

大会を開くときにはいつでも、人の目に触れないところで働く人や目立たない責任を果たす人が大勢います。彼らの助けがなければ、この大会の部会を開くことはできなかったでしょう。そのような人すべてに感謝します。

今大会で解任された兄弟姉妹に深く感謝しています。皆さんも同じ気持ちだと思います。彼らがこの場になくなるのを寂しく思います。彼らは主の業に多大な貢献をしました。彼らの働きは、これから何世代にもわたる人々に影響を及ぼす

ことでしょう。

また、わたしたちはこの大会で新しい職に召された兄弟姉妹たちを、挙手をもって支持しました。わたしたちは彼らを歓迎します。これから主の大義において、ともに働けるのを楽しみにしていることを彼らに知ってほしいと思います。彼らは天か

ら靈感を受けて召されました。

この大会は、かつてない広い地域に放送されました。大陸や大洋を越えて、至る所にいる人々に届けられたのです。大会を聞く人の多くは非常に遠く離れた所にいますが、わたしたちは皆さんの心と熱意を身近に感じています。皆さんがどこにしようと、愛と感謝を伝えます。

兄弟姉妹の皆さん、回復されたイエスキリストの福音があることは、何と大きな祝福でしょうか。この福音は、人生最大の疑問に答えてくれます。人生に意味と目的と希望をもたらしてくれるのです。

わたしたちは荒れた時代に生きています。天の御父はわたしたちが取り組んでいる問題を御存じです。御父はわたしたち一人一人を愛しておられ、祝福し、助けたいと願っておられます。次の言葉で教えられているように、わたしたちが御父に祈り求めることができますように。「常に祈りなさい。そうすれば、わたしはあなたに御霊を注ごう。そして、あなたの祝福は大なるものとなる。まことに、地の宝と、それと同等の腐敗するものを得るより

ブリガム・ヤング大学:アイダホ校





も、それは大きいであろう。」¹

愛する兄弟姉妹の皆さん、家庭が愛と親切と主の御霊で満たされますように。家族を愛してください。家庭に不調和やいさかきがあるなら、今すぐに解決するよう勧めます。救い主は次のようにおっしゃいました。

「論争が、今後は決してあなたがたの中にあってはならない。……

まことに、まことに、あなたがたに言う。争いの心を持つ者はわたしにつく者ではなく、争いの父である悪魔につく者である。悪魔は互いに怒って争うように人々の心をあおり立てる。

〔しかし〕見よ、〔これは〕わたしの教義ではない。このようなことをやめるようにというのが、わたしの教義である。」²

皆さんの僕としてへりくだり、ベニヤミン王が民に語った次の言葉を繰り返します。

「わたしがあなたがたに……命じたのは、……わたしが死すべき人間以上の者であると思わせるため〔は〕ない。

わたしはあなたがたと同じで、心身ともあらゆる弱さを持っている。それでも

わたしは、……主の御手によって〔選ばれ〕た。そして、主から授かった勢力と思いと力を尽くしてあなたがたのために努めるように、主のたぐいない力によって守られてきたのである。」³

愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしは神



の御心を行って神と皆さんに仕えたいと心から願っています。

大会を後にする際、皆さん一人一人に天の祝福があるよう祈ります。遠く離れた家から来た人たちが無事家族のもとに帰れますように。皆さんがここで聞いた真理について深く思い巡らして、昨日大会が始まったときよりもさらに善良な人になれますように。

半年後にまた会うまで主の祝福が皆さんのうえに、そしてすべての人のうえにありますように。これらのことを、わたしたちの主であり、救い主であるイエス・キリストの聖なる御名によって祈ります、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 19:38
2. 3ニーファイ 11:28 - 30:強調付加
3. モーサヤ 2:10 - 11



中央若い女性第二顧問
アン・M・ディブ

立って光を放ちなさい

立って光を放つことができる最もすばらしい方法の一つは、確信をもって神の戒めに従うことです。

今 晩、皆さんとともに過ごすことを光栄に思います。毎年1月には、ミューチャルの新しいテーマの発表が待ち遠しいです。でも、前年のテーマから学んだことをしっかりと身に付けたかどうか、振り返る時間を持つようになっています。

では最近のテーマをちょっとおさらいしましょう。「絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。」¹「確固として揺らぐことなく、いつも多くの善い行いをしなさい。」²「信者の模範になりなさい。」³「強く、また雄々しくあれ。」⁴そして信仰簡条第13条の聖句です。「わたしたちは、正直、真実、純潔、慈善、徳高くあるべきこと、またすべての人に善を行うべきことを信じる。」⁵

1年を通してこうした聖句に重点を置いて研究することにより、聖句が心と精神にしみ渡り、証をはぐくむことができました。皆さんが今後もその導きに従い、さらに2012年のミューチャルのテーマ、教義と聖約の聖句に目を向けてくれることを願っています。

第115章の前書きにはこのような説明があります。1838年、ミズーリ州ファーウェストで、ジョセフ・スミスは「その地を築き上げて主の宮を建てることについての神の御心みこころを知らせ[た。]」預言者は明る

い希望と自信に満ちていました。5節が今年のテーマです。主がジョセフにこう語っておられます。「まことに、わたしはあなたがたすべてに言う。立って光を放ちなさい。それは、あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となるためである[る。]」

「立つ」という言葉を聞くと何を思い浮かべますか。わたし個人は、皆さん、すなわち教会の気高い青少年を思い浮かべます。早朝セミナーに出るため毎朝起きる勤勉な皆さんの姿を想像します。毎日祈りを終えて立ち上がる忠実な皆さんの姿が見えます。証を述べ、標準を守るために立ち上がる勇敢な皆さんのことを思います。福音に従う強い決意と良い模範に心が鼓舞されます。皆さんの多くはすでに、立って光を放つという招きを受け入れており、その皆さんが放つ光が同じようにするようほかの人を励ますのです。

立って光を放つことができる最もすばらしい方法の一つは、確信をもって神の戒めに従うことです。これらの戒めは、聖文、現代の預言者、小冊子『若人の強さのために』から学ぶことができます。皆さん一人一人がこの小冊子を持つべきです。尊敬する友人が教えてくれたように、わたしは自分の小冊子にある「あなた」(you)と「ために」(for)という言葉に丸を付け

ました。この単純な作業をすることで、これらの標準が一般的な指針であるだけでなく、わたしの「ために」あることを思い起こすことができます。皆さんも時間を取って自分の冊子を始めから終わりまで読み、この二つの言葉に丸を付け、これが「あなた」のためにも書かれていると、御霊たまが証してくれることを感じていただきたいと思います。(訳注：日本語の場合、「あなた」や「自分」、「ために」という言葉に印を付けてみましょう。)

『若人の強さのために』に書かれた標準を無視したり、避けたりするように誘惑に駆られる人もいるでしょう。冊子を見て、こう言うかもしれません。「ほらね、お母さん、[現在ある問題をここにしてください]についてはここに書いてないわ。」あるいは、自分にこのような口実を言うかもしれません。「わたしのしていることはそれほど悪くはない。[友達か知り合いの名前を入れてください]さんほど悪くないことは確かよ。」

ハロルド・B・リー大管長はこう教えています。「神のあらゆる戒めの中で最も大切なものは、それを守るのが非常に難しいと今感じている戒めです。」⁶ベニヤミン王はこう説明しています。「あなたがたが罪を犯すものになることをすべて告げることはできない。その方法や手段はいろいろあって、数え上げられないほど多いからである。」⁷もし皆さんがこれらの標準や戒めを守ることに悪戦苦闘たまたものしているなら、福音の中に助けを求めようお勧めします。聖文を読んでください。教会の公式ウェブサイトLDS.orgを見ることに時間を取り、疑問に対する答えを探してください。両親や教会の指導者、福音に従って生活することで輝いている人々と、話してください。祈ってください。皆さんを愛しておられる天の御父に心を注ぎ出してください。毎日、悔い改めという賜物たまものを使ってください。ほかの人に奉仕してください。そして、最も大切なことですが、聖霊のささやきに耳を傾けて従ってください。



トーマス・S・モンソン大管長はこのように述べてわたしたちを励ましています。「若い友である皆さん、強くあってください。……皆さんは何が正しく、何が間違っているかを知っています。罪がどのように偽装しようと、どんなに魅力的であろうと、悪を善に変えることはできません。……皆さんのいわゆる友達が明らかに間違ったことを強要しようとするなら、たとえ独り取り残されたとしても、正しいことを擁護する人となってください。」⁸

天の御父はわたしたちがこの世に心を向け、絶えず変化する風潮に「従う」ことを望んでおられません。御父に心を向け、御父の常に変わらぬ導きに従うよう望んでおられます。福音に従って生活し、標準を高く掲げてほかの人々を「導く」ように望んでおられるのです。

聖文にはこの概念を分かりやすく説明する多くのすばらしい実例が載っています。旧約聖書の士師記では、サムソンについて学ぶことができます。サムソンは非

常に大きな潜在能力を持って生まれました。母親はこのような約束を受けました。「彼はベリシテびとの手からイスラエルを救い始めるでしょう。」⁹ しかし、サムソンは成長すると、神の導きよりもこの世の誘惑に従うようになりました。それらの選択が正しいからという理由からではなく、むしろ「[自分の] 心になか[う]」¹⁰ からという理由で選択をしました。サムソンの旅や行動、選択について語るとき、聖文には繰り返し、「下って行って」¹¹ という言葉が使われています。サムソンは大きな潜在能力を発揮するために立って光を放つのではなく、この世の力に屈し、神から与えられた力を失い、若くして悲惨な死を遂げたのです。

それとは逆に、聖文はダニエルの模範を語っています。ダニエルも非常に大きな潜在能力を持って生まれました。ダニエル書第6章にはこう書かれています。「ダニエルは彼のうちにあるすぐれた霊のゆえに、他のすべての総監および総督た

ちにまさっていた。」¹² ダニエルはこの世の試練に遭ったとき、この世に心を向けず、立ち上がって天に目を向けました。30日間、王以外のだれに対しても祈らないようにというこの世の王の禁令に従わず、ダニエルは「家に帰り、……エルサレムに向かって窓の開かれた所で、以前からおこなっていたように、一日に三度ずつ、ひざをかがめて神の前に祈り、かつ感謝した」¹³ のです。

ダニエルは立って光を放ち、神の戒めに従うことを恐れませんでした。義を貫いた結果として、ししがいる穴の中で落ち着かない夜を過ごしましたが、ダニエルは守られ、従順だったので祝福を受けました。翌朝、ダリヨス王はダニエルをしの穴から出し、ダニエルの神を畏れ、ダニエルの忠実な模範に従うようにとの命令を下しました。ほんとうにダニエルは、もろもろの国民のための旗となり、この世の誘惑に遭っても標準を決して下げないことがどういうことなのかを示してくれたの

です。

わたしは今日の青少年が示してくれる多くの模範について聞くという祝福を受けました。それは、皆さんのように恐れずに立って光を放ち、仲間の中で旗を掲げる青少年です。ジョアンナは高校でただ一人の教会員であり、ワードでただ一人の若い女性でした。悪い言葉遣いを決してしないと自分にも主にも約束しました。学校のプロジェクトでペアを組んだ男の子はそのような約束をしてはいませんでしたが、彼女は自分の標準を下げませんでした。彼女の価値観を尊重してくれるよう彼に頼みました。時がたつにつれて、優しく、時には厳しく注意を受けながら、彼女の友達は新しい習慣を身に付け、前より良い言葉遣いをするようになりました。多くの人が変化に気づきました。この若者の母親は息子の生活に良い影響を及ぼしてくれたジョアンナに感謝しました。¹⁴

最近、訓練の割り当てを受けてフィリピンへ行ったとき、カレンに会いました。カレンはローレルのころ、ホテルやレストランの経営の分野で学位を取るために勉強していたころの経験を語ってくれました。レストランで出される様々な飲み物を作り、試飲するように先生が生徒全員に言いました。中にはアルコールが含まれている飲料もありました。カレンはその味見をすることは主の戒めを破ることになると知っていました。重大な結果を招く選択に直面し、カレンは立って光を放つ勇気を見だし、アルコール飲料を飲みませんでした。

カレンはこう説明しています。「先生がわたしのところへ来て、なぜ飲まないのか聞き、こう言いました。『少なくとも試飲をしないで、どうやって飲み物の味を知り、この重要な科目に合格するのですか。』わたしは自分が末日聖徒イエス・キリスト教会の教会員であり、教会員は健康に害になるものを飲まないんですと言いました。先生がわたしに何を期待しようと、たとえ落第点を取ることにしろと、仕方があり



ません。でも自分の標準を下げるようなことはしたくないのです。」

数週間が過ぎ、その日のことはそれ以上何も言われませんでした。学期末になり、試飲を拒んだことが最終成績に影響するだろうとカレンは覚悟していました。成績を見るのをためらいましたが、見てみると、クラスで最高点を取ったことが分かりました。

カレンはこう言っています。「この経験を通して分かったことは、わたしたちが神様に従うとき、神様は……必ず祝福してくださいということです。たとえ落第点を取ったとしても、自分のしたことを後悔しないということを知っています。正しいことだと分かっている方を選択するとき、主の目には決して落第生にはならないのです。」¹⁵

愛する若い女性の皆さん、皆さんは一人一人、非常に大きな潜在能力を持って生まれてきました。皆さんは天の御父の愛する娘です。御父は皆さんを御存じであり、皆さんを愛しておられます。「立って

光を放〔つ〕」ように招いておられ、皆さんがそうするとき、支えと祝福を与えると約束しておられます。皆さん一人一人が勇気をもって御父の招きにこたえ、御父の約束を受けられるよう祈っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 121 : 45
2. モーサヤ 5 : 15
3. 1 テモテ 4 : 12
4. ヨシヤ 1 : 9
5. 信仰簡条 1 : 13
6. 『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』 30
7. モーサヤ 4 : 29
8. トーマス・S・モンソン「義の模範」『リアホナ』 2008年5月号, 65
9. 士師 13 : 5
10. 士師 14 : 3
11. 士師 14 : 7
12. ダニエル 6 : 3
13. ダニエル 6 : 10
14. この話の一部については、キャティリン・メドリン他編、Going on 15: Memoirs of Freshmen, (2010年), 86 - 96 に収録のジョアンナ・エーリスマン、"The Thing about Being Mormon" 参照
15. アン・M・ディブへの個人的な手紙, 2012年



中央若い女性会長会第一顧問
メアリー・N・クック

学問を求める—— 皆さんには、なすべき 業があります

今できるだけ学んで、自分の子供と将来の家庭を祝福してください。

若い女性の皆さん、わたしたちは皆さんを心から愛しています。大きな機会と大きな試練が共存する世の中であって、皆さんは立って光を放っています。そんな中、「自分は将来どうなるのだろう」と思うことがあるかもしれませんが。徳高い神の娘である皆さんの未来は輝かしいことを約束します。皆さんは福音の真理が回復された時代に生きており、その真理は聖文の中にあります。そして、バプテスマのときに聖霊の賜物を受けています。聖霊は真理を教え、人生の試練に皆さんを備えてくださいます。

神はこの地上にいる皆さんに道徳的な選択の自由と学ぶ機会を与え、なすべき業を用意されました。この業を達成するために学問を求める責任が一人一人に与えられているのです。皆さんの将来にとって重要なこの「希望に満ちた明るい光」¹については、新しい『若人の強さのために』の教育の項と『成長するわたし』の知識の特質の項に載っています。

「教育〔は〕……機会の扉を開いてくれます。」²「研究によって、また信仰によって学問を求めなさい」³ という主の勧告に従

い信仰によって学ぶとき、知識だけでなく理解力も増し加えられます。

熱心な研究によって学問を求めてください。勉強に集中して取り組む時間があるのは今しかないのです。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は教会の青少年に向けて賢明な勧告を与えました。「学校教育で培う学習習慣は生涯にわたって皆さんが知識を強く求める気持ちに大きな影響を与えます。」⁴「皆さんは〔あらゆる機会を通して得られる教育〕を受ける必要があります。……〔この世での〕仕事を行う資格を得るために犠牲にすべきものはすべて犠牲にしてください。……自らの知性と技術を磨き、周囲に良い影響を与えつつ人生を送〔りましょう〕。」⁵

トーマス・S・モンソン大管長は特に女性に向けて次のように言いました。「未来に何が待ち受けているか分からないこともしばしばです。だからこそ不確かさに備えておく必要があるのです。……もしそのような状況になったときに家族を養えるように、教育を受け、収入を得るのに役立つ技術を身に付けておくよう強くお勧めします。」⁶

靈感を受けた賢明な預言者たちの勧告に従ってください。優秀な生徒になってください。勤勉さと正直さと高潔さにおいて、学校で立って光を放つ存在になってください。成績が振るわずにがっかりしているなら、親や教師、親切な教会員に助けを求めてください。決してあきらめてはいけません。

学びたいことをリストにし、「支えや励ましを得られるように、教育に関するあなたの目標を、家族、友人、そして指導者と分かち合ってください。」⁷ これこそ「成長するわたし」の規範です。

技術の進歩は知識の氾濫をもたらしめています。皆さんは絶え間なく音楽やビデオ、ネットワーキングにさらされています。慎重に選んでください。押し寄せる情報に惑わされ、進歩を遅らせてはなりません。若い女性の皆さん、行動を起こしましょう。自分で目標を定め、自分の思いと心に入るものは自分で決めるのです。

最も大切な学問には学校以外で学ぶものもあります。家事、芸術、音楽、家族歴史、スポーツ、書き方、スピーチなど、技術を教えてくれる模範的な女性の中に自分の身を置いてください。そういう人たちと親しくなり、相談相手になってもらいましょう。そうして新しく学んだことをミュージャナルで教えたり、オーナー・ビーの条件を満たすためにほかの若い女性の相談相手になったりしてください。

わたしには良き母以外にも相談相手がたくさんいました。そういう存在を最初に知ったのは、わずか9歳のときです。初等協会の先生がクロススティッチで「わたしは家庭に福音の光をもたらします」と刺しゅうするのを教えてくれたのです。10代のとき、それをずっと寝室に飾っていました。先生はわたしを導き、間違いを正し、励まし続けてくれました。その後も相談相手に恵まれました。洋裁の得意なワードの姉妹が二人、裁縫を教えてくださいました。二人の指導と忍耐と励ましのおかげで、14歳のときに、わたしが縫ったドレス



は裁縫コンテストで入賞したのです。この経験から、ほかの分野でも知識を増し、優秀になりたいと望むようになりました。

皆さんが母親になるとき、今知識を得ていると、それが大きな実をもたらします。「母親がどの程度の教育を受けたのかは〔子供たち〕が学業についてする選択に非常に大きな影響を与えます。」⁸ 母親の受けた教育は「貧困の連鎖を断ち切る鍵」となります。⁹ 「学識のある女性は……比較的健康的な赤ん坊を産み、健康な子を育て、自信があり、立ち直りが早く、論理的で判断力に富む傾向がある」からです。¹⁰

「家族——世界への宣言」は「母親には、子供を養い育てるといふ主要な責任がある」と教えています。¹¹ 子供に学びを提供することは養い育てることの一部であり、皆さんに課せられた神聖な責任です。ヒラマンの若い兵士が、「母親から……教わっていた」¹² ように、皆さんは子

供にとっていちばん重要な教師になるのです。ですから、学ぶことを注意深く選んでください。今できるだけ学んで、自分の子供と将来の家庭を祝福してください。

信仰によって学問を求めてください。祈りと聖文研究と従順によって熱心に霊的な知識を得、すべての真理を証してください。聖霊の導きを求めるとき、信仰によって学ぶことができます。知識を得るために自らの責任を果たすなら、聖霊は皆さんの知性を啓発してくださいます。ふさわしくあろうと努力するとき、聖霊は皆さんの学びに方向を示し、理解を増し加えてくださいます。

わたしが若い女性のころ、サイズの大きすぎるスキー板と靴を借りて友達にスキーを教えてもらったことがあります。明るい日差しと理想的な雪と雲一つない青空が広がる美しい春の日でした。初めは怖かった急斜面も、滑り方を学ぶにつれてだん

だん楽しくなりました。長いスキー板で何度も転びましたが、その度に立って滑り続けました。スキーが大好きになりました。

でもすぐに、そんなに理想的なスキー日和ばかりではないことを知りました。どんより曇った日、平面光という現象の中で滑ったことがあります。平面光は日光が雲で乱反射して起こる現象です。白い雪の前方を見ると奥行に対する感覚がなくなり、ゲレンデの傾斜が判断しにくくなったり、こぶや凹凸が見えにくくなったりします。

若い女性の皆さんは、わたしが急こうばいのゲレンデを見て感じたように将来を楽しみにしているかもしれません。時には、平面光の中にいるようで先が見えないと感じるかもしれません。信仰によって学べば、自信がわき、先行きの見えない時代をしっかりと進んで行くことができます。

マタイによる福音書第25章にある10人



のおとめのたとえは、霊的な備えが不可欠であることを教えています。しかもそれは、個人的に成し遂げなければならないのです。10人のおとめは花婿を出迎えて一緒に婚宴に出よう招かれていました。しかし、明かりに油を用意していたのは思慮深い5人だけでした。

「思慮の浅い女たちが、思慮深い女たちに言った、『あなたがたの油をわたしたちにわけてください。わたしたちのあかりが消えかかっていますから。』

すると、思慮深い女たちは答えて言った、『わたしたちとあなたがたとに足りるだけは、多分ないでしょう。店に行って、あなたがたの分をお買いになる方がよいでしょう。』

彼らが買いに出ているうちに、花婿が着いた。そこで用意のできていた女たちは、花婿と一緒に婚宴の部屋にはいり、そして戸がしめられた。』¹³

油を分けてあげなかった思慮深い5人のおとめを利己的だと思うかもしれませんが、それは不可能でした。霊的な備えは個人的に少しずつ行うべきもので、分けることはできないのです。

今こそ熱心に努力し、祈りと聖文研究と

従順によって少しずつ霊的な知識を増し加える時期です。今こそ少しずつ勉学に励む時期です。徳高い思いと行動の一つ一つによって皆さんは備えられ、神から遣わされた教師である聖霊の導きを受ける資格を得るのです。

先が見えず不安な平面光のときでも、聖霊はこの世の旅路を歩む皆さんを導いてくださいます。恐れる必要はありません。永遠の命に通じる道にとどまるとき、聖霊が皆さんの決断と勉学を導いてくださいます。

わたしの経験から、研究と信仰によって学問を求めるなら「主が皆さんに行うよう望んでおられる事柄と知るべき事柄」において、必ず導いてくださると証します。¹⁴

若い女性のころ受けた祝福師の祝福で、わたしは良い教育を受けて、自らの備えをし、家庭を切り盛りして子供を育てるのに必要な徳質を早くから身に付けるよう勧められました。家族の祝福を強く望んでいたのに、その祝福は37歳で結婚するまでかないませんでした。主人は前妻を亡くしていたので、神殿で結び固められた日、わたしは突然夫だけでなく4人の子供にまで恵まれたのです。

そのずっと前、まるで平面光の中でスキーをしているように感じ、「自分の将来はどうなるのだろう」と自問した日々がありました。わたしは祝福師の祝福にある勧告に従おうと努力しました。熱心に勉強して学校の教師になり、さらに勉強を続けて小学校の校長になりました。天の御父に祈り、聖霊の導きを願い求めました。わたしは「忠実であり、聖約を守り、神に仕え、天の御父と主イエス・キリストを愛するならば、天の御父がその忠実な子供たちに取っておかれた永遠の祝福のどれ一つとっても拒まれることは決してない」と明言した預言者の約束を強く信じ続けました。¹⁵

教育が、若い女性のころには思ってもみなかった人生にわたしを備えてくれたことを知っています。わたしは学校の教師

になって生徒や将来の自分の子供を教えるために教育を学んでいると思っていました。けれども、主人と伝道に出てモンゴルで英語を教えたり、世界中の教会の若い女性を教えたり、孫たちに知識の大切さを教えたりという、まったく想像もできなかったすばらしい祝福のためにも主はわたしを備えてくださったのです。

天の御父が皆さんを御存じで愛しておられることを証します。御父は皆さんを心から信頼し、皆さんにしかできない業を用意しておられます。研究と信仰によって学問を求めるなら、必ずその大いなる業に備えられることを約束します。イエス・キリストの御名により証します、アーメン。

注

1. ゴードン・B・ヒンクレー「手を差し伸べ、引き上げる」『リアホナ』2002年1月号、67
2. 『若人の強さのために』(2011年版冊子)、9
3. 教義と聖約 88:118
4. ゴードン・B・ヒンクレー、*Way to Be! Nine Ways to Be Happy and Make Something of Your Life* (2002年)、28
5. ゴードン・B・ヒンクレー「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号、34 参照
6. トーマス・S・モンソン「備えていれば恐れることはない」『リアホナ』2004年11月号、116
7. 『若人の強さのために』9
8. チェリル・ヘインウィッツ、スーザン・R・マドセン共著、「The Influence-180 of a Mother on a Daughter's College Decision」、ユタ州女性と教育プロジェクト、研究寸評3番(2011年1月)、1
9. マージョリー・コーテズ、「Mom's Education Key to Halt Poverty Cycle」、*Deseret News*、2011年9月23日付、A1
10. オリバー・ウォーカー、「More Utah Women Need to Finish College」、*Salt Lake Tribune*、2011年10月30日付、O4
11. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号、129
12. アルマ 56:47
13. マタイ 25:8-10
14. ヘンリー・B・アイリング、「Education for Real Life」、*Ensign*、2002年10月号、18
15. M・ラッセル・バラード、「Preparing for the Future」、*Ensign*、2011年9月号、27



中央若い女性会長
イレイン・S・ダルトン

今こそ 立って光を放つ時です

皆さんは神の娘として、導くために生まれたのです。

わたしの若い女性のオフィスの窓から、ソルトレーク神殿の荘厳な姿が見えます。天使モロナイが、彼の信仰の象徴としてだけでなく、わたしたちの信仰の輝く象徴としても、神殿の頂に立っているのが毎日見えます。わたしは、邪悪に満ちた社会にあって常に清く忠実であったモロナイが大好きです。わたしのヒーローです。彼は孤高の人でした。わたしは、モロナイが神殿の頂に立ち、勇気を持ち、自分が何者であるかを覚えて、聖なる神殿に入るのにふさわしくあり、「立って光を放ちなさい」¹とわたしたちを招いているように感じます。立ち上がり、世の喧騒を超越し、イザヤが預言したように「主の山〔つまり聖なる神殿〕……へ行こう」²と呼びかけているように思うのです。

今日ここに集まっている皆さんは、主の選ばれた娘です。末日聖徒イエス・キリスト教会の女性ほど、真理と義を守り、影響力のある人たちは世界中のどこにもいません。わたしは皆さんの気高さを見て、皆さんが神の子供であることと、その行く末を知っています。皆さんは前世において際立っていました。皆さんは聖約と約束を受けた血筋に生まれました。忠実な族長であるアブラハム、イサク、ヤコブの霊的な属性を受け継いでいるのです。神の預言者

は、今晚ここに集まっている皆さんの一人一人を、未来の「明るく輝く希望」³と呼びました。わたしもまったく同感です。非常に困難な世の中において、皆さんの光は明るく輝いています。今の時代が忘れ去られることは決してありません。⁴今は皆さんの時代であり、今こそ、あらゆる場所の若い女性が「立って光を放ち……あなたがたの光がもるもるの国民のための旗となる」時です。⁵

旗つまり「標準は、正確さや完全さを判断するための尺度です。」⁶わたしたちは、聖さを象徴する旗として世界が見習う標準とならなければなりません。改訂された冊子『若人の強さのために』には正確に従うべき標準だけでなく、正確に従うことで約束されている祝福も書かれています。この大切な冊子に収められている言葉は、この世における標準です。これらの標準に従って生活することで、皆さんはなすべきことを知り、さらに救い主のようになり、邪悪さを増すこの世で幸福になることができます。この冊子の標準に従って生活することで、常に聖霊を伴侶とするふさわしさを身に付ける助けを得ます。皆さんが生活するこの世において、皆さんの将来の成功と幸福の多くを決める重要な決断を下すときに、この伴侶が必要となります。これらの標準に従うこと

で、皆さんは主の聖なる神殿に入るにふさわしくなります。そして神殿で神聖な聖約を交わし、守るとき、皆さんを待っている祝福と力が授けられます。⁷

娘のエミはまだ幼かったころ、教会に行く支度をするわたしの一挙一動をじっと見るのが好きでした。わたしの支度を見終えると、自分の髪をとかして服を着ました。そして必ず、「ピカピカ」を顔に塗ってほしいとせがみました。エミは、わたしがしわの予防に使っていたべたつくクリームを「ピカピカ」と呼んでいたのです。言われたとおりにエミの頬と唇にクリームを塗ると、彼女はにこにこ「これで準備できたわ」と言いました。でも、自分がすでに「ピカピカ」を身に付けていたことに、エミは気づいていませんでした。清く汚れない、善にあふれたエミの顔は輝いていました。御霊がともにあり、それが表れていました。

今晚ここに集まっている若い女性の皆さん、皆さんの美しさ、ピカピカした「輝き」は化粧やべたつくクリーム、最新の服や髪型の中にあるのではないことを分かってほしいとわたしは願っています。輝きは皆さん個人の清さの中にあります。標準に従い、聖霊を常に伴侶とするふさわしさを身に付けるとき、皆さんはこの世において強い影響力を持つことができます。目の輝きでさえ、皆さんの模範は、皆さんの「輝き」を見る人たちの心を動かし、皆さんのようになりたいと思わせるのです。では、この光をどこで手に入れますか。主は光です。そして「御霊は世に来るすべての人に光を与え、また御霊はその声を聴く全世界のすべての人を照らす」のです。⁸わたしたちが天の御父と御子イエス・キリストに近づくと、神の光はわたしたちの目と顔に宿ります。わたしたちはこうして「ピカピカ」になるのです。それにまた、見て分かるように、「ピカピカクリーム」は結局わたしのしわには効きませんでした。

「立って光を放ちなさい」という呼びかけは、旗を掲げるという偉大な大義にお

いて世界を導き、さらに徳、清さ、神殿に入るふさわしさにおいてこの世代を導くようにという、皆さん一人一人に対する呼びかけです。この世を変えたいのであれば、**皆さんがこの世と違っていなければなりません。**ジョセフ・F・スミス大管長が当時の女性に語った言葉です。「人の子らを……清めるすべての事柄について、……あなたがたは世の〔若い〕女性たちによって導かれるのではなく、あなたがたが世界を、特に世の〔若い〕女性たちを導くのです。」⁸ この言葉は今も真実です。皆さんは神の娘として、導くために生まれたのです。

わたしたちの住むこの世界で導く能力に欠かせないのが、聖霊の導きを受けることと、常に聖霊を伴侶にすることです。皆さんが聖霊の導きと促しを認識して頼るとき、聖霊は「なすべきことをすべて」¹⁰ 示してくださいます。また、聖霊は聖くない宮には住まわれないため、わたしたち一人一人が自分の習慣や心の状態を見直す必要があります。変えなければならぬもの、悔い改めるべきものがだれにもあります。モルモン書でラモーナイ王の父はこう言っています。「あなたを知〔るために〕……自分の罪をすべて捨てます。」¹¹ 皆さんもわたしも、同じようにしようとしていのでしょうか。

アリゾナ州クィーンクリークの青少年は、『若人の強さのために』にある標準に従い、「立って光を放〔ち〕」地域社会の青少年を導こうと決心しました。全員が、自分の進歩を妨げていると感じることや生活の中で変えたいと思うことを日記に書き、そして文字どおり穴を掘りました。モルモン書でアンモンの民が戦争で使った武器を捨てたように¹²、皆で集まって日記のそのページを破り、地面に掘った穴に埋めました。その日青少年一人一人が、変わろうと決心しました。悔い改めました。立ち上がると決めたのです。

皆さんの生活で、変えなければならぬものがありますか。皆さんは変えることが

できます。救い主の無限の贖いの犠牲がある^{あがな}ので、悔い改めることができます。皆さんもわたしも変わることができ、再び清く、汚れのない状態となり、救い主のようになることができます。主がそれを可能にしてくださいました。わたしたちがそうするなら、主はわたしたちの罪も過ちも思い起こさないと約束されました。¹³

輝き続けるのは不可能に近いと思えることがあるでしょう。救い主というあらゆる光の源を見えにくくする困難な出来事は幾らでも起こります。時に道は険しく、そのうえ、深い霧で光が見えないとさえ思います。フローレンス・チャドウィックという一人の若い女性がそのような経験をしました。10歳のときフローレンスは、自分に泳ぐ才能があることを知りました。イギリス海峡を13時間20分という驚異的な速さで泳ぎました。挑戦することが好きな彼女は後に、カリフォルニアの海岸からカタリナ島までの約26マイル(42キロ)を泳ぐことを試みました。しかし、15時間を過ぎたころには疲れを感じていました。濃い霧が発生して海岸線は見えません。フローレンスはボートで伴走する母親に、ゴール

できないと思うと伝えました。母親もコーチも泳ぎ続けるように言いましたが、彼女に見えるのは霧だけでした。フローレンスは泳ぐのをやめました。しかし、ボートに上がって初めて、彼女が泳ぎをやめたのは海岸まであと1マイル(1.6キロ)の所だったということが分かったのです。その後受けたインタビューで、途中で棄権した理由を聞かれ、フローレンスは、水が冷たかったためでも、長い距離のためでもなく、「霧に負けた」と打ち明けました。¹⁴

その後彼女は再び挑戦しましたが、やはり濃い霧が発生しました。しかしそのときは泳ぎ続け、みごと海岸に到着しました。前回の挑戦と何が違ったのかと聞かれてフローレンスは、深い霧の中を泳いでいる間中、心の中に海岸をイメージし続けたと答えました。¹⁵

フローレンス・チャドウィックにとって、海岸がゴールでした。わたしたちのゴールは神殿です。若い女性の皆さん、目標に集中してください。ゴールを見失ってはいけません。目標を達成し、標準を守り、聖霊を伴侶とする喜びを感じ、神殿に入るのにふさわしくあってください。この世





の汚れた道徳と悲観的な声という濃い霧にじゃまをさせないでください。いつも心と思いの中に神殿、つまり救い主の神聖な宮を思い浮かべてください。

数週間前、わたしはネバダ州リノ神殿の日の栄えの部屋に立っていました。部屋に注ぎ込む光は明るく、水晶のシャンデリアの無数の面に反射してにじとなって部屋中で輝き、さらに明るく光っていました。そこでわたしは、救い主が「世の光であり命」であられる¹⁶こと、わたしたちが掲げて映すのは主の光であることに気づき、ぞくぞくするような感動を覚えました。わたしたちは主の光を反射する小さな水晶です。そのためにわたしたちはこの世のちりの影響を受けることなく清くなくてはなりません。その日、神殿で立っていたとき、再び心の中に、モロナイがわたしたちシオンの娘に呼びかける声が聞こえました。「目を覚まして地から立ち上がりなさい。」¹⁷「悪い賜物や清くないものに触れないように」¹⁸「目を覚まして……立ち上がりなさい。おお、シオンの娘よ、美しい衣を着なさい。おお、イスラエルの家よ、……永遠の御父があなたに立てられた聖約が果たされるようにしなさい。」¹⁹

約束された神殿の祝福は、皆さんだけでなくあらゆる世代の人々に向けられています。神殿を目標とするとき、皆さんの良い影響力は時と場所を超えて人を良い方向へ導きます。そして、亡くなった人々のために皆さんが行う業は預言の成就となるのです。

前回の総大会でデビッド・A・ベドナー長老は皆さん一人一人に、自身の家族歴史の業に、また、回復されたイエス・キリストの福音の祝福を受けることなく亡くなった人のために神殿の業に熱心に携わるよう勧告しました。²⁰ それを聞いてわたしは心から喜びました。ベドナー長老がこう勧告したとき、わたしの心は高鳴りました。教義と聖約には次のように書かれています。「そのほか選ばれた霊たちも霊界にいた。彼らは、大いなる末日の業の基を据える務めに携わるために、時満ちる時代に来るようにとどめられていた者である。神殿を建て、そこで死者の贖いのために儀式を執行することも、その大いなる末日の業に含まれるのである。」²¹ 今は皆さんの時代です。皆さんの業が始まったのです。今こそふさわしくなり、神殿推薦状を受ける時です。この

業を行うとき、皆さんはシオンの山の救う者となります。²²

皆さんについて、ラッセル・M・ネルソン長老は次のように話しています。「眠れる巨人のように、教会の若い女性の影響力は目を覚まして立ち上がると、義を生み出す強力な勢力として、地上の人々に靈感を与えます。」²³ 若い女性の皆さん、立ち上がり、皆さんの未来と世界の将来を形作る輝かしい出来事に参加しましょう。今がその時です。

「山の上に旗ひらめき 世界になびくを、見上げよ[。]」²⁴ 若い女性の皆さん、旗とは皆さんのことです。徳高く、そして清くあってください。聖霊を伴侶とすることを求めてください。罪と背きを葬り、目標を見据え、道徳の汚れの霧に目標を覆い隠させないでください。今こそ神殿に入るのにふさわしくあってください。皆さんの「ピカピカ」を身に付けてください。神が生きておられ、わたしたちが神の愛する御子である救い主、イエス・キリストに近づくとき、神はわたしたちを照らしてください。それを心から証します。わたしの祈りはモロナイと同じです。「立って光を放ちなさい。それは、[わたしたちの]光がもろも

ろの国民のための旗となるため」です。²⁵
イエス・キリストの聖なる御名により、
アーメン。■

注

1. 教義と聖約 115:5
2. イザヤ 2:3; 2 ニーフай 12:3
3. ゴードン・B・ヘンクレー「力強く確固として立つ」『世界指導者訓練集』2004年1月10日, 20
4. オリバー・カウドリ, ジョセフ・スミス—歴史 1:71 の注
5. 教義と聖約 115:5
6. エズラ・タフト・ベンソン, “Strengthen Thy Stakes,” *Tambuli*, 1991年8月号, 4; *Ensign*, 1991年1月号, 2
7. 教義と聖約 109:22 参照
8. 教義と聖約 84:46
9. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』(1998年), 184
10. 2 ニーフай 32:5
11. アルマ 22:18, 強調付加
12. アルマ 24:17 参照
13. 教義と聖約 58:42 参照
14. スターリング・W・シル, *Conference Report*, 1955年4月, 117 参照
15. ランディ・アルコム, “Florence Chadwick and the Fog,” <http://www.epm.org/resources/2010/Jan/21/florence-chadwick-and-fog/> 参照。 “Florence Chadwick” の項, *Encyclopedia of World Biography*, 第1巻 (2004), 64–66, および, “Navigation Information” の項と “Swim Successes” の項, *Catalina Channel Swimming Federation*, swimcatalina.com, (2012年3月27日にアクセス) も参照。フローレンス・チャドウィックに関しては、ほかにも様々な記事がある。
16. 3 ニーフай 9:18
17. モロナイ 10:31
18. モロナイ 10:30
19. モロナイ 10:31
20. デビッド・A・ベドナー「子孫の心は向かうであろう」『リアホナ』2011年11月号, 24–27
21. 教義と聖約 138:53–54
22. オバデヤ 1:21; 教義と聖約 103:9 参照。 *Teachings of Presidents of the Church: Joseph Smith* (2007年), 472–473 も参照。
23. ラッセル・M・ネルソン, “Daughters of Zion,” *New Era Young Women Special Issue*, 若い女性, 1985年11月号, 9
24. 「山の上に」『賛美歌』2番
25. 教義と聖約 115:5



トーマス・S・モンソン大管長

信じ、従い、堪え忍ぶ

強くあり、福音の真理に忠実であることが最も大切であることを
信じてください。そのとおりでであることを証します。

愛する若い姉妹の皆さん、皆さんに話す責任について考えると謙虚な気持ちになります。このような機会にふさわしくなるよう神の助けを祈っています。

ほんの20年前でさえ、皆さんはまだこの世の人生を始めていませんでした。そのころ皆さんはまだ天の家にいました。天では、皆さんを愛し、皆さんの永遠の幸福を心にかける人たちに囲まれていました。やがて、地上での生活が皆さんの進歩にとって不可欠な状態になりました。きっと別れの言葉が交わされ、信頼を示す言葉をかけられたことでしょう。肉体を得て死すべき状態になり、天の御父とお別れしました。

でも皆さんは、喜びをもって地上に迎えられました。最初の数年は、大切に特別な日々でした。サタンは皆さんを誘惑することができませんでした。皆さんには責任を取る能力がまだなかったからです。神の御前に汚れない状態でした。

やがて皆さんは10代に突入しました。時に「大変な10代」とも呼ばれますが、わたしはむしろ「すばらしい10代」と呼びたいと思います。それは機会に恵まれ、成長を遂げる時期、知識を得、真理を探し求める時期です。

「10代は気楽である」と述べた人は、これまでだれもいません。10代は、不安で、自信がなく、居場所を見つけるため、

仲間を受け入れられるために苦勞することの多い時期です。10代の時期に、皆さんはさらに自立していきます。親が現在認めている範囲を超えて、もっと自由を得たいと望むようになります。皆さんの故郷である天の家に続く道、愛する人々のもとへ帰る道、天の御父のみもとへ帰る道からそれるように、サタンが最も強く誘惑しそのかすも、この10代の時期なのです。

皆さんの周りの世界は、危険の多いこの10代の道のりを安全に進むために必要な助けを与えてはくれません。現代社会はあまりに多くの点で、ロープが解けて安全な港を離れ漂流している船のように見えます。

何でも許容すること、不道徳、ポルノグラフィ、薬物、仲間からの圧力やそのほかの事柄によって、多くの人が罪の荒波に翻弄され、のこぎりの刃のような暗礁に衝突したかのように、機会を失い、祝福を取り上げられ、夢を打ち砕かれています。

安全な道はあるのでしょうか。恐ろしい破壊から逃れる道はあるのでしょうか。もちろんあります！わたしは皆さんに、主の灯台に目を向けるよう勧告します。以前にも言いましたが、もう一度繰り返します。どれほど霧が深くとも、どれほど夜が暗くとも、どれほど風が強くとも、船乗りがどれほど方角を見失おうとも、主の灯台には救う力があります。主の灯台は人生の嵐の中で合図を送り、「こっちは安全だよ、



こっちが帰り道だよ」と教えてくれます。その光の信号ははっきりと見え、消えることなく、従って行けば天の家へ導いてくれます。

御父は、皆さんが人生に勝利を取って帰って来るのを心待ちにしておられます。わたしは今夜、御父のみもとに戻れるように導いてくれる主の灯台が発する3つのとても大切な信号について話したいと思えます。その3つの信号とは、「信じる」「従う」「堪え忍ぶ」です。

最初に、最も基本となる信号である「信じる」ことについて話します。自分が天の御父の娘であり、御父から愛され、永遠の救いを得るといふ輝かしい目的のために今ここにいることを信じてください。強くあり、福音の真理に忠実であることが最も大切であることを信じてください。そのとおりであることを証あかしします。

わたしの若い友である皆さん、皆さんが毎週暗唱する若い女性のテーマを信じてください。言葉の意味を考えてください。このテーマには真理があります。テーマにある徳質にいつも従ってください。若い女性のテーマに述べられているように、これらの徳質を受け入れ、従うなら、家庭と家族を強め、神聖な聖約を交わして守り、神殿の儀式を受け、昇栄の祝福にあずかる備えができるようになりますと信じてください。それらは美しい福音の真理です。それらに従うなら、皆さんはこの世と次の世を通じて、それらを軽視するよりもはるかに幸せになるでしょう。

皆さんの多くは、よちよち歩きのところから福音の真理を教えられてきました。愛にあふれた親や教師から教えられました。彼らから教わった真理によって、皆さんは証を得ています。皆さんは教えら

れたことを信じました。もちろんその証は、今後も学び、導きを祈り求め、毎週教会に通うことによって、これからも霊的に養われていくことでしょう。でも、証を生き生きした状態に保てるかどうかは皆さん次第です。サタンは全力で皆さんの証を打ち壊そうとします。皆さんは一生を通じて証を養う必要があります。赤々と燃える炎に燃料が必要であるように、皆さんの証も常に養っていなければ、次第に光を失い、冷え切ってしまうでしょう。そうならないようにしなければなりません。

日曜の集会と平日の夜の活動に出席するだけでなく、早朝であれ学校の授業の合間であれ、セミナーに参加する機会があれば、有効に活用してください。皆さんの多くは現在セミナーに出席していますが、人生のすべてについても同じですが、セミナーから得られることのほとんど

どは、皆さんの態度と教えを受ける姿勢にかかっています。皆さんが謙虚に熱心に学ぶ姿勢を持てるよう祈っています。わたしは10代のときに早朝セミナーに通う機会を得ました。そのことに心から感謝しています。セミナーはわたし自身とわたしの証を強めるのに欠かせませんでした。セミナーには人生を変える力があります。

何年も前、わたしは非常に成功したすばらしい男性と、ある重役会議で同席しました。わたしは彼の高潔さと教会への忠誠心に感銘を受けました。彼はセミナーのおかげで証を得て教会に加わったのでした。教会員の家庭で生まれ育った女性と結婚しましたが、そのころの彼はどの教会にも属していませんでした。長年にわたる妻の努力にもかかわらず、彼は妻や子供たちと一緒に教会に行く気にはなりません。その後、早朝セミナーに行く二人の娘を車で送るようになりました。娘たちがセミナーに出ている間は車で待ち、終わるとまた車で学校に送るのでした。ある雨の日、娘の一人が言いました。「お父さんも中に入って廊下で待っていれば。」彼はその招きに応じました。教室のドアが開いていたので、彼は耳を傾けました。レッスンに心を動かされた彼は、その年が終わるまで、娘たちと一緒にセミナーに出席し、やがて教会員になり、残りの人生を活発な教会員として過ごしました。皆さんの証を築き、強めるために、セミナーを活用してください。

時に皆さんは証を危険にさらすような試練に遭うでしょう。あるいはほかのことに心を向けて、証をないがしろにしてしまうかもしれません。お願いです、どうか証を強く保ってください。証の炎を燃やし続けるのは、皆さんの責任であり、皆さん自身にしかできないことです。努力が必要ですが、その努力を後悔することは決してないでしょう。ジュリー・ド・アゼベド・ハンクスが書いた歌詞を

思い出します。彼女は自分の証についてこう書いています。

変化の風に吹かれても
痛みの雲に取り巻かれても
命がけで守る わたしの証
そのぬくもり、その光が必要だから
嵐が怒り狂っても
激しい雨に打たれても
わたしはそれでも
守り続ける 証の炎を¹

皆さんが信じることができるよう、何があっても証の炎を保つことができるよう祈っています。

次に、若い女性の皆さん、皆さんが「従う」ことができるよう祈っています。親に従い、神の律法に従ってください。律法は愛ある天の御父から与えられました。律法に従うとき、生活はさらに充実し、整うでしょう。試練や問題に耐えることが容易になります。主の約束された祝福を受けることができます。主は言われました。「主は心と進んで行く精神とを求め。そして、進んで行く従順な者は、この終わりの時にシオンの地の良いものを食べるであろう。」²

人生は一度限りです。できるだけ問題から遠ざかってください。皆さんは、時には友人とと思っている人からも誘惑を受けることがあるでしょう。

数年前、わたしはあるマイアメイドのアドバイザーと話をしました。彼女はクラスのある若い女性について話してくれました。この若い女性は、真実の正しい道からそれて、罪という回り道に踏み込むよう何度も誘惑されました。学校の友人たちから誘われ続け、彼女はついにそのような回り道について行くことに同意しました。計画が立てられ、両親には若い女性の夜の活動に行くことと告げました。でも、夜の活動には、友人たちとデート相手の少年たちが車で迎えに来るまでしか参加しないつもりでした。彼らが来たら、そこを出て

パーティーに行くのです。パーティーは、皆がアルコールを飲み、彼女が正しいと知っている行動の基準を完全に破るものでした。

彼女の教師は自分のクラスの少女全員、特に福音に対する決意がとて揺れているように見えるその若い女性のために、靈感を求めて祈っていました。教師はその夜、若い女性の活動の際に靈感を受け、事前に用意したメッセージの代わりに、道徳的な清さを保つことについて話しました。教師が自分の思いと気持ちを話し始めると、その若い女性は友達との約束に遅れないように何度も時計を確認しました。でも、話し合いが進むうちに、心が動かされ、良心が目覚め、新たな決意が生まれました。約束の時間が来て、友達が自動車のクラクションを何度も鳴らして呼びましたが、彼女は無視しました。その晩、彼女は教師とほかの少女たちと一緒にクラスに残りました。神が認められた道からそれるようにと誘う誘惑を退けることができたのです。サタンのもくろみは失敗に終わりました。その若い女性は、ほかの少女たちが帰るのを待ち、教師に感謝し、その日のレッスンのおかげで悲劇に陥らずに済んだことを伝えました。教師の祈りがこたえられたのです。

わたしは後で知ったのですが、学校でいちばん人気のあるグループと出かけることをあの晩断ったために、この若い女性は仲間外れにされ、それから何か月も学校でだれからも相手にされませんでした。学校の友人たちは、自分がしていることを彼女がしなかったという事実を受け入れることができませんでした。彼女にとって、とてつらく寂しい日々が続きましたが、強さを保ち、やがて同じ標準を持つ友達を得ることができました。あれから何年もたった今、神殿で結婚した彼女には4人のすばらしい子供がいます。彼女の人生はまったく異なったものになっていたかもしれません。わたしたちの決断が、わたしたちの行く末を決めるのです。



アメリカ合衆国、ミネソタ州ミネアポリス

大切な若い女性の皆さん、決断する際にはこう自問しましょう。「それはわたしにどんな問題をもたらすだろう。それはわたしにどんな益をもたらすだろう。」また、行動の基準としては「人はわたしをどう思うだろう」でなく、「自分は自分をどう思うだろう」ということを重視してください。静かな細い声の感化を受けてください。確認の儀式のときに権威ある人が皆さんの頭に手を置いて「聖霊を受けなさい」と告げたことを思い出してください。真理を証するあの特別な声に皆さんの心を、魂を開いてください。預言者イザヤが約束したように「『これは道だ、これに歩め』と言う言葉を耳に聞く」ことができるでしょう。³

この時代の風潮は、何をしててもかまわないというものです。若者があこがれる映画スターやスポーツ選手が、神の律法を無視して、罪深い行いをして大丈夫だと言わんばかりに振る舞う様子が雑誌やテレビで扱われています。そのようなことを信じないでください。清算する時、帳尻を合わせる時が来ます。シンデレラには必ず12時が訪れます。たとえこの世でなくても、次の世で訪れます。裁きの日はすべての人に訪れるのです。皆さんは準備ができていますか。自分の行いに満足していますか。

旅の途中でつまづいている人がいれ

ば、戻れる道があることを約束します。悔い改めと呼ばれる道です。救い主は皆さんとわたしにその賜物を授けるために亡くられました。道は険しくとも、約束は確かです。主は言われました。「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。」⁴ 「わたしは……もはやその罪を思わない。」⁵

わたしの愛する若い姉妹の皆さん、皆さんは選択の自由という貴重な賜物を持っています。どうか従うことを選択してください。

最後に、皆さんが「堪え忍ぶ」ことができるよう祈っています。堪え忍ぶとはどういう意味でしょうか。「勇気をもって耐える」というのがわたしの好きな定義です。勇気は信じるために必要です。勇気は従うためになくてはならないものです。勇気はこの世を去る日まで堪え忍ぶためにどうしても必要です。

長年にわたり、多くの方がわたしにこう尋ねました。「問題がたくさんあります。深刻な悩みがあります。試練に押しつぶされそうです。どうしたらよいでしょう。」彼らに告げた具体的な助言を、今皆さんに伝えましょう。一度に1日ずつ天の導きを求めてください。1メートルずつは難しくても、1センチずつなら簡単です。だれでも1日だけなら誠実でいられます。それからもう1日、さらにもう1日と続け

るのです。そうすればやがて御霊に導かれた一生、主に寄り添った一生、善行と義の一生を送ることができるのです。救い主は約束されました。「わたしに頼り、最後まで堪え忍びなさい。そうすれば、あなたがたは生きるであろう。最後まで堪え忍ぶ者に、わたしは永遠の命を与えるからである。」⁶

そのために皆さんはこの死すべき世に来たのです、わたしの若い友である皆さん。皆さんが到達すべき最も大切なゴールは、御父の王国における永遠の命なのです。

皆さんは、この時代にも目的をもって地上に送られた天の御父の大切な大切な娘です。皆さんはまさにこの時まで取っておかれました。皆さんがただ信じ、従い、堪え忍びさえすれば、素晴らしい栄光に満ちたものが待っているのです。それが皆さんの祝福となるよう、わたしたちの救い主であられるイエス・キリストの御名によって祈ります、アーメン。■

注

1. ジュリー・ド・アゼベド・ハンクス, "Keeper of the Flame," Treasure the Truth (コンパクトディスク, 1997年)
2. 教義と聖約 64:34
3. イザヤ 30:21
4. イザヤ 1:18
5. エレミヤ 31:34
6. 3ニーファイ 15:9

大会を生活に取り入れる

家族で話し合ったり、個人でじっくり考えたりする際に、これらの活動や質問を使ってみてはいかがでしょうか。

該 当する説教の最初のページを括弧の中に示しています。

こども

• ディーター・F・ウークトドルフ管長は、だれかに対して思いやがないと感じるときに、思い出すための大切な短い言葉を分かち合いました(70 ページ)。その言葉が何だったか覚えていますか? どのような態度をやめるように勧められているか、両親と話し合ってください。どのようにしたら、もっとイエス・キリストのようにほかの人と接することができ

るようになるか考えてみてください。

• ラッセル・M・ネルソン長老は体のすばらしい機能についてたくさん話し(77 ページ)、ロナルド・A・ラズバンド長老は、天の御父はわたしたちの体が完全でなくても愛してくださっているということを教えました(80 ページ)。あなたは肉体を持っているということについてどう感じますか? 自分の体ができるあらゆることについて考えてみましょう。祈るときに、この贈り物に対して天のお父様にどのようなお礼の言葉を言うことができるでしょうか。

青少年

- 日曜午前のセッションで、預言者が説教の中でよく聞かれる3つの質問を挙げたことを知っていますか(90 ページ)。「わたしたちはどこから来たのか。なぜここにいるのか。この世の後にどこへ行くのか」という内容でした。預言者の質問に対する答えを読み、まだ答えが分からない人たちを助ける方法について考えてみましょう。
- 末日聖徒はイエス・キリストを信じて従っている、ということを理解していない人がいます。ダリン・H・オークス長老の説教、「犠牲」を読んでそのことについて考えてみましょう。「わたしたちの奉仕と犠牲の生活はまさしく、主と隣人に仕える決意を表す最もふさわしい象徴です。」あなたの生き方は、主に対する証について何を物語っているでしょうか。
- クエンティン・L・クック長老は「信仰の調べを聞き分けられないときは、御霊に波長が合っていないの[です]」と教えました。音程が合っていない楽器がどのような音を出すか考えてみましょう。



う。また、音程が合わない原因について考えてみましょう。「信仰の調べを聞き分けられなくならないようにするために、具体的にどのようなことができるでしょうか。

- この大会で、自分の家族について話した話者が何人かいました。その中には、パートメンバーの家族、独りで子供を育てている親、様々な逆境に直面している家族も含まれていました。これらの話者は自分の家族から何を学び、感謝しているでしょうか。あなたは自分の家族のどのような点を愛し、感謝していますか。家族に貢献し、家族を励ますために、どのようなことができるでしょうか。

成人

- ボイド・K・バッカー長老がこう教えました。「子供を育てる中で分かる最も偉大なことの一つは、ほんとうに大切なことは、自分の親からよりも子供から学ぶことの方がはるかに多いということです」(6 ページ)。もしあなたが親であるならば、自分の子供から得た大事な教訓について考え、もし親でなければ、知り合いの子供から学んだ教訓について考えてみましょう。自分の伴侶、友人、自分の子供、またはほかの人たちと、どのような状況で教訓を学んだのか分かち合えるよう考えてみてください。
- L・トム・ペリー長老は、聖典の教えに頼るときに悪から解放されると教えています(94 ページ)。聖典の教えはどのように悪から解放される助けになっていますか。それらの教えは、正しいことを選ぶためにどのように助けになっていますか。
- 幾つかの説教は、特に神殿での聖約について焦点を当てていました。ロバート・D・ヘイルズ長老は、「鏡に向かって自分にこう問いかけてください。『わたしはどれほど聖約に添って生活してい



るだろうか』と言いました(34 ページ)。自分の答えを考えてみて、さらによく聖約に添って生活するには何ができるでしょうか。また、ほかの人々が同じように生活できるように招いてください。

- ジェフリー・R・ホランド長老(31 ページ)、ニール・L・アンダーセン長老(111 ページ)、およびそのほかの話者は、弟子の務めやキリストのもとに来る過程について話しました。あなたは弟子としての務めをどのように果たしていますか。これらの説教やその他の説教から、主のもとへ歩み続けるためにどのようなことを学びましたか。
- 「教会の基本的な務めは、イエス・キリストの福音、キリストの教義を全世界の人々に教えること[です]」と、D・トッド・クリストファーソン長老は教えました(86 ページ)。クリストファーソン長老とドナルド・L・ホールストロム長老(13 ページ)の説教を復習し、イエス・

キリストの福音はどのようなものであるか考えてみてください。家庭で、自分の召しを通して、また交友関係において、福音を教えるために、どのような機会があるでしょうか。■

総大会で引用された聖句

総 大会の話者は聖典から説教をしま
総 す。よく引用された聖句を研究して
みるとよいでしょう。

- ヨハネ 13:35
- 2 ニーファイ 2:11
- 教義と聖約 18:10*; 68:25 - 28*; 88:118; 115:5; 121:37
- モーセ 1:39*

* 大会で話されたセミナーマスター聖句

大会で話された実話や物語の索引

以下に総大会で話された経験談を幾つか選びました。個人の研究や家庭のタベ、その他の教える機会に活用してください。数字は説教の最初のページです。

話者	実話や物語
ボイド・K・バックー会長	(6) 宣教師が、悲しんでいる両親に希望のメッセージを与える。 (6) ボイド・K・バックーの父親は教会の中であまり活発ではなかったが、妻とともに信仰深い両親として子供を育てた。
チェリル・A・エスプリン	(10) チェリル・A・エスプリンの孫娘が、弟が優しくなるように祈る。
ドナルド・L・ホールストロム長老	(13) 若いドナルド・L・ホールストロムは、ホノルルタバナクルでデビッド・O・マッケイ大管長の説教を聞く。
ポール・E・コーリカー長老	(16) 訪問を断られた宣教師がお互いを励まし合った。そのことで、ある人の心が動かされる。
ダリン・H・オークス長老	(19) ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、新会員に福音のためにそれほどまでに代価を進んで払うつもりかと尋ねる。 (19) ブラジル人宣教師の16歳の弟が、家族を養うために働く。
デビッド・A・ベドナー長老	(48) デビッド・A・ベドナーの父親は、どうして神権者たちはホームティーチングをやらないのかと聞く。
リチャード・C・エッジリービショップ	(52) ステーク会長としてリチャード・C・エッジリーは、しばらく教会に行っていなかった女性をステーク宣教師に召す。 (52) 第二次世界大戦で捕虜になった人々を救いに行く義勇軍兵が、彼らのために祈る。
エードリアン・オチョア	(55) 南アフリカにいる若い祭司が、別の祭司に教会に戻って来るよう励ます。 (55) チリにいる若い祭司が友達にバプテスマを施せるようになる。
トーマス・S・モンソン大管長	(66) 第二次世界大戦中に、負傷した同僚に海兵隊員が祝福を与える。 (66) ビショップとしてトーマス・S・モンソンは毎月、軍人たちに個人的な手紙を書く。 (90) ある女性が健康上の問題を知った後、人生を変えようと決意する。 (90) 宗教を信じていなかった男性が、妻の死をきっかけとして、無神論的な心を変える。
L・トム・ベリー長老	(94) ある教会員が飛行機で隣の席に座った人に、福音を分かち合う。
O・ビンセント・ハレック長老	(101) O・ビンセント・ハレックの両親は、子供たちのために断食して祈る。
ラリー・Y・ウィルソン長老	(103) ラリー・Y・ウィルソンの娘は、サッカーを日曜日にしたことを後悔する。
デビッド・F・エバンズ長老	(106) 若い男性が友達やルームメイトの模範を見て教会に入る。
ニール・L・アンダーセン長老	(111) トーマス・S・モンソン大管長は、3年間風船を取って置いて、癌 ^{がん} を克服した若者に返す。 (111) ハイチでの地震発生後、サンテラス家の3人の子供が救助される。
アン・M・ディブ	(117) 悪い言葉を使わないように若い女性がクラスメートを励ます。 (117) 若い女性が、プレッシャーに負けずに知恵の言葉を守る。
イレイン・S・ダルトン	(123) フローレンス・チャドウィックが濃霧にもかかわらず泳ぎ抜く。
トーマス・S・モンソン大管長	(126) 娘と一緒にセミナーに通った後に、父親が福音に改宗する。 (126) 若い女性がミューチャルに参加していたおかげで、誘惑を克服する。

わたしたちの時代のための教え

メ ルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンは、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間です（下記の表を参照）。ステーク会長および地方部会長は、レッスンに用いる説教を指定することができます。または、この責任をビショップおよび支部会長に委任することもできます。指導者は、メルキゼデク神権者の兄弟と扶助協会の姉妹が同じ日曜日に同じ説教を学ぶことの大切さを強調するべきです。

第4日曜日の集会の出席者は、教会機関誌の、最新の総大会特集号をよく研究し、クラスに持参するように奨励されています。

説教に基づいてレッスンを準備する際の提案

説教を研究し教えるに当たり、聖なる御霊がともにあるよう祈ってください。教師はほかの資料を使ってレッスンを準備

したいと思うことがあるかもしれませんが、大会説教は承認された教科課程用資料です。教師の務めは、人々が最新の総大会で教えられた福音を学び、それに従って生活できるように助けることです。

クラスの生徒の必要に合った原則と教義を探しながら、説教の内容を検討してください。また、そのような真理を教えるのに役立つ説教から、物語や参照聖句、声明を探してください。

原則と教義をあなたがどのように教えるかを示す大まかな計画を立ててください。計画には、クラスの生徒が以下のことを行ううえで役立つ質問を取り入れてください。

- 説教に含まれる原則と教義を探す。
- その意味について考える。
- 理解したことや考え、経験、あかし証を分かち合う。
- それらの原則と教義を実生活に応用する。

レッスンを教える月	第4日曜日のレッスン教材
2012年4月 - 2012年10月	2012年4月の総大会の説教*
2012年10月 - 2013年4月	2012年10月の総大会の説教*

* 4月と10月の第4日曜日のレッスンには、過去の、もしくは前大会からの説教を選ぶこともできます。説教は conference.lds.org で、多言語で視聴および閲覧できます。

中央補助組織会長会

扶助協会



第一顧問
キャロル・M・スティーブンス



会長
リンダ・K・バートン



第二顧問
リンダ・S・リーブス

若い女性



第一顧問
メアリー・N・クック



会長
イレイン・S・ダルトン



第二顧問
アン・M・ディブ

初等協会



第一顧問
ジャン・A・スティーブンス



会長
ローズマリー・M・ウィクストム



第二顧問
チェリル・A・エスプリン

若い男性



第一顧問
ラリー・M・ギブソン



会長
デビッド・L・ベック



第二顧問
エードリアン・オチョア

日曜学校



第一顧問
デビッド・M・マッコッキー



会長
ラッセル・T・オスガソープ



第二顧問
マシュー・O・リチャードソン

第182回年次総大会で、七十人、ビショップリック、 扶助協会の指導者が交代する

2012年3月31日に開かれた第182回年次総大会の第1部会の中で、トーマス・S・モンソン大管長は、「全員が一つ屋根の下に集まることはできませんが」と述べ、さらに「テレビ、ラジオ、ケーブル放送、衛星放送、インターネット、さらには携帯機器という驚くべき手段によって大会の様様を視聴できます。わたしたちは様々な言語を話し、様々な地に住んでいますが、全員が一つの信仰、一つの教義、一つの目的の下で一致しています」と続けた。

3月31日と4月1日の両日に、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーのカンファレンスセンターで総大会に出席した10万人以上の人々にとって、また、テレビ、ラジオ、衛星放送、インターネットで視聴した数百万の人々にとって、大管長のこの言葉は真実であった。生放送およびその後の放送を通じて、世界中の会員や一般の人々が94の言語で大会に参加した。

総大会が開催される前から多くの会員たちは友人や知人たちに、最新のテクノロジーを用いて総大会を視聴するように伝えていた。3月に導入された新しいアプリケーションソフトウェアやバナー、画像などは複数の言語で使用できるようになっており、今後も毎回の総大会の数週間前から conference.lds.org に掲載される予定である。

土曜午後の部会で、教会の指導者が交代した。解任された指導者の中には、管理ビショップリックや中央扶助協会会長が含まれる。スティーブン・E・スノー長老が七十人会長会から解任され、地域七十人も37人が解任された。支持および解任の詳細は、27ページを参照。

管理ビショップリックに召されたのは、ゲーリー・E・スティーブソン（管理ビショッ

プ）、ジェラルド・コセー（第一顧問）、および、ディーン・M・デービス（第二顧問）である。また、新たに中央扶助協会会長に召されたのは、リンダ・K・バートン（会長）、キャロル・M・スティーブズ（第一顧問）、および、リンダ・S・リーブズ（第二顧問）である。

七十人第一定員会のリチャード・J・メインズ長老は、七十人会長会で奉仕するように召された。

七十人第一定員会の会員に召されたのは、ラリー・エコー・ホーク長老、ロバート・C・ゲイ長老、スコット・D・ホワイティンク長老である。七十人第二定員会から第

一定員会に召されたのは、クレグ・A・カードン長老、スタンレー・G・エリス長老である。

H・デビッド・バートンビショップとその顧問は、16年以上にわたり管理ビショップリックとともに奉仕してきた。管理ビショップとしてはさらに長く奉仕した人たちもいるが、同じ3人で管理ビショップリックとしてこれほど長く奉仕した例はない。

新たに召された指導者の略歴は135ページ以降を参照。

conference.lds.org で、総大会の文書や音声、ビデオを、多数の言語で利用できる。



大会の土曜の部会で、数人の指導者が交代した。新たに召された指導者には、管理ビショップリックや中央扶助協会会長が含まれる。リチャード・J・メインズ長老は七十人会長会に召され、地域七十人も40人が召された。



リチャード・J・
メインズ長老
七十人会長会

「全世界のあらゆる人は神の子です。神は御自分の子供たちを皆同じように愛しておられます。」七十人会長会に新たに召されたリチャード・ジョン・メインズ長老はこう語ります。これは、ウルグアイやパラグアイ、メキシコ、エクアドル、ペルー、フィリピンなど、各国での広範囲にわたる奉仕を振り返ってまず心に浮かぶ福音の原則だと、彼は言います。

「イエス・キリストが教えてくださった原則を受け入れ、それに従うことによって永遠の祝福が注がれます。そして、最終的には天の御父のすべての子供たちが昇栄に導かれるのです。どこに住んでいようと、この試しの世でどんな問題に直面しようと関係ありません」と、メインズ長老は言い添えました。

メインズ長老は、1950年にアメリカ合衆国カリフォルニア州バークレーで、スタン・メインズ、ベティー・メインズ夫妻の間に生まれました。彼の国際的な奉仕は、1969年から1971年までパラグアイとウルグアイで専任宣教師として奉仕したことに始まります。

アイダホ州のリゾート地で働いているときにナンシー・ピューリントンと出会い、1974年8月にユタ州マントイ神殿で結婚しました。夫妻には4人の子供がいます。

メインズ長老は結婚した年にブリガム・ヤング大学経営管理学科を卒業し、その後サンダーバード国際経営大学院から経営学修士号を取得しました。職業の分野では、工場のオートメーション化を専門とする会社を所有し、その最高経営責任者として働いてきました。

メインズ長老は1989年から1992年まで、メキシコ・モンテレー伝道部で伝道部会長として奉仕しました。1997年に中央幹部に召されてからは、南アメリカ北西地域、南アメリカ西地域、フィリピン地域の地域会長会で奉仕しました。また、教会の神権管理評議会でも、宣教師管理部の管理ディレクター補佐、および家族歴史部の管理ディレクターとして奉仕しました。

教会歴史家および記録者として召されたスティーブン・E・スノー長老の後任を務めるために、メインズ長老は2012年1月20日に七十人会長会で奉仕するよう召されました。■



クレーグ・A・
カードン長老
七十人

この度七十人第二定員会から第一定員会に召されたクレーグ・A・カードン長老は、人生で良いことが起こる度に御霊の影響を認めてきました。

「わたしが小さいころ、母と父は御霊の声が分かるよう助けてくれました。わたしが感じている気持ちは何なのか教えてくれたのです。」カードン長老は幼いころを振り返ってそう言います。「このような形での主からの導きは、熱心にそれを求める者に必ず与えられますし、この偉大な業になくてはならないものです。」

イタリアでの伝道を終えると、カードン長老は1970年11月、デボラ・ルイーザ・ダナとアリゾナ州メサ神殿で結婚しました。そして、ちょうどその13年後に、イタリア・ローマ伝道部の伝道部会長になりました。当時、生後9か月から11歳までの7人の子供が生まれていました。現在は8人の子供がいます。

「それ一つ取っても、カードン姉妹の人柄がおおむね分かるというものです。彼女の信仰と愛、忍耐、優しさは、わたしにとっても、家族にとっても、そして彼女を知るすべての人にとっても素晴らしい祝福です」とカードン長老は言います。

カードン長老は2006年から2011年に、アフリカ西地域の地域会長会で奉仕しました。これは「自分たちが深く愛する人々の中で働くという驚くべき祝福でした」と、彼は説明します。

これまでカードン長老は、国内外の家族団体や青少年団体で、慈善活動に多くの時間をささげてきました。

カードン長老は、1948年12月にアメリカ合衆国アリゾナ州メサで、ウィルフォード・ブラット・カードンとバイレイト・アレン・カードン夫妻の間に生まれました。アリゾナ州立大学から会計学の学士号を受けた後、複数の業界で自営業を行いました。後に、ハーバード大学ケネディ政治学大学院から行政学修士号を受けました。

中央幹部に召される前、カードン長老は長老定員会会長、ステーク宣教師、ビショップ、福音の教義クラス教師、インスティテュートのインストラクターとして奉仕しました。

カードン長老はこう言っています。「主は御自分の子供たちを全地から集めておられます。個々の状況がどうあれ、主のもとに来る人は皆、イエス・キリストの恵みに十分にあずかるのです。」■



ラリー・エコー・
ホーク長老
七十人

1972年、スペンサー・W・キンボール長老（1895 - 1985年）は、アメリカ先住民が教育を受け指導者になることを心に描いていると話しました。これを聞いた日から、ラリー・エコー・ホーク長老は、「人々を力づける」ことに生涯をささげよう決心しました。

ポーニー部族に属するエコー長老は、1948年8月にアメリカ合衆国ワイオミング州コーディで、アーネスト・エコー・ホークとジューン・エコー・ホーク夫妻の間に生まれました。そしてアメリカ合衆国ニューメキシコ州ファーマントンで育ち、家族とともに福音の教えを受けて、1962年に末日聖徒の宣教師からバプテスマを受けたのです。

17歳のときに、目に野球のボールが当たるといふ事故に遭った彼は、視力を失わなければモルモン書を読むと主に約束しました。そしてけがをした目の視力が回復すると、3か月近くにわたって毎日モルモン書を10ページ読みました。

「それまででいちばん霊的な力を感じた経験でした。モルモン書は真実だと聖霊が証してくださったのです。わたしはこれまでの生涯、この経験から力を得て成長してきました」と、エコー・ホーク長老は言っています。

エコー・ホーク長老はブリガム・ヤング大学プロボ校にフットボール奨学生として入学し、体育学と動物学の学士号を取得しました。また、合衆国海兵隊で2年間兵役に就いた後1970年に名誉除隊になりました。1973年にはユタ大学を卒業し、同大学より法学博士号を取得しました。

エコー・ホーク長老は弁護士、州議会議員、州法務局長、ブリガム・ヤング大学の法学部教授を歴任しました。現在は内務省先住民問題担当書記官補佐を務めていますが、七十人第一定会員の召しを受けるために辞任することになります。

エコー・ホーク長老と妻のテリー・ブリスが1968年12月にソルトレーク神殿で結婚したとき、その儀式を執行したのはキンボール長老でした。エコー・ホーク長老は教師、ビショップ、高等評議員、ステーキ会長として奉仕しましたが、妻はそれを陰で支えました。彼らには6人の子供がいます。■



スタンレー・G・
エリス長老
七十人

スタンレー・ジェラルド・エリス長老は神の存在を科学的方法で証明することが不可能だと知っていましたが、ハーバード大学在学中に神の約束を試すことによってその存在を証明できることを知りました。大学1年の半ばに資金が尽きたとき、生活の助けにしようと仕事を見つけました。什分の一を納めれば、残りのお金ですべての経費を賄えないと思ったのですが、彼は主を「試みる」ことにしました（マラキ3:10 参照）。

「そのとき、まず什分の一を納めました」と、この度七十人第一定会員に召されたエリス長老は語ります。「次の給料日までなんとかしのぐことができました。それはその学期が終わるまで2週間ごとに繰り返されました。主を試みることにより、わたしは主が確かに実在し、約束を守ってくださるという証を強めることができました。」

エリス長老は1947年1月、アメリカ合衆国アイダホ州パーレーにおいてスティープン・エリス、ヘーゼル・エリス夫妻の間に生まれ、農場と牧場で育ちました。ハーバード大学で1年学んだ後、1966年から1968年までブラジル伝道部で奉仕しました。帰還後の1969年6月、カリフォルニア州ロサンゼルス神殿においてキャサリン・クロウファーと結婚しました。夫妻には9人の子供がいます。

ハーバード大学で政治学の学士号を取得した後、ブリガム・ヤング大学で法学の学位を取得しています。エリス長老は税務計画の分野で働き、財務コンサルティング会社の最高経営責任者を務めました。

七十人第一定会員に召される前は、北アメリカ南西地域、ブラジル北地域、ブラジル地域の各会長会で、また境界および指導者変更委員会に奉仕しました。1999年から2002年までブラジル・サンパウロ北伝道部会長を務めました。また、ステーキ会長、ステーキ会長顧問、高等評議員、ビショップリック顧問、長老定員会会長、ワードおよびステーキ若い男性会長を歴任しています。■



ロバート・C・ ゲイ長老

七十人

教 会の割り当てを受けて話すとき、ロバート・クリストファー・ゲイ長老はイエス・キリストのメッセージを「救済の福音」とよく呼びます。

「わたしたちはそれを生活の中でずっと目にし、経験してきました」とゲイ長老は自分と妻のリネット・ニールセン・ゲイについて語りました。「わたしたちが礼拝する神は、霊的、身体的、精神的、そして情緒的に救済してくださる御方です。イエス・キリストの贖罪を通して、わたしたちの重荷は軽くされます。主を通して人生の試練を堪え忍び、天の御父のみもとへ帰るのに必要な強さと平安と恵みを得ることができるのです。」

ゲイ長老は国内外でゲイ姉妹とともにやってきた人道支援事業に大きな喜びを感じています。例えば、2004年から2007年までガーナ・アクラ伝道部会長を務めた後、夫妻はアフリカの村々やその他の場所で学校や医療施設の建設のために働き、識字教育と少額金融プロジェクトの発展に寄与しました。夫妻がほかの人々と共同で設立した団体は世界中で数百万人もの貧しい人々を救済してきました。

ゲイ長老は1951年9月、アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルスにおいてビル・ゲイ、メアリー・ゲイ夫妻の間に生まれました。将来の妻とは高校時代の共通の友人から紹介されて出会い、後に二人でこの友人を教会に導きました。二人は1974年4月にカリフォルニア州ロサンゼルス神殿において結婚し、7人の子供がいます。

ゲイ長老はユタ大学から学士号を取得しました。さらに、ハーバード大学では博士号を取得した後、経済学の教鞭を執りました。

ゲイ長老は25年以上も非公開投資業界で働き、国外において企業への投資と育成にかかわってきました。

七十人第一委員会に召されたときは、北アメリカ南東地域で地域七十人として奉仕していました。1971年から1973年までスペインで専任宣教師を務めたほか、ビショップの顧問、高等評議員、大祭司グループリーダー、福音の教義クラス教師、ワード伝道主任、ワード若い男性会長を歴任しています。■



スコット・D・ ホワイトニング長老

七十人

ス コット・D・ホワイトニング長老は、人生で神に奉仕する機会を得てきたのは、幾つかの重大なポイントで下した決断が基になっていると信じています。

1961年4月にドウェイン・ホワイトニング、ビバリー・ホワイトニング夫妻の間に生まれたホワイトニング長老は、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーで育ちました。最初の大きな決断は伝道に出る決断と、その直後に続いた伝道期間を決める決断でした。当時は、18か月あるいは2年のどちらかを選択しなければなりません。「6か月延長して奉仕するという決断は、教会での将来の奉仕に備えるうえで重大な決断となりました。」

日本東京北伝道部で伝道した後、共通の友人を通して将来の妻ジェリー・オルソンと出会いました。彼女と結婚すると決めたのがもう一つの重大な決断でした。夫妻は1984年4月にソルトレーク神殿で結び固められました。

ホワイトニング長老はブリガム・ヤング大学で日本語の学士号を取得した後、太平洋大学マクジョージ法科大学院から法学博士号を取得しています。

もう一つの重大な決断は十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老からビショップに召され、それを受けた時でした。バラード長老は最後まで責任を果たせるかどうか尋ねました。そのとき使徒に最後まで責任を果たすことを約束したのです。その後何度か引越しを要するもっと条件の良い仕事が提示されましたが、ホワイトニング長老は自らの約束を守り通しました。

奉仕を通して「あまり活発でない会員の家庭を訪問し、彼らが神と聖約を交わしたり、聖約を新たにしたりするよう助ける」ことに情熱を抱くようになりました。

ホワイトニング夫妻には5人の子供がいます。七十人第一委員会に召されるまではハワイの不動産投資会社に勤務していました。ホワイトニング長老はこれまで長老定員会会長、ビショップ、高等評議員、ステーキ若い男性会長、ステーキ会長および地域七十人を歴任しています。■



ゲラリー・E・ スティーブソン ビショップ

管理ビショップ

ゲラリー・エバン・スティーブソンビショップは、これまでの人生で、ビショップたちが全世界で行っている非常に重要な働きを目にする多くの機会に恵まれました。「[わたしの父親は]わたしの青少年時代のビショップであり、その奉仕から大きな影響を受けました」とスティーブソンビショップは述べています。

スティーブソンビショップの父親は、ワード内に住んでいる、夫を亡くした60人を超える年配の姉妹を訪問する際に、一緒に来るように彼を誘いました。こうして、スティーブソンビショップは、父親からキリストのような奉仕を知り、助けの必要な人々の世話をすることについて学んだのです。当時学んだことは、管理ビショップとしての召しを果たす際に大いに役立つだろうと彼は語ります。

「教会のビショップたちは実にわたしのヒーローです」と彼は語ります。「毎日、ビショップは教会の会員、特に子供たちと若い男性と若い女性にそのような影響を及ぼしています。」

スティーブソンビショップは、1955年8月にエバン・N・スティーブソンとベラ・ジーン・スティーブソンの間に生まれ、ユタ州キャッシュバレーの開拓者を先祖とする家族の中で育ちました。

若いときに日本で伝道する召しを受け、その奉仕を通して、スティーブソンビショップは、アジアへの愛と、福音を分かち合う業への愛という、生涯消えることのない二つの愛を抱くようになったのです。

伝道から帰ると、ユタ州立大学に通い、そこでリサ・ジーン・ヒグリーに出会い（そして、すぐに恋に落ち）ました。二人は1979年4月にアイダホ州アイダホフォールズ神殿で結婚し、4人の息子がいます。

スティーブソンビショップは、経営管理学の学位を取得し、その後、運動器具製造会社を共同設立して、社長を務めました。

教会では、ステーキ会長会顧問、ビショップ、日本名古屋伝道部会長（2004-2007年）を含む、様々な召しを受けて奉仕してきました。そして、2008年に七十人第一定員会に召され、アジア北地域で地域会長会顧問、また会長を務めました。■



ジェラルド・コセー ビショップ

管理ビショップリック
第一顧問

この度管理ビショップリック第一顧問に召されたジェラルド・ジーン・コセービショップは、子供時代から教会の奉仕に幸せを感じ続けてきました。そのことは役に立ちました。というのも、フランスのボルドーにある彼の小さな支部では、ユニットを運営するために全員の力を必要としていたからです。彼は青少年の間アロン神権定員会で奉仕していたほかに、12歳で初等協会ピアニスト、14歳で日曜学校会長会顧問、16歳で日曜学校会長を務めました。

「教会で奉仕することが証を得る助けになりました」と彼は語っています。彼の父親は支部会長とビショップを何度か務め、コセービショップが有意義な経験を得るのに特に良い助けとなりました。

コセービショップはこう語っています。「わたしが10代のとき、父はホームティーチングや助けの必要な家族を訪問する際によくわたしを伴って行きました。父を見るのが恐らく、神権指導者となる準備をする最も良い学習経験であったと思います。」

その後、コセービショップは、ワード書記、長老定員会会長、大祭司グループリーダー、ビショップリック顧問、ステーキ会長会顧問、ステーキ会長、地域七十人、そして最近は七十人第一定員会会員を務めました。

コセービショップは、ジーン・コセーとマリー・ブランシュ・コセーの息子として、1963年5月にフランスのボルドーで生まれました。若いときに1年間フランス空軍で勤務し、北大西洋条約機構（NATO）に配属されました。

コセービショップは、1987年にエセック経済商科大学院大学（ESSEC）で経営学の修士号を取得しました。その後、戦略コンサルティングの仕事に就き、コンサルティング会社のパリ事務所とロンドン事務所で6年間働きました。その後、ヨーロッパの大手小売りグループで働き、2008年に七十人第一定員会への召しを受ける前には、フランス最大手の食品流通会社で総括管理者兼取締役を務めていました。

コセービショップとバレー・リュシエンヌ・バビンは1986年8月にスイス・ベルン神殿で結婚し、5人の子供がいます。■



ディーン・M・デービス ビショップ

管理ビショップリック
第二顧問

神 殿候補地に関して「最寄りのバス停から徒歩何分かかるか」といった細かい情報を大管長から尋ねられたとき、ディーン・デービスビショップは、単に資料を読み上げるようなことはしません。自分でルートを直接歩いているので、参加者が経験することを知っているのです。

「なぜそのようなことをするのですか」と、かつてゴードン・B・ヒンクレ大管長から尋ねられたことがあります。

細部まで注意を払う、それが、新たに管理ビショップリック第二顧問に召されたディーン・マイロン・デービスビショップの生き方なのです。

デービスビショップは、オリバー・T・デービスとマイラ・デービスの息子として、1951年9月に合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーで生まれ、愛と労働を指導原則とした家庭で育ちました。何か欲しいものがあれば、自分で働いて手に入れなければなりません。母親に頼み続けても欲しいおもちゃをもらえないとき、彼はいろんな方法を考えました。旧式の芝刈り機を押して隣家の長く伸びた芝生を刈ったときの筋肉痛と満足感を、今でも覚えています。

1970年から1972年までウルグアイ／パラグアイ伝道部で奉仕した後、帰国して、幼友達であったダーラ・ジェームズと1973年6月にソルトレーク神殿で結婚しました。デービスビショップは、1976年にブリガム・ヤング大学で農業経済学の学士号を取得し、その後、スタンフォード大学とノースウェスタン大学で上級管理職研修を受けました。

デービスビショップは、妻と5人の子供とともに6つの州を移り住みながら、長年にわたり不動産業界でキャリアを積みました。また、ステーキ会長やステーキ会長会顧問、5つの高等評議会、ビショップリック顧問、また様々なワードの責任で奉仕しました。また、1998年から2001年までプエルトリコ・サンファン伝道部の会長を務めました。最近では、教会特別プロジェクト部の実務運営ディレクターとして奉仕しました。

彼が経験して得た最も大切な教訓は、「主は御自分の子供たちを愛しておられ、導いてくださる」ということです。■



リンダ・K・バートン 中央扶助協会会長

10 代のころ、リンダ・ケアー・バートンは、ニュージーランドのクライストチャーチで教会の集会に出席中、突然あることを理解しました。「福音は真実であるということが分かったのです。」彼女はそう振り返ります。「また、ずっと以前からそのことが分かっていたということに気づきました。」そのときの証は、今後、彼女が中央扶助協会会長として奉仕するときの支えとなることでしょう。

バートン姉妹は、合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーにおいて、マージョリー・C・ケアー、モリス・A・ケアー夫妻の間に生まれました。13歳のとき、父親がニュージーランド南伝道部を管理することになったため、家族とともにユタを離れました。6人きょうだいの2番目であるバートン姉妹は、チャーチ・カレッジ・オブ・ニュージーランドに通い、そこで太平洋の島々からやってきた10代の末日聖徒と親交を深めました。ソルトレーク・シティーに戻ったとき、多種多様な文化や伝統だけでなく、とりわけ、主と自分の家族を愛するようになっていました。

バートン姉妹はユタ大学に通っていたころクレグ・P・バートン兄弟に出会い、1973年8月にソルトレーク神殿で結婚しました。二人は早く子供を持ちたいと思いました。最初の子供は1年ほどして生まれ、今では6人の子供がいます。

夫婦でよく協力し、バートン姉妹は自宅で子供の世話をし、夫は不動産業界でのキャリアを積んでいきました。結婚したてのころに経験した経済的な試練を通して、二人は将来に自信を持てるようになりました。「なぜなら困難なことも、主の助けがあれば必ず成し遂げられることを知ったからです」と、彼女は語ります。

バートン家は短い休暇を取って、ともに過ごすことを楽しんできました。バートン姉妹は若い女性、初等協会、日曜学校、そして初等協会および扶助協会の中央管理会で奉仕しました。2007年から2010年までは、韓国ソウル西伝道部を管理した夫とともに奉仕しました。バートン姉妹は、若いころニュージーランドで学んだように、この伝道地でも、愛は言語と文化を超えるということを実感しました。

韓国で、ある友人から「彼らはやがてあなたの愛を感じるようになるでしょう」と言われた言葉が、新たな責任においても実現するよう彼女は望んでいます。■



キャロル・M・ スティーブズ

中央扶助協会会長
第一顧問

キャロル・マンツェル・スティーブズは、以前からずっと神聖な事柄に対して尊敬の念を抱いていました。そのような敬虔さのきっかけは、幼いころ、母親が福音に改宗し、家族が神殿で結び固めを受けたことでした。

「そのときは、何が起きているのか理解できませんでした。」新たに中央扶助協会会長の第一顧問に召された姉妹はそう語っています。「でも、特別なことが起きているということは分かりました。神殿が神聖な所であるということを記憶できる十分な年齢に達していました。」

1957年3月、スティーブズ姉妹は、カール・L・マンツェル、フォレスト・マンツェル夫妻の間に生まれました。9人きょうだいの3番目で、アメリカ合衆国のユタ州オグデンにおいて育ちました。奉仕、犠牲に関する両親の模範をよく覚えています。さらに両親の模範から、家族と教会を最優先するとはどういうことか学びました。

「福音は両親にとってすべてでした。またキリストのような奉仕とはどのようなものか、模範によって示してくれました。奉仕の意味、すなわち真の奉仕とはどのようなものかについて教えてくれたのです。」彼女はそう語っています。

様々な責任を受けて奉仕するとき、両親は子供たちを参加させました。その経験を通じて、子供たちはさらに仲良くなりました。スティーブズ姉妹と夫のマーティン・「マーティ」・スティーブズは、自分たちの6人の子供に同じような経験をさせようと努めました。

スティーブズ姉妹とマーティは、姉妹が幼児教育を学んだユタ州オグデンのウィバー州立大学に通っているときに出会いました。1976年4月、二人はユタ州ローガン神殿で結婚しました。スティーブズ姉妹は、夫と自分は長年にわたり最高の「タッグチーム」を組んできたと言っています。それぞれ異なる責任を互いに支え合いながら果たしてきたからです。スティーブズ姉妹は、ステーキおよびワードの扶助協会会長、顧問、教師、ワード若い女性会長、ワード初等協会顧問、教師、カブスカウト指導者、セミナー教師、教会奉仕宣教師などの召しを歴任しました。

「忙しい中にも、わたしたちは多くの喜びと幸福を見いだしました」と、彼女は語ります。「奉仕をするときに、子供や孫たちにも参加させてきました。その結果、一緒に奉仕することを通して、強い家族関係がはぐくまれてきました。」■



リンダ・S・ リーブズ

中央扶助協会
第二顧問

リンダ・シェフィールド・リーブズは、幼いころ、不屈の改宗者であった母親からは逆境のときに神に頼ることを、父親からは卓越した者となるために努力することを学びました。

「わたしには小さいころから強い証がありました。試練によって霊的に早く成熟することができたからです。」彼女はそう語っています。

1951年8月、リーブズ姉妹はアメリカ合衆国のカリフォルニア州ロサンゼルスで、エルバート・ジョリー・シェフィールド、バーバラ・ウェルシュ・シェフィールド夫妻の間に生まれました。13歳のときに若い女性キャンプで、たくさんの星が輝く夜空を見上げ、次のような簡潔で心のこもった祈りをささげた記憶があります。「お父様、そこにおられますか。」

「そう祈ったとき、わたしは主の御霊、主が実在しておられるという知識、そして主の愛に包まれたのです。」彼女はそう語ります。

リーブズ姉妹はパサデナのホームワードでメルビン・ケンプ・リーブズに出会いました。彼が伝道から帰った後、ブリガム・ヤング大学在学中に二人はデートをしました。1973年6月、カリフォルニア州ロサンゼルス神殿で結婚し、今では13人の子供がいます。

試練の中にあって、リーブズ姉妹は贖いに関する証を大切に持ち続けています。2005年に、17歳の娘、エミリー・ミッシュェルが交通事故で亡くなってからは特にそうです。

「逆境は偉大な教師です。逆境を通じて、わたしたちは成長し、神の王国、家庭、地域社会における将来の奉仕に備え、主の御手に使われる者となることができます。」彼女はそう語っています。

中央扶助協会会長に召される前の2008年から2011年まで、リーブズ姉妹はカリフォルニア州リバーサイド伝道部を管理する夫とともに奉仕しました。また、ステーキ扶助協会会長、ワード若い女性会長、初等協会指揮者、日曜学校教師としても奉仕しています。

リーブズ姉妹は、1974年にBYUから特殊教育の学位を得て卒業しました。絵、音楽、写真、家族歴史、伝道活動など、たくさんのものに熱心にかかわっています。恐れることなく率直に自分の思いを口にします。出会ったすべての人にイエス・キリストの福音を分かち合うときには特にそうです。■

総大会アーカイブで1971年までの説教の音声とビデオの視聴が可能になる

ヘザー・ウィットル・リグリー
教会のニュースと出来事

過 去から現在までの愛する預言者や使徒による勧告を、教会員がさらに入手しやすいようにするために、教会はLDS.orgの総大会のセクションに、音声とビデオのアーカイブを追加しようとしている。

2012年6月までに、英語版のオンラインアーカイブで現在から1971年4月までのすべての総大会の説教の音声とビデオが入手可能になる。これまで文字データでは1971年の大会まで、ビデオ〔英語〕に関しては2002年までのものしか入手できなかった。さらに、2012年6月までに、英語以外の70以上の言語でも、現在から2008年までの大会説教の音声とビデオが入手可能となる。

「ほとんどの会員は最新の大会説教を読んだり、見たり、聞いたりするためにLDS.orgの総大会のセクションにアクセスしますが、過去の大会にアクセスするこ

とに興味を持っている会員も数多くいます」と七十人のパトリック・キアロン長老は語る。「公式ホームページにこの機能を加える目的は、世界中の会員が総大会のメッセージにさらにアクセスしやすくするためです。」

教会はまた、総大会アーカイブに音楽も加えようとしている。現在、LDS.orgの総大会のセクションの中にあるShow Musicをクリックすると、2008年にさかのぼってモルモンタバナクル合唱団の合唱を聞くことができる。新たな音楽アーカイブ(GCmusic.lds.org)では、幾つかのアーカイブや総大会から検索できる。

LDS.orgだけでなく、福音ライブラリーなどの教会のモバイルアプリケーションソフトや、またRokuやYouTubeのモルモンチャンネルなどからも、アーカイブにアクセスできるようにする計画である。

■
今のところ、GCmusic.lds.orgで、2008年から最新の総大会までのすべての部会の音楽を聞いたり、ダウンロードしたりできる。



補助組織訓練集会の様子がインターネットで英語とスペイン語で視聴できる

指 導者とその義務を学び、神権組織と補助組織の指導者を訓練するための教材や手引きなどのリソースを紹介するために、3月末、教会の4つの中央補助組織の会長会がステーキやワードの補助組織指導者を対象に訓練集会を開いた。(若い男性指導者のための訓練集会は5月10日に予定されている。)衛星放送とオンデマンド放送の両方が英語とスペイン語で提供される。放送にアクセスできない会員のために、4つの訓練集会の概要を紹介する。

初等協会

中央初等協会会長のローズマリー・M・ウィクソム姉妹は、3月28日から29日に行われた初等協会指導者の補助組織訓練集会で、初等協会の目的は子供たちが改心の道を歩めるよう助けることであると語った。

「〔初等協会の子供たちに〕感じて、愛して、行動してほしいと思います。証を得てほしいと思います。……証とは宣言です。もう一歩先に進みたいと思います。改宗とは行動することを意味します。子供たちが自分の生活の中で改心の種を持ち、感じられるようになってほしいと思います。」

ウィクソム姉妹と顧問のジーン・A・ステープンズ姉妹とチェリル・A・エスプリン姉妹は、ワードとステーキの初等協会指導者の役割は、両親が子供たちの心に改心の種をまくのを手伝うことであると伝えた。ウィクソム姉妹は、改心の過程は非常に幼いころから始まると話した。「両親が心を尽くし、霊を尽くし、力を尽くして主を愛する家庭ではぐくまれるのが理想です。それを土台として両親は子供

たちを教えていきます。』

ウィクソム姉妹は、「わたしたちが彼らに教える時間を取りさえすれば」、子供たちは改心することの意味を理解するようになると語り、もし両親や初等協会の指導者が子供たちを教えなければ、「世の中が教える〔でしょう〕」とも語った。

また、中央初等協会の役員は福音の原則を教える際に音楽を用いることや、LDS.org で得られる初等協会指導者のための教材についてプレゼンテーションを行った。

扶助協会

「皆さんは偉大な業を率いています。」総大会の土曜午後の部会で中央扶助協会会長を解任されたジュリー・B・ベック姉妹は、3月27日から28日に行われた補助組織訓練集会で扶助協会指導者たちに語った。「これは主の業です。……わたしたちは大変重要な責任を受けています。」

ベック姉妹は、扶助協会の目的、女性が家庭で果たす重要な役割、教えること（特に、教会に入ったばかりの姉妹たちに対して）、地域での働き、指導の原則など、数多くの事柄について話した。

基本に忠実であるようにとベック姉妹は語った。「この業は簡潔です。主が様々な思いに焦点を当ててくださいます。わたしたちが自分たちのなすべきことを理解したら、啓示を受け、それを実行できるように主が助けてくださいます。そして道を



歩む中でずっと啓示を受けることができます。」

すべての教えの中で、大管長会と中央扶助協会役員は『手引き 第2部——教会の管理運営』とともに『わたしの王国の娘——扶助協会の歴史と業』の中から答えを探すことを中心に話した。

日曜学校

3月28日に開かれた日曜学校補助組織指導者訓練集会では、LDS.org に新たに加えられた「指導者訓練ライブラリー」(Leadership Training Library)について重点的に語られた。

中央日曜学校会長会会長のラッセル・T・オスガソープ兄弟の話に合わせて、このライブラリーのビデオクリップの一部が放映された。集会で話されたおもな主題は以下の4つである。

- ワードあるいはステーキの日曜学校指導者の役割
- ワードおよびステーキのすべての組織において教える業を改善するために日曜学校会長会が果たす役割について会員が理解できるように助ける方法
- 会長会がより効果的に評議する方法
- 教師に方向付けを与え、続けて効果的な支援を行う方法

「『指導者訓練ライブラリー』(Leadership Training Library)は、他の補助組織や日曜学校の責任を受けている会員を訓練するための最も重要なツールの一つとなるでしょう。」中央日曜学校会長会第一顧問のデビッド・M・マッコンキー兄弟はそう語った。「このライブラリーは、教会のすべての補助組織、七十人定員会会員、十二使徒定員会会員によって制作されました。このプロジェクトのために何年も費や

され、多くの国で収録が行われました。」

このライブラリーにアクセスするには、LDS.org のホームページの **Menu** をクリックし、**Service** の欄の **Leadership Training Library** をクリックする。

若い女性

「教会の標準は変わっていません。世の中が変わったのです。」3月27日から28日に行われた若い女性補助組織訓練集会において、中央若い女性会長のイレイン・S・ダルトン姉妹はそう語った。ダルトン姉妹は指導者に対して、徳高い生活を送り、良い模範になることによって「世の中を変える」よう励ました。

「皆さんの召しは、気が向いたときに果たせばよいというものではありません。皆さんの表情、服装、笑顔が、若い女性に影響を与えるのです。……彼女たちのそばにいて、女性であることや福音に添った生活をするの喜びを教えることによってその役割を果たすことができます。……慎重にならなければなりません。用心深くなければなりません。模範と深い愛によって教える必要があります。」

中央若い女性会長会の顧問であるメアリー・N・クック姉妹とアン・M・ディブ姉妹は「ローレルに指導させる」大切さについて話した。顧問の二人は、今年100周年を祝う若い女性キャンプを例に挙げ、それはローレルに指導させる良い機会になると語った。しかし、指導者は、常に若い女性に参加を促すべきであるとも伝えた。

ウェブサイト、記事、ビデオ、手引き、また『若人の強さのために』の改訂版など、指導者がアイデアや助けを得られる数多くの資料についても話した。■

Church News 提供

3月28日に行われた日曜学校補助組織指導者訓練集会では、おもに「指導者訓練ライブラリー」(Leadership Training Library)に焦点が当てられた。4月の総大会に先立ち、日曜学校、初等協会、扶助協会、若い女性の各組織が直接、またインターネットを通して訓練集会を開いた。若い男性の組織は5月10日に訓練集会を開く予定である。

障がい者 スペシャリストの ための情報が LDS.org に 新たに加わる

メリッサ・メリル
教会のニュースと出来事

アメリカ合衆国インディアナ州のジュリー・ブリンク姉妹は、聴覚障がいのある娘を育て、長年にわたってステークでアメリカ手話の通訳者として奉仕してきた。アリゾナ州のイレイン・アリソン姉妹は、公立学校の教師を長く務め、障がいのある生徒に直接のおよび間接的にかかわってきた。また、アリソン姉妹にはダウン症のおいがあるほか、親しい友人の中に多発性硬化症や、ルー・ゲーリック病とも呼ばれる筋萎縮

性側索硬化症（ALS）を患ってきた人たちがいる。

ブリンク姉妹もアリソン姉妹も、自分が障がいという分野の「専門家」であると考えていないが、二人ともステークで障がい者スペシャリストとして奉仕している。この二人と同じような召しを受けている人々に役立つ情報が、この度、LDS.orgの「教会で奉仕する」(Serving in the Church)のセクションに10の言語で新たに加えられた。(障がい者スペシャリストは、実際にはステークまたはワードのいずれか、あるいは必要に応じて両方で召すことができる。)

ワードまたはステークの障がい者スペシャリストの召しについては、『手引き第2部一教会の管理運営』で簡単に述べられているが、中にはこの召しに含まれる責任がよく分からず戸惑いを感じている指導者もいる。

「ワードの指導者が必要に気づかない場合や、気づいてもどう対処すればよいのか分からない場合があります」と、教会障がい者支援サービスのマネージャー

であるクリストファー・フィリップス兄弟は言う。「障がい者スペシャリストが助けとなれる場合がたくさんあるのですが、そのような召しがあることさえ知らない人もいます。」

フィリップス兄弟はこう続ける。「ウェブサイトの『教会で奉仕する』に新たに加えられたこのセクションでは、この召しを受けている人のなすべきことがすべて詳細に述べられているわけではありません。しかし、この召しを受けている人が障がいに関連した事柄について指導者や教師、家族を助けられるように、アイデアや支援手段が紹介されています。」

LDS.orgに10の言語で掲載された情報は、ワードやステークの指導者が次の事柄を行えるように、スペシャリストとしてどのような助けができるかに焦点を合わせたものとなっている。

- ワードまたはステークにいる障がいのある個人とその家族を見だし、知り合いになる。
- 障がいのある会員が集会や活動に加われるようにする。
- 親や指導者、そのほかの人からの障がいに関連した質問や懸念に答える。
- 障がいのある会員が有意義な奉仕をする機会を見いだす。
- 家族が抱えている具体的な必要（介護に関する必要を含む）を明確にし、適切であれば、それらの必要について支援するために利用できる地域社会、ワード、ステークの支援手段を特定する。

これらの事柄は障がい者スペシャリストだけが行うわけではないことを心に留めておく必要がある。むしろ、スペシャリストの役割は、ほかの指導者が障がいのある人々について理解を深め、彼らのためにより良い奉仕ができるように助けることである。加えて、障がい者スペシャリストは「障がいの影響を受けている個人や親が、ワードの会員や指導者と有益な形で情報を共有できるように助ける。」■

障がい者スペシャリストに関するこの記事について、詳しくは news.lds.org をご覧ください。



ステーク障がい者スペシャリストに召されている人が障がいのある教会員を強めるうえで役立つ情報が、LDS.org に 10 の言語で新たに掲載される。

国際美術 コンテストの 受賞者が 発表され、 展示会が開かれる

20 12年3月16日金曜日、第9回国際美術コンテストの作品展示会が幕を開けた。初日には授賞式が行われ、末日聖徒イエス・キリスト教会に関連したテーマを扱った美術作品の作者が世界中から集まった。

「傑出した」作品の作者20名が優秀賞を受賞し、そのほかに15名が買上賞を獲得した。買上賞とは、コンテストを主催する教会歴史博物館が所蔵品として作品を買い上げるという賞である。

授賞式には教会歴史家および記録者である七十人のマーリン・K・ジェンセン長老が出席し、賞の授与に先立ってあいさつを述べた。

美術作品の展示会は、2012年3月16日から2012年10月14日まで、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティの教会歴史博物館で開催されている。

「主の驚くべき業を知らせなさい」(教義と聖約65:4参照)と題した今年のコンテストには、彫刻、キルトや様々な織物、ペーパーアート、絵画など多様な形態の美術作品が世界中から1,149点寄せられた。博物館には198点が展示される。

博物館の美術工芸品部門の学芸員であるリタ・R・ライト姉妹によると、応募作品は芸術的価値とテーマへの適合性に基づいて審査された。作品はどれも多様な芸術領域と文化的伝統を反映しながら主の驚くべき業について証^{あかし}しており、象徴を用いて表現し、教えているものが多いと、ライト姉妹は言う。

例えば、ウクライナ出身のバレンティーナ・ムシエンコ姉妹による買上賞受賞作品「ウクライナ・キエフ神殿」では、神殿



「わたしは彼らの言葉を送ろう」(教師ヤコブ) エルスベス・ケートリン・ヤング画(合衆国)



「女族長」ブランドン・ダニエル・ハーティー画(カナダ)

賞受賞作品「生ける水」は母親の助けを借りて創作したが、母親は作品展示会が開かれる少し前に亡くなった。

「この作品を見る人は……イエス・キリストとその福音が生ける水の源であるという証を目にします」と、アレクサンドラ姉妹は言う。「人々はこの作品の中に、母親が子供に教えることのできる愛のすべてを見ることでしょう。この母親は水差しを持ち、福音を教えなさいと娘に教えているからです。」

展示会は入場無料で、家族同伴で訪れるよう奨励されている。来場者は気に入った作品に投票することができ、9月には投票に基づいて6作品に来場者選出賞が贈られる。

間もなく、コンテストに参加した11人の芸術家たちのインタビュー(英語)が「教会歴史」(Church History)ウェブサイトで見聴できるようになる。映像は博物館でも上映される予定である。

また、教会歴史博物館ではオンライン展示も計画している(history.lds.org/artcompetition)。

作品展示会の詳細については、history.lds.orgをご覧ください。1-801-240-4615 にお電話ください。■

記事の募集

男性の方へ：若い男性には親だけでなく指導者の良い模範も必要です。善良な若い男性指導者、日曜学校教師、あるいはスカウト指導者からとても大きな影響を受けることがあります。若いころに、あなたの友となり、良い模範となることによって、あなたの人生を変えてくれたワードの指導者がいませんでしたか。その人について聞かせてください。経験を500語以内にまとめ、件名を「Good Example」として、2012年5月31日までに liahona@ldschurch.org にお送りください。■

教会歴史博物館の厚意により掲載



「園の墓」 リンダ・カーリー・クリステンセン画

「ヨセフは〔救い主の〕死体を受け取って、きれいな亜麻布に包み、岩を掘って造った彼の新しい墓に納め、そして墓の入口に大きい石をころがしておいて、帰った。」(マタイ 27: 59 - 60)

主の死体は3日間墓に横たえられ、その後死からよみがえられました。イエス・キリストは地上で初めて復活した人でした。主の贖いあがなを通して、すべての人が復活するのです (1コリント 15: 3 - 4, 20 - 22 参照)。



「兄 弟姉妹の皆さん、回復されたイエス・キリストの福音があることは、何と大きな祝福でしょうか。この福音は、人生最大の疑問に答えてくれます。人生に意味と目的と希望をもたらしてくれるのです。」第182回年次総大会の最後の部会でトーマス・S・モンソン大管長はそう語った。「わたしたちは荒れた時代に生きています。天の御父はわたしたちが取り組んでいる問題を御存じです。御父はわたしたち一人一人を愛しておられ、祝福し、助けたいと願っておられます。」

末日聖徒
イエス・キリスト
教会